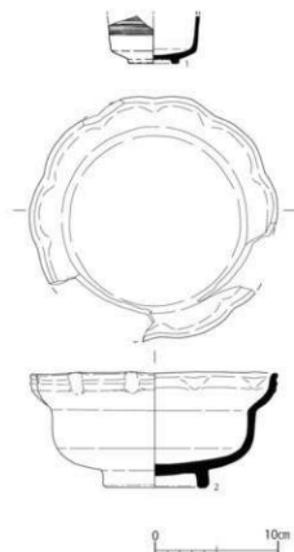
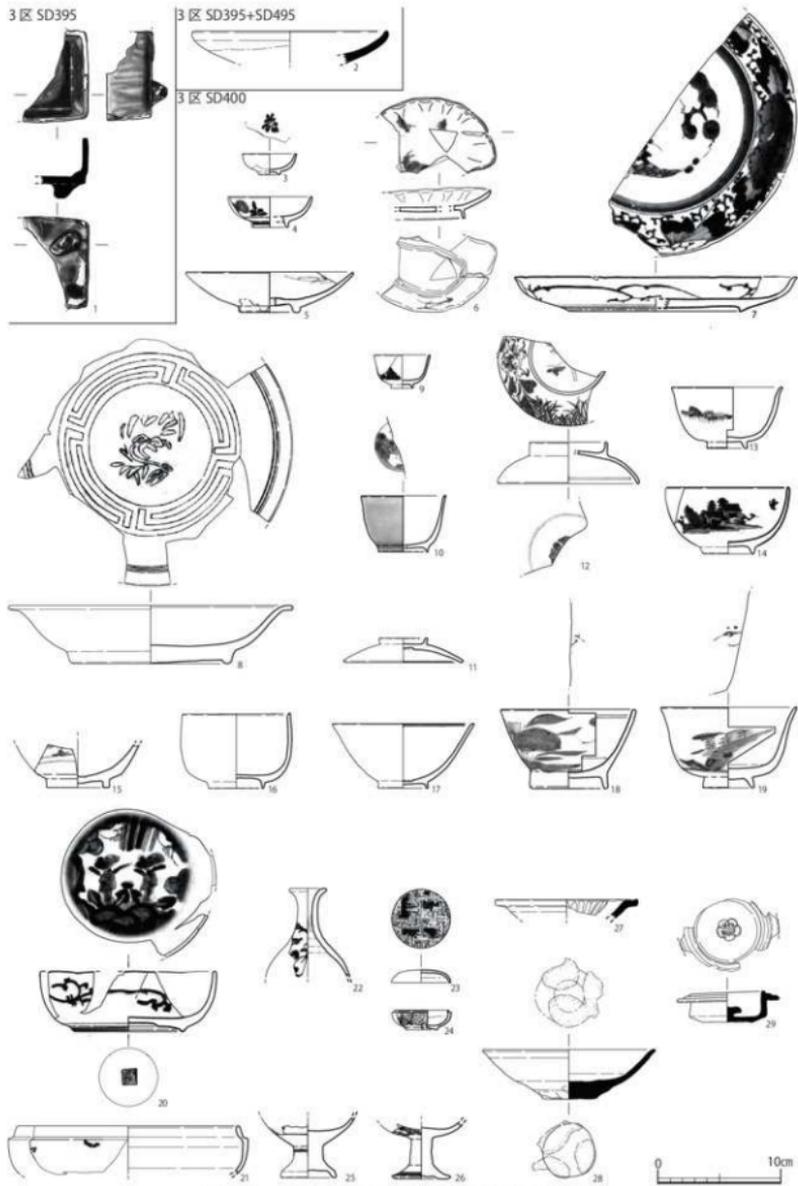


第 457 図 4区 SK150・SK170・SK197 出土物実測図 (1/4)

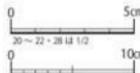
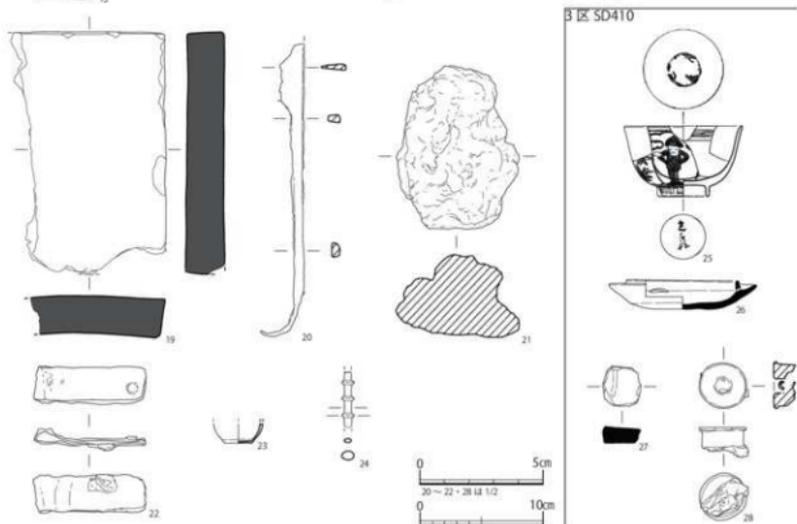
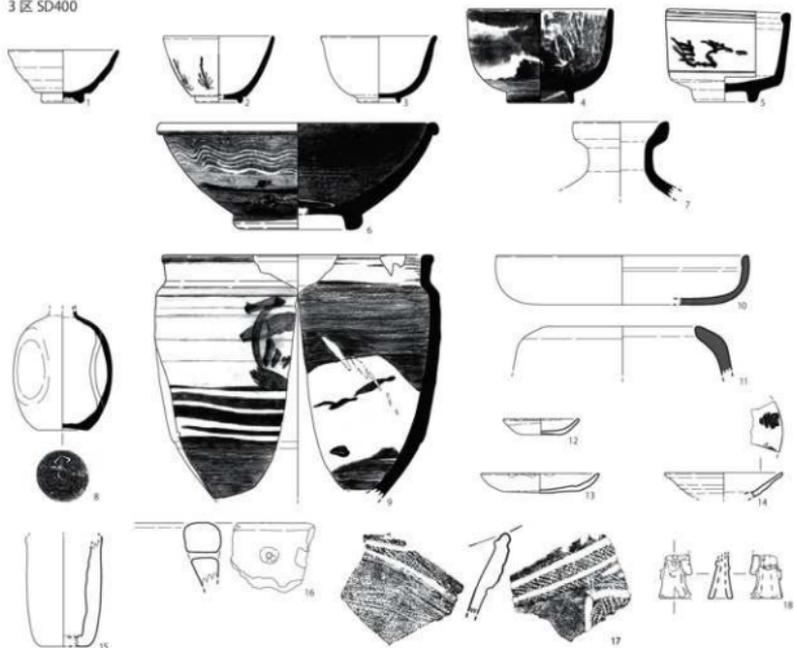


第 458 図 4 区 SK185 出土遺物実測図 (1/4)



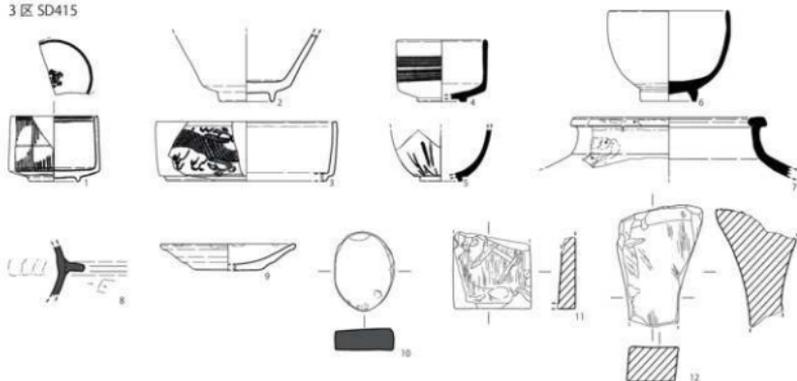
第 459 図 3区 SD395 出土遺物・SD400 出土遺物①実測図 (1/4)

3区 SD400

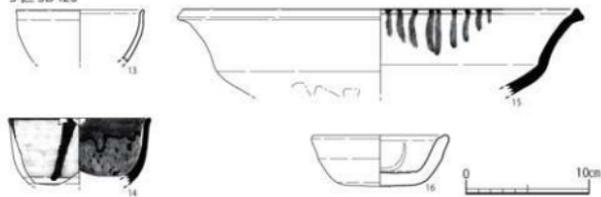


第 460 図 3区 SD400 出土遺物②・SD410 出土遺物実測図 (1/2・1/4)

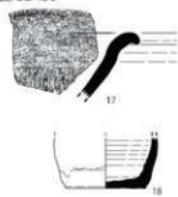
3区 SD415



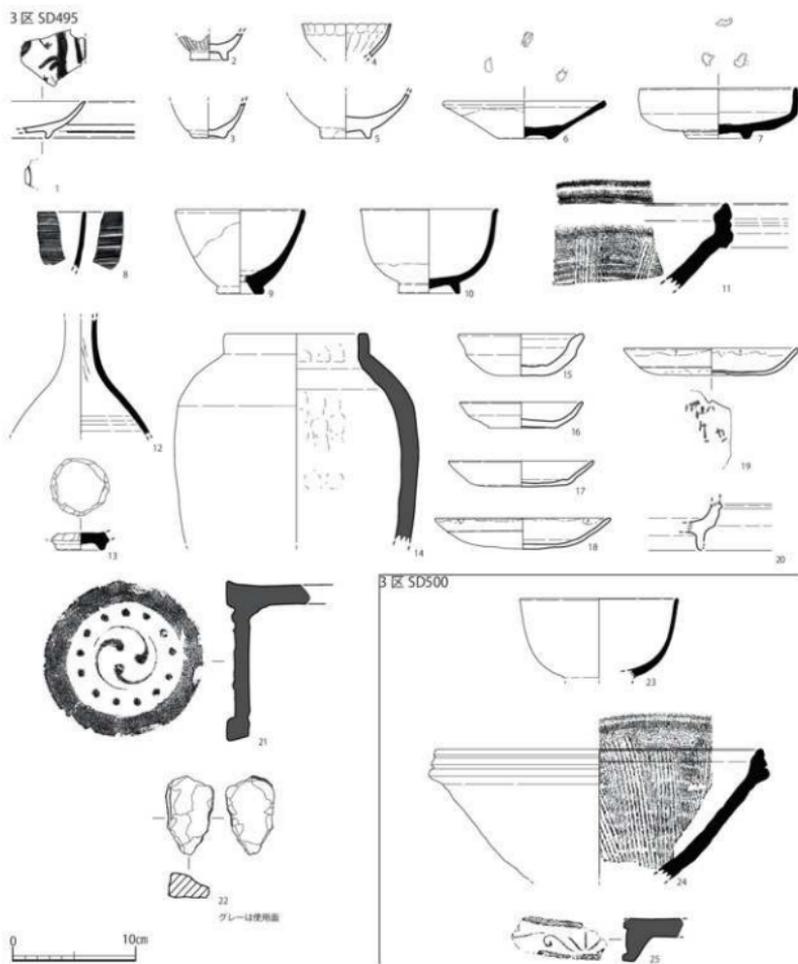
3区 SD420



3区 SD430

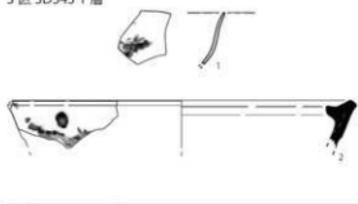


第 461 図 3区 SD415・SD420・SD430 出土遺物実測図 (1/4)

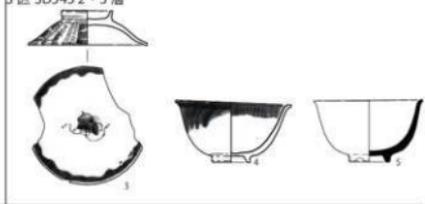


第 462 図 3区 SD495・SD500 出土遺物実測図(1/4)

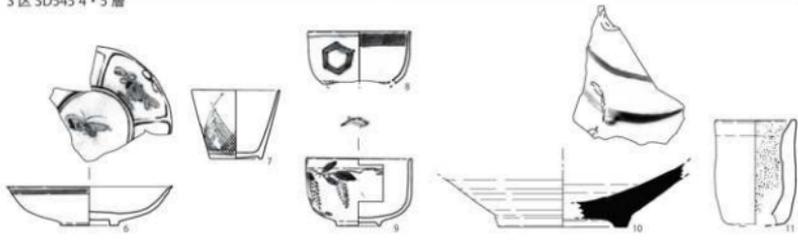
3区 SD545 1層



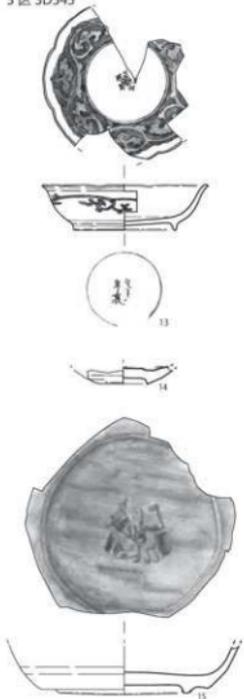
3区 SD545 2・3層



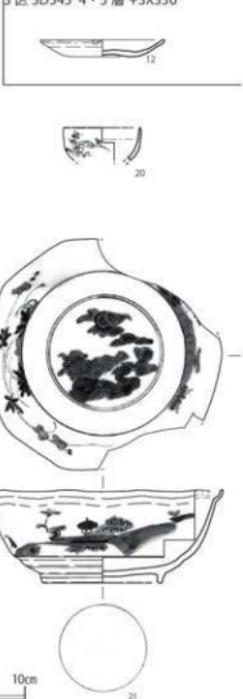
3区 SD545 4・5層



3区 SD545

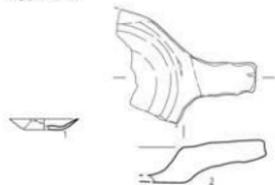


3区 SD545 4・5層 + SX330



第 463 图 3区 SD545 出土遺物①実測図 (1/4)

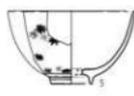
3区 SD545



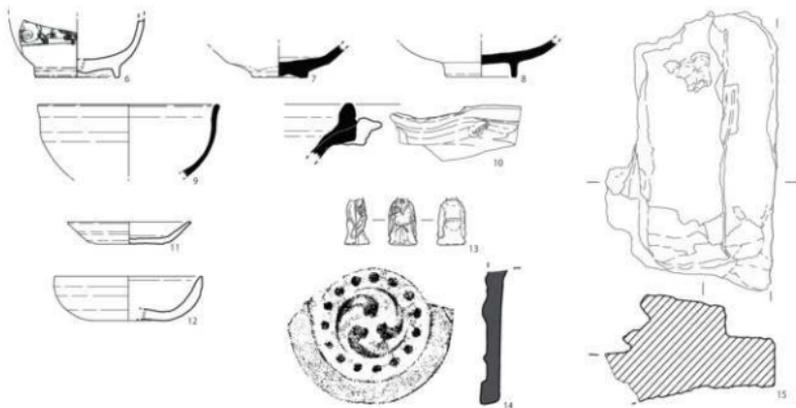
B区 SD545+SK505+S1191



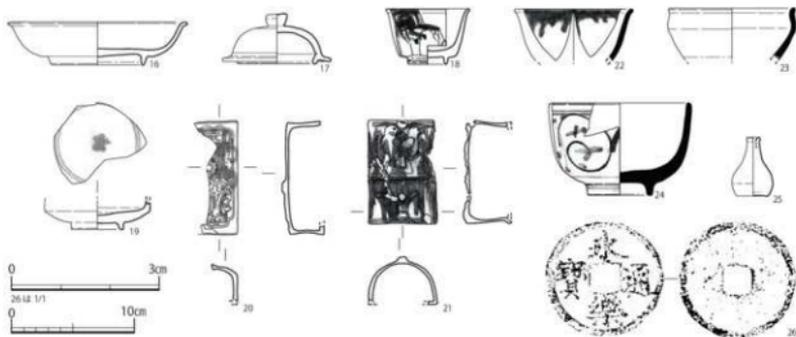
B区 SD545+S561+S859



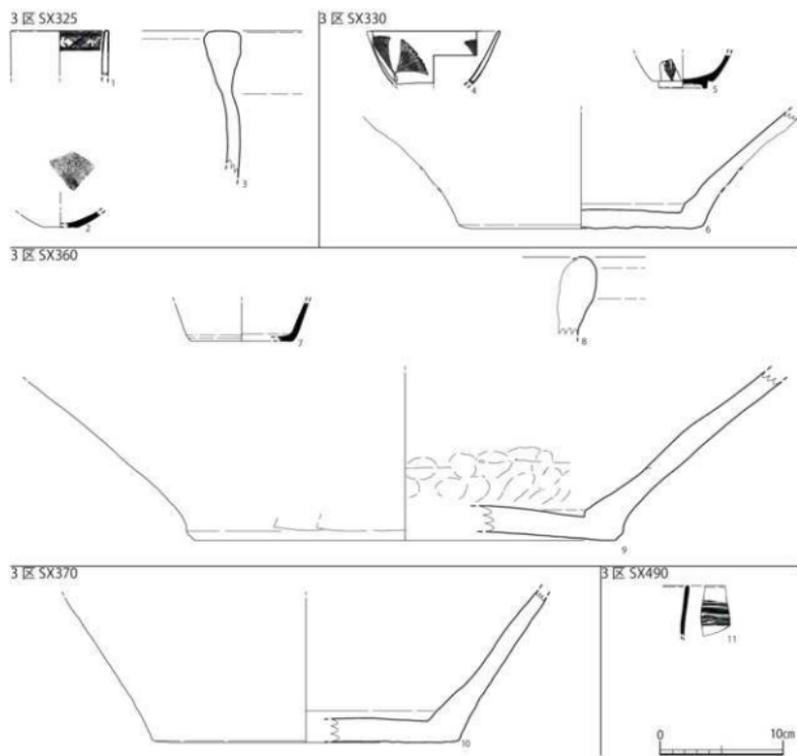
3区 SD550



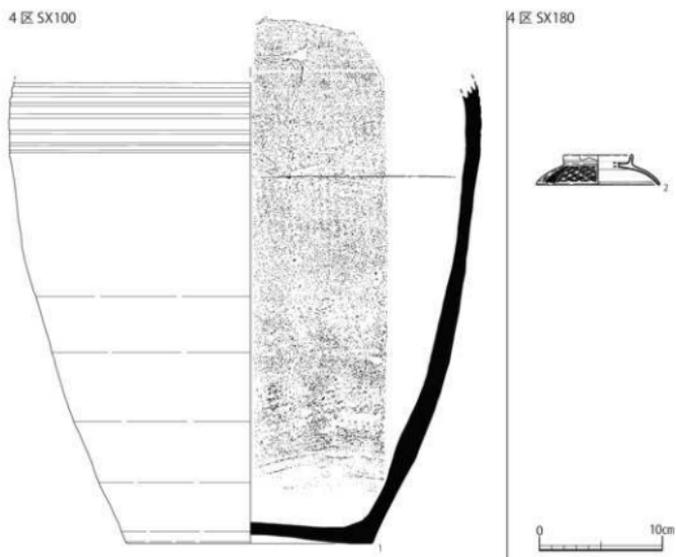
3区 SD842



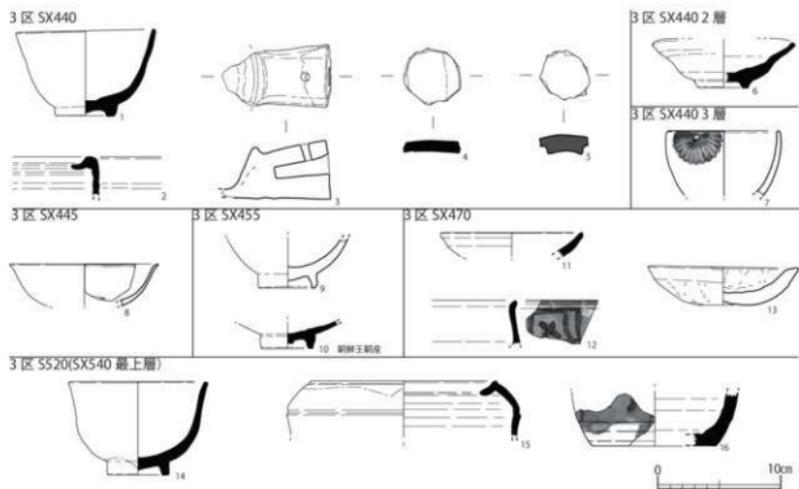
第 464 図 3区 SD545 出土遺物②・SD550・SD842 出土遺物実測図 (1/1・1/4)



第 465 図 3 区 SX325・SX330・SX360・SX370・SX490 出土遺物実測図 (1/4)



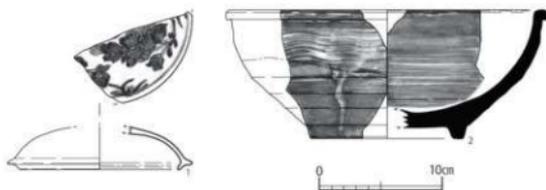
第 466 図 4区 SX100・SX180 出土遺物実測図 (1/4)



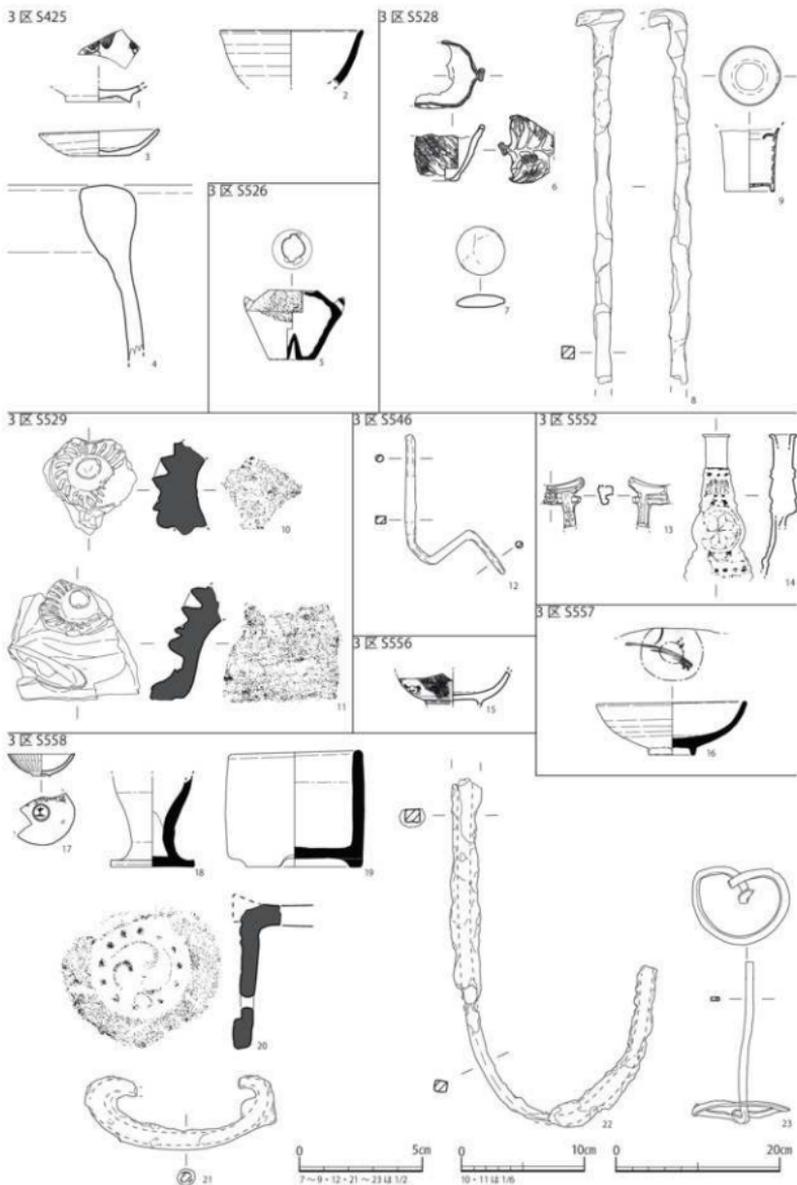
第 467 図 3 区 SX440・SX445・SX455・SX470・SX520 出土遺物実測図 (1/4)



第 468 図 4 区 SX198 出土遺物実測図 (1/4)

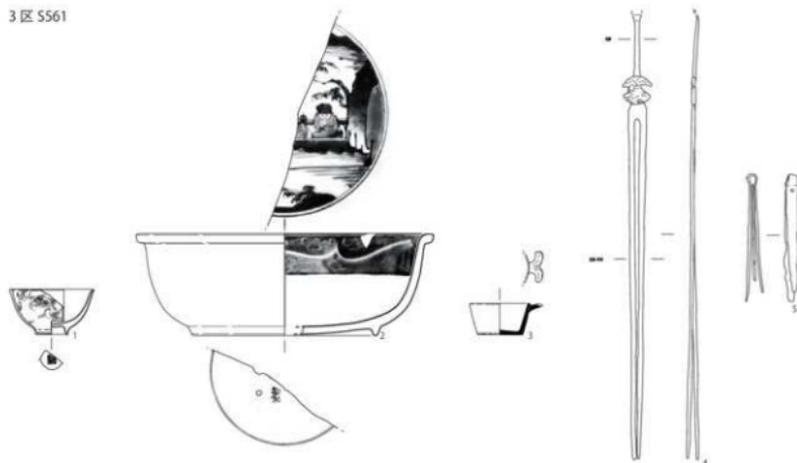


第 469 図 4 区 SX110 出土遺物実測図 (1/4)

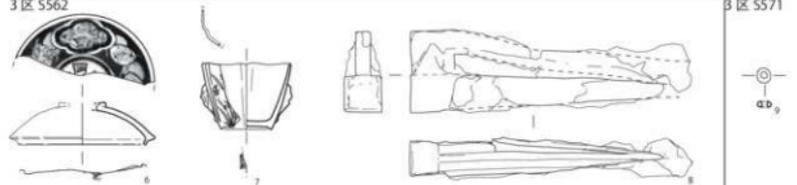


第470図 3区第2調査面その他遺構出土遺物実測図①(1/2・1/4・1/6)

3区 S561



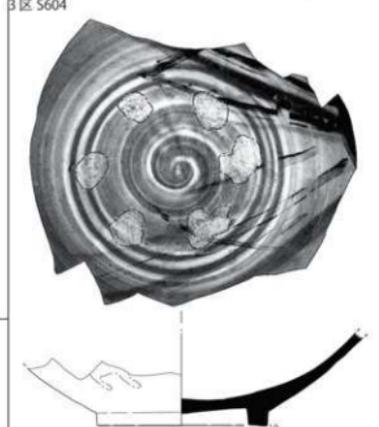
3区 S562



3区 S578



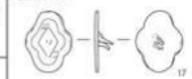
3区 S604



3区 S581



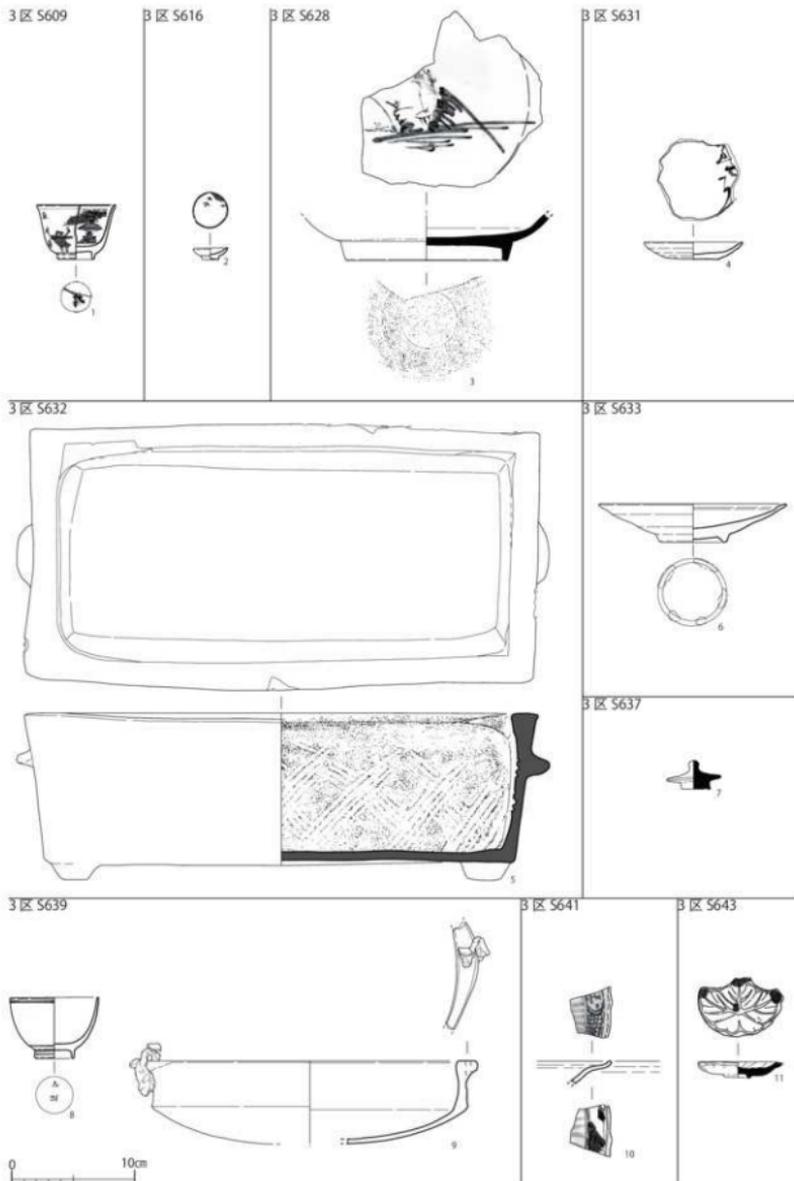
3区 S592



3区 S594

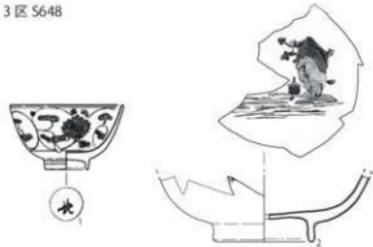


第471図 3区第2調査面その他道構出土遺物実測図②(1/1・1/2・1/4)

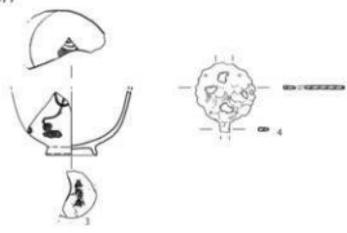


第 472 図 3区第 2 調査面その他遺構出土遺物実測図③ (1/4)

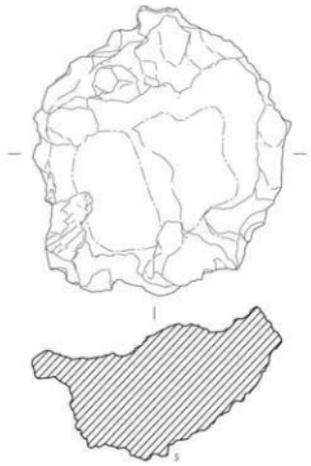
3区 S648



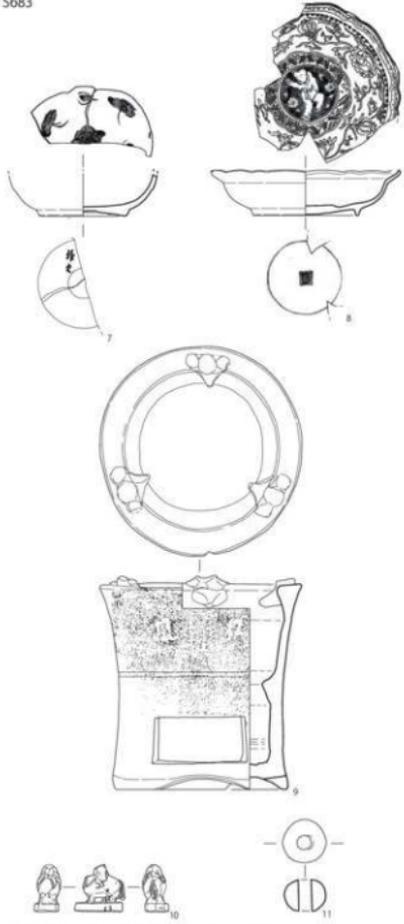
3区 S677



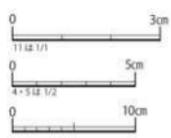
3区 S679



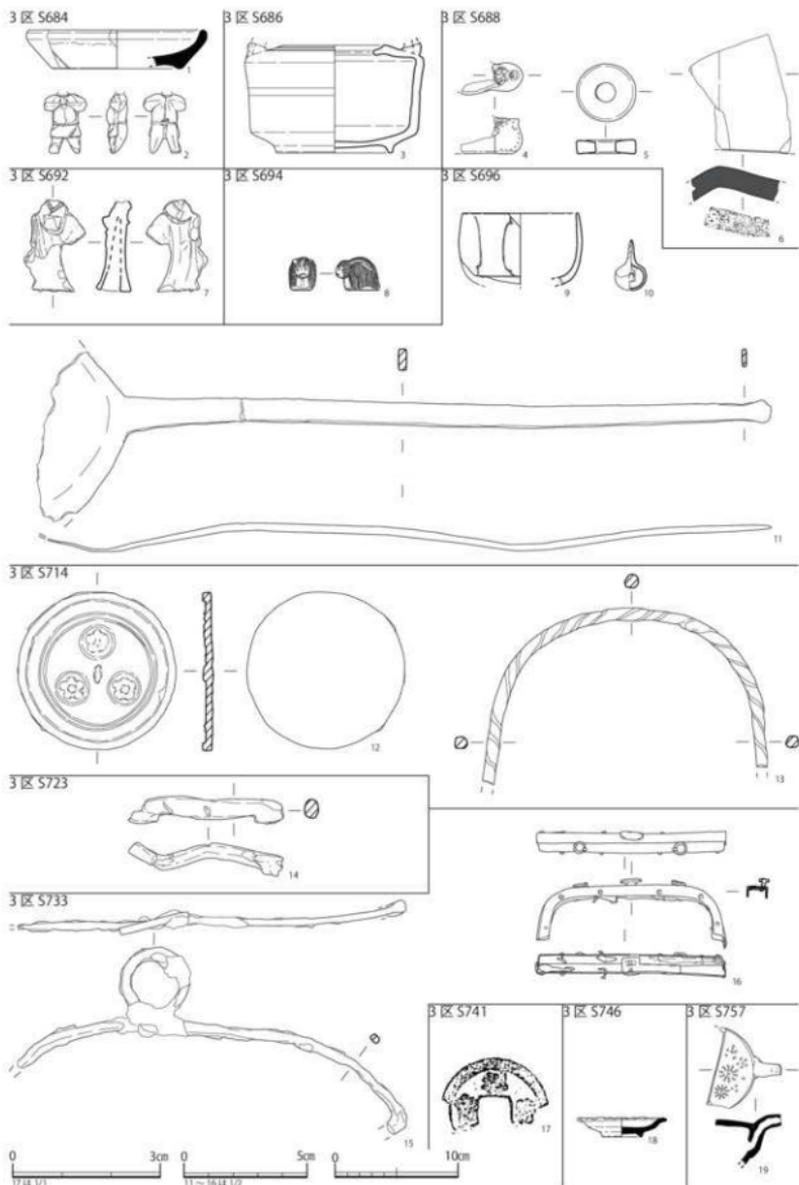
3区 S683



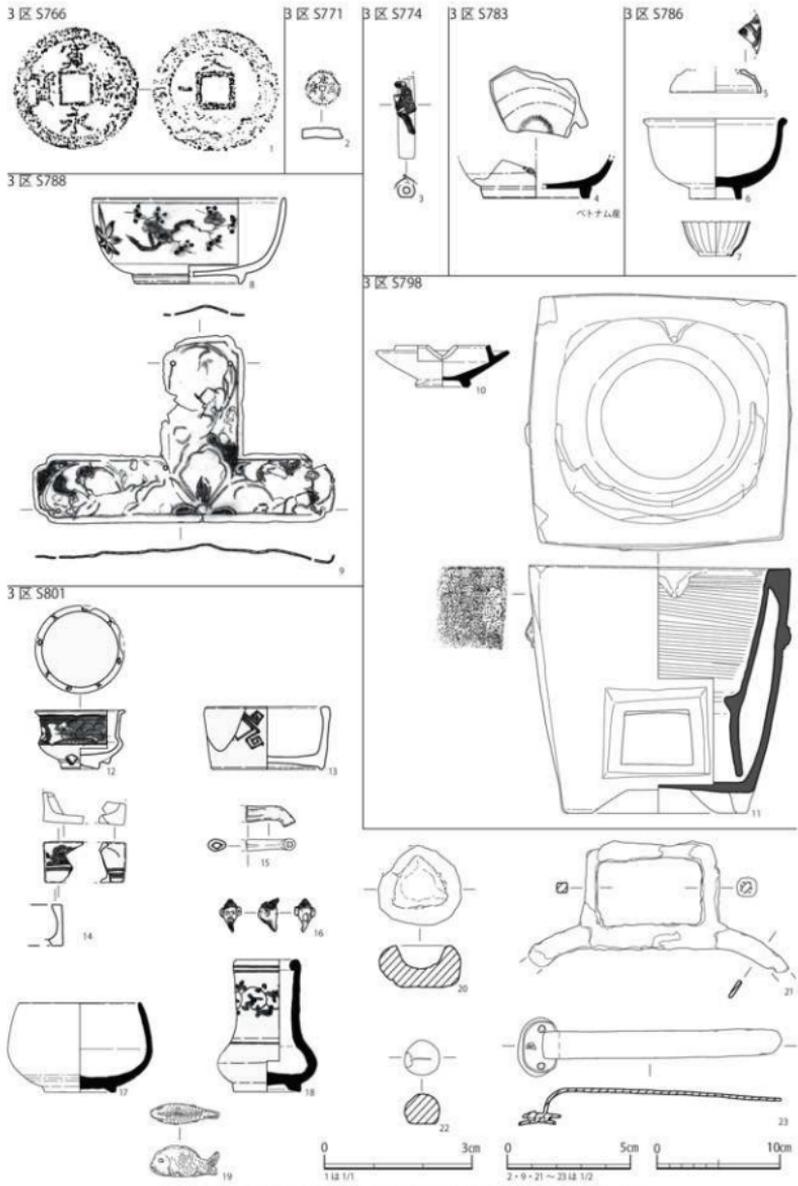
3区 S681



第 473 図 3 区第 2 調査面その他遺構出土遺物実測図④ (1/1・1/2・1/4)

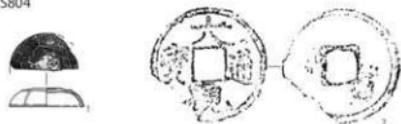


第 474 図 3 区第 2 調査面その他遺構出土遺物実測図③ (1/1・1/2・1/4)

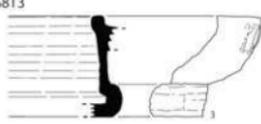


第 475 図 3 区第 2 調査面その他遺構出土遺物実測図 (1/1・1/2・1/4)

3区 S804



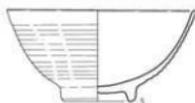
3区 S813



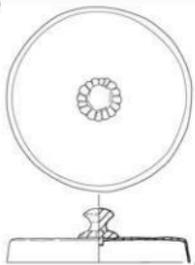
3区 S814



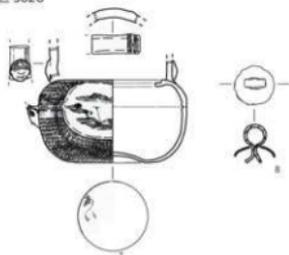
3区 S821



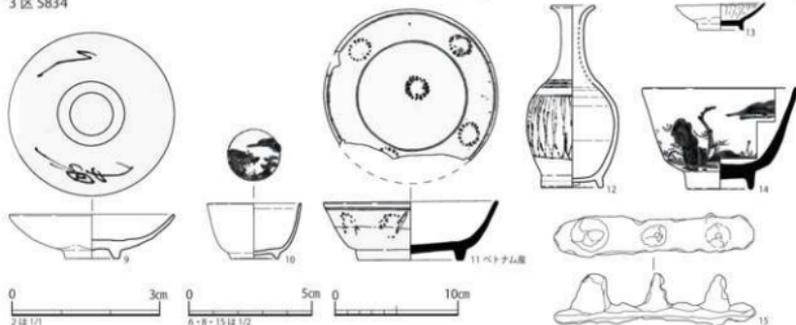
3区 S823



3区 S828

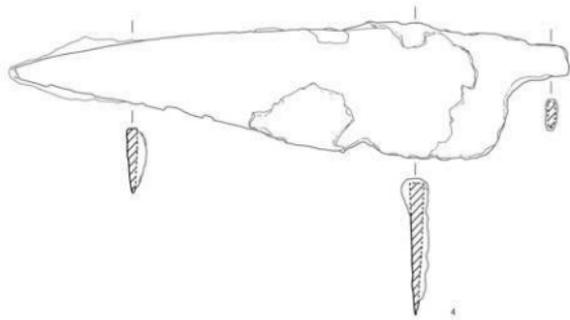
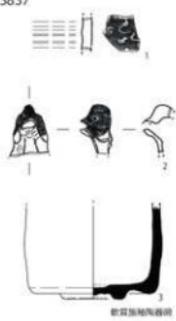


3区 S834

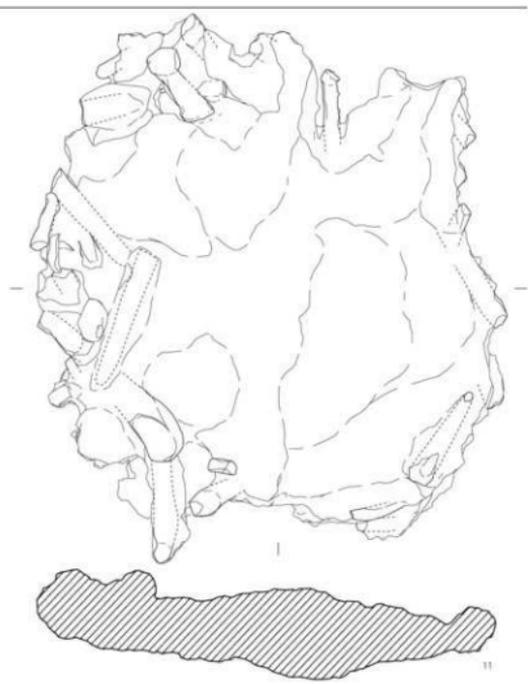
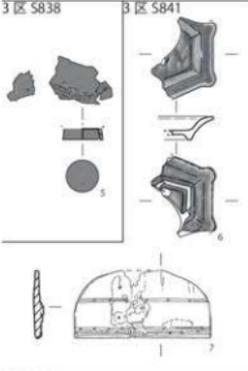


第 476 図 3区第 2 調査面その他遺構出土遺物実測図② (1/1・1/2・1/4)

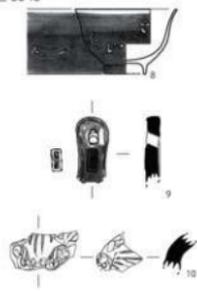
3区 S837



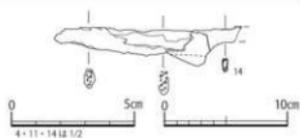
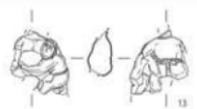
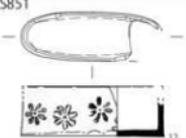
3区 S838



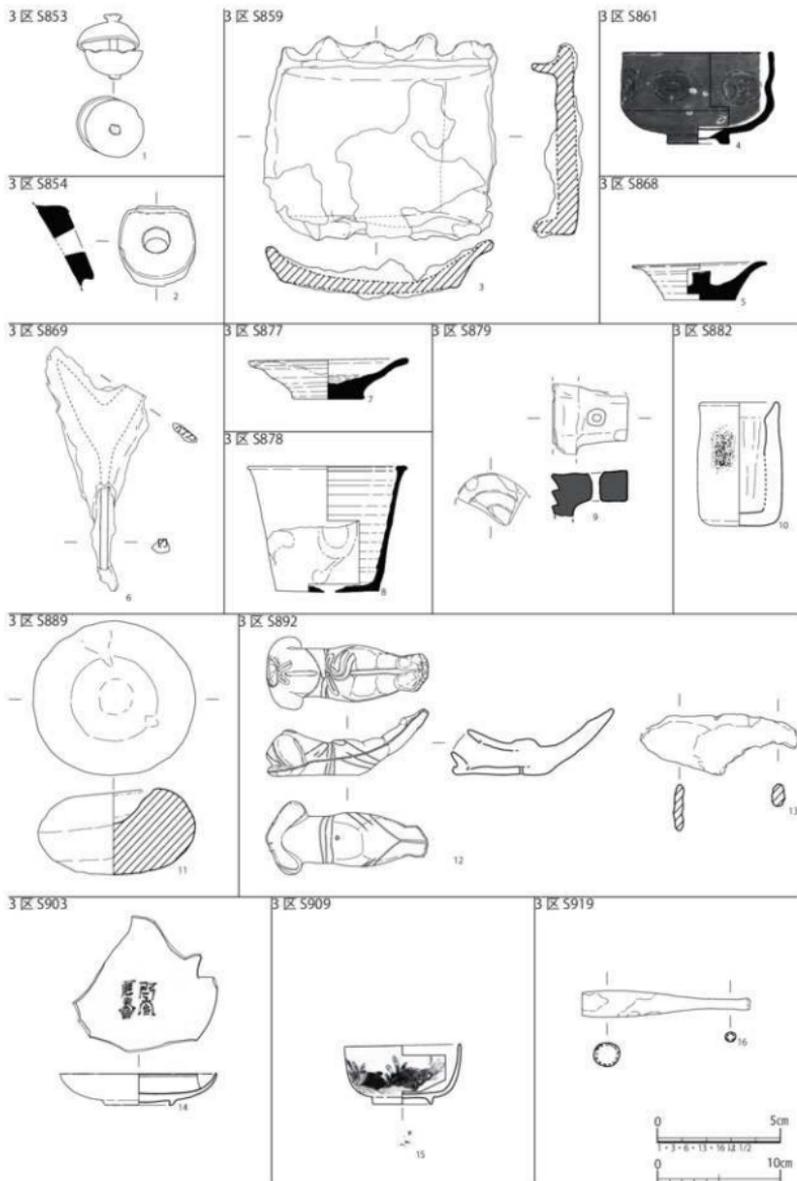
3区 S848



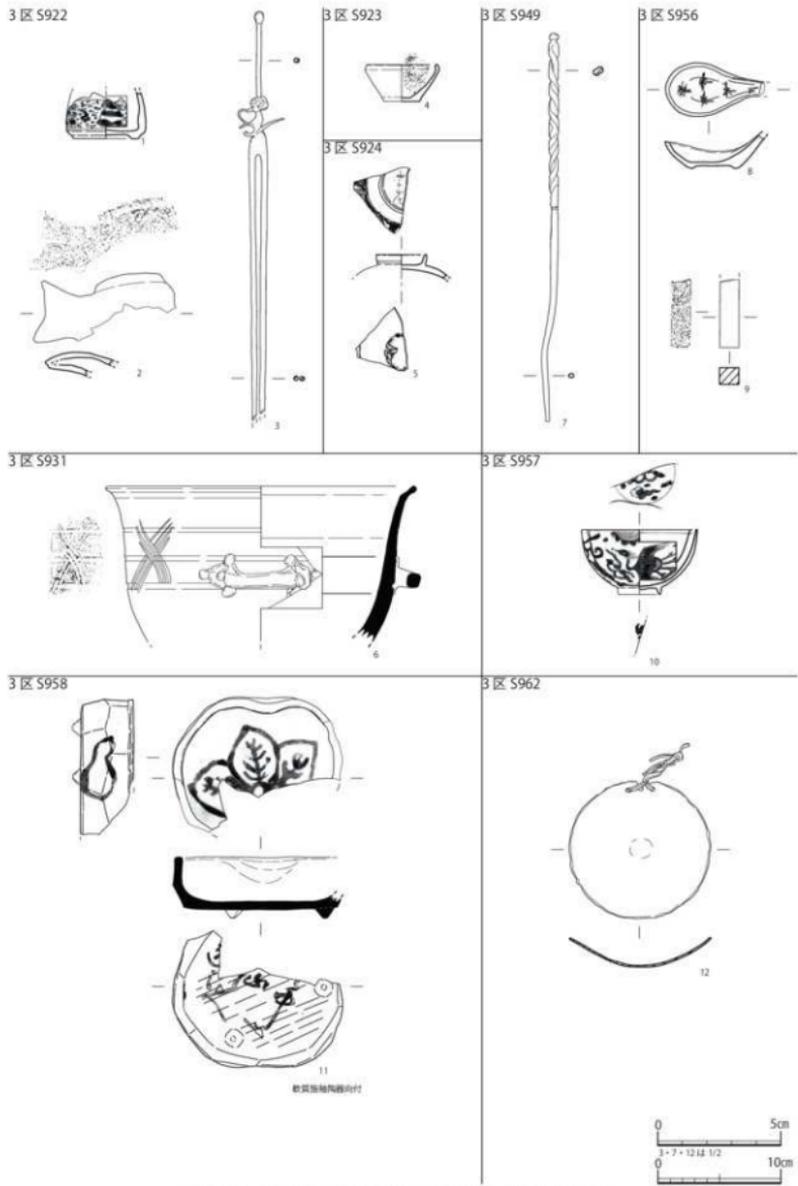
3区 S851



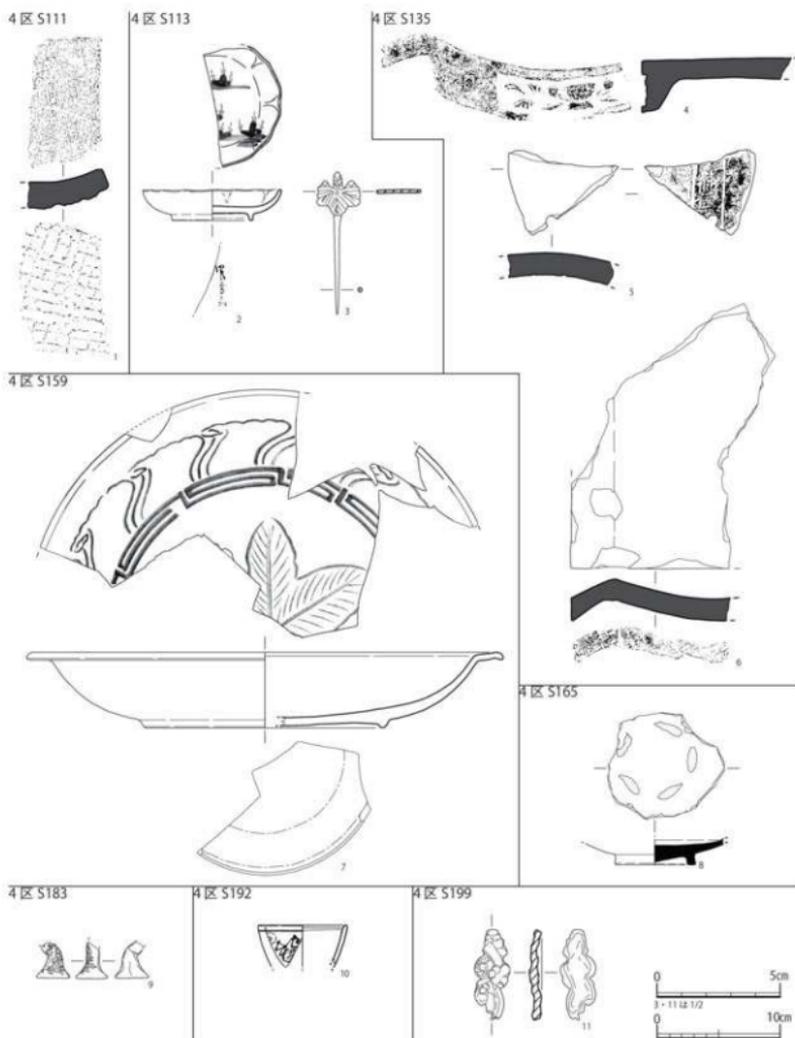
第 477 図 3区第 2 調査面その他遺構出土遺物実測図① (1/2・1/4)



第 478 図 3 区第 2 調査面その他遺構出土遺物実測図⑨ (1/2・1/4)



第 479 図 3 区第 2 調査面その他遺構出土遺物実測図⑩ (1/2・1/4)



第480図 4区第2調査面その他遺構出土遺物実測図(1/2・1/4)

**(3) 第 3 調査面****3 区 SK1006 出土遺物****染付碗 (第 485 図 9)**

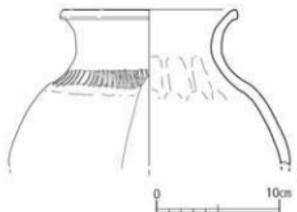
G-14G、3区SK1006から出土した肥前系染付碗である。約1/3が残存している。復元口径10.2cm、器高6.7cm、底径5.2cmを測る。胎土は明灰色を呈し、鉄分が含まれる。器形は腰部で強く立ち上がり、胴部でわずかに外反した後、口縁へと立ち上がる天目型である。畳付を除き全面に施釉され、高台内には粗砂が付着する。文様は外面に菊と藤が描かれ、見込には花卉かと思われるが判然としない文様が描かれる。初期伊万里1610～1630年代。

**3 区 SK1009 2 層出土遺物****瓦質土器風炉 (第 487 図 1)**

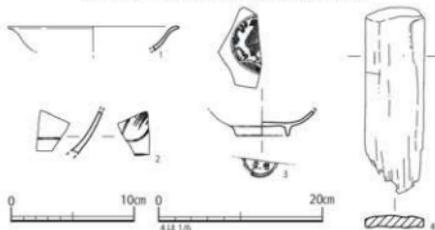
A-4G、3区SK1009から出土した瓦質風炉である。ほぼ完形で出土している。口径24.0cm、器高21.4cm、底径19.0cmを測る。胎土は明灰白色で精良。平面形状は円形で、底部から腰部にかけて丸みを帯びて立ち上がり、口縁部にかけてやや内傾する。底部には円筒型の脚を三足有する。体部中程に宝珠型の窓を有し、背面には1cm×2cmと小型の方形の窓が二カ所開けられている。両側面には耳型の持ち手が付く。内面に三つの内部突起を有する。器面調整は内面がヘラナデ、外面はヘラナデ後丁寧なナデが施される。底部にはヘラ描きで「助右○門」の文字が刻まれており、府内城下で出土する瓦に見られる「助右門」の刻印を刻んだ瓦師との関連性が窺える。時期は18世紀前半～中頃と考えられる。

**3 区 S1187 出土遺物****陶器碗 (第 500 図 6)**

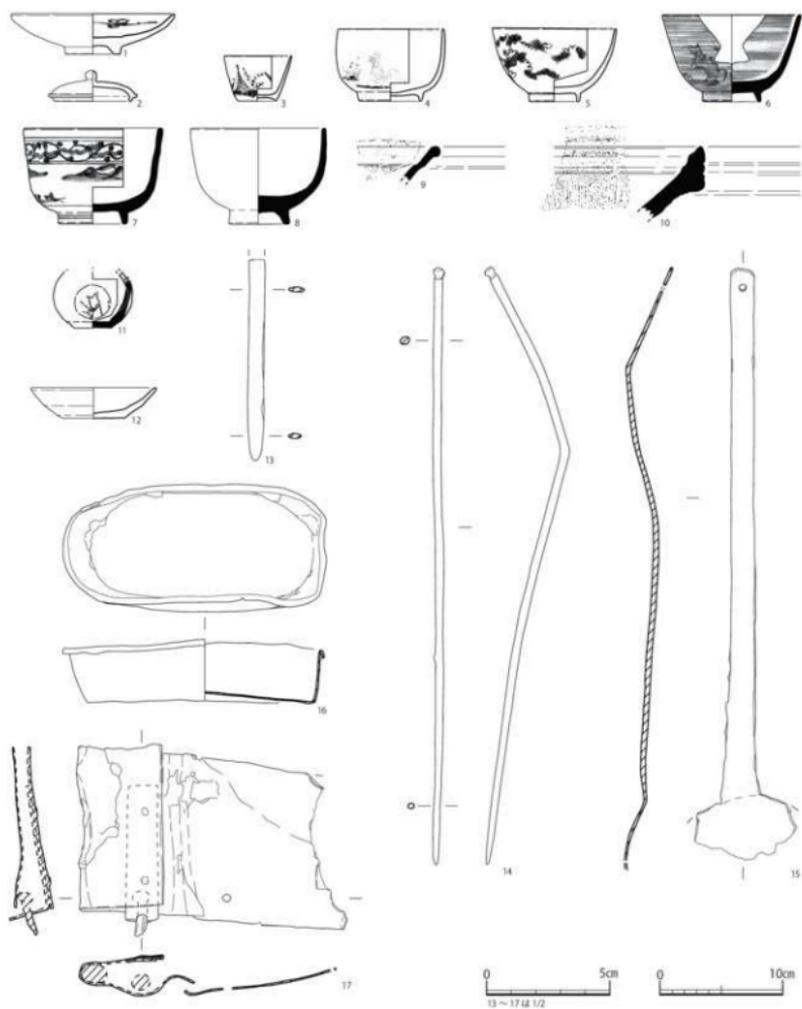
H-3G、3区S1187出土の瀬戸黒陶器碗である。やや茶色がかった発色の黒軸で、高台畳付き付近露出となる。胎半筒形と典型瀬戸黒の中間形態、内底部に茶だまりをもつ。体部に若干のひずみをもつ部分も含め、前述した俊寛型の黒楽に近いイメージの茶碗となる。口径10.4cm、器高7.6cm、高台径5.8cmを測る。16世紀末～17世紀初頭、共伴する京都系土師器、唐津陶器を含め、同時性の高い遺物群となる。



第 481 図 3 区 SA640 出土遺物実測図 (1/4)

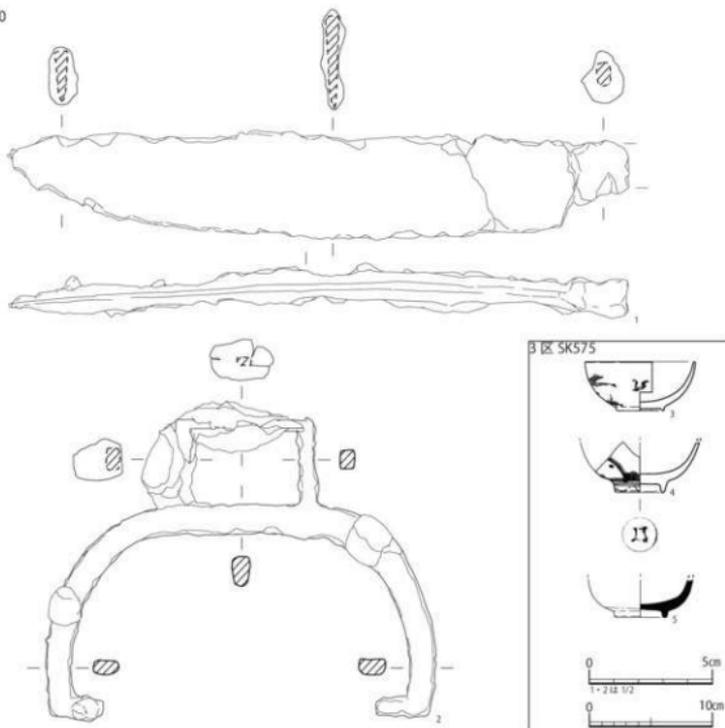


第 482 図 3 区 SE655 出土遺物実測図 (1/4・1/6)



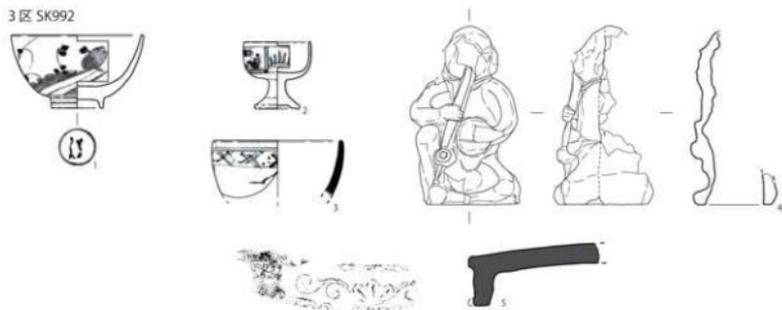
第483図 3区SK570出土遺物①実測図(1/2・1/4)

3区 SK570

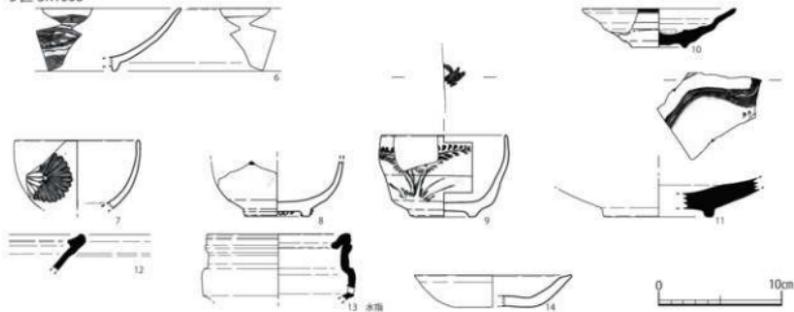


第 484 図 3区 SK570 出土遺物②・SK575 出土遺物実測図 (1/2・1/4)

3区 SK992

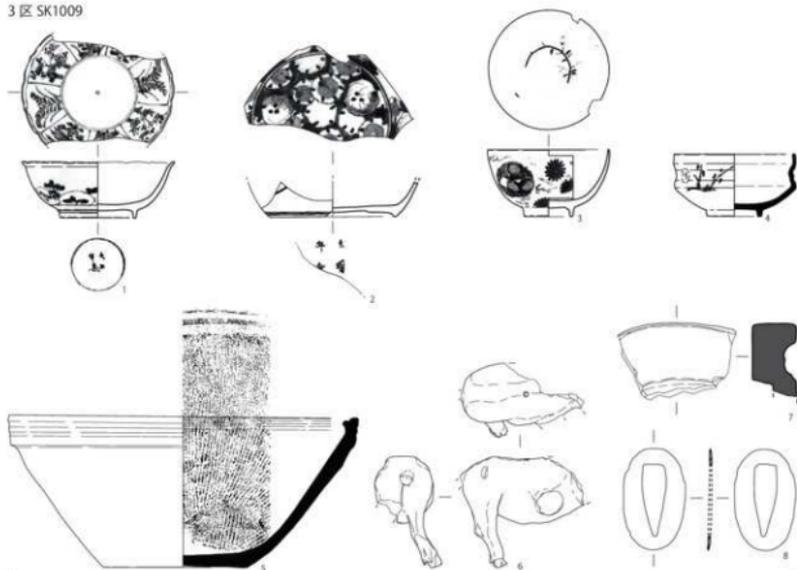


3区 SK1006

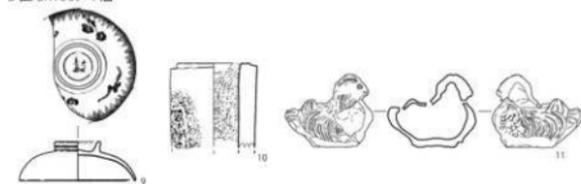


第 485 図 3区 SK992・SK1006 出土遺物実測図 (1/4)

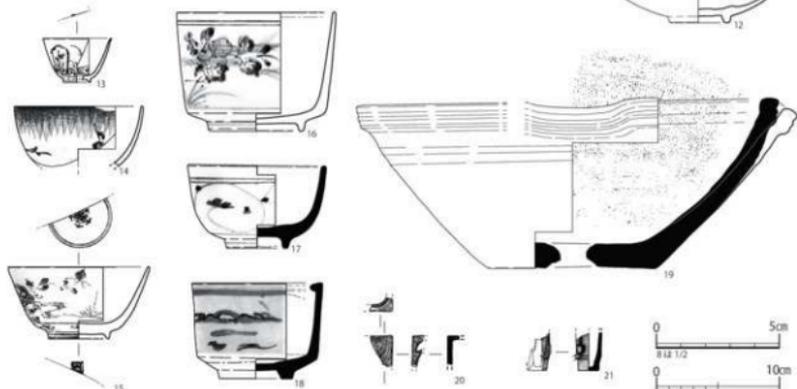
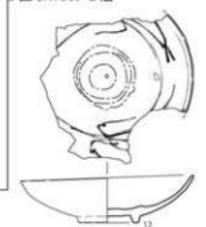
3区 SK1009



3区 SK1009 1層

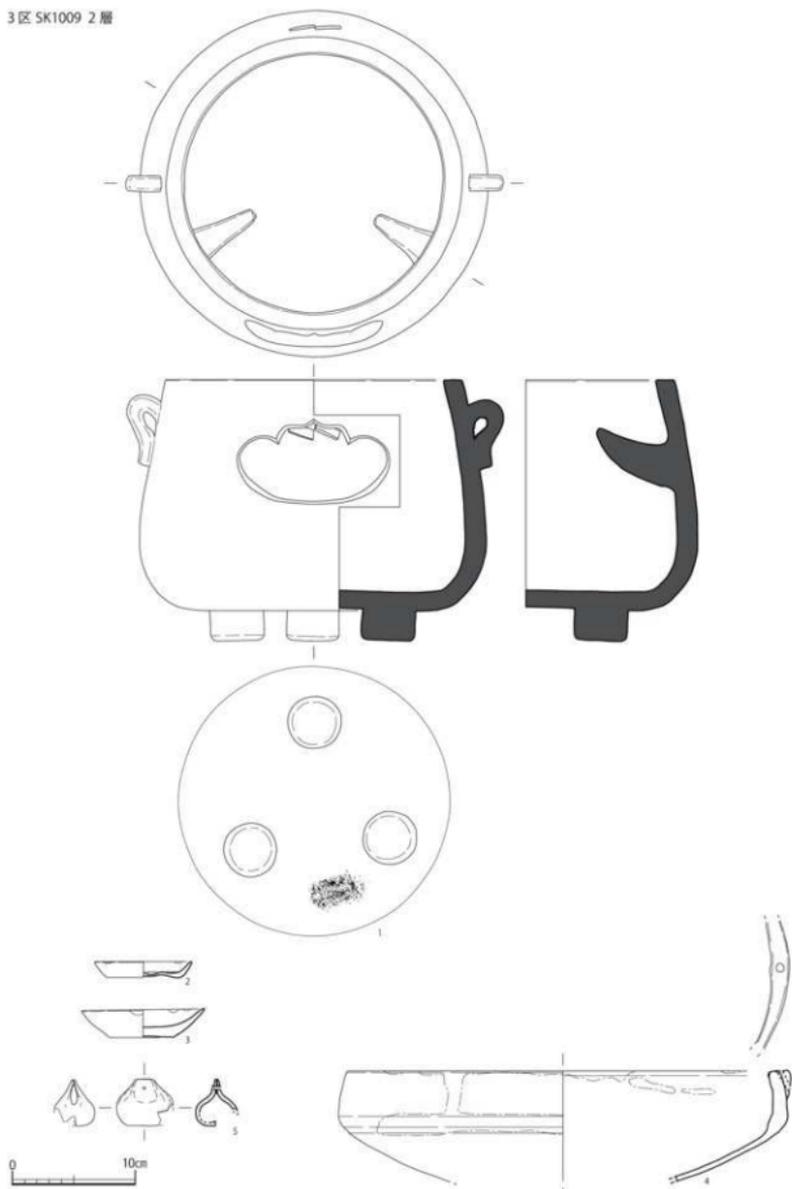


3区 SK1009 2層

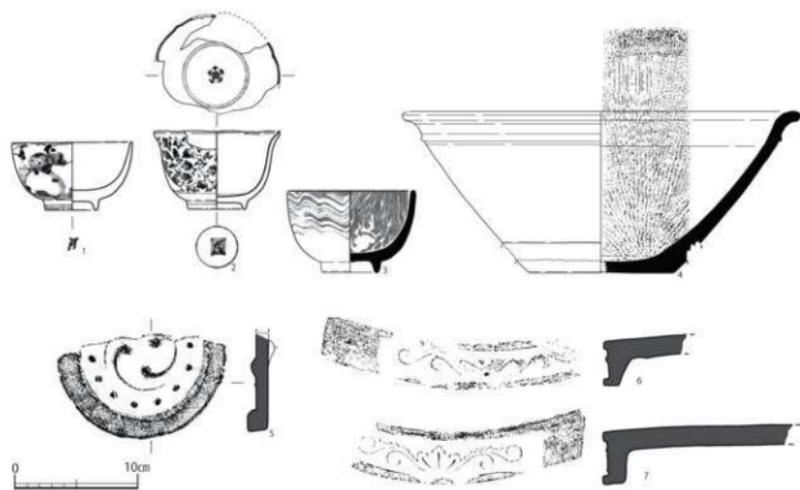


第 486 図 3区 SK1009 出土遺物①実測図(1/2・1/4)

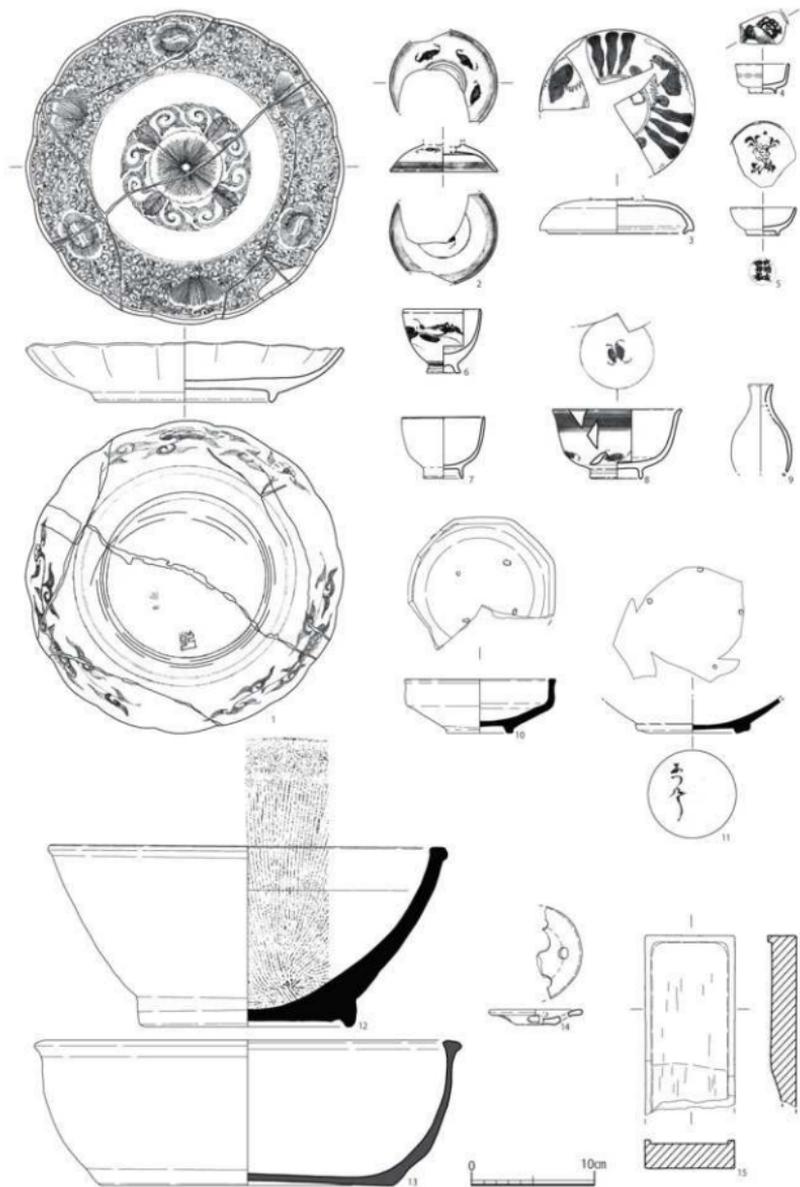
3区 SK1009 2層



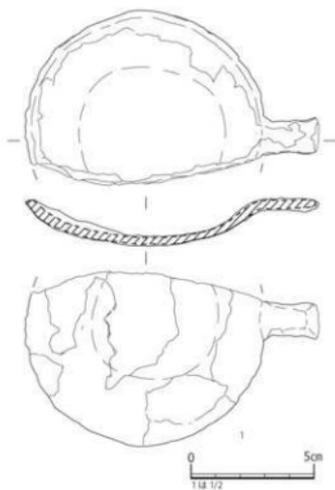
第 487 図 3区 SK1009 出土遺物②実測図 (1/4)



第 488 図 4 区 SK220 出土遺物実測図 (1/4)



第 489 図 4 区 SK225 出土遺物①実測図 (1/4)

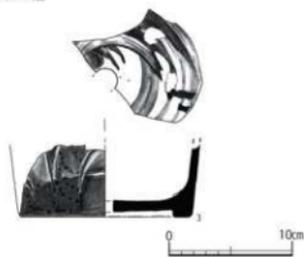


第 490 図 4 区 SK225 出土遺物②実測図 (1/2)

4 区 SK235



4 区 SK235 3 層

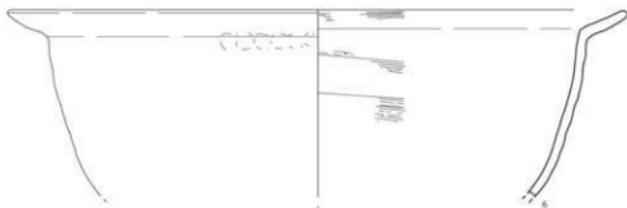
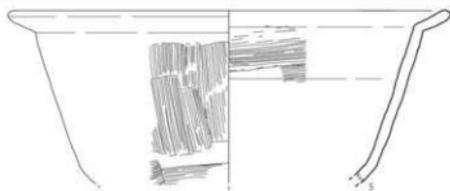
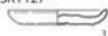


第 491 図 4 区 SK235 出土遺物実測図 (1/4)

3 区 SK580

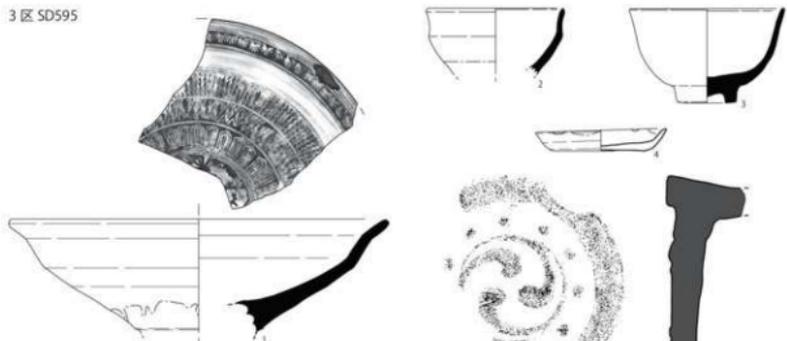


3 区 SK1127



第 492 図 3 区 SK580・SK1127 出土遺物実測図 (1/4)

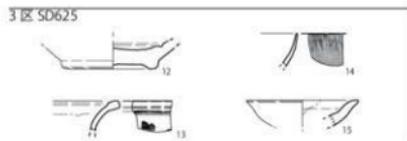
3区 SD595



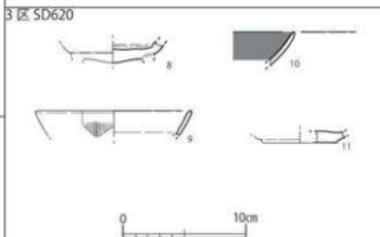
3区 SD615



3区 SD625

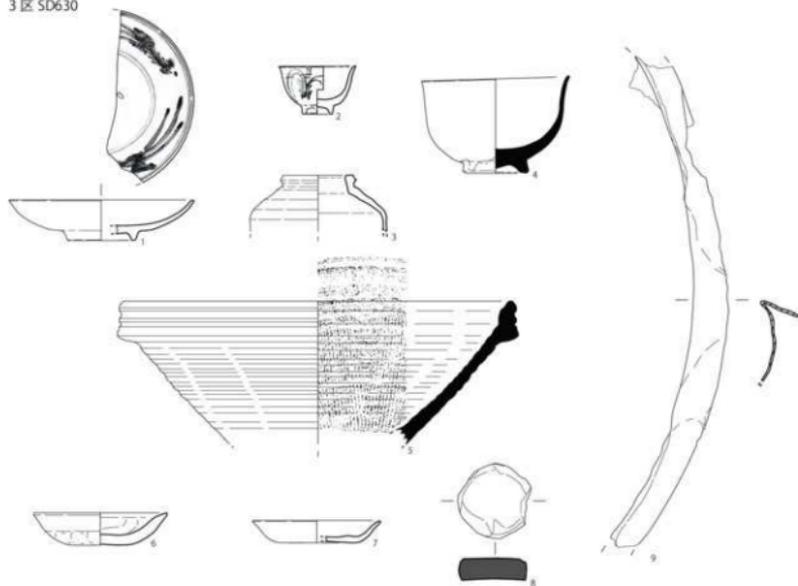


3区 SD620



第 493 図 3区 SD595・SD615・SD620・SD625 出土遺物実測図 (1/4)

3区 SD630



3区 SD635



第 494 図 3区 SD630・SD635 出土遺物実測図 (1/2・1/4)

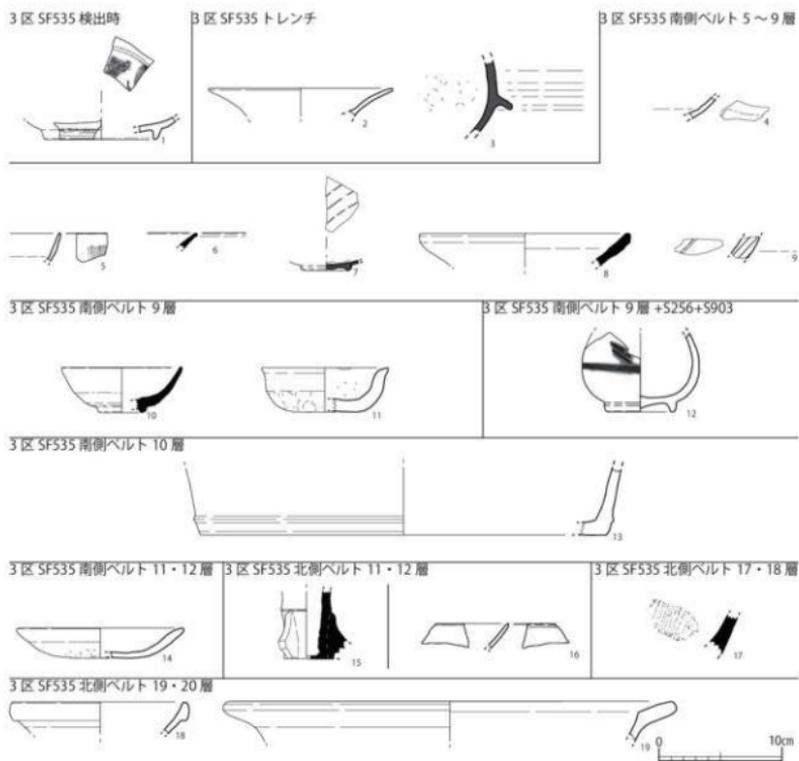
4区 SD226



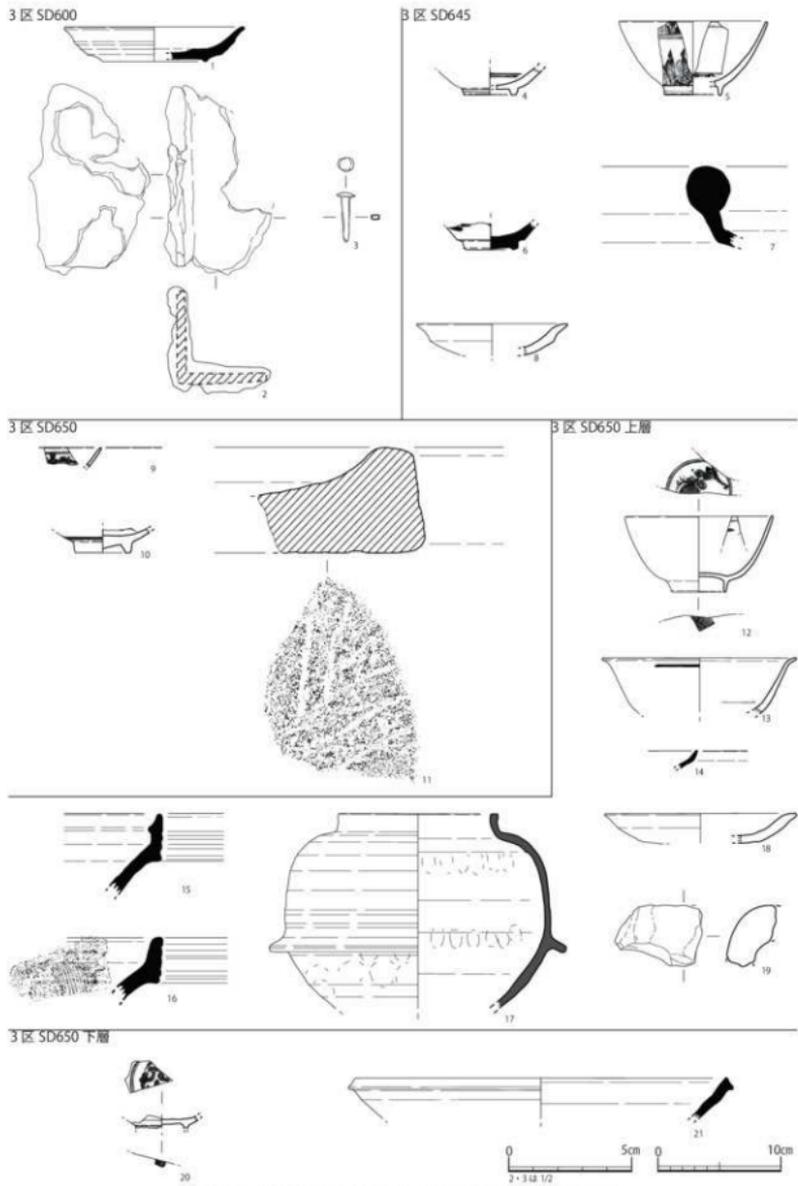
4区 SD227



第 495 図 4区 SD226・SD227 出土遺物実測図 (1/4)

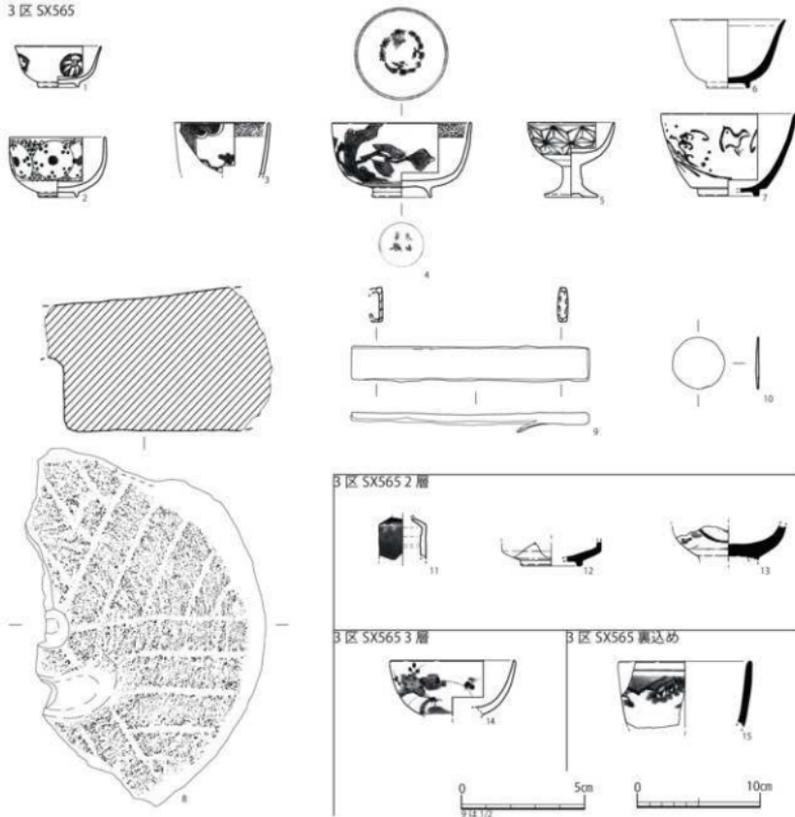


第 496 図 3区 SF535 出土遺物実測図 (1/4)

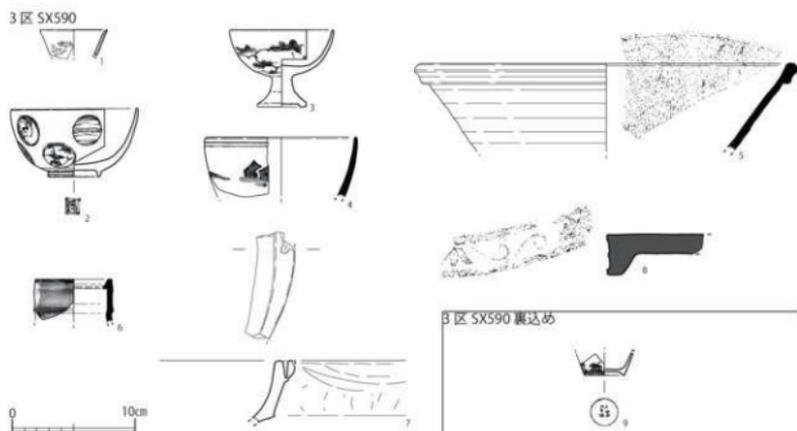


第 497 图 3 区 SD600・SD645・SD650 出土遺物実測図 (1/2・1/4)

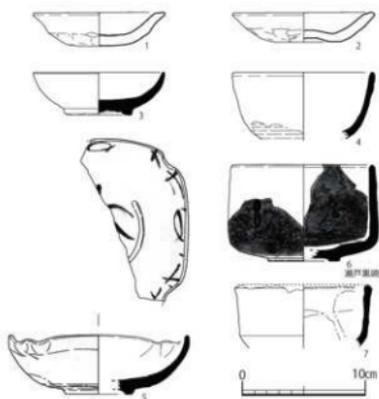
3区 SX565



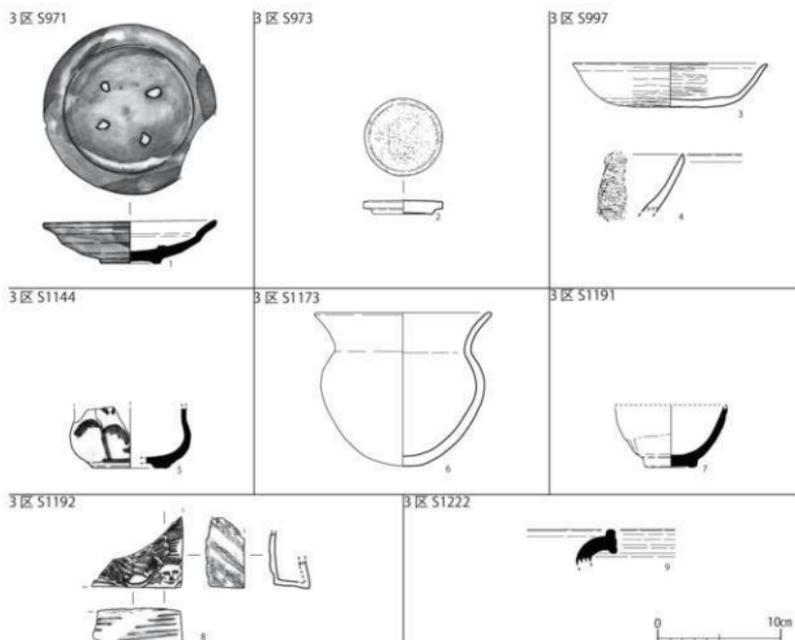
第 498 図 3区 SX565 出土遺物実測図 (1/2・1/4)



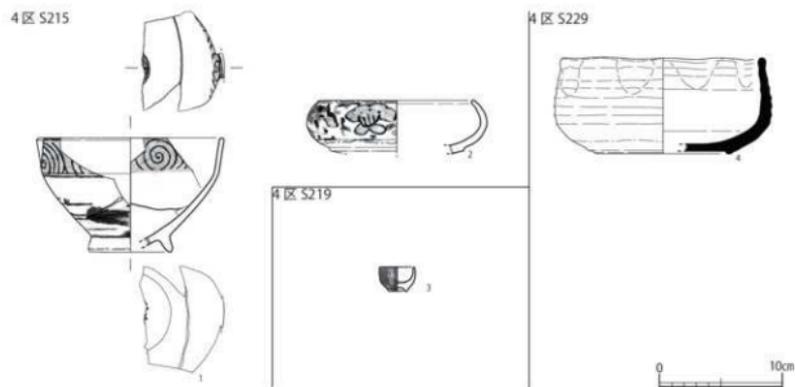
第499図 3区 SX590 出土遺物実測図(1/4)



第500図 3区 S1187 出土遺物実測図(1/4)



第 501 図 3区第3調査面その他遺構出土遺物実測図(1/4)



第 502 図 4区第3調査面その他遺構出土遺物実測図(1/4)

#### (4) その他

##### 3 区 S488+S506 出土遺物

###### 陶器茶入 (第 503 図 5)

1 面 D-6G、3 区 S488 と H-4G、3 区 S506 と遺構間接合する形で出土した瀬戸・美濃産陶器の肩衝茶入である。約 1/3 が残存する。復元口径 3.4 cm、器高 10.0 cm、復元底径 4.4 cm を測る。胎土は硬質で明灰色を呈し、黒色粒子、石英を含みやや粗い。底部は回転糸切りだが欠損のため回転方向は不明。体部は長胴型で、胴部中央で最大径となり、内面には左上がりのロクロ目が顕著に残る。肩部は大きく屈曲し、頸部は強く立ち上がった後口縁端部で外反する。腰部から底部は無軸で、露胎部の色調は明灰橙色を呈する。地の軸調は茶褐色の鉄軸に黒色が斑状に含まれるもので、その上から黒褐色軸を流しかけ、なだれを形成している。16 世紀末から 17 世紀代初頭。

##### 3 区検出時出土遺物

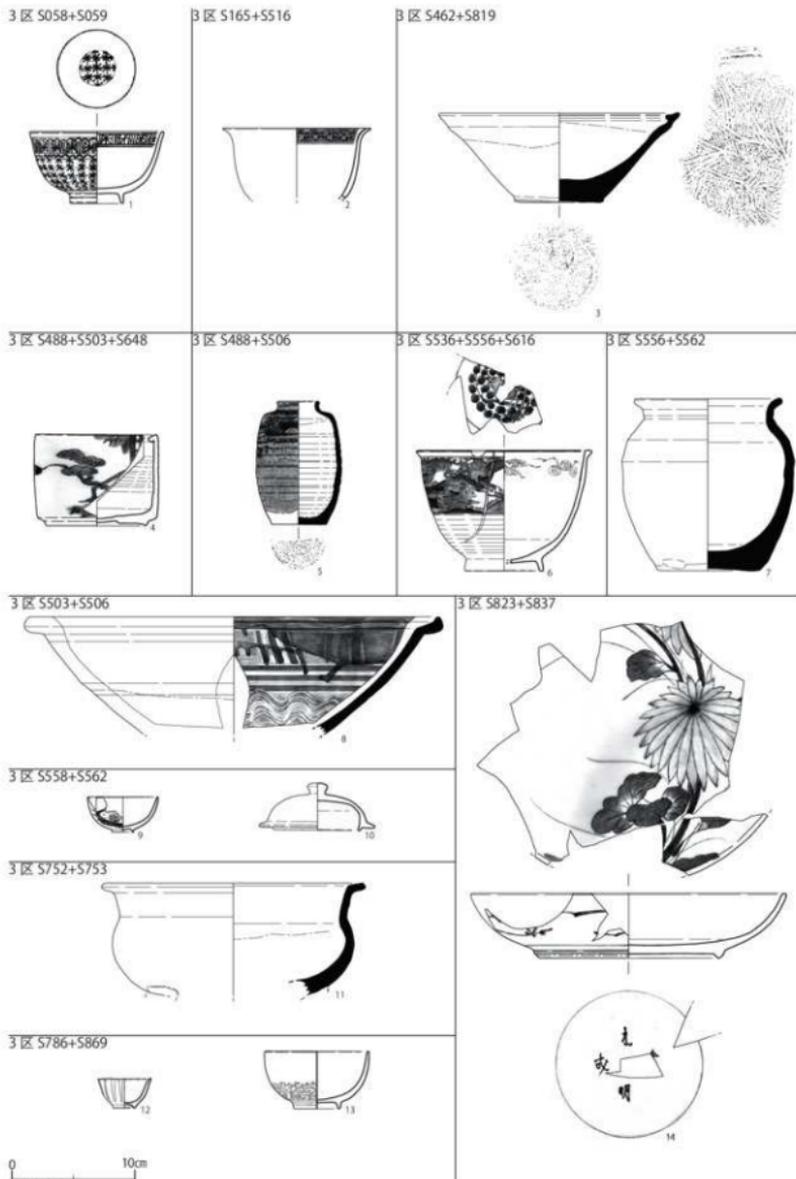
###### 陶器向付 (第 504 図 2)

3 区検出時出土の織物向付である。緑軸と鉄絵を用いた型作りによる向付で、須恵質の硬質の素地、表面には布目痕跡が残る。法量は、口径 12.5 cm、器高 10.9 cm、底径 2.0 cm を測る。16 世紀末～17 世紀初頭、下面遺構からの掻き上げ遺物と考えられる。

##### 3 区 2 面検出時出土遺物

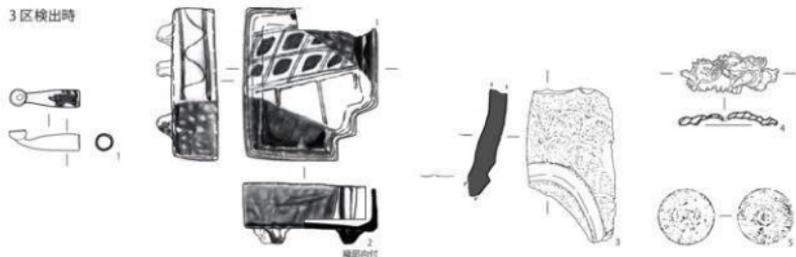
###### 色絵灯心押え (第 504 図 15)

3 区の 2 面検出時に出土した肥前系の色絵灯心押えである。頭部が欠損している。残存長 4.0 cm、幅 3.0 cm、厚さ 2.1 cm を測る。胎土は黄灰色を呈し黒色粒子をわずかに含む。畳付を除き全面施軸される。形状は人形型で、底部からの内面は中空となり、背面に開口した穴と貫通する。人形の上半身は辰砂で彩色されており、赤紫色の良好な発色が見られる。17 世紀前半～中頃。

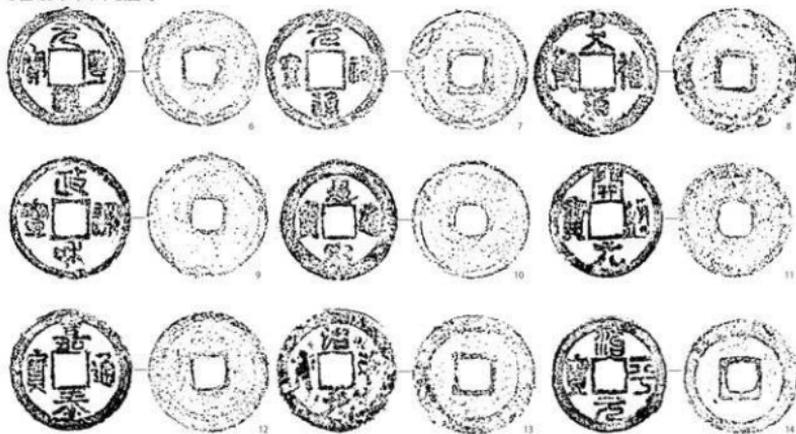


第503図 3区その他遺構間接合遺物実測図(1/4)

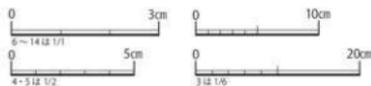
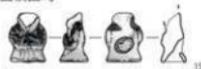
3区検出時



3区GSグリット検出時



3区2面検出時



第504図 3区検出時・GSグリット検出時・2面検出時出土遺物実測図(1/1・1/2・1/4・1/6)

## 第 4 節 志野他追加実測遺物

### 志野他追加実測遺物の概要

府内城とその城下町成立期を特徴づける資料として、瀬戸黒・志野・織部・軟質施釉陶器をはじめとした桃山の茶陶群がある。今回、資料の重要性から、志野を中心とした未実測資料について追加実測を行った。追加実測については、志野 21 点、軟質施釉陶器 1 点となる。器種については、志野が、向付、茶碗、皿、軟質施釉陶器が、向付となる。出土状況として、1 区～4 区調査区、第 1 面～3 面、全ての調査区及び検出面からの出土と、調査区、検出面を超えた接合関係を確認している。概ね下面遺構に帰属する資料群であるが、上面遺構から出土する者に関しては、上面遺構掘削の際に掻き上げられたものと考えられる。以下に追加実測資料の概要を記す。

なお、遺物の種類・名称・法量などについては、遺物観察表 (第 123 表) にて報告している。

### 志野向付 (第 505 図 1～7・17)

向付は、平向と深向の 2 種が確認される。平向は、口縁部を内側に折り返し、底部に 3 脚を張り付けるもので、口縁部外部に 2 点の貼り付け文を有するものと付かないものの 2 型式に細分され、それぞれ複数個体存在するようである。深向は、四方入隅で、椀底を呈する。鉄絵による簡素な草花の文様が施され、これもまた複数個体存在するようである。

### 志野茶碗 (第 505 図 18～21)

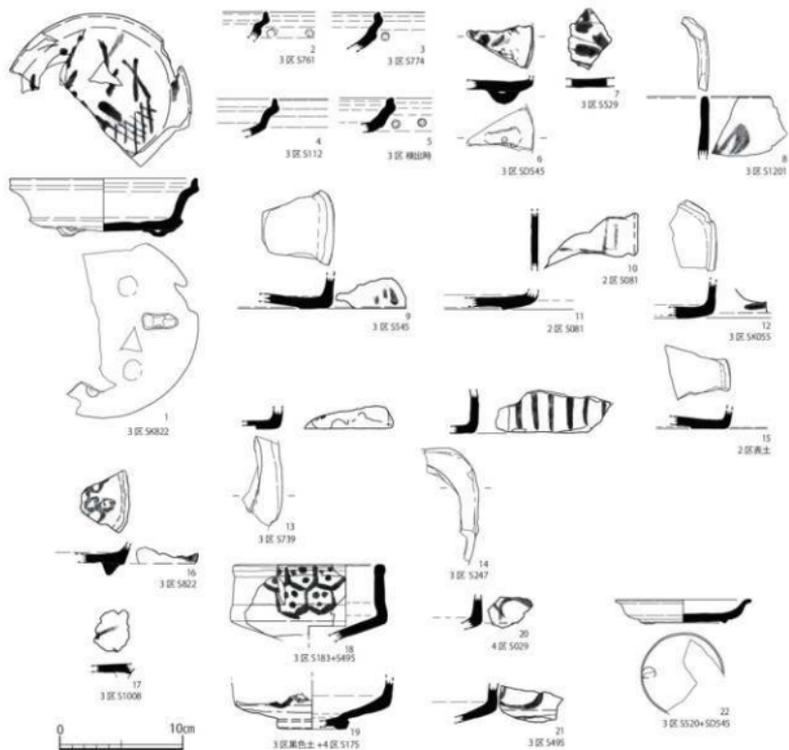
茶碗は、半筒型を呈する 3 個体分が確認される。亀甲文描かれる個体と、草花文が描かれる小片が同一個体となり、ほぼ五角形に削る高台に、同じく亀甲文が描かれる体部下半から高台が残る個体、草花文が描かれる腰部の小片の 3 個体となる。

### 志野皿 (第 505 図 22)

皿は、口縁部を短く外反させ、高台内に目跡が認められる。

### 軟質施釉陶器向付 (第 505 図 16)

土師質の軟質な素地に白化粧した後、下絵付を行い鉛軸系の透明釉が掛かる。釉は鉾化し、見込み部に描かれるのは花文か。底部に脚が認められる。



第 505 図 各遺構出土志野焼実測図 (1/4)

## 第VI章 理化学的分析

### 第 1 節 府内城・城下町跡第 29 次調査における理化学分析

一般社団法人 文化財科学研究センター

#### I. はじめに

府内城・城下町跡第 29 次調査は、府内城三之丸の武家屋敷地として、家老や奉行クラスの上級武士が居住する地域で行われた。1・2区は、太田氏と神谷(屋)氏の屋敷に、3区は神谷(屋)氏、岡本氏、上原氏の屋敷と伴氏、木戸氏の屋敷の一部にあたり、4区は伴氏、木戸氏と阿部氏の屋敷にあたる。ここでは検出された土坑、井戸、埋裏などから採取された土壌、木材、種実、動物遺存体などを分析・同定し、当時の植生及び生業や食性について検討する。

#### II. 試料

試料は、第 29 次調査において検出された土坑、井戸、埋裏等より採取された土壌、木材、水洗選別済みの種実である。以下の第 3 表に詳細を記す。

第 3 表 試料一覧表

遺構番号	遺構種	図番号	R 番号	種別	樹種	動物 遺存体	種実	微生物	トイレ 遺構
1区 SK015	火災処理土坑	—	—	—	○				
3区 SK095	火災処理土坑	第356図14	R015	角柱	○				
3区 SK201	廃棄土坑	第376図9	R037	下駄	○				
3区 SK201	廃棄土坑	第377図4	R038	丸柱	○				
3区 SK201	廃棄土坑	第377図3	R039	建材	○				
3区 SK201	廃棄土坑	第376図7	R042	木刀	○				
3区 SK201	廃棄土坑	—	—	床材か	○				
3区 SK250	火災処理土坑	—	—	—	○				
3区 SE465	井戸	第426図11	R010	井戸枠	○				
3区 SE465	井戸	—	—	たが	○				
3区 SE465	井戸	—	—	縄	○				
2区 SE075	井戸	—	—	—		○	○		
3区 SK042	廃棄土坑	—	—	—		○	○		
3区 SX050	埋裏	—	—	—		○		○	
3区 S837	廃棄土坑	—	—	—		○			
2区 SK030	廃棄土坑	—	—	—			○		
3区 SK250	火災処理土坑	—	—	—			○		
3区 SE465井筒内	井戸	—	—	—			○		
1区 SX040	粘土貼土坑	—	—	粘土貼の粘土				○	
1区 SX079	土間	—	—	土間材				○	
4区 SK075	火災処理土坑	—	—	焼土				○	
1区 SX072	埋裏	—	—	—					○
3区 SX380	埋裏	—	—	—					○
3区 SX425	埋裏	—	—	—					○

#### III. 樹種同定

##### 1. 原理

本報告では、出土した木材と炭化材に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ねμmレベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

## 2. 方法

方法は、木製品に関しては、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面(木口と同義)、放射断面(柎目と同義)、接線断面(板目と同義)の基本三断面の切片を製作し、マウントクイックアクエオス(Mount-Quick“Aqueous”；大道産業)で封入し、プレパラートを製作する。生物顕微鏡(OPTIPHOTO-2；Nikon)によって40～1000倍で観察した。炭化材に関しては、試料を割り折りにして新鮮な横断面(木口と同義)、放射断面(柎目と同義)、接線断面(板目と同義)の基本三断面を製作し、落射顕微鏡(OPTIPHOTO-2；Nikon)によって50～1000倍で観察した。同定は、木材構造の特徴及び現生標本との対比によって行った。

## 3. 結果

第4表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真(第506～508図)を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

### 1) マツ属複維管束亜属 *Pinus subgen. Diploxykon* マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道などから構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急な箇所と緩やかな箇所があり、垂直樹脂道が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状で、放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では、放射組織が単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の特徴からマツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。

### 2) スギ *Cryptomeria japonica* D. Don スギ科

仮道管、樹脂細胞及び放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。放射組織は単列の同性放射組織型で、1～14細胞高である。

以上の特徴からスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で高さ40m、径2mに達する。

### 3) ヒノキ *Chamaecyparis obtuse* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞及び放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に2個存在する。放射組織は単列の同性放射組織型で、1～15細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。

### 4) 針葉樹 conifer (樹皮)

部分的に、仮道管が観察され、針葉樹の樹皮とみなされる。分野壁孔など針葉樹の各樹種の構造を詳細には観察できず、針葉樹の樹皮の同定にとどまる。

### 5) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科

年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火災状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。

### 6) ムクノキ *Aphananthe aspera* Planch. ニレ科

中型から小型で厚壁の放射方向にのびた道管が、年輪界にむけて径を減少しながら、単独あるいは2～3個放射方向に複合して、まばらに散在する散孔材である。軸方向柔細胞は早材部で周囲状、晩材部では、数細胞幅で

第 4 表 樹種別定植調査  
通し No.

通し No.	遺構番号	R 番号	種別	結果(学名/和名)	備考
1	1KSK015	—	火災処理土坑	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylo</i>	表面のみ炭化
2	3IKSK095	R015	角柱	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	炭化
3	3IKSK201	R037	下駄	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	一部炭化
4	3IKSK201	R038	丸柱	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylo</i>	
5	3IKSK201	R039	建材	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylo</i>	
6	3IKSK201	R042	廃棄土坑	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	
7-1	3IKSK201	—	床材か	<i>Fraxinus</i>	トネリコ属
7-2	—	—	—	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylo</i>	マツ属複雑管束亜属
7-3	—	—	—	<i>Aphananthe aspera</i> Planch.	ムクノキ
8	3IKSK250	—	火災処理土坑	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylo</i>	炭化
9	3IKSE465	R010	井戸枠	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	
10	3IKSE465	—	井戸	スギ	
11	3IKSE465	—	井戸	Bambusoideae comifer	タケ亜科 針葉樹 樹皮

帯状に配列する。道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は異性放射組織型で、1~4細胞幅で、多列部は平伏細胞からなり、単列部は直立細胞からなる。

以上の特徴からムクノキに同定される。ムクノキは本州(関東以西)、四国、九州、沖縄に分布する。落葉高木で、通常高さ15~20m、径50~60cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径1.5mに達する。

#### 7) トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科

年輪のはじめに、大型で厚壁の丸い道管が、ほぼ単独で1~3列配列する環孔材である。孔圏部外では、小型でまるとい厚壁の道管が、単独あるいは放射方向に2~3個複合して散在する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。軸方向柔細胞は早材部で周囲状、晩材部では翼状から連合翼状である。道管の穿孔は単穿孔である。内部にはチロースが著しい。放射組織は同性放射組織型で、1~3細胞幅である。

以上の特徴からトネリコ属に同定される。トネリコ属にはヤチダモ、トネリコ、アオダモなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する落葉又は常緑の高木である。

#### 8) タケ亜科 Bambusoideae イネ科

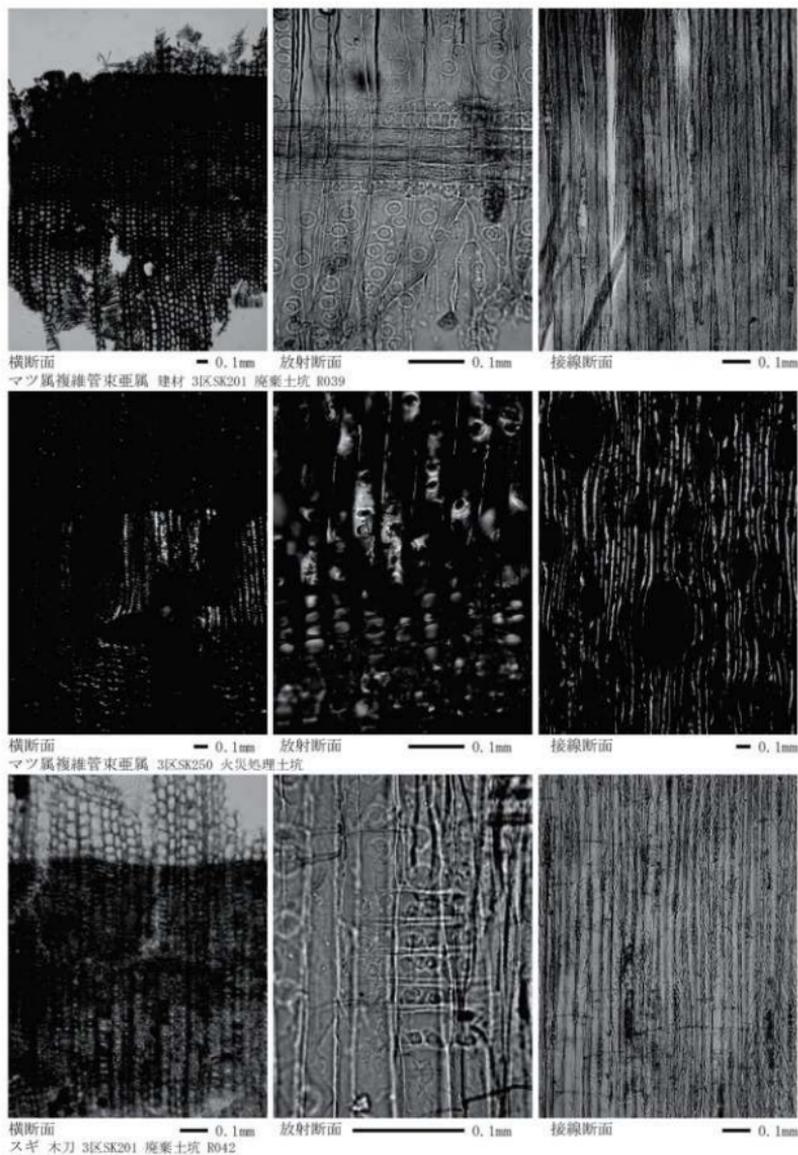
基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に分布する。並立維管束は木部と節部からなり、その周囲に維管束鞘が存在する。放射断面及び接線断面では柔細胞及び維管束、維管束鞘が軸方向に配列している。

以上の特徴からタケ亜科に同定される。また、本試料は節が二冠あり、復原径は10cm以下である。タケ亜科にはマダケ属、メダケ属、ササ属などがある。

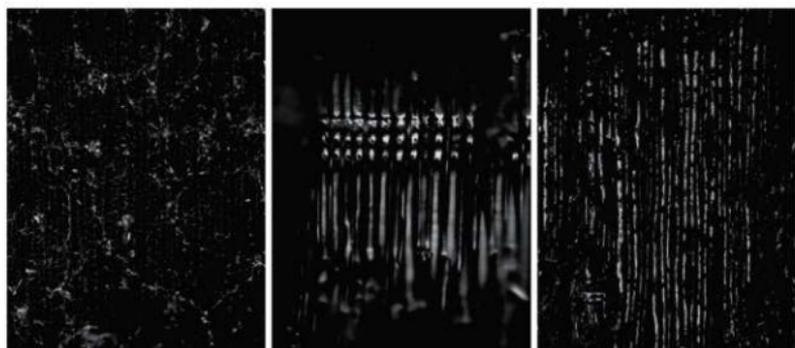
## 4. 所見

同定の結果、府内城・城下町跡第29次の木製品は、マツ属複雑管束亜属5点、スギ2点、ヒノキ1点、クリ1点、ムクノキ1点、トネリコ属1点、針葉樹1点、タケ亜科1点であった。

マツ属複雑管束亜属は丸柱、建材、床材に利用されて、火災処理土坑、廃棄土坑より出土している。木理はやや通直で、重硬で水湿によく耐え腐りにくい材で、建築部材としては水湿の影響がある柱、礎板などによく用いられる。ヒノキは角柱に利用されている。木理通直、肌目緻密で強靱で、耐朽・耐湿性も高い良材であり、建築などに広く用いられる。なお、ヒノキ材は古墳時代以降になると多用され、律令期以降に頻繁に流通する。ムクノキ、トネリコ属、マツ属複雑管束亜属は床材に利用されている。ムクノキ、トネリコ属は堅く強靱な材であり、従曲性に富む。マツ属複雑管束亜属と共に建築部材に用いられるが、トネリコ属は耐朽・耐湿性が低いため床材には不向きである。



第506図 木材顕微鏡写真I



横断面  
ヒノキ 角柱 3区SK095 火災処理土坑 R015

放射断面

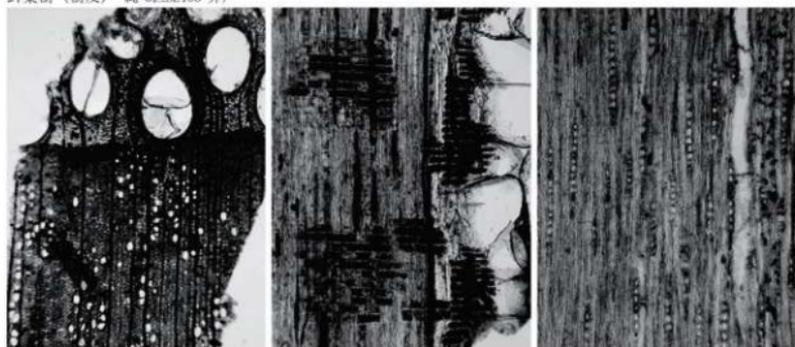
接線断面



横断面  
針葉樹(樹皮) 縄 3区SE465 井戸

放射断面

接線断面



横断面  
クスノキ 下駄 3区SK201 廃棄土坑 R037

放射断面

接線断面

第507図 木材顕微鏡写真Ⅱ



横断面  
ムクノキ 床材か 3区SK201 廃棄土坑



放射断面



接線断面



横断面  
トネリコ属 床材か 3区SK201 廃棄土坑



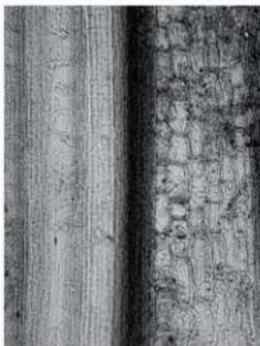
放射断面



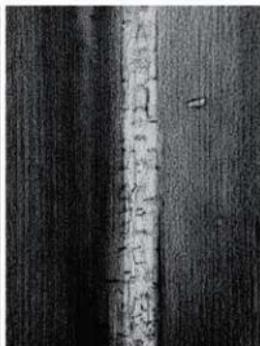
接線断面



横断面  
タケ垂科 たが 3区SE465 井戸



放射断面



接線断面

第508図 木材顕微鏡写真Ⅲ

スギは木刀、井戸杵材に利用されている。加工工作が容易な上、大きな材がとれる良材で、建築部材はもとより板材や小さな器具類に至るまで広く用いられている。また、大きな板材がとれることに加え水湿に耐えることもあり、井戸杵材に適材である。木刀には一般にアカガシやシラカシなどのカシ類が多く、重さや靱性のある木材が用いられる。スギは軽く、木刀の細さではカシ類に比べると割れやすく、現代ではあまり用いられない。針葉樹の木刀は打ち合いはなく素振りなどに用いられ、実戦に用いることは極めて稀のようである。そのため3区SK201R042木刀(第376図7)は比較的身長が短いことも踏まえると実戦用ではない可能性がある。

クリは下駄に利用されている。耐朽性が高く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、建築部材として比較的良好に利用される樹木である。クリは古代から中世まで下駄材として主に用いられる樹種の1つで、列り下駄に用いられる傾向にある。針葉樹の樹皮が縄に利用されている。縄自体珍しく、素材が針葉樹の内部樹皮であるのは初見となる。タケ亜科はたがに利用されている。乾燥が十分なされると硬さと柔軟さを備え割烈性に富み、また細工が容易であるので、さまざまな素材として利用される材である。また繊維が強く丈夫であり、他の木材と同様に建築部材としても利用される。本試料は節が二冠で復原径は10cm以上あり、マダケやハチクなどを利用したと考えられる。

同定された樹種は温帯から温帯下部の暖温帯に分布する樹木である。マツ属複維管束亜属は土壌条件の悪い岩山に生育し二次林を形成するアカマツと、砂地の海岸林を形成するクロマツとがある。スギは肥沃で湿潤な環境を好み針葉樹だが、近世及び近代において、九州では山野へ植栽が多く行われスギ造林が営まれた。ヒノキ、ムクノキ、トネリコ属は適潤な環境を好み、クリは乾燥した台地や丘陵地を好む。タケ亜科はイネ科の木本であり、陽当たりの良いやや湿潤な環境に生育していた。本遺跡で同定された樹木は当時遺跡周辺からか、又は流通によって近隣地域よりもたらされたかと推定される。また、樹種からは耐朽性・耐湿性といった利便性など樹木の性質を考慮して用材とした傾向が見られる。

#### IV. 動物遺存体同定

##### 1. はじめに

一般に日本の国土は、火山灰性の酸性土壌に広く覆われ、高温多湿というモンスーン気候ともあいまって動物遺存体の保存状態には恵まれていない。そのため、ほとんどの乾燥地遺跡では動物や植物性の遺物は分解されて残らず、遺跡で動物遺存体が出土するのは、貝塚、石灰岩地帯の洞穴や岩陰が代表的であるが、近年では湿地環境の遺跡や遺構からも多くの動物遺存体が報告されつつある。本遺跡のように乾燥した沖積平野の遺跡では、ほとんどの動物遺存体が腐食し、土に還ってしまっているが、例外的に消失を免れ、発掘で取り上げられるものもある。そうした断片的な試料を集積することによって、その遺跡を残した人々の動物利用、食生活などを解明する手掛かりとすることができ、ひいては当時の自然環境や人間の適応の歴史を明らかにすることができる。

##### 2. 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴及び現生標本との対比によって同定を行い、また同一遺構の同種の分類群では同一個体かの検討を行った。

##### 3. 結果

遺構ごとに同定された分類群の学名及び和名及び部位を第5～7表に示し、主要な分類群を写真(第509～514図)で示す。また、以下に同定の結果を遺構別に報告する。

###### 1) 2区SE075井戸(第79図)

貝類、マダイ、タイ科、カエル類、キジ科?、ネズミ科、イヌが同定された。貝類は巻貝の軸など破片であるため、同定に至らない。マダイ、タイ科は歯前上顎骨や鰓蓋骨など硬骨魚綱の頭部や鰓そして鱗などである。カエル類は複数体確認され、また大きさはさまざまである。キジ科?の大腸骨は遠位端が残るのみでそれ以上の



第 6 表 動物遺存体同定結果表 2

遺構番号	遺構	結果 (学名/和名)	部位	部分	左右	個数	備考1	
	Muridae	ネズミ科	脛骨	ほぼ完形	左	1	他のネズミ科とは別個体	
	Muridae?	ネズミ科?	椎骨			1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	頸蓋骨	完形		1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	下顎骨	完形	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	歯	遊離歯		1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	椎骨	胸椎		1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	椎骨	胸椎		1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	椎骨	頸椎		3		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	椎骨	胸椎		11		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	椎骨	頸椎		8		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	椎骨	尾椎		5		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	肋骨	完形	左 右	15		左8、右7
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	肩甲骨	完形	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	上腕骨	完形	左 左	1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	尺骨	完形	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	橈骨	完形	左 左	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	手根骨	尺側手根骨	左 左	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	手根骨	中間線側手根骨	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	手根骨	副手根骨	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	手根骨	第三手根骨	左 左	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	手根骨	第四手根骨	左 右	1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	中手骨	第1中手骨	左 左	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	中手骨	第2中手骨	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	中手骨	第3中手骨	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	中手骨	第4中手骨	左 左	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	中手骨	第5中手骨	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	指骨 (前肢)	基節骨	左 右	5		左3、右2
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	指骨 (前肢)	中節骨	左 右	7		左4、右3
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	寛骨	完形		1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	仙骨	完形		1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	大腸骨	完形	左	1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	脛骨	完形	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	腓骨	完形	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	足根骨	踵骨	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	足根骨	距骨	左 右	1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	足根骨	中心足根骨	左 左	1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	足根骨	第二足根骨	左 左	1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	足根骨	第四足根骨	左 右	1		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	足根骨	第二足根骨?	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	手根骨/足根骨	種子骨		6		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	中足骨	第2中足骨	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	中足骨	第3中足骨	左 左	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	中足骨	第4中足骨	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	中足骨	第5中足骨	左 右	2		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	指骨 (後肢)	基節骨	左 右	8		左4、右4
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	指骨 (後肢)	中節骨	左 右	8		左4、右4
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	指骨	末節骨		16		
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	肩甲骨	近位	右	1		解体皿、他のイヌとは別個体
	<i>Canis familiaris</i>	イヌ	脛骨	近位端-遠位	右	1		未融合、他のイヌとは別個体
	Canidae	イヌ科	胸骨	完形		3		
	Canidae?	イヌ科?	石骨	完形		1		
	Mammalia	哺乳類	肋骨	ほぼ完形		1		
	Mammalia	哺乳類	四肢骨	破片		6		
	Mammalia	哺乳類	不明	破片		2		
	Unknown bone	不明	不明	破片		2		
3区SK042	原葉土坑	アフリゾ類		破片		4		
	<i>Turbo cornutus</i>	サザエ		ほぼ完形		2		
	<i>Omphalus rusticus</i>	コシダカガンガラ		完形		2		
	<i>Corbicula japonica</i>	ヤマトシジミ		ほぼ完形	左	2		
	Serranidae	サメ類	椎骨			1		
	Serranidae	ハタ科	歯骨	ほぼ完形	左	1	解体皿	
	Serranidae	ハタ科	主上顎骨		左 左	1	解体皿	
	Serranidae	ハタ科	方骨	破片	左	1		
	Serranidae	ハタ科	方骨	完形	右	1		
	Serranidae	ハタ科	角骨	ほぼ完形	左	2	解体皿2	
	Serranidae	ハタ科	石骨	半形	右	1	解体皿	
	Serranidae	ハタ科	前脛蓋骨	ほぼ完形	右	1	解体皿	
	Serranidae	ハタ科	椎骨	腹椎		2	解体皿1	
	Serranidae?	ハタ科	椎骨	尾椎		1		
	Serranidae?	ハタ科?	上脛骨	ほぼ完形	左	1		
	Selachii	ハタ科?	上腕骨	破片	右	1		
	<i>Acanthopagrus</i>	クロダイ属	前上顎骨	ほぼ完形	左	1		
	<i>Pagrus major</i>	マダイ	前頭骨	破片		3		
	<i>Pagrus major</i>	マダイ	前上顎骨	完形、破片	左	3		
	<i>Pagrus major</i>	マダイ	前上顎骨	完形	右	4		
	<i>Pagrus major</i>	マダイ	主上顎骨	ほぼ完形	左	3		
	<i>Pagrus major</i>	マダイ	主上顎骨	完形	右	1		
	<i>Pagrus major</i>	マダイ	歯骨	ほぼ完形	左	1		
	<i>Pagrus major</i>	マダイ	歯骨	完形、破片	右	6		
	Sparidae	タイ科	歯骨	破片	左	2		

第7表 動物遺存体同定結果表3

遺構番号	遺構	結果(学名/和名)	部位	部分	左右	個数	備考1	
		Sparidae	タイ科	歯	遊離歯		2	
		Sparidae	タイ科	口蓋骨	破片	左	1	
		Sparidae	タイ科	口蓋骨	破片	右	2	
		Sparidae	タイ科	方骨	破片	右	1	
		Sparidae	タイ科	角骨	ほぼ完形	右	4	
		Sparidae	タイ科	上舌骨	完形	左	1	
		Sparidae	タイ科	高舌骨	完形	左	1	
		Sparidae	タイ科	舌顎骨	破片	左	2	
		Sparidae	タイ科	前鋸蓋骨	完形	右	1	
		Sparidae	タイ科	主鋸蓋骨	破片	左	1	
		Sparidae	タイ科	主鋸蓋骨	破片	左	1	
		Sparidae	タイ科	上鋸蓋骨	完形	左	1	
		Sparidae	タイ科	椎骨	椎骨		1	
		Sparidae	タイ科	椎骨	尾椎		5	解体痕1
		Sparidae?	タイ科?	主鋸蓋骨	破片	左	1	解体痕
		Mugilidae	ボラ科	主鋸蓋骨	破片	右	1	
		Osteichthyes	硬骨魚綱	舌顎骨	破片	右	1	
		Osteichthyes	硬骨魚綱	主鋸蓋骨	破片	右	1	
		Osteichthyes	硬骨魚綱	椎骨	破片		1	解体痕
		Osteichthyes	硬骨魚綱	下尾骨	破片		1	
		Osteichthyes	硬骨魚綱	不明	破片		+++	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	下顎骨	ほぼ完形		1	38.07g
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	背甲骨板	頭骨板		1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	背甲骨板	肋骨板		7	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	背甲骨板	破片		1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	腹甲骨板	中腹甲骨板		1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	腹甲骨板	側上腹甲骨板	左	1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	腹甲骨板	側上腹甲骨板	左	1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	上胸骨	ほぼ完形	右	1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	機骨	完形	右	1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	大腸骨	近位端-遠位	右	1	
		Phasianidae	キジ科	足根中足骨	完形	左	1	
		<i>Cervus nippon</i>	ニホンシカ	鹿角	骨角器		1	
		<i>Cervus nippon</i>	ニホンシカ	上胸骨	遠位端	右	1	
3IKSX050	埋燬	<i>Turbo cornutus</i>	サザエ		ほぼ完形		1	
		<i>Turbo cornutus</i>	サザエ	蓋	完形		1	
		<i>Glossula didyma</i>	ツメタガイ		ほぼ完形		1	
		<i>Corbicula japonica</i>	ヤマトシジミ		完形	右	3	
		<i>Macra veneriformis</i>	シオフキ		完形	左	1	
		<i>Macra veneriformis</i>	シオフキ		完形	右	2	
		<i>Ruditapes philippinarum</i>	アサリ		完形	左	1	
		<i>Meretrix lasoria</i>	ハマグリ		ほぼ完形	左	3	
		<i>Meretrix lasoria</i>	ハマグリ		完形	右	10	
		<i>Cyclina sinensis</i>	オキシジミ		完形	左	1	同一個体
		Bivalvia	斧足綱		破片	右	2	
		<i>Pagrus major</i>	マダイ	前上顎骨	完形	右	1	
		Sparidae	タイ科	椎骨	尾椎		2	
		Osteichthyes	硬骨魚綱	高後頭骨	破片		1	
		Osteichthyes	硬骨魚綱	刺状突起	破片		3	
		Osteichthyes	硬骨魚綱	鱗			1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	恥骨	半形	左	1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	大腿骨	骨幹	右	1	
3IKS837	薬薬土坑	<i>Turbo cornutus</i>	サザエ		ほぼ完形		4	
		<i>Turbo cornutus</i>	サザエ	蓋	完形		2	
		<i>Corbicula japonica</i>	ヤマトシジミ		完形	左	5	
		<i>Corbicula japonica</i>	ヤマトシジミ		完形	右	3	
		<i>Macra veneriformis</i>	シオフキ		ほぼ完形	左	1	
		<i>Macra veneriformis</i>	シオフキ		ほぼ完形	右	2	
		<i>Ruditapes philippinarum</i>	アサリ		ほぼ完形	左	2	
		<i>Ruditapes philippinarum</i>	アサリ		ほぼ完形	右	3	
		<i>Meretrix lasoria</i>	ハマグリ		ほぼ完形	左	2	
		<i>Meretrix lasoria</i>	ハマグリ		ほぼ完形	左	2	
		<i>Cyclina sinensis</i>	オキシジミ		破片	左	3	
		<i>Cyclina sinensis</i>	オキシジミ		破片	右	3	
		Bivalvia	斧足綱		破片		6	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	背甲骨板	肋骨板		1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	腹甲骨板	中腹甲骨板	左	2	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	腹甲骨板	中腹甲骨板	右	1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	腹甲骨板	下腹甲骨板	左	1	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	腹甲骨板	下腹甲骨板	右	2	
		<i>Polodiscus sinensis</i>	スッポン	背甲骨板/腹甲骨板	破片		11	
		<i>Cervus nippon</i>	ニホンシカ	脛骨	ほぼ完形	左	1	未融合
		<i>Cervus nippon</i>	ニホンシカ	中心足骨	ほぼ完形	左	1	未融合
		<i>Cervus nippon</i>	ニホンシカ	中足骨	ほぼ完形	左	1	未融合

同一個体

同定に至らない。ネズミ科はほぼ 1 体分の全身骨格 (第 513 図) と別個体の脛骨が同定された。イヌはほぼ 1 体分の全身骨格 (第 514 図) と別個体の肩甲骨及び脛骨が同定された。別個体としたイヌの肩甲骨には解体痕が観察され、また脛骨は近位端が未融合であり、いずれも全身骨格が残されたイヌと比べると保存状態が悪く、骨表面の劣化が見られる。

#### 2) 3 区 SK042 廃棄土坑 (第 112 図)

アワビ類、サザエ、コシダカガンガラ、ヤマトシジミ、サメ類、ハタ科、クロダイ属、マダイ、タイ科、ボラ科、スッポン、キジ科、ニホンジカが同定された。貝類はいずれもほぼ完形であり、人為的な破損は見られない。ハタ科、タイ科など魚類の鰓蓋骨や椎骨には解体痕が観察された。ニホンジカの鹿角は加工された骨角器の一部である (第 512 図 57)。

#### 3) 3 区 SX050 埋裏 (第 138 図)

サザエ、ツメタガイ、ヤマトシジミ、シオフキ、アサリ、ハマグリ、オキシジミ、マダイ、タイ科、スッポンが同定された。ヤマトシジミやハマグリなどの貝類が大半を占める。魚類はマダイなどの前上顎骨や椎骨が少量であり、スッポンは恥骨、大腿骨 1 点ずつが同定された。

#### 4) 3 区 S837 廃棄土坑

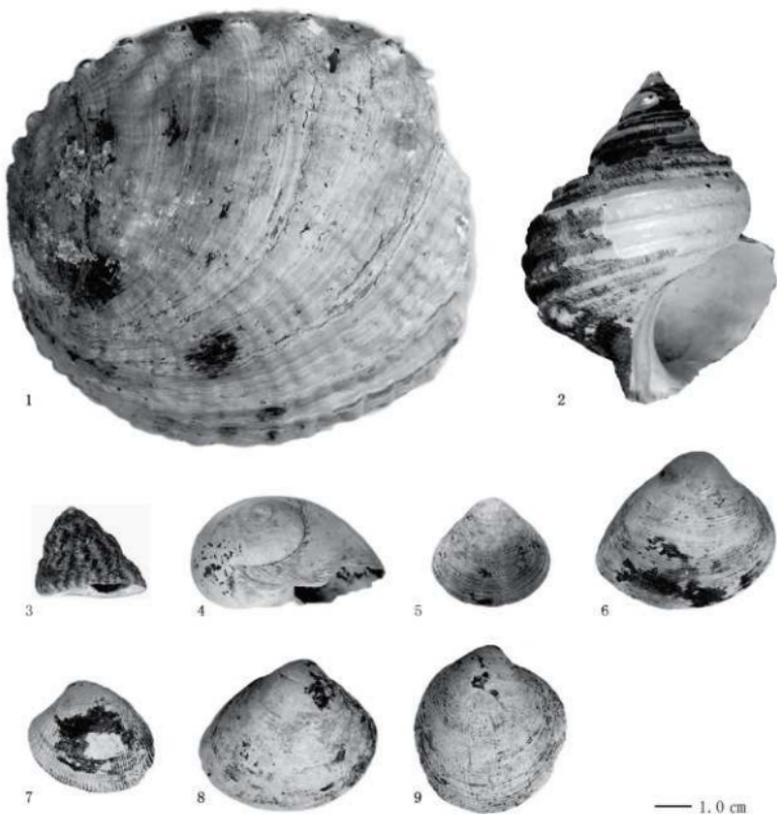
サザエ、ヤマトシジミ、シオフキ、アサリ、ハマグリ、オキシジミ、スッポン、ニホンジカが同定された。貝類はほぼ完形であり、人為的な破損は見られない。スッポンは背甲骨板、腹甲骨板が同定された。ニホンジカは脛骨、中心足根骨、中足骨の左後股が同定された。

### 4. 考察

貝類はアワビ類、サザエ、コシダカガンガラ、ツメタガイ、ヤマトシジミ、シオフキ、アサリ、ハマグリ、オキシジミが同定された。いずれの種類も食用となる。アワビ類、サザエ、コシダカガンガラ、ツメタガイは潮間帯から水深 15m 以上の岩礁地帯に生息する。アワビ類は素溜りの他にたも網を用いて漁獲され、サザエ、コシダカガンガラは刺網によって漁獲される。アサリ、ハマグリ、オキシジミ、シオフキは潮間帯下部から水深 20m の砂泥地に生息する。手掘りや小型底曳網などでアサリやハマグリは漁獲され、シオフキ、オキシジミがそれに伴って混獲される。なお、ツメタガイを食用とする地域は稀と言われるがアサリを食害するため、アサリと共に混獲される。一方で同定された貝類のなかでヤマトシジミのみが汽水域に生息する。ヤマトシジミは河川の河口など淡水と海水が入り混じる汽水域の砂礫底で見られ、干潟にも生息する。播刺漁などで漁獲される。

魚類はサメ類、ハタ科、タイ科、クロダイ属、マダイ、ボラ科が同定された。いずれの種類も食用となる。ハタ科、クロダイ属、マダイは沿岸に生息し、浅い岩礁などで見られ、ボラ科は沿岸から河口の淡水域に生育する。磯釣り、刺網などで漁獲され、外洋に生息するサメ類は刺網などで混獲されることがある。

陸生動物ではカエル類、スッポン、キジ科、ネズミ科、イヌ、ニホンジカが同定された。いずれの種類も食用となりうる。カエル類は湿潤な環境を好む。スッポンは河川の中・下流域や池、湖沼などの淡水域に生息し、江戸時代などは主に西日本で食べられていた。また古くは滋養強壮に効くとし高級なものであった。キジ科はニワトリなども含み、山地から平地の林、農耕地、河川敷などの明るい草地に生息している。ネズミ科は人間が収穫した後の穀物を食べる害獣とされ、河原の土手や湿地などの湿った土地に生息する。イヌは家畜であり、食用となる。ニホンジカは資源の豊かな山野に生育する動物で、食用となり、また骨や角が骨角器として利用される。解体痕は見られないが、鹿角製の骨角器が観察され、他に上腕骨、脛骨、中足骨などの比較的肉の少ない部位が見られた。出土した動物遺存体のほとんどは食用とした後に投棄したものが残存したもの、又は二次的に廃棄された可能性がある。2 区 SE075 井戸では魚類や一部のイヌは解体痕がみられる肩甲骨が確認され、食用にされたとわかる。骨の保存状態からも食用とされたイヌの骨は弱く、また別個体の可能性があるが関節部分が未融合の脛骨も見られたことから、若い個体と考えられる。しかし一方で同遺構からイヌの同一全身骨格が確認された。全身骨格が残存するイヌは腰に生まれつきの奇形が見られながらも成犬であることから、自然死するまで



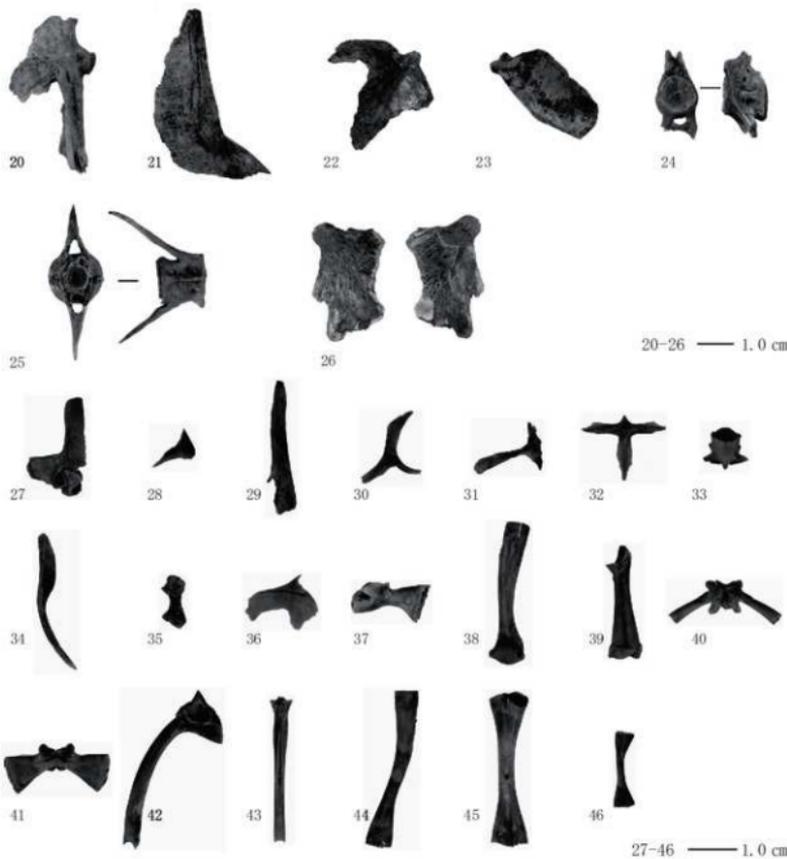
1 アワビ類	(3区 SK042 廃棄土坑)	6 シオブキ 右	(3区 SX050 埋燻)
2 サザエ	(3区 SK042 廃棄土坑)	7 アサリ 右	(3区 SX050 埋燻)
3 コシダカガンガラ	(3区 SK042 廃棄土坑)	8 ハマグリ 左	(3区 SX050 埋燻)
4 ツメタガイ	(3区 SX050 埋燻)	9 オキシジミ 左	(3区 SX050 埋燻)
5 ヤマトシジミ 右	(3区 SX050 埋燻)		

第 509 図 貝類写真



- |             |                 |              |                 |
|-------------|-----------------|--------------|-----------------|
| 1 サメ類椎骨     | (3区 SK042 廃棄土坑) | 11 マダイ主上顎骨 左 | (3区 SK042 廃棄土坑) |
| 2 ハタ科主上顎骨 左 | (3区 SK042 廃棄土坑) | 12 マダイ前上顎骨 左 | (3区 SK042 廃棄土坑) |
| 3 ハタ科歯骨 左   | (3区 SK042 廃棄土坑) | 13 マダイ歯骨 右   | (3区 SK042 廃棄土坑) |
| 4 ハタ科角骨 左   | (3区 SK042 廃棄土坑) | 14 タイ科歯骨 左   | (3区 SK042 廃棄土坑) |
| 5 ハタ科方骨 右   | (3区 SK042 廃棄土坑) | 15 タイ科角骨 右   | (3区 SK042 廃棄土坑) |
| 6 ハタ科前鰓蓋骨 右 | (3区 SK042 廃棄土坑) | 16 タイ科角舌骨 左  | (3区 SK042 廃棄土坑) |
| 7 ハタ科腹椎     | (3区 SK042 廃棄土坑) | 17 タイ科上舌骨 左  | (3区 SK042 廃棄土坑) |
| 8 ハタ科尾椎     | (3区 SK042 廃棄土坑) | 18 タイ科口蓋骨 左  | (3区 SK042 廃棄土坑) |
| 9 クロダイ属前上顎骨 | (3区 SK042 廃棄土坑) | 19 タイ科方骨 右   | (3区 SK042 廃棄土坑) |
| 10 マダイ前頭骨 左 | (3区 SK042 廃棄土坑) |              |                 |

第510図 動物遺存体写真I



- |               |                  |               |                |
|---------------|------------------|---------------|----------------|
| 20 タイ科舌顎骨 左   | (3 区 SK042 廃棄土坑) | 33 カエル類蝶節骨    | (2 区 SE075 井戸) |
| 21 タイ科前總蓋骨 右  | (3 区 SK042 廃棄土坑) | 34 カエル類角骨 左   | (2 区 SE075 井戸) |
| 22 タイ科主總蓋骨 右  | (3 区 SK042 廃棄土坑) | 35 カエル類鳥口骨 左  | (2 区 SE075 井戸) |
| 23 タイ科上擬鎖骨 左  | (3 区 SK042 廃棄土坑) | 36 カエル類上肩甲骨 左 | (2 区 SE075 井戸) |
| 24 タイ科腹椎      | (3 区 SK042 廃棄土坑) | 37 カエル類肩甲骨 左  | (2 区 SE075 井戸) |
| 25 タイ科尾椎      | (3 区 SK042 廃棄土坑) | 38 カエル類上腕骨 左  | (2 区 SE075 井戸) |
| 26 ボラ科主總蓋骨 右  | (3 区 SK042 廃棄土坑) | 39 カエル類橈尺骨 左  | (2 区 SE075 井戸) |
| 27 カエル類前頭頂骨 左 | (2 区 SE075 井戸)   | 40 カエル類椎骨     | (2 区 SE075 井戸) |
| 28 カエル類鼻骨 左   | (2 区 SE075 井戸)   | 41 カエル類仙骨     | (2 区 SE075 井戸) |
| 29 カエル類上顎骨 左  | (2 区 SE075 井戸)   | 42 カエル類腸骨 左   | (2 区 SE075 井戸) |
| 30 カエル類翼状骨 左  | (2 区 SE075 井戸)   | 43 カエル類尾骨     | (2 区 SE075 井戸) |
| 31 カエル類鱗状骨 左  | (2 区 SE075 井戸)   | 44 カエル類大腿骨 左  | (2 区 SE075 井戸) |
| 32 カエル類副蝶形骨   | (2 区 SE075 井戸)   | 45 カエル類脛腓骨 左  | (2 区 SE075 井戸) |
|               |                  | 46 カエル類踵骨 左   | (2 区 SE075 井戸) |

第 511 図 動物遺存体写真 II



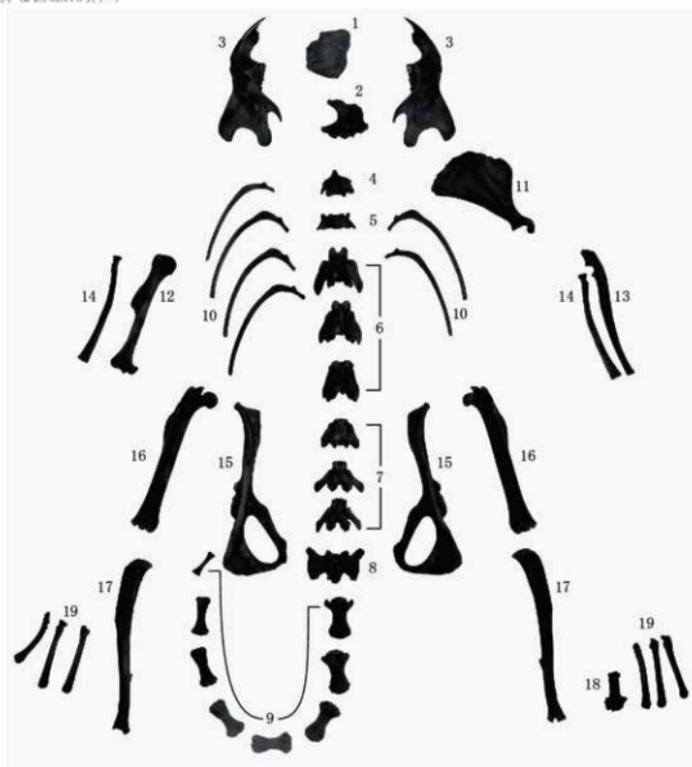
- 47 スッポン下顎骨  
48 スッポン背甲骨板頂骨板  
49 スッポン背甲骨板肋骨板  
50 スッポン腹甲骨板上腹骨板  
51 スッポン腹甲骨板剣上腹骨板 左  
52 スッポン上腕骨 右  
53 スッポン腕骨 右  
54 スッポン大腿骨 右

- (3区 SK042 廃棄土坑)  
(3区 SK042 廃棄土坑)

- 55 キジ科足根中足骨 左  
56 キジ科?大腿骨 左  
57 ニホンジカ鹿角 骨角器  
58 ニホンジカ上腕骨 右  
59 ニホンジカ脛骨 左  
60 ニホンジカ中心足根骨+中足骨 左  
61 イヌ肩甲骨 右

- (3区 SK042 廃棄土坑)  
(2区 SE075 井戸)  
(3区 SK042 廃棄土坑)  
(3区 SK042 廃棄土坑)  
(3区 SK837 廃棄土坑)  
(3区 SK837 廃棄土坑)  
(2区 SE075 井戸)

第 512 図 動物遺存体写真Ⅲ



— 1.0 cm

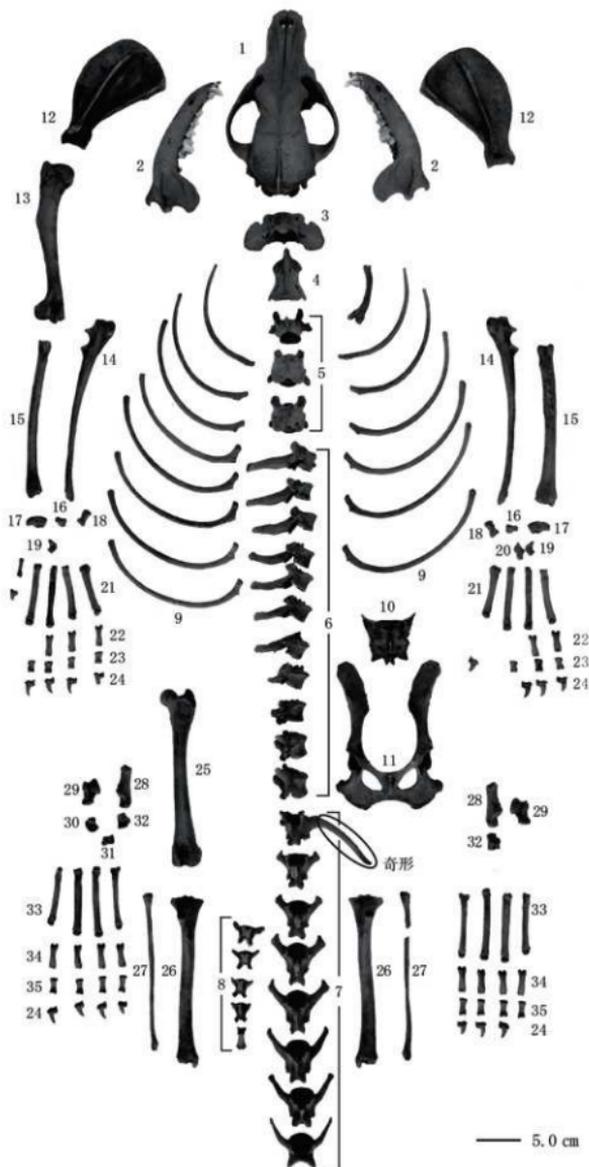
- 1 頭蓋骨
- 2 頭蓋骨 後頭顆
- 3 下顎骨
- 4 椎骨 軸椎
- 5 椎骨 頸椎
- 6 椎骨 胸椎
- 7 椎骨 腰椎
- 8 仙骨
- 9 椎骨 尾椎
- 10 肋骨 左右

- 11 肩甲骨 右
- 12 上胸骨 左
- 13 尺骨 右
- 14 橈骨 左右
- 15 寬骨 左右
- 16 大腿骨 左右
- 17 脛骨 左右
- 18 踵骨 右
- 19 中足骨 左右

第 513 圖 動物遺存体写真IV

イヌ (2区 SE075 井戸)

- 1 頭蓋骨
- 2 下顎骨 左右
- 3 椎骨 環椎
- 4 椎骨 軸椎
- 5 椎骨 頸椎
- 6 椎骨 胸椎
- 7 椎骨 腰椎
- 8 椎骨 尾椎
- 9 肋骨 左右
- 10 仙骨
- 11 寛骨
- 12 肩甲骨 左右
- 13 上腕骨 左
- 14 尺骨 左右
- 15 橈骨 左右
- 16 尺側手根骨 左右
- 17 中間橈側手根骨 左右
- 18 副手根骨 左右
- 19 第三手根骨 左右
- 20 第四手根骨 右
- 21 中手骨 左右
- 22 基節骨 (前肢) 左右
- 23 中節骨 (前肢) 左右
- 24 末節骨
- 25 大腿骨 左
- 26 脛骨 左右
- 27 腓骨 左右
- 28 踵骨 左右
- 29 距骨 左右
- 30 中心足根骨 左
- 31 第二足根骨 左
- 32 第四足根骨 左右
- 33 中足骨 左右
- 34 基節骨 (後肢) 左右
- 35 中節骨 (後肢) 左右



第 514 図 動物遺存体写真 V

飼育された可能性がある。なお、カエル類、ネズミ科は食用となる場合もあるが、2区 SE075 井戸から出土したカエル類は複数体見られたのが小型であり、ネズミ科は同一全身骨格が確認されたため、意図せず井戸に落ちたものと考えられる。食用とされたものは井戸が廃絶した後に投棄されたものであり、全身骨格が確認されたイヌは死亡した後投棄したものと考えられる。廃棄土坑、埋裏では貝類、魚類、スッポンが見られ食用として利用した後に投棄され残存したものと考えられる。

## V. 種実同定

### 1. 原理

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

### 2. 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴及び現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

### 3. 結果

#### (1) 分類群

樹木3、草本5の計8分類群が同定される。学名、和名及び粒数を第8表に示し、主要な分類群を写真(第515図)に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴、写真に示したもののサイズを記載する。

〔樹木〕

ゴヨウマツ・チョウセンゴヨウ *Pinus parviflora*-*Pinus koraiensis* 種子 マツ科

黒褐色で3角状倒卵形を呈し、翼がない。

マツ属複雑管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* 毬果・種子 マツ科

黒褐色で卵形を呈す。種鱗先端の外部に露出する部分は扁平五角形であり、その中央にはへそがある。

種子は倒卵形を呈し、やや扁平である。

モモ *Prunus persica* Batsch 核(完形・半形・破片) バラ科

黄褐色～黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

〔草本〕

イネ *Oryza sativa* L. 炭化果実(集塊) イネ科

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼみ、表面には数本の筋が走る。集塊である。

オオムギ *Hordeum vulgare* L. 炭化果実 イネ科

炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく、胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。

ムギ類(オオムギ・コムギ)*Hordeum-Triticum* 炭化果実 イネ科

オオムギもしくはコムギと思われるが、発泡しているためムギ類とした。

ウリ類 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

淡褐色～黄褐色で長楕円形を呈し、上端は「ハ」字状にくぼむ。

べニバナ *Carthamus tinctorius* 果実 キク科

淡褐色で倒卵形を呈し、背腹両面は狭倒卵形で両側面と背腹両面の正中線は稜はなす。着点は斜切形となる。

第 8 表 微細物(種実・微細物・トイレ遺構)同定結果表

学名	分類群	和名	部位	種実同定							トイレ遺構分析							
				2区	3区	11区	4区	1区	3区	SK030	SE075	SK042	SK250	SK045 井内	SK079	SK075	SK072	SK050
<i>Pinus purviflora</i> - <i>Pinus koraiensis</i> <i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	樹木	ゴヨウマツ・チョウセンゴヨウ マツ属複雑管束亜属	種子 胚葉 種子 核 (半形) (破片)	2	1													
<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ			5	4													
<i>Oryza sativa</i> L. <i>Hordium vulgare</i> L. <i>Hordium-Triticum</i> <i>Cucumis melo</i> L. <i>Carthamus tinctarius</i>	草本	イネ オオムギ ムギ類 ウリ類 ペニバナ	炭化果実(集塊) 炭化果実 炭化果実 種子 果実	1 1 1 4 2	1													
<i>Osteichthyes</i> Carangidae	硬骨魚綱 アジ科		細片 椎骨(尾椎)															
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i> <i>Bambusoideae</i>	炭化材 マツ属複雑管束亜属 タケ亜科			9	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Total	合計			(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
備考	炭化材 生材 昆虫 貝類 水溶性別炭		細片 細片 細片 細片 (cc)															

(2) 種実群集の特徴

1) 2区

- SK030(第 33 図)

樹木種実のモモ核 5、半形 4 が同定された。

- SE075(第 79 図)

樹木種実のゴヨウマツ・チョウセンゴヨウ種子 2、マツ属複雑管束亜属種子 1、草本のオオムギ炭化果実 1、ムギ類炭化果実 1、ウリ類種子 4、ペニバナ果実 2 が同定された。

2) 3区

- SK042(第 112 図)

樹木種実のモモ核破片 1 が同定された。

- SK250(第 104 図)

草本種実のイネ炭化果実集塊 1 が同定された。

- SE465 井内(第 168 図)

樹木種実のマツ属複雑管束亜属種実 1 が同定された。

4. 種実同定から推定される  
植生と農耕

栽培植物のモモ(SK030、SK042)、イネ集塊(SK250)、オオムギ、ムギ類、ウリ類(SE075)は食用である。この他にも食用になる有用植物のゴヨウマツ・チョウセンゴヨウの種子、マツ属複雑管束亜属の種子、ペニバナがある。なお、出土個体数が少ないため一概には言えないがゴヨウマツ・チョウセンゴヨウの種子とペニバナは薬用にもなる。ゴヨウマツ・チョウセンゴヨウは海外から持ち込まれた可能性がある。

VI. 微細物同定

1. 原理

種実や木材は炭化しても、比較的よく構造が保存されるため同定することができる。種子や果実の特徴



第515図 種実写真

としては種まで同定できるものが多く、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。木材は概ね属レベルの同定が可能であり、微小遺体と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生やその利用を検討することができる。骨は部位や破片によるが、動物種を特定でき、その利用を調べることができる。試料は一覧表(第3表)に示す。

## 2. 方法

試料(堆積物)に以下の物理処理を施して、抽出及び同定を行う。

- 1) 試料 400 cm<sup>3</sup>に水を加え放置し、泥化
- 2) 攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25 mmの篩で水洗選別
- 3) 検出された種実 は 双 眼 実 体 顕 微 鏡 下 で 観 察 し て 同 定 し、同 定 可 能 な 比 較 的 大 き な 炭 化 材 片 ( 約 1.5 cm 程 度 ) は 割 り 折 り し て 新 鮮 な 横 断 面 ( 木 口 と 同 義 )、放 射 断 面 ( 柁 目 と 同 義 )、接 線 断 面 ( 板 目 と 同 義 ) の 基 本 三 断 面 を だ し、落 射 顕 微 鏡 に よ っ て 50 ~ 1000 倍 で 観 察 し 同 定 し た。い ず れ も 計 数 を 行 っ た。結 果 は 同 定 レ ベ ル に よ っ て 科、属、種 の 階 級 な ど 分 類
- 4) 1 区 SX079 土 間 に つ い て は 通 常 の 水 洗 選 別 を 行 う と と も に、試 料 が 固 結 し て お り、間 に 貝 類 の 細 片 が 観 察 可 能 な た め、蛍 光 X 線 分 析 も 行 っ た。な お、蛍 光 X 線 分 析 は エ ネ ル ギ ー 分 散 型 蛍 光 X 線 分 析 装 置 を 用 い て 測 定 を 行 う。機 器 は OLYMPUS 製 ハ ン ド ヘ ル ド 蛍 光 X 線 分 析 装 置 DELTA DP-2000 Premium を 使 用 し た。測 定 条 件 は 励 起 用 X 線 タ ー ゲ ッ ト が Rh、管 電 圧 及 び 管 電 流 は Soil モ ー ド で ビ ーム 1 が 40keV 及 び 60 μA、ビ ーム 2 が 40keV 及 び 40 μA、ビ ーム 3 が 15keV 及 び 25 μA(軽 元 素 測 定 時 は 15keV)、Mining plus モ ー ド の ビ ーム 1 が 40keV 及 び 100 μA、ビ ーム 2 が 10keV 及 び 200 μA だ る。装 置 の 測 定 部 径 は 9 mm、計 測 時 間 は Soil モ ー ド が 90 秒、Mining plus モ ー ド が 60 秒 で、大 気 雰 囲 気 下 で 測 定 し た。原 子 番 号 12 番 の Mg(マ グ ネ シ ウ ム) 以 上 の 元 素 の 検 出 が 可 能 だ る

## 3. 結果

### (1) 微生物

分析の結果、4区 SK075 からマツ属複雑管束亜属とタケ亜科の樹木2分類群(炭化)が検出された。

学名、和名及び粒数を第8表に示し、主要な分類群を写真に示す。樹種同定で記載した分類群と同一のため、同定根拠となる形態的特徴の記載、写真を省く。

### (2) 蛍光X線分析

1区 SX079 土間(試料)について、分析の測定箇所及び結果を第516図に示す。

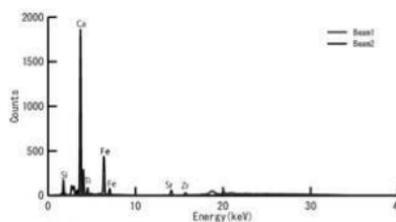
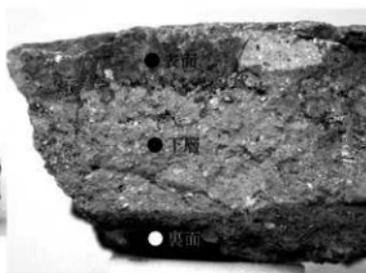
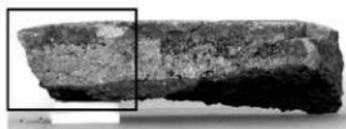
試料は2層構造であり、表面、下層とともに参考試料として裏面の3カ所で分析を行った。

表面、下層では共にカルシウム(Ca)、鉄(Fe)のピークとともに、ケイ素(Si)、チタン(Ti)、ストロンチウム(Sr)、ジルコニウム(Zr)が検出された。裏面ではカルシウム(Ca)、鉄(Fe)のピークとともにケイ素(Si)、チタン(Ti)、ストロンチウム(Sr)、ジルコニウム(Zr)が検出された。これらはいずれも土の成分であるが、Mining plus モードでは、裏面は、表面、下層に比べると計数値が低く、カルシウム(Ca)の検出量も比較的低く、Soil モードでも裏面のカルシウム(Ca)は低い。

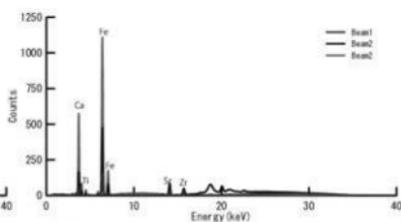
## 4. 考察

4区 SK075 より 樹 種 の マ ツ 属 複 雑 管 束 亜 属、タ ケ 亜 科 が 同 定 さ れ た。ま た 蛍 光 X 線 分 析 の 結 果 か ら 1 区 SX079 土 間 は 土 の 成 分 か ら な る が、裏 面 が 地 の デ ー タ に 近 い と 考 え る と 表 面、下 層 は カ ル シ ウ ム (Ca) を 多 く 含 む 2 層 の 構 造 を し て い る。ま た、裏 面 に 比 べ る と 計 数 値 が 高 い こ と か ら、表 面、下 層 は 裏 面 よ り も 密 度 が 高 い た め に ピ ー ク の 強 度 が 高 くな っ た と 考 え ら れ る。こ れ は 土 間 を 作 る 際 に 貝 殻 な ど を 土 壌 に 混 ぜ た 土 を 敷 き 突 き 固 め た (た た き あ げ) こ と か ら カ ル シ ウ ム (Ca) が 高 く な り ま た 密 度 が 高 く な っ た と 考 え ら れ る。下 層 の ほ う が カ ル シ ウ ム

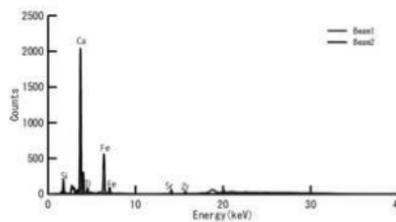
測定箇所



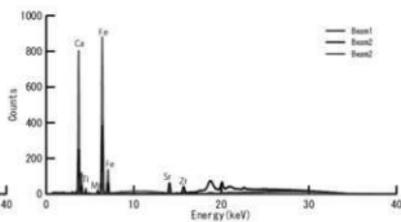
1 表面 Mining plus



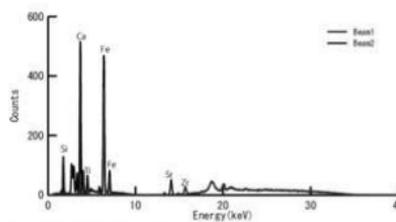
2 表面 Soil



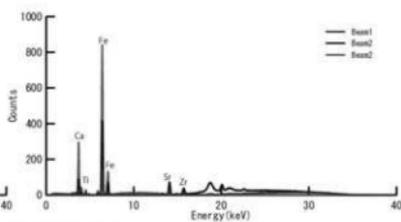
3 下層 Mining plus



4 下層 Soil



5 裏面 Mining plus



6 裏面 Soil

第 516 圖 X線分析結果

(Ca)の検出量が高いが、肉眼観察でも下層の土壌のほうが白色の物質が多く見られ、土の色も明るく、含まれるカルシウム (Ca) が多いと考えられる。以上のことから、固結しているのは漆喰状になっているとみなされる。

## Ⅶ. トイレ遺構分析

### 1. 原理

トイレ遺構等の糞便の堆積物は、寄生虫卵密度、花粉群集組成、種実群集組成において特異性を示す。これらの特徴から他の堆積物と区別することができ、便所遺構を識別することができる。また、その遺体群集から今まで以上に食べた食物を直接的に探ることができる。

### 2. 寄生虫卵分析

#### (1) 原理

人、動物などに寄生する寄生虫の卵殻は堆積物中に残存しやすい。人が密度高く居住すると周囲の寄生虫卵の汚染度が高くなる。また、便所遺構等の糞便の堆積物では寄生虫卵密度が高く、他の堆積物と識別することができ便所遺構を確認することも可能である。さらに、寄生虫の特有の生活史や感染経路から食物を探ることもできる。

#### (2) 方法

微化石分析法を基本に以下のように行った。

- 1) 試料から 1 cm を採量
  - 2) 0.5%リン酸三ナトリウム (12 水) 溶液を加え 15 分間湯煎
  - 3) 篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈澱法を施す
  - 4) 25%フッ化水素酸を加え 30 分静置 (2・3 度混和)
  - 5) 水洗後サンプルを 2 分
  - 6) 2 分したサンプルの一方にアセトリシス処理を施す
  - 7) 両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製
  - 8) 検鏡はプレバート作製後直ちに、生物顕微鏡 (Nikon ECLIPSE C) によって 300 ~ 1000 倍で行った
- 以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2 分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を 3 回繰り返して行った。

#### (3) 結果

出現した寄生虫卵は、1 分類群であった。これらの学名と和名及び粒数を第 9 表に示し、1 cm 中の寄生虫卵数を第 517 図に示す。出現した分類群は顕微鏡写真 (第 518 図) に示す。以下に出現した寄生虫卵の特徴を示す。

#### ・回虫 *Ascaris lumbricoides*

回虫は、世界に広く分布し、現在でも温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられ、卵には受精卵と不受精卵がある。遺跡の堆積物の分析では、堆積年数や薬品処理のため、受精卵と不受精卵の区別は不明瞭である。比較的大きな虫卵で、およそ 80 × 60 μm あり楕円形で外側に蛋白質膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18 日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。ここで検出された回虫卵は、分解が進み縁辺が不明瞭で卵殻の蛋白質膜が薄く、不受精卵の確認はできなかった。

#### 1) 1 区 SX072

寄生虫卵及び明らかな消化残渣は検出されない。

#### 2) 3 区 SX050、3 区 SX380、3 区 SX425

3 区 SX050、3 区 SX425 から回虫卵がそれぞれ 1 cm 中 3.9 × 10 個、2.0 × 10 個検出される。明らかな消化残渣は検出されない。

第9表 寄生虫卵・花粉分析結果表

分類群		1区	3区	
学名	和名	SX072	SX050	SX380 SX425
Parasite eggs	寄生虫卵			
<i>Ascaris(lumbricoides)</i>	回虫卵		11	5
Total	計	0	11	0 5
Parasite eggs frequencies of 1cm <sup>3</sup>	試料1cm <sup>3</sup> 中の寄生虫卵密度		3.9 ×10	2.0 ×10
Stone cell	石細胞	(-)	(-)	(-)
Digestion remains	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)
Arboreal pollen	樹木花粉			
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属			2
<i>Castanea crenata</i>	クリ		1	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属			1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉			
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科		1	2
Nonarboreal pollen	草本花粉			
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属			1
Gramineae	イネ科	2		10
<i>Oryza type</i>	イネ属型			2
Cyperaceae	カヤツリグサ科			1
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属			1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科			3
Cruciferae	アブラナ科	2	24	1 86
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属		2	
Arboreal pollen	樹木花粉	0	1	1 2
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	1	0 2
Nonarboreal pollen	草本花粉	4	26	1 104
Total pollen	花粉総数	4	28	2 108
Pollen frequencies of 1cm <sup>3</sup>	試料1cm <sup>3</sup> 中の花粉密度	0.2 ×10 <sup>2</sup>	1.0 ×10 <sup>2</sup>	0.8 ×10 4.4 ×10 <sup>2</sup>
Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0 3
Fern spore	シダ植物胞子			
Monolate type spore	単条溝胞子	1		2
Trilate type spore	三条溝胞子			1
Total Fern spore	シダ植物胞子総数	1	0	0 3
Charcoal・woods fragments	微細炭化物・微細木片	(+)	((+)	((+) ((+)
微細植物遺体(Charcoal・woods fragments)	(×10 <sup>3</sup> )			
未分解遺体片		0.4		
分解質遺体片		21.3	2.6	2.9 1.3
炭化遺体片(微粒炭)				

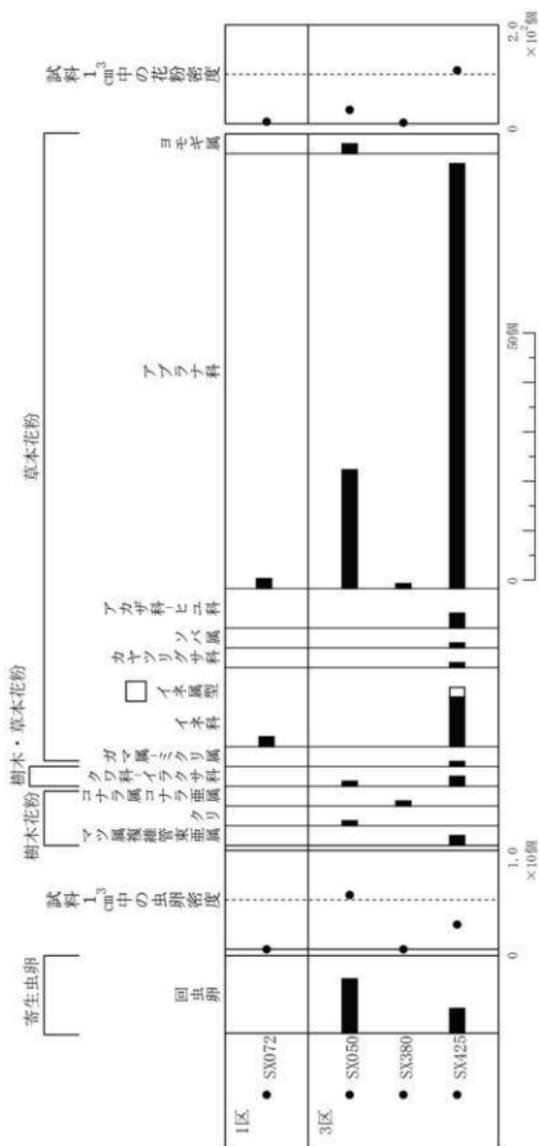
## (4) 寄生虫分析から推定される環境

検出された回虫卵は、中間宿主を必要とせず、汚染された生水、生野菜、不完全な調理により感染し、ある程度の人口の集中により蔓延する。試料は土坑であり、便槽、ゴミ穴などが考えられるが、寄生虫卵の密度は生活汚染程度である。

## 3. 花粉分析

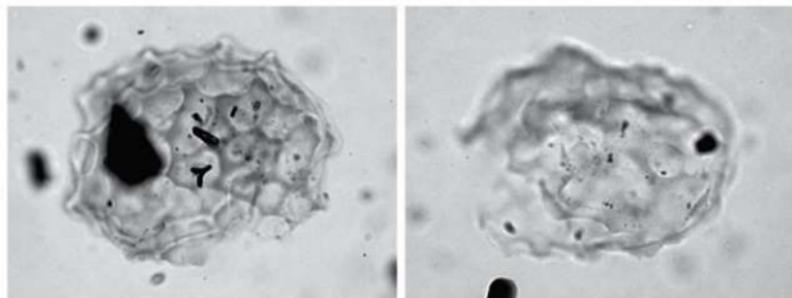
## (1) 原理

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。また、風媒花や虫媒花などの散布能力などの差で、狭い範囲の植生に由来する結果が得られるなど、陸域の堆積物が分析に適さないわけではない。



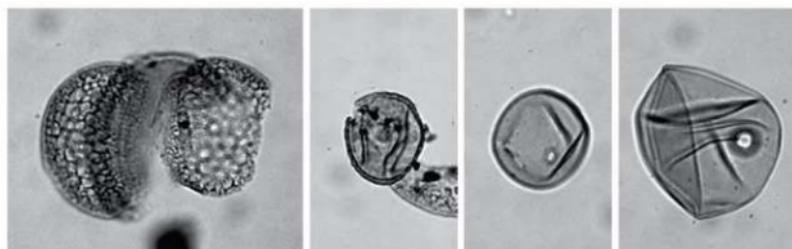
第 517 図 寄生虫卵・花粉タイアグラム

※O内は、檢出箇所



1 回虫卵 (3[KSX050])

2 回虫卵 (3[KSX425])

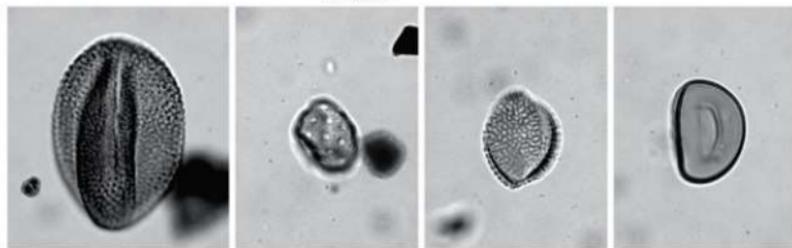


3 マツ属複維管束亜属 (3[KSX425])

4 コナラ属コナラ亜属 (3[KSX380])

5 イネ科 (3[KSX425])

6 イネ属型 (3[KSX425])



7 ソバ属 (3[KSX425])

8 アカザ科-ヒユ科 (3[KSX425])

9 アブラナ科 (3[KSX425])

10 シダ植物単条溝孢子 (3[KSX425])

— 10 μm

## (2) 方法

寄生虫卵分析で2分しアセトリシス処理を施した沈渣にチール石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製、検鏡・計数をおこなう。

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行う。花粉の同定は、鳥倉(1973)及び中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行う。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節及び種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(—)で結んで示す。イネ属については、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。また、この処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

## (3) 結果

### 1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉3、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉8、シダ植物胎子2形態の計14である。これらの学名と和名及び粒数を第9表に示し、密度が低いため計数値の花粉ダイアグラムを第517図に示す。主要な分類群は顕微鏡写真(第518図)に示した。以下に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

マツ属複雑管束亜属、クリ、コナラ属コナラ亜属

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科—イラクサ科

[草本花粉]

ガマ属—ミクリ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ソバ属、アカザ科—ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属

[シダ植物胎子]

単条溝胎子、三条溝胎子

### 2) 花粉群集の特徴

それぞれの地点において、花粉構成と花粉組成の特徴を記載する。

#### ① 1区 SX072

花粉密度は極めて低く、イネ科、アブラナ科が極わずかに検出される。

#### ② 3区 SX050、3区 SX380、3区 SX425

いずれの試料も密度は極めて低く、樹木花粉はほとんど検出されず、わずかにマツ属複雑管束亜属、コナラ属コナラ亜属が出現する。草本花粉は、3区 SX050 では、アブラナ科がやや多く、3区 SX380 ではほとんど検出されず、SX425 では、アブラナ科が多く、次いでイネ科がやや多い。他にアカザ科—ヒユ科、イネ属型、ソバ属が検出される。

#### (4) 花粉分析から推定される環境

1区 SX072、3区 SX050、3区 SX380、3区 SX425 のいずれの試料も密度が極めて低く、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す堆積環境であったか、堆積速度が速く花粉が集積できなかったと考えられる。樹木花粉はほとんど検出されず、わずかながら出現した草本花粉はアブラナ科、イネ属型、アカザ科—ヒユ科、ソバ属など食用になる種が多く含まれる。これは、周辺の植生を反映したのではなく、埋糞の性格を示していると考えられる。

## 4. 珪藻分析

### (1) はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古

環境復原の指標として利用されている。ここでは、寄生虫卵分析、花粉分析の結果から、土坑の性格についてより多くの情報を得るため、珪藻分析を追加する。

## (2) 方法

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

- 1) 試料から 1 cm を採量
- 2) 10% 過酸化水素水を加え、加温反応させながら 1 晩放置
- 3) 上澄みを捨て、細粒のコロイドを水洗 (5 ~ 6 回)
- 4) 残渣をマイクロピペットでカバーガラスに滴下して乾燥
- 5) マウントメディアによって封入し、プレパラート作製
- 6) 検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 600 ~ 1500 倍で行った。計数は珪藻被殻が 200 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

## (3) 結果

### 1) 分類群

試料から出現した珪藻は、真塩性種 (海水生種) 1 分類群、真・中塩性種 (海・汽水生種) 5 分類群、中塩性種 (汽水生種) 5 分類群、中・貧塩性種 (汽・淡水生種) 5 分類群、貧塩性種 (淡水生種) 74 分類群である。破片の計数は基本的に中心域を有するものと、中心域がない種については両端 2 個につき 1 個と数えた。分析結果を第 10 表に示し、珪藻総数を基数とする百分率を算定した珪藻ダイアグラムを第 519 図に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性は Lowe (1974) の記載により、陸生珪藻は小杉 (1986) により、環境指標種群は海水生種から汽水生種は小杉 (1988) により、淡水生種は安藤 (1990) による。また、主要な分類群は顕微鏡写真 (第 520 図) に示した。以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記載する。

### 〔貧塩性種〕

*Achnanthes lanocolata*, *Achnanthes minutissima*, *Amphora montana*, *Amphora veneta*, *Aulacoseira alpigena-distans*, *Caloneis bacillum*, *Cocconeis placentula*, *Cyclotella bodanica-radiosa*, *Cymbella norvegica*, *Fragilaria construens v. venter*, *Fragilaria exigua*, *Hantzschia amphioxys*, *Navicula confervacea*, *Navicula contenta*, *Navicula gallica*, *Navicula kotschyi*, *Navicula mutica*, *Navicula veneta*, *Navicula spp.*, *Nitzschia amphibia*, *Nitzschia clausii*, *Nitzschia debilis*, *Nitzschia nana*, *Nitzschia palea*, *Nitzschia spp.*, *Pinnularia appendiculata*, *Pinnularia borealis*, *Pinnularia lagerstedtii*, *Pinnularia obscura*, *Pinnularia subcapitata*, *Pinnularia schoenfelderi*

### 2) 珪藻群集の特徴

それぞれの地点において、珪藻構成と珪藻組成の特徴を記載する。

#### ① 1 区 SX072

ほぼ貧塩性種 (淡水生種) で占められ、中塩性種 (汽水生種)、中・貧塩性種 (汽・淡水生種) がわずかに検出される。貧塩性種 (淡水生種) の陸生珪藻が 46%、真・好止水性種が 23%、流水不定性種が 18% を占める。陸生珪藻では、*Navicula mutica* を主に *Navicula contenta*, *Achnanthes minutissima*, *Amphora montana*, *Hantzschia amphioxys* の出現率がやや高い。真・好止水性種では、好止水性種の *Cymbella norvegica* がやや多く、*Fragilaria exigua*, *Cyclotella bodanica-radiosa* が出現する。

#### ② 3 区 SX050, 3 区 SX380, 3 区 SX425

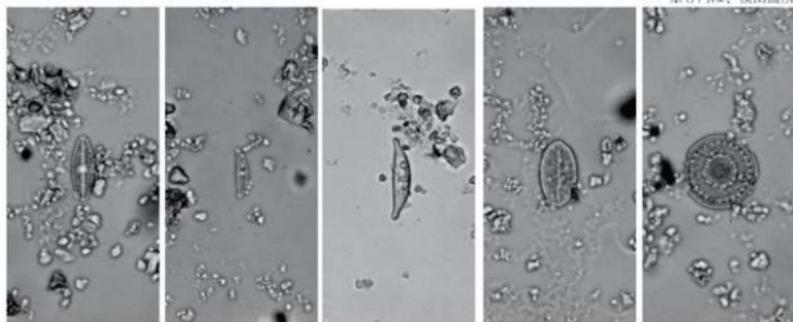
試料はいずれも珪藻構成と珪藻組成において類似した出現傾向を示す。陸生珪藻が 70% 以上を占め、次いで流水不定性種、真・好止水性種が占める。わずかに真塩性種 (海水生種)、真・中塩性種 (海・汽水生種)、中塩性種 (汽水生種)、中・貧塩性種 (汽・淡水生種) も出現する。陸生珪藻では、*Navicula mutica*, *Amphora montana*, *Navicula contenta*, *Achnanthes minutissima*, *Hantzschia amphioxys* の出現率が高い。流水不定性種では、*Navicula veneta*, *Nitzschia palea*, *Nitzschia spp.* が低率に出現する。真・好止水性種では、好止水性種の *Cyclotella*

第 10 表 硅藻分析結果表

分類群	1区		3区		分類群	1区		3区	
	SX072	SX050	SX380	SX425		SX072	SX050	SX380	SX425
貧塩性種 (淡水生種)					中-貧塩性種 (汽水-淡水生種)				
<i>Achnanthes crotolata</i>		1			<i>Diploneis interrupta</i>	3			
<i>Achnanthes hungarica</i>	1	1			<i>Navicula cincta</i>				1
<i>Achnanthes lanceolata</i>	3		6	4	<i>Nitzschia levidensis</i>	1			
<i>Achnanthes minutissima</i>	24	14	76	23	<i>Rhopalodia gibberula</i>		1		
<i>Amphora copulata</i>				1	<i>Rhopalodia murcubus</i>				3
<i>Amphora montana</i>	23	66	72	31	中塩性種 (汽水生種)				
<i>Amphora veneta</i>	4	3	2		<i>Melosira sp. n.</i>				3
<i>Aulacoseira alpigena-distans</i>	2	1	1	3	<i>Nitzschia constricta</i>	1			
<i>Aulacoseira ambigua</i>		2			<i>Nitzschia foxtitilis</i>	1			
<i>Aulacoseira mazzanensis</i>		1	1		<i>Nitzschia littoralis</i>	1			
<i>Caloneis bacillum</i>	6	1	1	1	<i>Nitzschia lorenciana</i>	1			
<i>Cocconeis disculus</i>				1	中-中塩性種 (海水-汽水生種)				
<i>Cocconeis placentula</i>	2	4	3	3	<i>Achnanthes delicatula</i>				2
<i>Cyclotella bodanica-radiosa</i>	11	14	10	16	<i>Amphora coffeiformis</i>				1
<i>Cymbella norvegica</i>	37				<i>Diploneis suborbicularis</i>				2
<i>Cymbella silesiaca</i>	1	1			<i>Nitzschia cocconeiformis</i>		1		
<i>Cymbella targuihala</i>	1			1	<i>Nitzschia granulata</i>			1	5
<i>Diploneis pseudovalvis</i>		2		2	乳塩性種 (海水生種)				
<i>Diploneis spp.</i>		1			<i>Cocconeidiscus sp.</i>				1.0
<i>Epithemia adnata</i>			1		合 計	317	316	360	345
<i>Epithemia norve</i>				1	未固定	8	8	7	10
<i>Eumotis paludosa-rhomboides</i>				1	破片	127	167	168	235
<i>Fragilaria brevistriata</i>				1	試料 1 cm <sup>3</sup> 中の殻数密度	5.4	1.9	4.2	1.7
<i>Fragilaria construens v. venter</i>	5				×10.5	×10.5	×10.5	×10.5	
<i>Fragilaria exigua</i>	13	1			定率残存率 (%)	71.9	66.0	68.6	60.2
<i>Fragilaria parviflora</i>	1								
<i>Fragilaria pinata</i>		1		1					
<i>Fragilaria spp.</i>		2							
<i>Gomphonema gracile</i>		1		1					
<i>Gomphonema minutum</i>		1							
<i>Gomphonema parvulum</i>			1	2					
<i>Gomphonema pusillum</i>			1						
<i>Gomphonema spp.</i>	1								
<i>Gyrodinium spp.</i>	3								
<i>Hantzschia amphioxys</i>	14	42	17	19					
<i>Navicula cocconeiformis</i>			3						
<i>Navicula confervacea</i>	2	1	1	26					
<i>Navicula contenta</i>	32	44	37	38					
<i>Navicula cryptotenella</i>	2	1							
<i>Navicula exupidiata</i>				1					
<i>Navicula signensis</i>	1			2					
<i>Navicula gallica</i>	3	1	2	1					
<i>Navicula gosportiana</i>		1							
<i>Navicula ignota</i>		1		1					
<i>Navicula kotickyi</i>	4	4		2					
<i>Navicula mutica</i>	62	55	44	58					
<i>Navicula mutica v. ventricosa</i>		2	2						
<i>Navicula pseudoacceptata</i>		3	1						
<i>Navicula pupula</i>		1		3					
<i>Navicula veneta</i>	4		14	7					
<i>Navicula spp.</i>	3	3	2	6					
<i>Navidium alpinum</i>		1	1						
<i>Nitzschia amphibia</i>	1	7	4	6					
<i>Nitzschia clavii</i>	5		1	2					
<i>Nitzschia debilis</i>	3	1	2	1					
<i>Nitzschia nana</i>	4	2	3	1					
<i>Nitzschia obtusa</i>	3								
<i>Nitzschia polea</i>	6	13	10	6					
<i>Nitzschia umbonata</i>		1							
<i>Nitzschia spp.</i>	10	3	20	6					
<i>Pinnularia acrosphaeria</i>				1					
<i>Pinnularia aestuarii</i>				1					
<i>Pinnularia appendiculata</i>	1	1	2	5					
<i>Pinnularia borealis</i>	2	3	3	6					
<i>Pinnularia hemisphaera</i>				1					
<i>Pinnularia interrupta</i>				1					
<i>Pinnularia lagerstedtii</i>	2	3	1	3					
<i>Pinnularia nodosa</i>				1					
<i>Pinnularia obscura</i>	1	2	3	5					
<i>Pinnularia schoenfelderi</i>	3	11	7	16					
<i>Pinnularia subcapitata</i>	1	1		6					
<i>Rhopalodia gibba</i>	1								
<i>Siraonites phenicenteron</i>				1					
<i>Suirella angusta</i>		1	1	1					



※○内は、檢出箇所



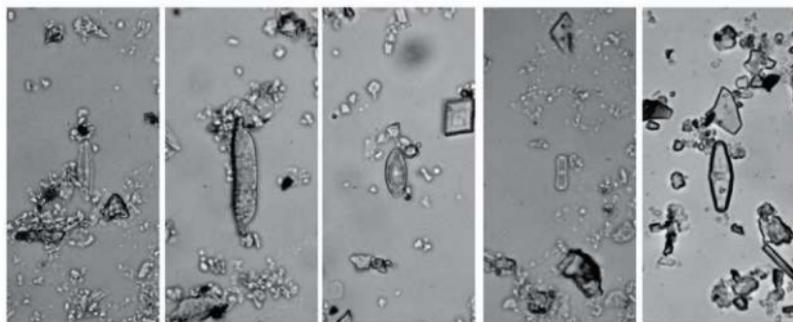
1 *Achnanthes lanceolata* (3[KSX425])

2 *Amphora montana* (3[KSX050])

3 *Amphora veneta* (1[KSX072])

4 *Cocconeis placentula* (1[KSX072])

5 *Cyclotella bodanica-radiosa* (1[KSX072])



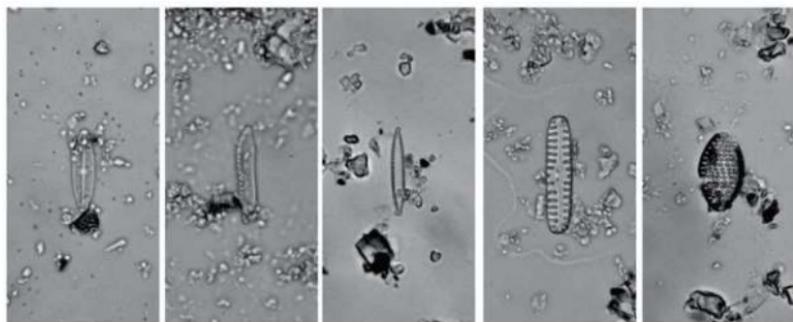
6 *Cymbella norvegica* (1[KSX072])

7 *Hantzschia amphioxys* (1[KSX072])

8 *Navicula confervacea* (3[KSX425])

9 *Navicula contenta* (1[KSX072])

10 *Navicula mutica* (3[KSX050])



11 *Navicula veneta* (1[KSX072])

12 *Nitzschia clausii* (1[KSX072])

13 *Nitzschia palea* (1[KSX072])

14 *Pinnularia borealis* (1[KSX072])

15 *Nitzschia granulata* (1[KSX072])

— 10 μ m

第 520 图 珪藻類显微镜写真

*bodanica-radiosa* が出現する。

(4) 珪藻分析から推定される堆積環境

珪藻構成と珪藻組成の特徴から堆積環境の復原を行う。

1) 1区 SX072

*Navicula mutica* を主とする陸生珪藻が優占し、真・好止水性種、流水不定性種が出現し、湿った土壌の環境が主要でやや安定した浅い止水域が伴われる。

2) 3区 SX050、3区 SX380、3区 SX425

*Navicula mutica*, *Amphora montana*, *Navicula contenta*, *Achnanthes minutissima*, *Hantzschia amphioxys* の陸生珪藻で占められ、湿った土壌の環境が主要でわずかに曖昧な止水域が伴われる。

以上のことから、これらの埋裏は乾燥した堆積環境ではなくわずかに濡れし湿った堆積環境であったと推定される。

## 5. 種実同定

(1) 原理

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

(2) 方法

試料(堆積物)に以下の物理処理を施して、抽出及び同定を行う。

1) 試料 200 ml に水を加え放置し、泥化

2) 攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25 mm の篩で水洗選別

3) 残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数

同定は形態的特徴及び現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

(3) 結果

1) 1区 SX072(第 36 回)

検出されなかった。

2) 3区 SX050(第 138 回)

アジ科の椎骨(尾椎) 1 個、硬骨魚網細片(+) が検出された。

3) 3区 SX380(第 212 回)

検出されなかった。

4) 3区 SX425(第 213 回)

硬骨魚網細片(+) が検出された。

(4) 種実同定から推定される堆積環境

種実は検出されず、種実が分解される乾燥した環境であったとみなされる。また、3区 SK050、3区 SK425 で検出された硬骨魚綱(アジ科椎骨など)は、廃棄や糞便の混入など埋裏の性格を示すと考えられる。

## 6. 考察

(1) トイレ遺構である可能性について

分析の結果、3区 SX050、3区 SX425 においては、寄生虫卵密度は生活汚染程度ではあるが、回虫卵が検出され、併せて硬骨魚綱(アジ科椎骨など)、食用となるアブラナ科の花粉が優勢に出現することから、糞便の混入ないし堆積が考えられる。埋裏は、浚えて繰り返し使用できることから、花粉、寄生虫卵などの微遺体密度が低い可能性があり、寄生虫卵密度は低いもの3区 SX050、3区 SX425 はトイレ遺構である蓋然性が高い。また、

寄生虫卵が検出されなかった1区SX072、3区SX380については、前述のように微遺体密度が低い可能性があり、トイレ遺構の否定は出来ない。

以上から、埋蔵1区SX072、3区SX050、3区SX380、3区SX425についてトイレ遺構分析を実施した結果、3区SX050、3区SX425はトイレ遺構の可能性が示唆され、イネ、ソバ、アブラナ、また魚類(アジ科)を摂食していたと考えられる。

#### (2) 周囲の堆積環境

花粉分析の結果、周辺の植生を反映する樹木花粉が少なく、マツ属複雑管束亜属やクリ、コナラ属コナラ亜属の比較的乾燥を好む樹木が生育していたと考えられる。

### VIII. まとめ

(1) 府内城・城下町跡第29次の木製品は、同定の結果、マツ属複雑管束亜属5点、スギ2点、ヒノキ1点、クリ1点、ムクノキ1点、トネリコ属1点、針葉樹1点、タケ亜科1点であった。いずれも建築部材及び木製品として適材を用いている。クリの下駄材は古代から中世までみられる選材である。縄は珍しいが針葉樹の樹皮が用いられていた。

(2) 動物遺存体の多くは食用になった残滓であり、貝類はアワビ類、サザエ、コシダカガンガラ、ツメタガイ、ヤマトシジミ、シオフキ、アサリ、ハマグリ、オキシジミ、魚類はサメ類、ハタ科、タイ科、クロダイ属、マダイ、ボラ科、陸生動物ではカエル類、スッポン、キジ科、ネズミ科、イヌ、ニホンジカが出土している。イヌでSE075 井戸から出土したものには解体痕がみられる部位やネズミ科やイヌの同一全身骨格が確認され、またカエル類も含め井戸内で死亡したか投棄されたと考えられる。

(3) 種実では、栽培植物のモモ(3区SK030、3区SK042)、イネ集塊(3区SK250)、オオムギ、ムギ類、ウリ類(2区SE075)、ゴヨウマツ・チョウセンゴヨウの種子、マツ属複雑管束亜属の種子、ペニバナ果実が同定された。ほとんどは食用となる。ゴヨウマツ・チョウセンゴヨウの種子及びペニバナは薬用でもある。なお、ゴヨウマツ・チョウセンゴヨウは海外からもたらされた可能性がある。

(4) 微生物分析からは、4区SK075炭化材として、マツ属複雑管束亜属、タケ亜科が同定された。1区SX079土間試料では蛍光X線分析を行い、その下層はカルシウム(Ca)を多く含み、貝殻など粉砕し混ぜて突き固めたと考えられ、また固結しており漆喰状でもある。

(5) トイレ遺構の総合分析を行ったが、3区SK050、3区SK425はトイレ遺構の可能性が示唆され、イネ、ソバ、アブラナ、魚類(アジ科)の食用となる遺体が検出された。また、3区SK050埋蔵の動物遺存体結果から、サザエ、ツメタガイ、ヤマトシジミ、シオフキ、アサリ、ハマグリ、オキシジミ、マダイ、タイ科、スッポンが同定されており、埋蔵の廃棄後に利用した残滓を投棄したと考えられる。

### 参考文献

- 伊東隆夫・山田昌久(2012)木の考古学, 雄山閣, p.449.  
佐伯浩・原田浩(1985)針葉樹材の細胞, 木材の構造, 文永堂出版, p.20-48.  
佐伯浩・原田浩(1985)広葉樹材の細胞, 木材の構造, 文永堂出版, p.49-100.  
島地謙・伊東隆夫(1982)図説木材組織, 地球社, p.176.  
島地謙・伊東隆夫(1988)日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, p.296.  
農商務省山林局編(1912)木材の工藝利用, 大日本山林会, p.1307.  
諸戸北郎(1903)大日本有用樹木効用編, 高山房出版, p.330.  
山田昌久(1993)日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成, 植生史研究特別第1号, 植生史研究会, p.242.  
安部永(1994)日本の哺乳類, 東海大学出版会, 195p.

- 土質工学会編(1979)土質試験法, p.2-5-1 ~ 2-5-23, 4-2-1 ~ 4-3-11.
- 金原正明(1999)寄生虫. 西田豊弘・松井 章編「考古学と動物学」, 同成社, p.151-158.
- 金原正明・金原正子(1992)花粉分析および寄生虫. 奈良国立文化財研究所編「藤原京跡の便所遺構—藤原京7条1坊—」, p.14-15.
- 金原正明・金原正子(2013)植生と農耕における土壌層分析の実証的研究. 日本文化財科学会第30回大会研究発表要旨集, p.112-113.
- 金原正明・金原正子(2015)堆植物と植物遺体の総合的研究. 日本文化財科学会第32回大会研究発表要旨集, p.146-147.
- 中村 純(1967)「花粉分析」, 古今書院, 232p.
- 島倉巳三郎(1973)日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録, 5, 60p.
- 中村 純(1974)イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.
- 中村 純(1977)稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, no.10, p.21-30.
- 中村 純(1980)日本産花粉の標識. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- 金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原. 木下正史編「新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法」, 角川書店, p.248-262.
- 金子清俊・谷口博一(1987)線形動物・扁形動物. 医動物学「医動物学 付 実験用動物学 新版臨床検査講座, 8」, 医歯薬出版, p.9-134.
- Warnock, P. J. and Reinhard, K. J.(1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. Journal of Archaeological Science, 19, p.231-245.
- Hustedt,F.(1937 - 1938)Systematische und ologische Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch.Hydrobiol,Suppl.15,p.131 - 506.
- Lowe,R.L.(1974)Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh - water diatoms. 333p. National Environmental Reserch.Center.
- K. Krammer・H.Lange-Bertalot(1986-1991) Bacillariophyceae,vol.2,no.1-no.4
- Asai,K.&Watanabe,T.(1995)Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,p.35-47.
- 安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 東北地理, 42, p.73-88.
- 伊藤良永・堀内誠示(1991)陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6,p.23-45.
- 小杉正人(1986)陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—. 植生史研究, 第1号, 植生史研究会, p.29-44.
- 小杉正人(1988)珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27, p. 1-20.
- 渡辺仁治(2005)淡水珪藻生態図鑑 群集解析に基づく汚濁指数 DApo, pH 耐性能. 内田老鶴圃, 666p.
- 安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 東北地理, 42, p.73-88. Asai, K and Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2)-Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p.35-47.
- 笠原安夫(1985)日本雑草図説, 養賢堂, 494p.
- 笠原安夫(1988)作物および田畑雑草種類, 弥生文化の研究第2巻生業, 雄山閣 出版, p.131-139.
- 金原正明(1996)古代モモの形態と品種. 月刊考古学ジャーナル No.409, ニューサイエンス社, p.15-19.
- 南木睦彦(1991)栽培植物. 古墳時代の研究第4巻生産と流通1, 雄山閣出版株式会社, p.165-174.
- 南木睦彦(1993)葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p.276-283.

## 第2節 火災処理土坑における遺物計数について

### 1.はじめに

今回の調査では、火災処理土坑が多数確認できた。火災処理土坑は、ある時期の火災により被災した痕跡であり、そこから出土する遺物は、その火災の時期までに使用または保持していた器物と考えられる。そこで、当時の生活様相の解明に資するために出土遺物の計数を行うこととした。なお、府内城三之丸が被災した火災としてよく知られているのは府内藩記録に残る寛保三年(1743)の大火であるが、その他にも文献調査の結果(大分市教委 2021)によると、天明四年(1784)にも調査地周辺が被災した記録があり、また19世紀前半から中頃の埋没と考えられる火災処理土坑2区SK005があることから、寛保の大火以外による被災も認められる。

計数の対象は、火災処理土坑及びその可能性のある遺構から出土したすべての破片である。ただし接合したものは1個体として計数している。遺構毎の破片点数の計数表は別添のDVDに収録しているので参照いただきたい。ここでは紙幅の関係から、出土した破片点数が概ね30点以上の遺構について、陶磁器の産地別割合及び器種別割合を屋敷地別にまとめている(第521図)。屋敷地の範囲は、後述の第VII章で検討しており、屋敷①～⑤は、第VII章での第522図にある屋敷①～⑤に相当する。

### 2.計数結果について

屋敷①では、産地別で概ね肥前系磁器が7～8割程度を占めているが、2区SK005では約5割と低く、代わって関西系陶器の割合が多い。また、2区SK157では、組物が存在しているため中国産磁器の割合が15%程度と多くなっている。器種別では、大半の遺構で碗・皿が4割程度と概ね差異はないが、2区SK157では組物の多さから皿が6割を占めている。さらに、2区SK025では小坏・猪口が3割を占め、2区SK010、1区SK010、1区SK015で香炉・火入れ類が1～2割程度となるなど、ほかの屋敷地と比して多くなっている。なお、1区SK025は陶磁器の出土数が少ないためグラフを掲載していないが、土師器の破片が全体の6割を占めて出土しており、ほかの遺構と異なる特徴を見せている。また一部の遺構における遺物組成の特徴として、屋敷①の2区SK157や、屋敷③の3区SK075・SK080など、17世紀末から18世紀前半に帰属する遺物が主体をなすが、18世紀後半以降に帰属する外青磁や広東碗、端反碗などが一定数出土する遺構があることが挙げられ、隣接する府19次調査の火災処理土坑SK360でも同様の傾向が認められる。こういった傾向をもつ遺構群においては前述の寛保の大火以外による被災の可能性を考慮していく必要がある。

屋敷②では、産地別で、3区SK095では8割以上を肥前系磁器が占めるが、それ以外の遺構では肥前系や関西系の陶器類の割合が3～4割程度と高くなっている。器種別では3区SK095、2区SK045では碗・皿が6割を占めるが、3区SK090や、3区SK435、3区SK525では、4～5割程度であり、代わって鉢や播鉢、瓶・徳利などが多くなる。

屋敷③では、産地別で3区SK575では関西系陶器が5%程度と低く、3区SK070や3区SK075、3区SK080では関西系陶器が1割程度とやや多くなっているが、総じて差異は少ない。3区SK075では少数であるが中国産磁器が出土している。器種別では、碗・皿と併せた割合が2区SK575では8割であるが、それ以外の遺構では5～6割と低く、瓶・徳利類が多くなる。

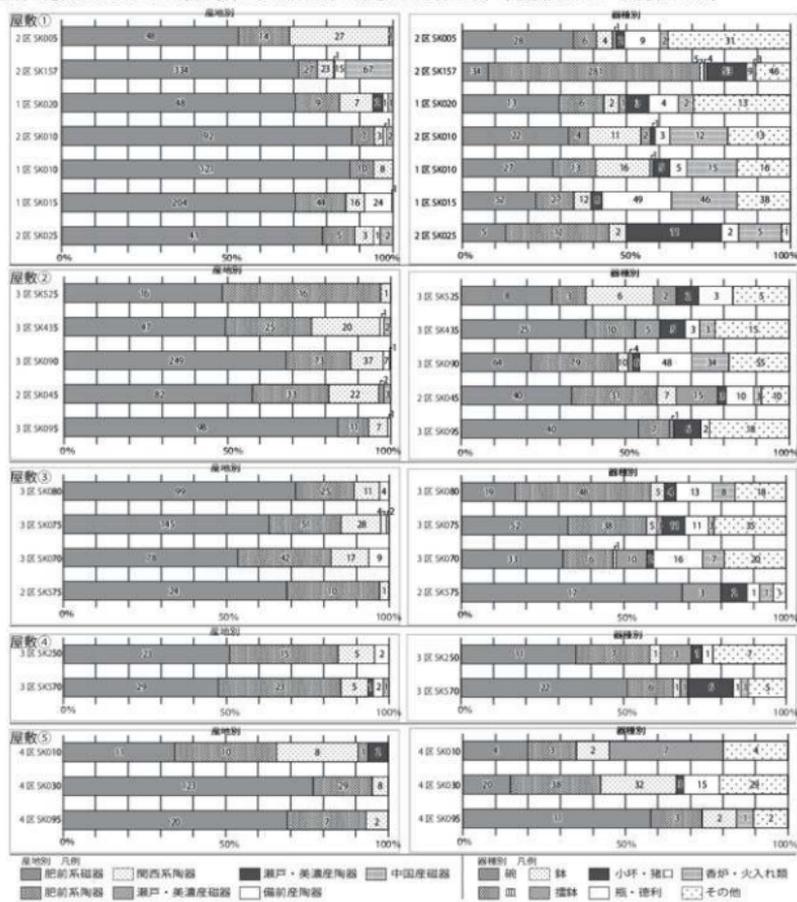
屋敷④では、3区SK570との3区SK250で、産地別割合に大きな差異は見られず、器種別でも碗・皿を併せた割合はともに6割程度とあまり差異がない。ただ3区SK570では小坏・猪口の割合が1割を超えており、3区SK250と比して多くなっている。

屋敷⑤では、産地別において4区SK095、4区SK030で肥前系磁器が7割程度占めているのに対し、4区SK010では、関西系陶器と肥前系陶器が多く、肥前系磁器が4割を切っている。器種別では、3区SK095で碗・皿併せて7割を超えているが、4区SK030や4区SK010では4割程度と低く、代わって4区SK030では鉢と瓶・徳利が、4区SK010では播鉢が多くなっている。

### 3.まとめ

今回の計数では、産地別においては、肥前系磁器を主体として7～8割を占め、それ以外は肥前系陶器が1

～2割を占める遺構が多いが、中には肥前系の磁器と陶器が同量程度占めている遺構や、関西系陶器が2～3割を占める遺構もあった。器種別では、碗・皿を併せた割合が6～7割占め、それ以外の鉢や瓶・徳利などが残りを占める遺構が多いが、中には碗・皿の割合が3～4割で、鉢や瓶・徳利、小罎・猪口、香炉・火入れ類がそれぞれ2～3割程度占める遺構もあった。三之丸武家屋敷地を調査した府1次調査では、19世紀代には関西系陶器が占める割合と、碗・皿以外の器種が占める割合が多くなるとされている。今回の調査でも屋敷①や屋敷②、屋敷⑤では、関西系陶器や碗・皿以外の器種が他と比して多くなる遺構があるため、府1次調査と同様の傾向を示すものと推測される。しかし、屋敷③や屋敷④では時期が異なる遺構においても割合には大きな変化が認められないなど、屋敷による差異はみられる。ほかにも多くの遺構では碗・皿以外の器種では鉢や瓶・徳利が多いが、屋敷①で小罎・猪口や香炉・火入れ類が、屋敷②や屋敷③、屋敷⑤で播鉢が、他と比して多い遺構があるといった特徴が看取できる。そういった特徴は屋敷居住者の生活様相を示している可能性があり、屋敷毎の組成の比較などとともに文献史料による居住者の特定などと併せて、今後検討していく必要がある。



第521図 遺物組成グラフ

## 第七章 総括

### 第1節 調査成果の概要

今回の調査では、府内城・城下町跡の武家屋敷推定地を約5500㎡という広大な範囲で調査することができた。その調査範囲の広大さから、これまで述べてきたように検出した遺構、出土した遺物は膨大なものになっているが、その中で、以下の通りの成果を得ることができた。

①自然地形上や、自然地形を高上げた整地層上で、中世前期13世紀代の遺構、戦国時代末期16世紀末頃の遺構、16世紀末から17世紀初頭の府内城築城当初の遺構、17世紀から19世紀の武家屋敷に関わる遺構、明治11年に開校したとされる学校に関連した遺構を確認した。②中世前期の遺構として、北西-南東方向にのびる微高地上で井戸を確認した。周辺の府11次調査や府19次調査でも同時期の遺構が確認されており、当該期の遺構が周辺で展開しているものと考えられる。③戦国時代末期の遺構として、前述の北西-南東方向にのびる微高地の東端で、その古地形に沿った道路状遺構、溝状遺構を確認した。「府内古図」に描かれる道路や、「同慈寺町」周辺に展開する遺構群の可能性が考えられる。④府内城築城当初の遺構として、掘立柱建物跡や、桶状遺構、溝状遺構などを確認し、後世の屋敷とは異なる築城当初の姿を垣間見ることができた。⑤武家屋敷に関わる遺構として、17～19世紀代の井戸跡や廃棄土坑、埋糞遺構、粘土貼土坑や、18世紀前半以降の火災処理土坑などを確認し、ほかに屋敷の排水などに関わると推定される桶状及び桶状遺構を確認している。また屋敷地割に関連する多数の溝状遺構や配石遺構などを確認したほか、焼継文字等で人物名が書かれた遺物が出土しており、地割や居住者に関わる情報を得ることができた。⑥楽焼や志野焼、織部焼といった桃山陶器がこれまでの府内城・城下町跡の調査の中で突出して多く出土したほか、鍋島焼やベトナム産陶器などの希少品も初めて出土しており、当該期の府内藩の流通を知る手がかりとなる。

次節以降では、屋敷地割の復元、戦国時代末から府内城築城当初の変遷、桃山陶器の位置づけについての検討を行う。

### 第2節 屋敷地割の推定復元及び居住者の比定について

今回の調査では、直線的な配石遺構や多数の溝状遺構などを確認し、焼継文字など人物名が書かれた遺物が出土した(第522図)。これらは屋敷地割や居住者を示している可能性が高いため、ここでは屋敷地割の推定復元及び居住者比定の検討を行う。

#### 1. 屋敷地割について

今回の調査で確認した屋敷地割に関わる遺構として、まず配石遺構3区SX206と3区SX295がある。この遺構は溝状の掘方内で組まれた石組が直線的に延びる遺構であり、その構造から土塀などの構造物の基礎と考えられるため、屋敷を区画する施設の遺構と考えられる。これらは背割りや推定される位置で確認しており、それぞれ屋敷②と⑤、屋敷③と⑥を画するものと考えられる。

溝状遺構は、南北方向のものや東西方向のものがある。調査では溝状遺構が土塀や垣などの区画施設を撤去した痕跡であるのか、又はそれら区画施設に伴う雨落ち溝などであるのかは判断できず、屋敷を区画する施設そのものの痕跡とは限らないためここではまとめて屋敷地割に関連する遺構としておく。南北方向のものは隣り合う屋敷の地割に関連するものと推定され、屋敷②と③の3区SD430・550、3区SD545、屋敷③と④の3区SD395、3区SD400・410、屋敷⑥と⑦の4区SD226・227があるが、4区SD226・227の北側は旧校舎により削平され、屋敷⑤と⑥に関わるものは確認できていない。これら溝状遺構は遺物が少なく時期が特定できないものもあるが、主に18世紀前半や19世紀前半の埋没である。ほとんどが切り合い関係を持たないが、区画施設そのものとは限らないため、時期も位置も異なるものを一概に変遷とすることはできない。東西方向のものは背割りや推定され、屋敷②と⑤の3区SD635、SD842、屋敷③と⑥の3区SD630、SD500、SD420、SD495、SD415、屋敷④と⑦の3区SD595があり、時期が特定できないものもあるが、17世紀後半から18世紀後半・19世紀後半の埋没である。

隣接する調査区でも同様の遺構が確認されている。府 17 次調査では 18 世紀後半に埋没した東西溝 SD040 が確認されており、屋敷地割として背割りの機能を有していたと考えられている。府 19 次調査では、17 世紀初頭から前半に埋没した東西溝 SD405 が確認されている。調査の際には屋敷地割に関連する遺構とは認識されていないが、今回確認した 3 区 SD595 やその他の背割りや推定される東西方向の溝状遺構の延長線上に位置しているため、地割に関連する遺構と考えられる。また、南北方向の溝状を呈する 2 区 S078 及び 2 区 S182 は、2 区 S078 がコバルト軸の型紙摺りの磁器などが出土したため攪乱として取り扱い、2 区 S182 は遺物がほとんど出土せず時期不明であったため、ともに本文中で報告していないが、溝状を呈しているため、積極的に評価すれば屋敷地割に関連している可能性は考えられる。その場合は屋敷①と②、及び屋敷⑨と⑤に関わるものと推定される。

これら遺構のうち、「復原図」の推定ラインと異なるのは、屋敷①と②の 2 区 S078 及び 2 区 S182 と、屋敷④と⑦の 3 区 SD595・府 19 次調査 SD405 である。屋敷①と②は後述するが、屋敷④と⑦の遺構は 17 世紀代の遺構で、ほかの屋敷地割を示す遺構と違い後代の遺構は確認できていない。またそれら遺構を切る府 19 次調査の廃棄土坑 SK330 から「上原氏」の焼継文字が出土している。そのため、3 区 SD595 埋没後の 17 世紀後半以降に屋敷地割が変化している可能性がある。「復原図」推定ラインがより北側に位置しているため、その位置に変化した可能性はあるが、今回の調査では旧校舎の攪乱により削平されており不明である。

## 2. 居住者の比定について

出土遺物には、焼継された陶磁器に焼継文字として名前が書かれているものがある。焼継文字は職人が焼継による修理後、発注者に返すために名前を記したもので、焼継文字に書かれる人物名はその器物の持ち主と考えられる。したがって出土した焼継文字は、その持ち主、つまり居住者を比定する手がかりとなる。焼継は府内においては、ほぼ 19 世紀前半以降の遺構から出土しており、今回の調査でも同様である。つまり焼継文字は 19 世紀前半以降の居住者を示しているものと想定される。なお、「享和二年絵図」や「文久三年絵図」において屋敷居住者の名前が描かれているが、时期的に焼継文字は、主に「文久三年絵図」にみられる居住者を示していると考えられる。屋敷②では、概ね「神屋氏」を表す「神屋」「神矢」などで、屋敷③では、「岡本氏」を表すもの、屋敷④では「上原氏」を表すものが多く出土している。府 19 次調査では、屋敷④側の府 19 次 3 区で「上原氏」、屋敷⑧側の府 19 次 1 区で「手嶋氏」の焼継文字が出土しており、攪乱による削平で屋敷地割関連遺構は確認されていないが、調査区の間屋敷地割が推定されている。これら焼継文字の人物名は「文久三年絵図」に描かれる居住者名とも一致が認められるため、各屋敷に各々が居住していたものと考えられる。ただ例外として屋敷②に位置する 2 区 SE020 で「神屋氏」と想定される「かみ〇〇〇」と、「岡本みつ蔵様」と書かれた焼継文字がともに出土している。また、屋敷③に位置する 3 区 SK747 で「神屋氏」と想定される「神や〇五」「〇屋氏」と書かれた焼継文字が出土した。それらは 19 世紀後半頃の埋没と考えられるが、19 世紀後半以降に埋没した遺構では屋敷地割を超えた遺構間接合も確認していることから、明治初期に学校建設を行う際に、グラウンド造成といった遺物を含む土の移動による整地等が行われた可能性が考えられる。

ここで屋敷①について、焼継文字は出土していないが、屋敷①と②の地割に関連する可能性がある遺構として前述のとおり 2 区 S078 及び 2 区 S182 があり、その東、屋敷①側で 18 世紀代の 2 区 SK025 から「太田氏」と線刻された硯が出土している。「復原図」ではさらに東側に屋敷地割が推定されているが、その東側では、屋敷地割関連遺構やその可能性がある遺構は確認できない。さらに 2 区 S078・S182 の東側では「太田氏」と線刻された硯は出土するが、「神屋氏」に関するものは出土していないこと、2 区 S078・S182 の西側では概ね「神屋氏」の焼継文字が出土していること、府 17 次調査では「復原図」の推定ラインを超えた遺構間接合が行われ、屋敷境が「復原図」どおりに位置する可能性が低いとされていることから、2 区 S078・S182 が屋敷地割に関連している可能性は高く、この位置を屋敷①と②及び屋敷⑤と⑨の屋敷地割推定ラインと考えておきたい。また、2 区 SK025 と比較的近い時期の「享和二年絵図」にも「太田氏」が書かれていることから、18 世紀代から「太田氏」が屋敷①に居住していた可能性は考えられ、「文久三年絵図」にも「太田氏」が書かれているため、18



世紀から 19 世紀にかけて「太田氏」が居住していたものと推定される。

そのほか屋敷③に位置する掘乱 3 区 S177 から屋敷⑥に居住していたと推定されている「伴四郎太夫」の焼継文字が、学校建設以降の埋没と考えられる 3 区 SK172 から屋敷⑦に居住していたと推定される「阿部氏」と想定される「安部」の焼継文字が、2 区表土から「木戸氏」(第 336 図 1)と書かれた焼継文字が出土するなど、当該地周辺の居住者名が出土しており、「文久三年絵図」の通りの居住者であった可能性が想定される。それ以外にも 3 区 S013 から「上町神田」、1 区 S009 から「東町小の」など、近現代の掘乱から居住者とは見られない焼継文字も出土しており、学校建設以降に持ち込まれた可能性が考えられる。

### 3. まとめ

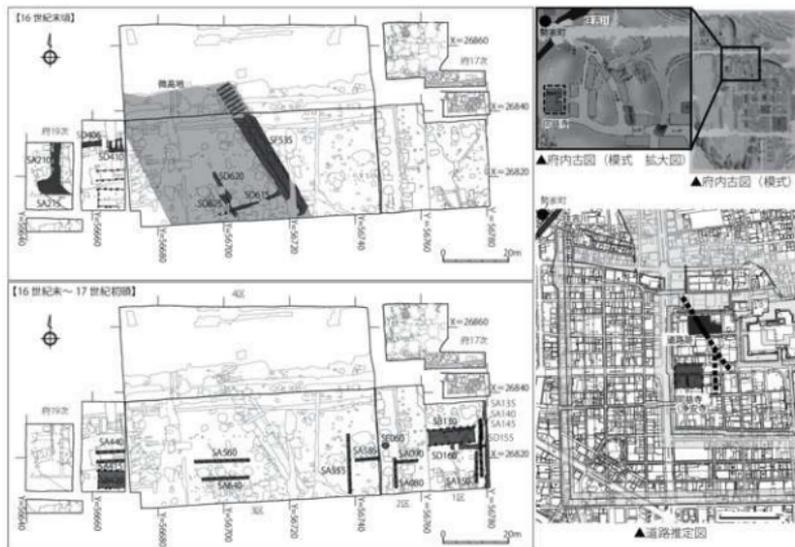
以上、屋敷地割の推定復元と屋敷居住者の推定を行った結果、多くの地点で屋敷地割関連遺構を確認し、地割を復元することができ、広範囲に調査を行うことによって「復原図」と異なる位置に推定することもできた。また出土した焼継文字と絵図との照合からは多くの居住者の比定ができ、屋敷地割を復元する傍証ともなり、なかには屋敷①の「太田氏」が、18 世紀代から居住していた可能性も示唆されるなど、現状文献では確認できていない成果を得ることもできた。屋敷を区画するものがどういったものかは明確にできず課題ではあるが、配石遺構や溝状遺構が屋敷地割に関連することを確認できたことは、今後ほかの屋敷地を調査する上で重要な所見であり、屋敷地割を復元できたことは、屋敷内部の様相を検討していく上で重要な成果である。屋敷地割を超えた広範囲の調査を行う機会は少ないが、今後も調査結果と文献史料との照合により当時の様相を明確にできるため、あわせて調査を行っていく必要がある。

## 第 3 節 16 世紀末頃から 17 世紀初頭の遺構変遷について

ここでは 16 世紀末頃から 17 世紀初頭頃の遺構変遷(第 523 図)について述べ、遺構の機能について検討していく。

### 1. 16 世紀末頃の遺構について

16 世紀末頃の主な遺構は、側溝を含む道路状遺構 3 区 SF535 と、それに直交又は平行する溝状遺構 3 区 SD615・620・615 である。これらは府内城築城以前の遺構と考えられるが、その方位北に対し西に 32° 傾く方位となっている。府内城西之丸の石垣や現在の街路、「復原図」から計測される方位は、北に対し西に 3°~4° 傾く方位であり、三之丸はその方位を基準としているものと推定される。また現在の街区から推定される城下町の区画は北に対し西に 0°~1° 傾く方位である。そのため、道路状遺構は三之丸の区画方位や城下町の区画方位とも明確に異なる方位である(第 523 図右下)。3 区西側には北西-南東方向の微高地が展開しており、道路状遺構はこの微高地の東端に位置している。古地形に沿って遺構が伸びているため、古地形に規制された方位で遺構が展開しているものと考えられる。これらの遺構はその方位から考えても府内城築城前、戦国時代末期のものと考えられるが、戦国時代の大夫府内の町の姿を描いた「府内古図」には、「同慈寺」と、その北から北東側にかけて府内の町から勢安町までのびる道路とが描かれている(第 523 図右上)。この「同慈寺」は近世に同位置のまま「浄安寺」となるとされており、その位置は現在の大分中央郵便局に推定されている。今回の調査地点は、大分中央郵便局の北北東側に位置しているため、「府内古図」における「同慈寺」と府内の町から勢安町までのびる道路との位置関係とは一致する。したがって「府内古図」に描かれる道路が、今回の調査で確認した道路状遺構にあたる可能性は考えられる。ただし、「府内古図」の道路と考える根拠は「同慈寺」から近世の「浄安寺」に変わった際の位置変更がないことを前提とした大まかな位置関係と、北西-南東の道路方位が大まかに一致することのみである。しかも、道路幅は、最大となる第 2 段階で 4.5 m 前後であり、第 1 段階や第 3 段階では 2 m 程度となっており、中世大夫府内町跡第 12 次調査や、第 111 次・117 次調査などで確認された第 2 南北街路の約 5~6 m の道路幅に比して狭いため、「府内古図」に描かれるような主要道路として適当かどうか疑問が残る。周辺では、府 19 次調査で溝状遺構が確認されたほか、府 11 次調査で溝状遺構が、府 21 次調査で、弓なりに湾曲する溝状遺構及びそれに平行する通路状の遺構が確認されている。しかしこれらの



第 523 図 16 世紀末頃から 17 世紀初頭の遺構変遷図

関連性は不明であり、周辺の調査状況からも、今回の道路状遺構を「府内古園」の道路に明確に位置付けることは難しい。したがって道路状遺構が「府内古園」に描かれた道路かどうかは明確にはできないものの、今回の調査で、中世府内の時期と考えられる道路状遺構を確認できたことは、周辺で当該期の遺構が広がっている可能性があり、今後、道路及び「回慈寺」周辺の状況を明確にできる可能性もある。

### 2.16 世紀末頃から 17 世紀初頭の遺構について

16 世紀末頃から 17 世紀初頭の主な遺構は、掘立柱建物跡 1 区 SB130 や、櫓状遺構 1 区 SA135 ほか、溝状遺構 1 区 SD155、井戸 2 区 SE060 である。掘立柱建物跡や、櫓状遺構、溝状遺構の方位は西に 2～5° 傾く方位であり、前代の道路状遺構の方位とは明確に異なっており、前述した三之丸の区画方位とほぼ同じであるため、府内城に関連する遺構と考えられる。福原氏による府内城の築城開始が慶長 2 年 (1597 年)、その後竹中氏による三之丸の修築が慶長 7 年 (1602 年) までとされているため、これらの遺構は府内城築城当初のものと考えられる。周辺では、府 19 次調査で同様に西に 3～5° 傾く方位をとる櫓状遺構などが確認されているほか、府 18 次調査では、17 世紀前半頃と考えられる掘立柱建物跡が確認されており、府内城築城後の竹中・日根野時代の武家屋敷に伴う建物の可能性が推定されている。府 16 次調査では北丸において 17 世紀初頭の数段階にわたる建築・改修が行われた石垣が確認されている。今回の調査で確認した掘立柱建物跡などの遺構群は、整然と並ぶようないわゆる定型的な武家屋敷とは違う様相と考えられるが、府 16 次調査のように築城当初は頻繁な増改築によって改変されており後世の姿とは異なる可能性があるため、今回確認した掘立柱建物跡などの遺構が築城当初の姿を現しているものと考えられる。

### 3. まとめ

これらの遺構とともに、中世大友府内の時代から府内城築城直後にかけての様相を示しているが、この時期はこれまでの発掘調査、文献での検証でも判明していない部分が多い。そのため、今後も当該期の状況を確認し、中世から近世府内城成立の過程を解明していくことが重要と考える。

## 第4節 府内城・城下町跡第29次出土の「桃山の茶湯」の位置づけについて

### 1. はじめに

今回の調査成果の中で、「瀬戸黒」「志野」「織部」に「軟質施軸陶器」を加えた、いわゆる桃山の茶陶の出土は、府内城とその城下町成立期を特徴づける一般の資料と考えられる。そこで、本節ではこれら資料に関する位置づけを総括する。

はじめに、これら桃山の茶陶の概要と、大分市における出土状況の概略について述べる。

「瀬戸黒」は、「引出黒」と呼ばれる焼成中の窯から引き出し急冷させることにより発色させる黒色が特徴的な茶碗で、半筒形から腰部で直角に立ち上がる典型瀬戸黒へと変遷する。同じ黒色の黒茶系の茶碗とは、引出の技術や形状において共通する部分が知られている。瀬戸黒の時期的な位置づけについては、引出黒の開始が、1580年代以降と言われ、典型瀬戸黒の成立が1580年代末～1590年代とされている。<sup>21)</sup>

大分市におけるこれまでの出土事例は無く、今回の府内城・城下町跡第29次が初例となる。

「志野」は、長石釉による白を特徴とする桃山の茶陶で、無地志野、鉄絵による下絵付の絵志野、灰色～茶褐色地に白抜き文様を施した鼠志野がある。これら志野の年代的な位置づけについては、天正年間(1580年代)に位置付けられる「大窯」と呼ばれる焼成室が一つの窯で焼かれていた生産地における発掘調査の結果と、大坂における豊臣前期(1580～1598)の整地層からの出土が無く、豊臣後期(1599～1615)の整地層以降からの出土が知られる消費地における発掘調査の成果がある。<sup>22)</sup>

大分市における志野の出土事例については、府内城・城下町跡及び鶴崎御茶屋跡における出土事例が知られている。前者においては、調査回数で第12・16・18・19次、特に、19次は府内城北丸の堀、18・19次は三之丸、12次は町屋(米屋町)からの出土で、いずれも絵志野に含まれるもので、器種は、向付・皿類となる。後者においては、調査回数第3次で、器種は、向付に加え茶碗の形態が入る。<sup>23)</sup>

「織部」は、古田織部の受領名から呼ばれた焼物で、黒釉をつかった歪んだ造形の黒織部・織部黒に代表される茶碗と、緑釉と鉄絵を用いた型作りによる向付等の懐石道具からなる。これら織部の年代的な位置づけについては、慶長年間(1596-1615)として一括されているが、黒織部・織部黒は、美濃の黒釉茶碗の系譜にあり、その成立は慶長4年頃、向付等の懐石道具は、文献や発掘調査の成果などから慶長10年代に盛行したことが知られている。

大分市における出土事例は、やはり府内城・城下町跡及び鶴崎御茶屋跡の事例がある。前者は、29次の西側に隣接する第19次からの出土で、器種は、型作りによる向付となる。後者は、調査回数で、第2及び3次、特に第2次は鶴崎法心寺の調査によるものであり、器種は向付となる。

「軟質施軸陶器」は、日本在来の製陶・製瓦・土師器生産に由来する素地に、主に鉛釉を用いた施軸技術で軟質に仕上げた焼物で、楽焼もこの軟質施軸陶器に含まれる。茶碗の形態に加え、向付を始めとする懐石道具等器種のバリエーションも多い。京都・大阪・堺における桃山期の遺跡において前述の瀬戸黒や志野・織部とともに出土することで知られているが、その他の地域での出土は、限定的である。時期的な位置づけも、16世紀末から17世紀初頭とほぼ同じとされるが、その技術系譜から、量産型の美濃の製品に対する、オーダーメイドに近い少数生産型の軟質施軸陶器との位置づけがなされ、軟質施軸陶器がやや先行しながら推移するとの意見もある。<sup>24)</sup>

大分市における出土事例は、中世大友府内町、府内城・城下町跡、鶴崎町遺跡群の事例がある。特に中世大友府内町跡第12次調査区から出土した茶碗は、唯一天正期に遡る可能性を有する半筒形の黒茶系の茶碗となる。<sup>25)</sup>

### 2. 遺物の概要

次に、今回の資料について、唐津を含めた遺物の一覧(第524図)を中心にその概要を明す。

この一覧において唐津は、同じ桃山の茶陶でありながら、西北九州を産地とし、主要流通圏内である豊後においては、その量はもちろんのこと、豊富なバリエーションを有していることがわかる。しかしながら、この唐津

と比較において、今回の桃山の茶陶群が、そのバリエーションにおいて引けを取らないこともわかる。瀬戸・美濃系では、初例となる瀬戸黒茶碗をはじめ、志野の茶碗・向付（平向・深向）・平鉢・皿、織部の向付と香合、この他、茶入も存在する。軟質施釉陶器では、茶碗・向付（平向・深向）が存在している。

量についても、志野における茶碗3個体、向付（平向）2型式複数個体、向付（深向）複数個体、織部における平向2個体、軟質施釉陶器における茶碗2個体、向付（平向）2個体と、他の府内城・城下町跡、鶴崎御茶屋・鶴崎町遺跡群の出土事例との比較において、総量の部分で大きく上回っている。

出土した黒楽系の軟質施釉陶器と、瀬戸黒の茶碗の存在についても特筆される。軟質施釉陶器については、俊寛型<sup>21</sup>と呼ばれるひずみを持ち、茶だまりを有する形態のものと、同じく茶だまりを有し、腰部で直角に立ち

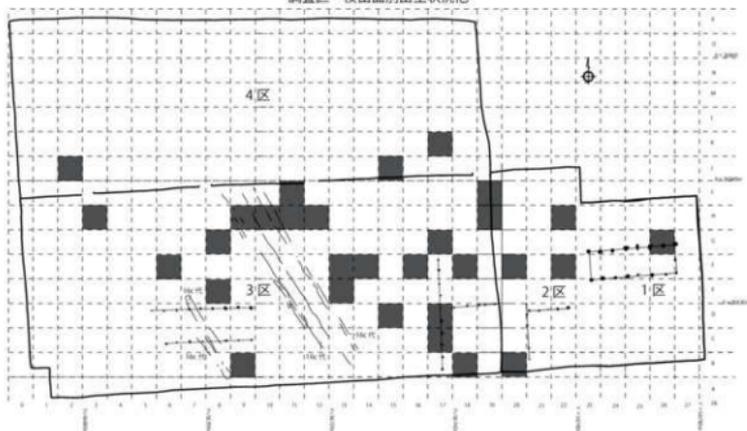
陶器分類 器種分類	軟質施釉	瀬戸・美濃			唐津
		瀬戸黒	志野	織部	
茶碗					
向付					
鉢・皿					
香合					
茶入					

縮尺 1/8

第 524 図 唐津を含めた桃山の茶陶一覽

調査区	検出面	グリッド	遺構名	遺物種	備考	共存遺物等
1区	1面	G-26	S217	志野 向付	深向	
1区	1面		表土	志野 向付	深向	表土中
2区	1面	F-20	S072	軟質施釉陶器 碗	表系 攪拌型	17c~18c 代遺構への抜き上げ
2区	1面	H-22	S063	織部 向付	平向 型物	18c後半~19c 初期遺構への抜き上げ
2区	1面	F-22	S122	志野 向付	深向	18~19c 遺構への抜き上げ
2区	1面	B-20	S081	志野 向付	深向	小片 唐津・土師器
3区	1面		検出時	織部 向付	平向 型物	1面検出時
3区	1面	I-11	S183	志野 碗	碗 亀甲文	燻乱, S495出土と接合
3区	1面	H-12	S055	志野 向付	深向	17,18,19c 遺物入る 胎土目・砂目唐津アリ 初期伊万里アリ
3区	1面	G-17	S317	軟質施釉陶器 向付	深向 鉦輪 寛	初期伊万里or瀬川窯系共存
3区	1面	D-17	S247	志野 向付	深向	燻乱への抜き上げ
3区	1面	B-9	S112	志野 向付	平向	燻乱への抜き上げ
3区	1面	F-18	S251	志野 皿		
4区	1面	J-2	S175	志野 碗	碗 亀甲文	唐津共存 19c 礎石は混入?
4区	1面	J-15	S029	志野 碗		燻乱
4区	1面	K-17	S268	織部 香合		
3区			黒色土	志野 碗	碗 亀甲文	4-S175と接合
3区	2面	H-9~11	S495	志野 碗	碗 亀甲文	唐津胎土目 初期伊万里 搬入京阪系土師器 18c 代遺物混入
3区	2面	F-6	S761	志野 向付	平向	単体出土
3区	2面	E-8	S774	志野 向付	平向	18~19c 初 17c 初遺物もままま入る
3区	2面	B-9	S592	志野 向付	平向	京阪系土師器 唐津 瀬戸碗
3区	2面	F-13	S837	軟質施釉陶器 碗	表系 典型織部	18世紀代遺構への抜き上げ 高麗青磁片も
3区	2面	E-13	S545	志野 皿		18-19c 遺物主体の中に初期伊万里・瀬川窯・不明青磁(飯島?) 混入
3区	2面	E-13	S545	志野 向付	深向	S520出土と接合
3区	2面	C-17	S520	志野 皿		18-19c 遺物の中に17c 前半が入る
3区	2面	D-15	S958	軟質施釉陶器 向付	平向 鉦輪	
3区	2面	F-14	S822	軟質施釉陶器 向付	平向 鉦輪	18-19c 遺物主体の中に軟質施釉陶器と志野が入る
3区	2面	F-14	S822	志野 向付	平向	
3区	2面	B-18	S739	志野 向付	深向	京阪系土師器厚手2枚
2区	3面	I-19	S181	志野 平鉢	平鉢	井戸か? 17初 (若干の混入アリ)
1区	3面	H-3	S1187	瀬戸黒 碗	碗	京阪系土師器厚手2枚 唐津 (輪唐津・唐人古磁)
3区	3面	G-8	S1008	志野 向付	平向	唐津・関西系陶器小片
3区	3面	F-16	S1201	志野 向付	深向	単体出土

調査区・検出面別出土状況他



出土グリッド分布

第 525 図 調査区・検出面別出土状況他一覧及び出土グリッド分布図

上がる典型瀬戸黒に近い形態の二つの形態が認められる。対する瀬戸黒茶碗は、半筒形と典型瀬戸黒の中間形態、内底部に茶だまりをもつ。体部に若干のひずみをもつ部分も含め、前述した俊寛型の黒楽に近いイメージの茶碗となる。

黒楽系の軟質施釉陶器と瀬戸黒の茶碗、同じ消費者をもつ両者の方向性が共通することはすでに指摘されているところである。加えて前述した、オーダーメイドの黒楽がやや先行し、美濃において瀬戸黒が量産される関係を考えて、①俊寛型黒楽から、②俊寛系瀬戸黒、③典型瀬戸黒系黒楽、そして④典型瀬戸黒への流れが想定される。そして今回、この流れの中の①～③の製品が出土していることになる。こうした変遷と瀬戸黒の動向は、典型瀬戸黒の出現時期とされる1580年代末～90年代の短期間のことと言われている<sup>27</sup>ことから、今回の黒楽系の軟質施釉陶器と瀬戸黒は、検出面・出土地点は違えど、年代的には非常に近い位置づけという事ができる。

これに対し、志野と織部については、豊臣後期や慶長年間に位置付けられ、京都における出土事例で慶長10年を上限とする軟質施釉陶器の向付等<sup>28</sup>も合わせ、黒楽系の軟質施釉陶器や瀬戸黒と比べ、やや新しくなる印象となる。

### 3. 出土状況及び共伴遺物について

今回の調査地点は、旧小学校跡地の関係から近代以降学校関連の施設の基礎工事による大規模な改変も受けた上、最上面の遺構検出面から最終遺構検出面までの土層の堆積が1mほどしか無く、最終検出面に至っても19世紀の遺構が残る状況であった。よって、今回の桃山の茶陶の出土状況については、上面遺構の掻き上げでの出土や、逆に上面遺構からの遺物が混入など、必ずしも良好なものではなかった。以下、これら桃山の茶陶について、その出土状況及び共伴遺物を第525図にまとめ、出土状況の検討を行う。

第525図上段の表によると、第1面検出遺構で出土した資料は、上面遺構へ掻き上げられた状況が多いのに気付く、続く第2検出面では上面遺構からの遺物が混入する事例が目立つようになり、第3検出面では、ブライマリーな状態のものも現れる。共伴する遺物は、胎土目積み段階の唐津や厚手の京都系土師器を伴うものと、続く砂目積み段階の唐津や初期伊万里に伴うものがあるが、その一括性については調査段階での検証ができていない。

但し、第3面S1187で瀬戸黒茶碗と共伴する一群については、現状で新しい遺物の存在は認められない。これら共伴遺物の中で唐津皿は、高台内面まで施釉することを特徴とする唐人古場窯の製品で、1590-1610年の年代観とされている資料である。同じく共伴する厚手の京都系土師器皿は、中世大友府内町出土京都系土師器に系譜をもつ一群となり、17世紀初頭の年代が考えられている。よって、瀬戸黒茶碗が、16世紀末～17世紀初頭の良好な遺物軍と共伴していることがわかる。

第525図下段の図には、掻き上げ資料も含めた出土地点の平面分布について、第三面で検出された三之丸の方向性をもつ一群の遺構群と、三之丸成立以前の方向性をもつ遺構群と重ねた資料を提示している。この図によると、概ね前者の遺構群との関連性が指摘できるようである。後者の遺構群は、中世末段階に遡る道路状の遺構であり、その縁に沿うような分布も一部で認められる印象はあるが、古い位置づけとなる半筒形系軟質施釉陶器及び美濃製の茶碗が出土していない状況も含め、その評価は今後の課題としたい。

### 4. 府内城・城下町跡第29次出土の「桃山の茶湯」の位置づけ

以下、府内城・城下町跡第29次から出土したいわゆる桃山の茶陶群について、その検討の結果をまとめる。まず、これら資料が、京・大坂以外の地で出土することが限定的である中で出土していること、他の大分市内の出土事例との比較において、その量とバリエーションの多さにおいて突出した存在であることがあげられる。併せてこれら遺物の年代が、1580年代末～90年代あるいは1599～1615年に位置付けられる一帯であること。全体的に上部遺構への掻き上げや上部遺構からの混入状況がある中で、古くは1590-1610年あるいは17世紀初頭の唐津や在土師器と共伴する遺構の確認、若干下って唐津の砂目積みや初期伊万里と共伴する可能性が指摘された。

豊後国は、大友氏改易の後、小藩に分割され、はじめ豊臣系大名、後に徳川系大名が入部する。現大分市の府内藩も例にもれずはじめ、豊臣系大名である早川長敏・福原直高・早川の再入部・竹中重利を経て、徳川系の日根野吉明・松平忠昭へと変遷する。府内城は、慶長4年(1599)、福原直高により本丸・二之丸・三之丸の主要施設が完成している。その後慶長6年(1601)に府内に入った竹中重利により、城郭の増改築が行われ、4層の天守閣と諸櫓・門・武家屋敷・北西砦(山里丸)が慶長7年(1602)に完成したとされている。

今回の軟質施軸陶器の出土は、「鶴崎町遺跡群(堀川)出土の軟質施軸陶器について」<sup>9)</sup>において、「豊後は、近世初期における豊臣家及び豊臣系大名との関わりの中で、大坂・京都と時間差無しに、茶碗以外のバリエーションを伴う形で軟質施軸陶器が出土した」としたが、こうした状況によく重なることがわかる。その他、瀬戸黒・瀬戸・織部の美濃製品の特長的な出土については、これまでの府内城三之丸城における出土に加え、町屋城においても志野の出土が報告されてきた。奇しくも城下町を含めた府内城を完成させた竹中重利は美濃国の出身であり、今回の三之丸城における美濃製品の豊富なバリエーション出土の背景の条件を満たす。加えて竹中の入部に際し、鍛冶職人を連れてきたこと<sup>10)</sup>も知られており、町屋城に至る美濃製品出土についても同様のことと理解できる。

以上、「瀬戸黒」「志野」「織部」に「軟質施軸陶器」を加えたいわゆる桃山の茶陶の出土は、16世紀最末期から17世紀初頭における、美濃国出身の豊臣系大名による、府内城とその城下町成立期を特徴づける超一級の位置づけとなることが分かった。

今後、豊後において、肥後熊本藩の飛地となった鶴崎町遺跡群及び鶴崎御茶屋成立期の状況、その他豊後国内の豊臣系大名による各藩の成立期の状況、天正期に遡る大友期の状況を注視しながら、その出土傾向及び状況について比較検討して行きたい。

## 引用・参考文献

講談社 1999『やきもの名鑑2 桃山の茶陶』

講談社 1999『やきもの名鑑3 茶と京焼』

註1

伊藤嘉章 1999『黒楽碗を巡る美濃と楽の交錯』『やきもの名鑑2 桃山の茶陶』講談社

伊藤嘉章 2004『軟質施軸陶器へのアプローチ-桃山時代の二つの黒楽碗という視点から-』『軟質施軸陶器の成立と展開』

註2

伊藤嘉章 1999『「志野」はいつ頃からはじまったのか?』『やきもの名鑑2 桃山の茶陶』講談社

註3 以下の文献による

大分市教育委員会 2003『府内城・城下町跡 第12次調査報告書』

大分市教育委員会 2008『大分市埋蔵文化財調査報告書第78集 府内城・城下町跡5 第16次調査報告書』

大分市教育委員会 2009『大分市埋蔵文化財調査報告書第93集 府内城・城下町跡7 第18次調査報告書』

大分市教育委員会 2012『大分市埋蔵文化財調査報告書第115集 府内城・城下町跡8 第19次調査報告書』

大分市教育委員会 2005『大分市埋蔵文化財調査報告書第57集 鶴崎町遺跡群(堀川)』

大分市教育委員会 2012『大分市埋蔵文化財調査報告書第116集 鶴崎御茶屋跡 第2次調査』

大分市教育委員会 2015『大分市埋蔵文化財調査報告書第134集 鶴崎御茶屋跡3』

註4

尾野善裕 2004『畿内における「軟質施軸陶器」の出現』『軟質施軸陶器の成立と展開』関西陶磁史研究会

註5 大分県教育委員会 2006『豊後府内4』

註6 註1に同じ 註7 註1に同じ 註8 註4に同じ

註9

河野史郎 2005『鶴崎町遺跡群(堀川)出土の軟質施軸陶器について』『大分市埋蔵文化財調査報告書第57集 鶴崎町遺跡群(堀川)』大分市教育委員会

註10

山田正任 1980『郷土の刀工』『大分市の文化財Ⅲ』大分市教育委員会

第11表 1・2区 土器・陶磁器類観察表1

調査番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分類	時期	H番号
						口径・最大長	最大幅	底径・最大深	片厚・最大厚				
第201図1	2区	SE020	瓦産磁器	染付壺	肥前系	11.0	2.9	-	-	横線痕・横線文字有「国本みづ瀬様」残存1/2		004	
第201図2	2区	SE020	瓦産磁器	染付壺	肥前系	-	1.3+0	-	-	丸文 横線痕・横線文字有「念五郎様」		005	
第201図3	2区	SE020	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(8.0)	6.1	4.2	-	山水文 有田 茶煎み用	19c前期～幕末	002	
第201図4	2区	SE020	瓦産磁器	染付仏指器	肥前系	8.1	6.1	7.0	-	浮瑠宛形	17c後半～18c前半	003	
第201図5	2区	SE020	瓦産磁器	青磁香炉	産地不明	(5.2)	9.8	-	-	動物型 二次被熱 中皿か	17c～18c代か	007	
第201図6	2区	SE020	瓦産陶器	皿	關西系	(19.0)	2.9	(14.0)	-	縁輪		006	
第201図7	2区	SE020	瓦産陶器	皿	肥前系	-	4.2+0	-	-	黒灰釉 縁周か		009	
第201図8	2区	SE020	瓦産陶器	碟鉢	肥前系	(14.0)	6.2	(8.1)	-			010	
第201図9	2区	SE020	瓦産陶器	鉢	肥前系	35.3	10.0	13.3	-	浮瑠宛形 2彩手 見込目粉引積み直	17c末～18c中頃	012	
第201図10	2区	SE020	土師器	皿		(8.4)	1.1	(4.2)	-	透明釉	18c代	011	
第201図13	2区+3区	SE020+3区 S799+3区 S841	瓦産磁器	染付碗	肥前系	10.8	5.0	4.2	-	横五線 動物文 横線文字「おみや〜」	1820～1860	001	
第202図1	1区	SK005	瓦産磁器	染付壺	肥前系	9.7	2.9	3.6	-	浮瑠宛形 丸文 高台内「天明年號」二次被熱	1690～1740	006	
第202図2	1区	SK005	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(9.6)	5.2	(3.7)	-	一畫網目文 見込に菊花文 二次被熱	1700～1750	001	
第202図3	1区	SK005	瓦産陶器	碗	肥前系	(11.0)	7.4	4.8	-	陶胎染付 唐草文 二次被熱	18c前半	002	
第202図4	1区	SK005	土製品	土壺		8.2	7.5	3.7	-	小髷痕有		003	
第203図1	1区	SK010	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	6.8	2.8	3.1	-	容葉文 横成不良 内面に紅付着 浮瑠宛形	18c後半	003	
第203図2	1区	SK010	瓦産磁器	色絵碗	肥前系	(10.0)	4.4	(4.2)	-	1/2残存 有田	18c後半	002	
第203図3	1区	SK010	瓦産磁器	染付碗	肥前系	10.0	5.3	4.5	-	梅蘭文 3/4残存 二次被熱	18c後半	001	
第203図4	1区	SK010	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(10.2)	6.2	(4.0)	-	有田 型紙摺り 雨降文 二次被熱	1670～1690	018	
第203図5	1区	SK010	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	13.0	5.9	6.3	-	菊花文 二次被熱 有田	1690～1730	019	
第203図6	1区	SK010	瓦産磁器	染付仏指器	肥前系	(7.5)	5.0	3.8	-	容葉文 横成不良	18c前半	004	
第203図7	1区	SK010	瓦産磁器	色絵置物小	肥前系	-	6.6+0	(4.8)	-	鳥籠型 網目文 二次被熱 空押成形	18c第2・第3の半期	005	
第203図8	1区	SK010	瓦産磁器	染付瓶	肥前系	-	23.3+0	7.0	-	二次被熱 有田 縁野・吉田黒辺	17c後半	006	
第203図9	1区	SK010	瓦産陶器	鉢	肥前系	15.4	6.1	6.0	-	多久 二次被熱 浮瑠宛形 被熱に2彩粉赤色 玉縁口縁	18c前半	007	
第203図10	1区	SK010	瓦産陶器	壺	肥前系	(8.6)	13.2	7.4	-	内外面露胎即灰又付着 鉄成直か 二次被熱	17c中頃～後半	008	
第203図11	1区	SK010	瓦産陶器	振花入	備前系	16.0	15.6	5.7	-	縁周か 二次被熱	18c前後	009	
第203図12	1区	SK010	土製品	土壺		9.9+0	18.9+0	3.2	-	小髷痕有		010	
第203図13	1区	SK010	土製品	土壺		13.6+0	13.5+0	5.0	-	被熱 小髷痕有 角部分		014	
第203図14	1区	SK010	土製品	土壺		19.9+0	16.4+0	5.1	-	小髷痕有 二次被熱 灰化して片残存		016	
第203図20	1区	SK010-SK015	瓦産磁器	青磁瓶	肥前系	9.4	17.4	5.9	-	二次被熱 1区S015と接合	1690～18c前半	020	
第204図1	1区	SK015	瓦産磁器	白磁缸皿	肥前系	4.2	1.5	1.6	-	空押成形形 二次被熱	18c代	037	
第204図2	1区	SK015	瓦産磁器	色絵小杯	肥前系	(5.0)	2.4	(1.9)	-	花卉文 1/2残存		036	
第204図3	1区	SK015	瓦産磁器	白磁小杯	肥前系	(5.9)	2.2	2.9	-	二次被熱		008	
第204図4	1区	SK015	瓦産磁器	白磁小碗	肥前系	(7.2)	2.6	3.4	-	二次被熱		004	
第204図5	1区	SK015	瓦産磁器	染付手塩皿	肥前系	(5.0)	1.6	(3.0)	-	見込手書き五弁花 底面に付着物有 二次被熱	1690	009	

第12表 1・2区 土器・陶磁器類観察表2

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J2復元数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	高さ 最大径	底径 最大径	片厚 最大径				
第26406	1区	SK015	国産磁器	白磁小皿	肥前系	(130)	3.7	7.8	-	梅花皿 二次被熱 2/3残存	17c末~18c初頭		035
第26407	1区	SK015	国産磁器	白磁小皿	肥前系	14.5	4.4	7.5	-	梅花 口縁 二次被熱 内面に付着物有 高台内目跡	1680~1710		007
第26408	1区	SK015	国産磁器	染付皿	肥前系	19.5	4.1	7.6	-	初階伊万里 高台に砂付着二次被熱 ぼぼ完形	1630~1640		003
第26409	1区	SK015	国産磁器	染付盃	肥前系	(98)	2.5+0	-	-	丸文 二次被熱 1/2残存 高台内「大明年製」	1690~1740		036
第26410	1区	SK015	国産磁器	染付猪口	肥前系	(66)	5.2	(3.5)	-	二次被熱	1660~1680		010
第26411	1区	SK015	国産磁器	染付小碗	肥前系	7.6	4.2	(3.2)	-	ぼぼ完形 二次被熱			001
第26412	1区	SK015	国産磁器	染付碗	肥前系	11.0	6.2	4.8	-	梅樹文 G6わんか碗 二次被熱 3/4残存	18c後半		033
第26413	1区	SK015	国産磁器	青磁碗	肥前系	(116)	6.2	5.0	-	二次被熱	17c末~18c初頭		002
第26414	1区	SK015	国産磁器	染付鉢	肥前系	22.4	7.4	9.4	-	松竹梅文 有田 二次被熱 高台内「大明年製」	1690~1710		011
第26415	1区	SK015	国産磁器	色絵唾壺	肥前系	(18.4)	9.4	6.1	-	二次被熱 柿右衛門様式 SK015 ROO&RO18が接合	1680~1700		008
第26416	1区	SK015	国産磁器	青磁火入	肥前系	7.6	7.9	6.0	-	二次被熱 3/4残存 口縁部歪み有			015
第26417	1区	SK015	国産磁器	青磁火入	肥前系	9.3	4.9	5.2	-	完形			014
第26418	1区	SK015	国産磁器	白磁火入	肥前系	11.4	7.8~8.1	8.2	-	ぼぼ完形 二次被熱 蛇ノ目凹高台	1730~1740		017
第26419	1区	SK015	国産磁器	青磁小香炉	肥前系	(88)	4.8	(6.1)	-	三足 脚部1/5所残存			013
第26420	1区	SK015	国産磁器	青磁茶入	肥前系	2.8	7.7	3.6	-	瓜型 二次被熱 3/4残存 基部歪み 蓋入有			020
第26421	1区	SK015	国産磁器	染付合子	肥前系	7.7	2.3	5.4	-	二次被熱 蓋・子地 有田	1655~1660		012
第26422	1区	SK015	国産磁器	染付瓶	肥前系	-	8.2+0	5.5	-	青松文 2/3残存	18c前半		018
第26423	1区	SK015	国産磁器	染付瓶	肥前系	6.9	11.7	5.5	-	3/4残存 二次被熱 燒成不良	17c末~18c初頭		019
第26501	1区	SK015	国産陶器	皿	肥前系	(13.2)	4.5	(4.9)	-	青徳風陶器 色絵 1/4残存 二次被熱	1680~1690		042
第26502	1区	SK015	国産陶器	小碗	肥前系	4.9	3.0	2.8	-	経反趾 完形	17c末~18c初頭		043
第26503	1区	SK015	国産陶器	小碗	肥前系	(96)	6.5	(3.6)	-	刷毛目 1/4残存 裏付に付着物有	18c前半		021
第26504	1区	SK015	国産陶器	碗	関西系	10.8	6.4	3.9	-	梅樹文 足込目跡3箇所 二次被熱	18c中頃		040
第26505	1区	SK015	国産陶器	碗	肥前系	(11.6)	7.3	(5.0)	-	陶胎染付 唐草文 二次被熱 1/4残存	18c前半		039
第26506	1区	SK015	国産陶器	碗	関西系	10.4	5.3	3.7	-	3/4残存 外面基部欠付着 二次被熱	18c中頃		041
第26507	1区	SK015	国産陶器	火入	肥前系	10.4	7.4	6.0	-	陶胎染付 羅漢文 二次被熱 1/2残存	18c前半		044
第26508	1区	SK015	国産陶器	鉢	肥前系	(30.4)	7.7+0	-	-	刷毛目 二次被熱 1/4残存	17c後半~18c前半		022
第26509	1区	SK015	国産陶器	片口鉢	肥前系	(22.4)	11.5	(9.6)	-	刷毛目 2/5残存 二次被熱	17c後半~18c前半		023
第26510	1区	SK015	国産陶器	油受皿	備前	11.4	2.4	5.0	-	欠欠付着 ぼぼ完形 穿孔2カ所あり			045
第26511	1区	SK015	国産陶器	油壺	肥前系	-	10.4+0	-	-	1/3残存 穿孔1カ所有			046
第26512	1区	SK015	国産陶器	火鉢か	肥前系	5.1	2.9	0.4	-	取手か			024
第26513	1区	SK015	土師器	皿	在地	9.2	1.95	4.7	-	ぼぼ完形 小皿h			047
第26514	1区	SK015	土師器	皿	在地	10.0	2.3	5.3	-	小皿h 欠欠付着 3/4残存			048
第26515	1区	SK015	土師器	皿	在地	10.2	1.9	6.0	-	小皿h ぼぼ完形 穿孔あり			049
第26516	1区	SK015	土製品	土壺		12.9	14.3	3.3	-	小甕底有			026
第26517	1区	SK015	土製品	土壺		12.2	10.8	3.6	-	小甕底有 縁底有			027
第26518	1区	SK015	土製品	土壺		10.5	10.0	4.9	-	二次被熱			028

第13表 1・2区 土器・陶磁器類観察表3

調査番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分類	時期	H番号
						口径 最大長	底径 最大長	高さ 最大長	片厚 最大長				
第265図19	1区	SK015	土製品	土壁		20.7	18.9	5.4	-	小舞痕有 二次被熱			031
第266図8	1区	SK020	国産磁器	染付小碗	肥前系	(8.0)	3.4+0	-	-	1/8残存 梵字文	1780~1820		013
第266図9	1区	SK020	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.2)	5.1	4.2	-	くらわんか碗 1/3残存	18c後半~19c初頭		012
第266図10	1区	SK020	国産磁器	染付灰濁し	肥前	6.8	7.5	6.2	-	青濁波・宝文 ほぼ完成形 染付 二次被熱	18c後半頃		004
第266図11	1区	SK020	国産陶器	壺	瀬戸美濃	(5.4)	10.0	(3.1)	-	耳2ヶ所 3/4残存 二次被熱	18c代か		005
第266図12	1区	SK020	国産陶器	瓶	肥前系	-	16.8+0	(7.1)	-	2/3残存 二次被熱 口縁 鉄線 胴部銀毛目	18c前半~中頃		001
第266図13	1区	SK020	国産陶器	土瓶	関西系	(7.5)	10.5	(7.8)	-	3/4残存 二次被熱	18c代か		006
第267図1	1区	SK020	国産陶器	壺	肥前系	36.5	46.4	21.0	-	浮文3ヶ所 4/5残存 椅子 目タキ	17c前半		011
第267図2	1区	SK020	土師器	小皿	在 地	7.4	1.5	4.1	-	小皿b 完成形			008
第267図3	1区	SK020	土師器	皿	在 地	9.2	1.6	5.7	-	小皿b ほぼ完成形			007
第267図4	1区	SK020	土師質土器	壺	関西系	(8.2)	1.4	(9.8)	-	深草系 無熱 SK020R002 の蓋 白土練り込み	18c後半~19c初頭		014
第267図5	1区	SK020	土師質土器	火入	関西系	(10.3)	9.0	(10.1)	-	深草系 2/3残存 無熱 未 完成品 白土練り込み	18c後半~19c初頭		002
第267図6	1区	SK020	土師質土器	華瓶か		-	3.5+0	-	-	スタンプ文	18c末か		003
第267図7	1区	SK020	土製品	人形	関西系	5.7+0	4.0	2.3	-	瓶 胴部欠損 底部穿孔あ り			009
第267図9	1区	SK030	国産陶器	皿	肥前系	-	2.8+0	(5.0)	-	1/4残存 越唐津	1590~1610		001
第267図10	1区	SK030	国産陶器	壺	肥前系	-	13.3+0	-	-	1/3残存 鉄線 内面赤褐色 に黄色	17c後半~18c前半		005
第267図11	1区	SK030	土師器	皿	在 地	(13.2)	2.4+0	-	-	灯明皿 全体にスス付着 底部外面に板状圧痕あり 1/3残存			003
第267図12	1区	SK030	土師質土器	楕桶		(33.4)	5.2+0	-	-	1/10残存 外蓋スス付着	18c前半~中頃		002
第267図13	1区	SK030	土製品	土壁		10.1	7.6	2.7	-	結核 小舞痕あり			004
第268図1	2区	SK005	国産磁器	染付小杯	肥前系	-	1.1+0	(2.6)	-	高台内鉄線文字有(判読不 明) 楕桶痕有 二次被熱			003
第268図2	2区	SK005	国産磁器	染付小碗	瀬戸美濃	(9.4)	4.8	(4.0)	-	磁反碗 二次被熱	幕末頃		001
第268図3	2区	SK005	国産磁器	染付小碗	肥前系	9.4	3.3+0	-	-	人物文 磁反碗 内面に黒 色付着痕有	1820~1860		004
第268図4	2区	SK005	国産磁器	色絵段栗	肥前系	7.0	3.3	4.8	-	二次被熱 1区表土R004と セットか			005
第268図5	2区	SK005	国産磁器	染付鉢	肥前系	(12.8)	7.0	(6.6)	-	亀・猿・鶴文 香炉か 高台 透かし有 二次被熱			002
第268図6	2区	SK005	国産陶器	壺	肥前系	(31.8)	24.5+0	3.8	-	内外面椅子目状の叩き後、 ゴコナデ	18c~19c		006
第268図7	2区	SK010	国産磁器	染付壺	肥前系	7.8	10.0	6.6	-	高草 胴部流文 墨付砂付 壺 二次被熱 動脈方置	1630~1640		001
第268図8	2区	SK010	国産磁器	蟹罎	肥前系	13.4	3.85	13.0	-	草葉文 二次被熱	17c後半~18c前半		004
第268図9	2区	SK010	国産陶器	香炉	肥前系	-	3.9+0	4.8	-	三足	17c前半頃		007
第268図10	2区	SK010	国産陶器	火入	備前系	(13.6)	7.0	13.0	-	二次被熱 縁間か サヤか			005
第268図11	2区	SK010	国産陶器	壺	備前	(10.2)	(31.5)	(10.8)	-	内面ナ字 耳付き			006
第268図12	2区	SK010	土師器	皿	在 地	(9.6)	1.8	5.0	-	小皿b 残存1/2			008
第268図13	2区	SK010	土製品	土壁		15.3	-	3.0	-	小舞痕有			009
第268図14	1区+2区	SK010+1区 SK010	国産磁器	染付小碗	肥前系	8.0	5.6	3.4	-	唐草文 尾込五弁花 高台 内陶傷 二次被熱 透み込	1740~1780		010
第268図15	1区+2区	SK010+1区 SK010	国産磁器	色絵小碗	肥前系	9.8	4.8	4.0	-	口紅 二次被熱 有田	18c前半		002
第268図16	2区	SK010	国産磁器	染付蓋付鉢	肥前系	(3.7)	1.3	-	-	朱紫文 2区SK010 R003の 表蓋	18c後半		011
第268図17	1区+2区	SK010+1区 SK010	国産磁器	染付蓋付鉢	肥前系	4.2	1.7	3.4	-	朱紫文 二次被熱 内面付 着物有 1区SK010と接合	18c後半		003

第14表 1・2区 土器・陶磁器類観察表4

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J2値取数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径				
第269図1	2区	SK025	国産磁器	染付小皿	肥前系	(12.2)	3.3	(6.5)	-	黒文 口紅	17c後半		013
第269図2	2区	SK025	国産磁器	染付皿	肥前系	20.2	3.8	(7.3)	-	山水文 初期伊万里 二次被熱 1区S197と接合	1630~1650		015
第269図3	2区	SK025	国産磁器	染付猪口	肥前系	(9.0)	5.2+0	-	-	黒文	16c中頃		001
第269図4	2区	SK025	国産磁器	染付茶巾	肥前系	(3.8)	3.0	(3.6)	-	黄里山水文 2ニチュア 二次被熱			002
第269図5	2区	SK025	国産磁器	色紙瓶	肥前系	-	14.0+0	-	-	有田 梅花沢湯文 二次被熱	1655~1660		003
第269図6	2区	SK025	国産陶器	盥	肥前系	(10.8)	2.2	-	-	陶胎染付	17c後半~18c前半		014
第269図7	2区	SK025	国産陶器	燗鉢	肥前系	23.8	11.0	8.5	-	片口	17c後半		006
第269図8	2区	SK025	国産陶器	燗鉢	肥前系	25.2	10.6	10.8	-	片口 注口彫文	17c後半		004
第269図9	2区	SK025	国産陶器	壺	瀬戸美濃	(8.0)	4.2+0	-	-	二次被熱 叩き痕有 湯蓋か			011
第269図10	2区	SK025	土師器	小皿	在地	7.2	1.45	5.3	-	小皿b 黒変			008
第269図11	2区	SK025	土師器	小皿	在地	(8.0)	1.5	(6.4)	-	小皿b			009
第269図12	2区	SK025	土師器	小皿	在地	8.6	1.7	3.5	-	小皿b スス付着			007
第269図13	2区	SK025	土師器	杯	在地	(9.6)	1.95	(4.9)	-	小皿b 黒変			010
第269図14	2区	SK025	土師質土器	罌	在地	-	7.8+0	-	-	口縁部のみ			012
第270図1	2区	SK045	国産磁器	染付小碗	瀬戸美濃	(9.8)	5.2	(4.4)	-	襷反碗 花卉文	1820~1880		001
第270図2	2区	SK045	国産磁器	染付小皿	肥前系	12.8	3.2	4.1	-	見込み蛇/目輪刺ぎ 二次被熱	17c後半		007
第270図3	2区	SK045	国産磁器	染付皿	肥前系	(21.2)	4.6	(12.6)	-	見込み五弁花 有田 二次被熱 高台内「富貴長寿」	17c後半~18c前半		002
第270図4	2区	SK045	国産磁器	染付皿	肥前系	27.2	8.8	12.0	-	見込み山水文 梅花 高台内角飾 二次被熱	16c前半~中頃		005
第270図5	2区	SK045	国産磁器	染付大皿	肥前系	30.6	5.4	17.7	-	牡丹文 八ノ原5分所 高台内「大明成化年製」 二次被熱	17c後半~18c前半		004
第270図6	2区	SK045	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.0)	5.9	4.6	-	丸碗 雷持管・梅文	18c前半~中頃		006
第271図1	2区	SK045	国産磁器	染付鉢	肥前系	23.5	9.9	-	-	松竹梅文 二次被熱	18c中頃~後半		003
第271図2	2区	SK045	国産陶器	片口鉢	肥前系	20.0	8.8	7.2	-	見込み蛇/目輪刺ぎ	16c前半~中頃		008
第271図4	2区	SK045-SK055 土	国産陶器	燗鉢	肥前系	35.2	15.6	16.8	-		18c代		001
第271図5	2区+3区	2区 S045+3区 S683	国産磁器	染付鉢	肥前系	(16.8)	7.7	(8.0)	-	蛇の目凹型高台 外側面七宝文 内面松竹梅文	19c前半		001
第279図1	1区	SK025	国産磁器	染付碗	肥前系	(7.8)	5.9	(3.5)	-	菊花文 筒型碗 1/4残存	1780~1810		001
第279図2	1区	SK025	国産磁器	染付碗	肥前系	(9.0)	5.9+0	-	-	筒型碗 外青磁 1/4残存	18c後半		002
第279図3	1区	SK025 3層	国産陶器	燗鉢	肥前系	-	5.4+0	-	-	1/10残存	18c代		001
第279図5	1区	SK052	国産磁器	染付小碗	肥前系	7.6	8.0	3.6	-	芭蕉文 2/3残存	18c後半~19c前半		001
第279図6	1区	SK052	国産磁器	染付盥	肥前系	(10.0)	2.1	(5.9)	-	瓜皮胡蘆 七宝装ぎ文 1/4残存 二次被熱	1780~1810		008
第279図7	1区	SK052	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.8)	3.9+0	-	-	襷反碗 七宝装ぎ・花卉文 1/3残存	1820~1860		007
第279図8	1区	SK052	国産陶器	壺	瀬西系少	(7.4)	10.5	6.7	-	2/3残存	江戸後期		002
第279図9	1区	SK052	瓦質土器	火鉢		(15.6)	5.7+0	-	-	口縁のみ			003
第279図13	1区	SK052 黒色土	国産磁器	染付鉢	肥前系	-	4.8+0	(4.8)	-	襷反碗 1/4	1820~1860		001
第279図14	1区	SK052 黒色土	国産磁器	染付仏蘭器	肥前系	(6.6)	6.1	4.0	-	半菊文 2/3残存 焼成不良	18c後半頃		003
第280図1	1区	SK067	国産磁器	白磁2ニチュア碗	肥前系	-	1.3+0	1.9	-	1/2残存			014
第280図2	1区	SK067	国産磁器	染付小碗	肥前系	(6.7)	4.2	(3.0)	-	竹葉文 高台に砂付着 1/4残存	1880~1740		002

第15表 1・2区 土器・陶磁器類観察表5

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分類	時期	H番号
						口径・ 最大径	最大 高さ	口径・ 最大径	口径・ 最大径				
第280図3	1区	SK067	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.0)	3.6+0	-	-	外青磁 口縁部のみ	18c中頃～後半		013
第280図4	1区	SK067	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.7)	5.9	(4.8)	-	内面に鉄分付着 1/5残存	18c中頃		001
第280図5	1区	SK067	国産陶器	火入	関西系	(10.0)	7.7	8.6	-	梅花 松原文 二次被熱 1/3残存			003
第280図6	1区	SK067	国産陶器	碗か	産地不明	-	4.0+0	(6.0)	-	新舞台 切り欠き1カ所残存 底部のみ残存			006
第280図7	1区	SK067	土師質土器	火鉢		[30.6]	12.9	(22.8)	-	榎木鉢に転用か 底部穿孔 あり 脚1カ所残存 1/4残 存			004
第280図15	1区	SK087 1層	国産陶器	碗	肥前系	(10.3)	4.1+0	-	-	京焼風陶器か 1/5残存	18c前半		001
第280図16	1区	SK087 2層	国産磁器	染付皿	肥前系	-	2.0+0	5.8	-	1/2残存 梅花か	1600～1740		001
第280図17	1区	SK087 2層	国産陶器	碗	肥前系	(9.6)	6.2	(4.8)	-	白銅毛目 1/2残存	11c末～18c中頃		002
第281図1	1区	SK069	国産磁器	染付皿	肥前系	-	2.6+0	(14.0)	-	梅花か 目跡2ヶ所残存 1/3残存 有田 南川原 型 打成形 山木文	1720～1760頃		001
第281図2	1区	SK069	国産磁器	急須	関西系	7.4	1.8	-	-	裾「登山道」か 完形	19c代		020
第281図3	1区	SK069	国産磁器	急須	関西系	8.0	4.5	5.0	-	泡瓶 ほぼ完形	19c代		005
第281図4	1区	SK069	国産磁器	染付段重	肥前系	12.1	6.2	8.9	-	唐草文 4/5残存 有田	1780～19c前半		004
第281図5	1区	SK069	国産陶器	皿	関西系	15.4	5.2	7.2	-	梅花温 湯内焼 二次被熱 ほぼ完形	江戸後編		006
第281図6	1区	SK069	国産陶器	壺	福岡	-	9.3+0	4.6	-	胎壺 上野焼 2/3残存			007
第281図7	1区	SK069	国産陶器	急須	関西系	5.3	7.6	5.4	-	3/4残存			006
第281図8	1区	SK069	国産陶器	茶割	不明	16.3	6.7	0.5	-	散貨油輪陶器 鉢文 文様 (型)有 ス付着か 4/5残 存			010
第281図9	1区	SK069	瓦質土器	火消番蓋		(23.6)	2.9	4.4	-	1/3残存			017
第281図10	1区	SK069	瓦質土器	火鉢か		32.4	4.6+0	-	-	裾有「大橋上」口縁のみ			019
第281図11	1区	SK069	瓦質土器	火鉢	在池	(17.8)	9.2	15.0	-	3/4残存			013
第282図1	1区	SK069	瓦質土器	燈伊		20.5	19.3	(17.5)	-	2/3残存 菊文刻印			018
第282図2	1区	SK069	瓦質土器	火消壺		17.7	24.1	(19.8)	-				002
第283図1	1区	SK114	国産磁器	染付手塩皿	肥前系	(10.2)	2.2	5.0	-	1/2残存	18c後半		001
第283図2	1区	SK114	国産磁器	染付皿	肥前系	10.4	2.8	4.5	-	菊葉文 ほぼ完形 望料型	18c後半		003
第283図3	1区	SK114	国産磁器	染付皿	肥前系	10.7	2.1	4.6	-	外青磁 つまみに付着物 あり 1/2残存 望料型	18c後半		002
第283図4	1区	SK114	国産磁器	染付碗	肥前系	-	2.4+0	-	-	湯瓶 底部のみ 有田	18c前半		007
第283図5	1区	SK114	国産磁器	染付小碗	肥前系	(9.2)	5.5	(3.4)	-	松窓文 1/2残存 焼成不 良	18c後半		004
第283図6	1区	SK114	国産磁器	色絵人形	肥前系	6.4+0	7.0+0	4.6+0	-	皿か 穿孔1カ所あり 安牌 成形 有田	11c末～18c前半		005
第283図7	1区	SK114	国産陶器	碗	肥前系	-	5.4+0	-	-	陶胎染付 山木文	11c末～18c初頃		006
第283図9	1区	SK114 2層	土師質土器	皿	在池	6.3	1.4	2.5	-	小皿か 灯明皿 穿孔1カ所 あり 3/4残存			001
第283図10	1区	SK114 2層	土製品	人形		5.4+0	5.1+0	2.1	-	魚			002
第283図11	1区	SK139	国産磁器	染付樋口	肥前系	(7.4)	5.2	(4.6)	-	紅葉文 1/3残存			003
第283図12	1区	SK139	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.2)	6.2	(6.2)	-	広葉文 1/6残存	1780～1810		001
第283図13	1区	SK139	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.0)	5.9	(5.8)	-	広葉文 1/3残存	1780～1810		002
第283図14	1区	SK139	国産陶器	燗鉢	堺	(24.6)	9.7	(7.8)	-	1/10残存			004
第283図15	1区	SK139	国産陶器	燗鉢	肥前系	(29.2)	12.2	(12.4)	-	1/5残存	11c後半～18c初頃		005

第16表 1・2区 土器・陶磁器類観察表6

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm)×J2復元数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	口径 最大径				
第263図16	1区	SK139	瓦質土器	火消壺	肥前系	(19.2)	11.3+α	-	-	口縁部片			006
第264図1	1区	SK148	国産磁器	染付紅橋口	肥前系	6.3	2.3	2.8	-	竹葉文 ほぼ完形	18c代		001
第264図2	1区	SK148	国産磁器	染付皿	肥前系	-	1.3+α	-	-	初期伊万里 吹雪 小片	1630~1640		002
第264図3	1区	SK148	国産磁器	染付小碗	肥前系	(6.4)	4.9	3.5	-	横線文 1/3残存			009
第264図4	1区	SK148	国産陶器	碗	肥前系	9.2	5.6	5.0	-	赤焼風陶器 山水文 刻印 にスス付着 1/2残存	17c後半		004
第264図5	1区	SK148	国産陶器	碗	肥前系	11.2	7.3	4.8	-	呉漆手 2/3残存 蓋のみ有	17c末~18c中頃		003
第264図6	1区	SK148	国産陶器	碗	肥前系	(11.8)	4.3+α	-	-	陶胎染付 唐草文 1/8残存	18c前半		010
第264図7	1区	SK148	国産陶器	香炉か	瀬戸か	(8.3)	3.5	8.3	-	器部1ヶ残存 1/3残存			017
第264図8	1区	SK148	国産陶器	香炉か		-	1.9+α	-	-	台形状			008
第264図9	1区	SK148	国産陶器	磁鉢	關西系	(33.6)	7.2+α	-	-	口縁部片			005
第264図10	1区	SK148	土師質土器	燈籠		(32.4)	6.5+α	(32.2)	-	把手に穿孔1ヶ所有 外面 にスス付着 1/2残存	17c後半~18c前半		006
第264図11	1区	SK003	瓦質土器	人形か		8.7+α	4.6+α	-	-	器部			002
第264図12	1区	SK003	土師質土器	土瓶		6.9+α	3.7+α	2.8+α	-	取手のみ			001
第264図13	1区	SK003 1層	土師質土器	燈籠		-	5.4+α	-	-	口縁のみ 外面スス付着	18c後半		001
第264図14	1区	SK158	国産磁器	色絵碗	肥前系	(9.8)	5.4	3.8	-	コンニャク印判 鉄線模有 傷跡しか 1/3残存 二次被熱	17c後半~18c前半		002
第264図15	1区	SK158	国産磁器	染付碗	肥前系	(13.0)	4.1+α	-	-	広東磁 編織・柳文 口縁部 1/2残存	1780~1810		001
第264図17	1区	SK158 3層	国産磁器	染付蓋	肥前系	(8.4)	2.2+α	-	-	七宝繋ぎ文 SK158(3層) FK01の蓋 二次被熱	1820~1880		002
第264図18	1区	SK158 3層	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.4)	5.5+α	-	-	横反刺 七宝繋ぎ・花卉文 1/3残存 二次被熱	1820~1880		001
第264図19	1区	SK158 3層	国産陶器	灯火具	關西系か	(4.6)	3.1	(4.6)	-	受け部焼(7.6) 1/4残存			003
第265図1	2区+3区	2区SK015+3区SK055	国産磁器	色絵鉢	肥前系	(10.0)	5.7+α	-	-	有田 八角 3区5013同一 器体微小	17c末~18c前半		001
第265図2	2区	SK030	国産磁器	染付手帳皿	肥前系	8.8	2.8	4.8	-	四方囀に草文 完形 焼成 不良 二次被熱	1660~1670		002
第265図3	2区	SK030	国産磁器	染付小碗	肥前系	(9.6)	4.55	(3.6)	-	松竹梅文	1710~1750		001
第265図4	2区	SK030	国産磁器	染付瓶	肥前系	-	17.5+α	9.0	-	蟹文	17c中頃		003
第265図5	2区	SK030	国産陶器	皿	肥前系	20.0	7.8	7.6	-	梅花 ほぼ完形 黒毛目	18c中頃~後半		005
第265図6	2区	SK030	国産陶器	碗	關西系	9.6	5.7	2.9	-	丸碗 色絵竹葉文 ほぼ完形	18c中頃~後半		007
第265図7	2区	SK030	国産陶器	碗	肥前系	(10.6)	6.6	(5.0)	-	横線反刺	1610~1650		004
第265図8	2区	SK030	国産陶器	火入	瀬戸か	(13.0)	9.2	7.2	-	鉄絵蘭文	17c後半~18c代		006
第265図9	2区	SK030	土師器	小皿	在地	7.0	2.0	4.0	-	小皿C 裏面			008
第265図12	2区	SK030 下層	国産磁器	白磁紅皿	肥前系	4.8	1.5	1.4	-	型押し成形	18c代		004
第265図13	2区	SK030 下層	国産磁器	染付紅橋口	肥前系	(6.4)	2.5	(3.2)	-	竹葉文 缸付蓋	18c後半		003
第265図14	2区	SK030 下層	国産磁器	瑠璃軸皿	肥前系	(14.2)	5.2	7.7	-	梅花 型押し成形 有田 産黒山 小香	18c後半頃		006
第265図15	2区	SK030 下層	国産磁器	染付小皿	肥前系	(12.6)	3.8	7.0	-	菊・草文 コンニャク印判 高台内(天明年製)	18c前半~中頃		002
第265図16	2区	SK030 下層	国産磁器	染付蓋	肥前系	(10.2)	2.4+α	-	-	養付鉢蓋 唐草文			005
第265図17	2区	SK030 下層	国産磁器	染付小碗	肥前系	9.4	5.7	3.9	-	丸碗 昏・管輪文 ほぼ完形	1740~1780		001
第265図18	2区	SK030 下層	国産陶器	皿	肥前系	13.0	5.1	4.6	-	赤焼風陶器 山水文 4客	18c前半		006
第265図19	2区	SK030 下層	国産磁器	蓋か	關西系	-	2.7	5.0	-	高台内刻印有 赤焼 茶筒 か	18c前後		011

第17表 1・2区 土器・陶磁器類観察表7

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)		H(%)		備考	分類	時期	H番号
						口径 最大長	最大 幅	底径 最大深	片厚 最大値				
第286図1	2区	SK030 下層	甕産陶器	碗	肥前系	(10.0)	7.3	(5.0)	-	陶胎染付 山水文か	17c後半～18c前半	010	
第286図2	2区	SK030 下層	甕産陶器	碗	肥前系	(12.6)	6.6	(4.6)	-	裏付に砂付着	1690～1780	007	
第286図3	2区	SK030 下層	瓦質土器	灯火具	-	-	3.8	8.4	-	-	-	012	
第286図4	2区	SK030 下層	土師質土器	火鉢	-	-	7.0+	-	-	外面スタンブ文 煤付着	-	013	
第286図7	2区	SK035	甕産磁器	色絵小碗	肥前系	(8.0)	4.0	(2.6)	-	丸碗 丸・花卉文	18c代	002	
第286図8	2区	SK035	甕産磁器	色絵碗	肥前系	10.7	6.5	5.3	-	天目型 草花文	18c代	003	
第286図9	2区	SK035	甕産磁器	染付碗	肥前系	(8.7)	5.7	(6.2)	-	外青磁 簡型碗 蓋み有	18c後半	001	
第286図10	2区	SK035	甕産陶器	皿	肥前系	(21.0)	6.3	6.9	-	二彩手	17c末～18c中頃	006	
第286図11	2区	SK035	甕産陶器	台付皿	肥前系	(20.0)	9.0	8.4	-	紅葉文 菖蒲蒔絵に台座貼 り付け 見込み絵/目録割 ぎ	18c前半	005	
第286図12	2区	SK035	甕産陶器	台付皿	肥前系	20.4	8.6	8.8	-	草花文 菖蒲蒔絵に台座貼 り付け 見込み絵/目録割 ぎ	18c前半	004	
第287図4	2区	SK062	甕産磁器	染付皿	肥前系	-	2.4+	(17.6)	-	緑文 目録あり(5ヶ所)	-	008	
第287図5	2区	SK062	甕産磁器	染付小碗	肥前系	7.2	3.6	2.6	-	内裏紅付着 コンニャク印 判	18c前半～中頃	005	
第287図6	2区	SK062	甕産磁器	小碗	肥前系	6.8	5.6	3.6	-	縁軸	-	007	
第287図7	2区	SK062	甕産磁器	染付碗	肥前系	7.2	5.5	3.6	-	簡型碗 雷持管文	1780～1810	004	
第287図8	2区	SK062	中国磁器	白磁小碗	徳化窯	8.0	4.4	3.4	-	口唇部口壳	18c中頃	020	
第287図9	2区	SK062	甕産磁器	染付碗	肥前系	(10.4)	4.7+	-	-	地反脚 花卉文	1820～1880	006	
第287図10	2区	SK062	甕産磁器	染付皿	肥前系	10.2	2.9	5.6	-	縁軸文 SK062P001の蓋	1780～1810	002	
第287図11	2区	SK062	甕産磁器	染付碗	肥前系	(11.4)	6.1	6.4	-	広葉碗	1780～1810	001	
第287図12	2区	SK062	甕産陶器	小碗	関西系	9.4	5.1	3.2	-	小形碗 3/4残存 二次被 胎	18c後半～	022	
第287図13	2区	SK062	甕産陶器	燈鉢	産地不明	41.8～ 42.3	17.2	15.7	-	断面単位13枚	-	013	
第288図1	2区	SK062	甕産陶器	火入	関西系	(9.6)	7.8	(6.8)	-	瓜型	-	023	
第288図2	2区	SK062	甕産陶器	火入か	産地不明	-	5.2+	10.6	-	底部外面に遺着あり 見込 み脚にトナリ跡	-	010	
第288図3	2区	SK062	甕産陶器	火入	関西系	(12.2)	8.4	(10.0)	-	黒褐色 外面積	江戸後期	024	
第288図4	2区	SK062	甕産陶器	土瓶	関西系	(10.2)	12.0	8.0	-	底部から断面に黒着あり	-	009	
第288図5	2区	SK062	甕産陶器	人形台座か	産地不明	3.8	2.4	1.9	-	断面に黒着「ア」	-	014	
第288図6	2区	SK062	瓦質土器	燈檠	-	(36.4)	7.1+	-	-	-	19c代	003	
第288図7	2区	SK062	瓦質土器	火鉢	-	-	16.9+	(18.0)	-	穿孔あり(4ヶ所) 底部刻 印あり「喜」	-	017	
第288図8	2区	SK062	瓦質土器	不明器種	-	9.4+	6.7+	6.4+	-	穿孔あり	-	015	
第289図1	2区	SK062	土師質土器	燈炉	-	21.8	21.6	17.6	-	方形 上面ス入付着	19c前～中	012	
第289図2	2区	SK062	土師質土器	燈炉	-	21.8	22.2	22.6	-	円形	-	016	
第289図3	2区	SK062	土製品	人形	-	7.9+	9.7+	6.4	-	-	-	019	
第289図6	2区・3区	2区SK027・3区SK094	甕産陶器	鉢	肥前系	(19.2)	8.7	10.6	-	八角 縁反脚 側面彫刻人 物文 土野絵か	-	001	
第290図1	2区	SK122	甕産磁器	染付小皿	肥前系	13.7	3.2	8.6	-	半着文 縁成不良 黒着「ツ イ」 蛇/目録割高台	18c後半～19c前期	003	
第290図2	2区	SK122	甕産磁器	染付皿	肥前系	20.2	3.1	13.8	-	柄・風流文 裏台内目録3ヶ 所 二次被胎	17c後半～18c中頃	004	
第290図3	2区	SK122	甕産磁器	染付皿	肥前系	28.8	5.2	17.6	-	青磁染付 菊花 裏台内 「大明成化年製」目録4ヶ 所	18c代	005	

第18表 1・2区 土器・陶磁器類観察表8

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J22規定数値				備考	分類 時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	丸形 底径φ			
第29004	2区	SK122	国産磁器	染付蓋	肥前系	100	2.4	6.0	-	広東磁器 稲葉文 二次被焼	1780~1810	015
第29005	2区	SK122	国産磁器	白磁ミニチュア碗	肥前系	23	1.1	0.9	-	型押し成形		007
第29006	2区	SK122	国産磁器	染付小碗	瀬戸美濃	92	5.2	3.7	-	唐草文	19c前半~幕末	006
第29007	2区	SK122	国産磁器	染付碗	肥前系	11.6	6.2	4.6	-	丸網 松葉文 見込み五弁花	18c中頃~後半	001
第29008	2区	SK122	国産磁器	染付碗	肥前系	-	6.0+0	4.9	-	種子 高台に砂付蓋 初瀬伊万里	1610~1630	002
第29009	2区	SK122	国産磁器	色絵鉢	肥前系	-	6.9+0	(9.0)	-	外面色絵 内面染付	18c後半~19c代	014
第29010	2区	SK122	国産陶器	小碗	關西系	9.4	5.8	3.4	-	磁友型	18c後半~	016
第29011	2区	SK122	国産陶器	向付	志野 (12.0)	7.3	(8.0)	-	-		16c末	018
第29012	2区	SK122	国産陶器	磁鉢	肥前系 (37.4)	16.9	14.6	-	-	玉縁口縁	17c後半	010
第29101	2区	SK122	国産陶器	火入	關西系	11.2	9.3	10.8	-	京焼 銘「朝光山」 意書有	19c代	008
第29102	2区	SK122	国産陶器	火入か	關西系	-	4.7+0	6.6	-	意書「イノ」 瓜形		011
第29103	2区	SK122	国産陶器	脚部	瀬戸か	-	3.4+0	-	-			009
第29104	2区	SK122	土師質土器	焼塔		(32.8)	4.8+0	-	-	口縁部のみ 穿孔あり		017
第29201	1区	SX072	土師質土器	甕		-	5.8+0	-	-	口縁のみ		001
第29202	1区	SX093 1層	国産磁器	染付虹猪口	肥前系 (9.9)	4.2	(3.4)	-	-	「大坂前町お昏紅」1/3残存 裏付に付着物あり	18c後半~19c中頃	007
第29203	1区	SX093 1層	国産磁器	小坏	瀬戸美濃	7.4	3.6	2.8	-	コノハト ほぼ完形 金彩	明治以降	004
第29204	1区	SX093 1層	国産磁器	色絵猪口	瀬戸美濃	6.6	3.0	3.2	-	梅樹文 徳継文字あり 3/4残存	近代	010
第29205	1区	SX093 1層	国産磁器	染付蓋	肥前系 (9.0)	2.8	(4.0)	-	-	磁友破蓋 1/3残存	1820~1860	001
第29206	1区	SX093 1層	国産磁器	染付蓋	瀬戸美濃	9.8	2.7	(3.4)	-	磁友破蓋 SX093 1層R003とセット ほぼ完形	1820~1860	002
第29207	1区	SX093 1層	国産磁器	染付碗	瀬戸美濃 (11.7)	5.3+0	-	-	-	磁友碗 SX093 1層R002とセット 1/3残存 徳継文あり	1820~1860	003
第29208	1区	SX093 1層	国産磁器	染付小碗	肥前系 (9.6)	5.4	4.0	-	-	磁友碗 1/2残存	1820~1860	009
第29209	1区	SX093 1層	国産磁器	染付小碗	肥前系 (9.9)	3.7+0	-	-	-	丸網 徳継文あり 1/3残存	1820~1860	008
第29210	1区	SX093 1層	国産陶器	水指	九州	7.1	6.4	6.6	-	1/3残存	18c~	005
第29211	1区	SX093 1層	瓦質土器	浅型火鉢		(17.7)	3.6	-	-	内外面にスチ付着		006
第29212	1区	SX093	国産陶器	大甕		-	66.7+0	28.8	-	水甕か 2/3残存		001
第29213	1区	SX093外	国産陶器	鉢	肥前系	-	7.0+0	-	-	網6目	17c後半~18c前半	001
第29301	1区	S211	国産陶器	皿	關西系	-	1.6+0	(6.0)	-	道部のみ	18c代	003
第29302	1区	S211	土師質土器	甕		-	19.0+0	19.6	-	堆積物有 遼に前。鉄製品付着 内外面に付着物有 1/3残存		002
第29401	2区	S118	土師器	甕	在地	-	31.3+0	23.0	-			001
第29501	1区	SX040	国産陶器	鉢 鉢	肥前系 (30.0)	5.3+0	-	-	-	二部手 1/6残存 P-5	17c後半	001
第29502	1区	SX040	国産陶器	磁鉢	備前 (31.0)	12.0+0	-	-	-	1/9残存 P-9	17c代	002
第29504	1区	SX040 北西	土師質土器	焼塔		(33.8)	8.4+0	-	-	1/5残存 外面スチ付着	17c後半	001
第29505	1区	SX040 南東	国産陶器	高か鉢	肥前系 (38.0)	4.2+0	-	-	-	白化粘土	17c後半	001
第29506	1区	SX040 南西	国産磁器	黄磁半平皿か	肥前系 (8.6)	(4.5)	3.6	-	-	魚型 1/4残存 糸切細工成形	17c末~18c前半	001
第29508	1区	SX040 2層	国産磁器	色絵碗	肥前系	11.1	6.1	4.4	-	2/3残存 有田 山水文	1660~1670	001

第19表 1・2区 土器・陶磁器類観察表

調査番号	調査区	遺構番号	種別	器種	産地	法量(cm)				備考	分類	時期	H番号
						口径・最大径	最大径	底径・最大底径	片厚・最大厚				
第295図9	1区	SX040 2層	国産陶器	皿	肥前系	-	2.1+0	4.8	-	灰釉 底部のみ	1900～1810	002	
第295図10	1区	SX040 2層	土師質土器	焙烙		(96.2)	6.0+0	-	-	外蓋底部ス状溝 口径約半寸七 夕夕目	17c後半	003	
第295図11	1区	SX040 4層	国産陶器	碗	肥前系	(11.8)	6.0+0	-	-	1/5残存 呉器手取	17c後半	001	
第296図1	2区	SX050	国産陶器	染付小碗	肥前系	(8.0)	-	-	-	南陶文 口縁部のみ	16c代	001	
第296図3	2区	SX055 上層	国産陶器	染付小皿	肥前系	(14.0)	2.8	9.0	-	獅子文 目跡1ヶ所有	17c後半～18c中頃	001	
第297図1	1区	SX045	国産陶器	染付皿	肥前系	(9.8)	2.1	6.2	-	広東碗蓋 七宝繋ぎ文 SX045 4層H001とセット	1780～1810	003	
第297図2	1区	SX045	国産陶器	色絵段重蓋	肥前系	(10.2)	3.2+0	(11.4)	-	鶴・亀平文 1/2残存	16c後半～19c初頭	005	
第297図3	1区	SX045	国産陶器	染付碗	肥前系	10.6	6.1	(4.0)	-	瑞反碗 七宝繋ぎ・花卉文 二次焼物 3/4残存	1820～1860	001	
第297図4	1区	SX045	国産陶器	色絵碗	肥前系	(10.4)	4.0+0	-	-	赤絵で犬首新町管紅 1/3残存	16c後半～19c初頭	002	
第297図5	1区	SX045	国産陶器	染付仏指器	肥前系	5.9	5.9	3.7	-	1/3残存	16c後半	004	
第297図6	1区	SX045	国産陶器	小碗	関西系	8.9	4.6	2.9	-	2/3残存 裏人有 内面に付着物	16c前半	006	
第297図7	1区	SX045	国産陶器	蓋	瀬戸	-	3.6+0	(9.0)	-	灰釉	12～13c代	007	
第297図11	1区	SX045 外	国産陶器	白磁小碗	肥前系	7.1	3.1	3.0	-	ほぼ完形	16c後半	004	
第297図12	1区	SX045 外	国産陶器	染付碗	肥前系	(10.4)	5.2	(4.2)	-	瑞反碗 二次焼物 1/2残存	1820～1860年代	002	
第297図13	1区	SX045 外	国産陶器	染付碗	肥前系	(10.8)	5.8	(4.2)	-	瑞反碗 山水文 1/4残存	1820～1860年代	003	
第297図14	1区	SX045 外	国産陶器	染付碗	肥前系	11.0	6.3	6.4	-	広東碗 慈花文 二次焼物 3/4残存 蓋みあり	1780～1810年代	001	
第297図15	1区	SX045 外	国産陶器	小碗	関西系	(8.8)	5.2	(3.4)	-	小形碗 1/5残存	16c後半	005	
第297図16	1区	SX045 外	国産陶器	蓋鉢	関西系	-	6.9+0	-	-	口縁部のみ 模	16c代	006	
第297図17	1区	SX045 外	国産陶器	蓋鉢	肥前系	(33.2)	14.6	(16.2)	-	裏付に重ね積り痕 1/4残存	16c後半	007	
第297図18	1区	SX045 外	国産陶器	行平鍋	関西系	-	7.5+0	-	-	取手のみ	江戸後期	006	
第297図20	1区	SX045 4層	国産陶器	染付猪口	肥前系	(6.8)	5.7	(4.0)	-	1/3残存	16c後半	002	
第297図21	1区	SX045 4層	国産陶器	染付碗	肥前系	(11.2)	6.1	6.1	-	広東碗 七宝繋ぎ文	16c後半～19c前半	001	
第298図1	1区	SX055	国産陶器	染付小碗	肥前系	6.6	2.4	2.6	-	草文 高台に砂付蓋 完形	16c後半～19c初頭	002	
第298図2	1区	SX055	国産陶器	染付手塩皿	肥前系	(10.0)	2.6	5.1	-	2/3残存 漆継ぎか	16c後半	003	
第298図3	1区	SX055	国産陶器	染付小碗	瀬戸美濃	0.7	5.3	4.3	-	瑞反碗 1/2残存	1820～1860年代	001	
第298図4	1区	SX055	国産陶器	茶こし	関西系	-	3.3+0	5.2	-	穿孔多数	19c代	004	
第298図8	1区	SX055 2層	国産陶器	小碗	関西系	(9.6)	5.0	2.8	-	口縁部縁輪 1/4残存	19c前半	002	
第298図9	1区	SX055 2層	国産陶器	染付置付鉢	肥前系	(11.4)	6.1	(6.6)	-	1/4残存	16c前半	001	
第298図10	1区	SX055 2層	国産陶器	皿	関西系	(15.4)	4.9	(6.4)	-	折縁 色絵 1/3残存	19c代	003	
第298図11	1区	SX055 2層	国産陶器	水指か	福岡	-	6.9+0	(18.8)	-	内外面に自然釉 1/4残存 土師・高取系	17c前半	004	
第300図1	1区	SX079	国産陶器	白磁紅皿	肥前系	4.6	1.6	1.4	-	型押し成形 内面に紅付蓋痕 完形	16c前半	002	
第300図2	1区	SX079	国産陶器	染付反返し	肥前系	-	6.6+0	4.8	-	異形字 1/4残存 有田	1690～18c前半	001	
第300図3	1区	SX079	土師質土器	焙烙		(30.8)	4.7+0	-	-	口縁のみ		003	
第300図4	1区	SX079 1層	国産陶器	染付小碗	肥前系	(6.8)	5.2	(3.2)	-	面繪 1/2残存 高台端に砂付蓋 二次焼物	17c後半頃	001	
第300図5	1区	SX079 2層	国産陶器	染付碗	肥前系	(8.4)	3.4+0	-	-	面型 コニヤク印 口縁部のみ	18c前半～中頃	001	
第301図1	1区	SX087	国産陶器	染付置付鉢	肥前系	7.0	4.8	4.1	-	ほぼ完形 コニヤク印	17c末～18c初頭	002	

第20表 1・2区 土器・陶磁器類観察表10

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J2検定数値				備考	分期 時期	内番号	
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	孔径 最大径				
第301図2	1区	SX087	国産磁器	染付碗	肥前系	92	4.9	(3.7)	-	高台に付着物あり 2/3残存	1680~	001	
第301図3	1区	SX087	中国磁器	染付碗	景德鎮系	-	2.3+0	5.1	-	「大明萬曆年製」底部のみ	17c前半	003	
第301図4	1区	SX087	国産陶器	碗	肥前系 (10.8)	5.9+0	-	-	-	陶胎染付 唐草文 1/4残存	17c末~18c前半	004	
第301図5	1区	SX087 1層	国産磁器	染付小碗	肥前系 (8.5)	4.7	3.4	-	-	陶胎文 高台に砂付着 2/3残存	17c末~18c初頃	001	
第301図7	1区	SX087 2層	中国磁器	染付碗	漳州系	-	2.2+0	(4.7)	-	底部のみ 高台端に付着物あり	17c前半	001	
第301図8	1区	SX087 2層	土師質土器	燈塔	-	6.1+0	-	-	-	口縁のみ	18c前半~中頃	002	
第301図9	1区	SK085+SX087 1層	国産磁器	青磁小香炉	肥前系 (8.0)	6.6	4.4	-	-	-	17c中頃~末	001	
第302図1	1区	S004	土師質土器	埴輪蓋	関西系	8.2	2.1	8.0	-	-	-	003	
第302図2	1区	S004	土師質土器	埴輪壺	関西系	8.2	9.5	5.8	-	-	「御堂塩師 明清伊織」底部完成部欠損	17c後半~	001
第302図4	1区	S006	土製品	人形	6.3+0	5.9+0	1.4+0	-	-	腹部 肋骨痕	明治	002	
第302図6	1区	S007	国産磁器	染付小碗	肥前系	7.2	4.9	3.4	-	-	焼継文字有 編織文 二次被熱 2/3残存	005	
第302図7	1区	S007	国産磁器	染付小碗	瀬戸美濃 (8.2)	4.7	(2.9)	-	-	鉄胎陶器「紋291」 2/3残存	昭和	003	
第302図8	1区	S007	国産磁器	染付盃洗	肥前系	-	7.4+0	8.8	-	-	底部に雲ね積き痕あり 1/2残存	002	
第302図9	1区	S007	国産陶器	蓋か	-	3.9	2.9+0	2.1	-	-	4/5残存	010-1	
第302図10	1区	S007	国産陶器	蓋受けか	-	4.9	1.7	-	-	-	孔径2.4 側面に接合痕が3ヶ所有 完形	010-2	
第302図11	1区	S007	国産陶器	榎木鉢	肥前系	13.1	9.5	6.3	-	-	3/4残存	009	
第302図12	1区	S007	土製品	土鉢	-	5.1	2.2	0.55	21.3	-	完形	008	
第302図13	1区	S007	土製品	土鉢	-	5.8	2.5	1.3	32.4	-	完形	007	
第302図17	1区	S009	国産磁器	染付鉢	肥前系	-	4.3+0	(6.4)	-	-	焼継文字「東町小野」1/5残存	18c前半~中頃	002
第302図18	1区	S009	土師器	皿	在地 (10.4)	1.9	(4.8)	-	-	-	小皿 口縁部にスス付着 1/3残存 外面に塗着有	001	
第302図19	1区	S011	国産磁器	染付小皿	肥前系	11.4	1.9	6.5	-	-	焼継痕有 コバルト 完形	001	
第302図20	1区	S013	国産陶器	碗	不明 (11.3)	7.3	5.3	-	-	-	高台板「本山」1/2残存	001	
第302図21	1区	S019	国産陶器	皿	肥前系 (19.8)	5.2	(11.4)	-	-	-	1/4残存 高台打ち突きか跡も目	001	
第302図22	1区	S024	国産磁器	染付紅猪口	肥前系	9.6	4.1	3.6	-	-	完形 二次被熱「大坂新町お登紅」	18c後半~19c中頃	002
第302図23	1区	S024	国産陶器	碗	関西系 (8.0)	4.3	(2.8)	-	-	-	1/2残存 内面にスス付着	003	
第302図24	1区	S024	国産陶器	火入か	備前系 (14.4)	8.9	(13.2)	-	-	-	底部穿孔 榎木鉢として転用 二次被熱 1/4残存	001	
第302図25	1区	S024	瓦質土器	燈炉	-	3.3+0	-	-	-	-	紙有「谷漬」	004	
第303図1	1区	S026	国産磁器	染付手塩皿	肥前系	-	2.5	3.5~3.8	-	-	型打成形 2/3残存	004	
第303図2	1区	S026	国産磁器	染付小碗	肥前系 (9.7)	4.7	4.0	-	-	-	「非~」1/3残存 裏付に一部砂付着	18c代	002
第303図3	1区	S026	国産陶器	灰入	関西系	9.7	7.9	9.6	-	-	ほぼ完形	003	
第303図4	1区	S026	国産陶器	徳利	関西系	-	13.6+0	-	-	-	人物・詩文	001	
第303図5	1区	S027	国産陶器	建水か	肥前系(福岡か)	-	7.7+0	(12.6)	-	-	底部のみ	001	
第303図6	1区	S028	土師器	皿	在地	11.1	2.7	-	-	-	皿口 口縁部にスス付着 完形	001	
第303図8	1区	S032	国産磁器	染付小皿	肥前系	10.2	2.4	5.3	-	-	3/4残存 二次被熱	17c後半~	001
第303図10	1区	S035	国産磁器	青磁鉢	肥前系	22.9	8.4	8.9	-	-	高台内蛇の目輪刺す 二次被熱	1680~1690	001
第303図11	1区	S035	国産陶器	壺	関西系か (9.0)	(11.0)	8.0	-	-	-	1/2残存	江戸後期	002

第21表 1・2区 土器・陶磁器類観察表 11

図録番号	調査区	遺構番号	種別	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大径	最大 径	高さ・ 最大深	片厚・ 最大厚				
第303図12	1区	S043	国産磁器	染付ニニチュア 子碗	肥前系	3.4	1.9	1.3	-	ほぼ完成			001
第303図13	1区	S043	国産磁器	ニニチュア楕 形	肥前系	(1.0)	4.7	1.8	-	ほぼ完成			002
第303図14	1区	S044	国産陶器	土瓶	関西系	(9.2)	13.7	(9.2)	-	底部銘有「寿福」			001
第303図16	1区	S050	国産磁器	染付小坏	肥前系	5.8	2.7	2.4	-	3/4残存 楕形不具	16c前半～中頃		001
第303図17	1区	S050	国産磁器	白磁楕口	肥前系	7.6	5.5	4.4	-	二次被熱 3/4残存	16c前半～中頃		002
第303図18	1区	S050	国産陶器	楕鉢	肥前系	(25.2)	5.6+α	-	-	1/8残存	17c後半		003
第303図19	1区	S051	国産陶器	皿	肥前系	-	2.9+α	5.4	-	1/3残存 灰釉			001
第304図1	1区	S053	国産陶器	碗	不明	-	2.7+α	-	-	高台付近に銘有「あさ〜」 底部のみ残存			001
第304図2	1区	S066	国産磁器	染付紅楕口	肥前系	(8.7)	3.0	(2.4)	-	竹葉文 1/2残存	16c後半～16c代		002
第304図3	1区	S066	国産磁器	染付碗	肥前系	11.2	6.4	6.6	-	広葉樹 聖芝文 2/3残存	1700～1810		001
第304図5	1区	S088	国産磁器	染付急須蓋	関西系	7.0	4.6	-	-	完成	16c代		005
第304図6	1区	S088	国産磁器	染付小坏	関西系	5.4	3.7	2.4	-	完成 高台内「七べえ」	幕末か		003
第304図7	1区	S088	輸入陶器	蓋		3.5	2.2	0.6	-	哺乳瓶の蓋か 完成			002
第304図8	1区	S088	土製品	ニニチュア碗		3.2+α	2.6	0.7	-	1/2残存			001
第304図9	1区	S088	土師質土器	五徳		8.6	6.1+α	-	-				004
第304図12	1区	S102	国産磁器	染付小皿	肥前系	(14.2)	4.2	(4.8)	-	草文 高台に砂目痕あり	17c中頃		001
第304図13	1区	S102	中国磁器	青磁鉢か	龍泉窯系	-	3.5+α	-	-	口縁のみ 輪文			003
第304図14	1区	S102	国産陶器	蓋	肥前系	6.6	0.8	4.4	-	回転糸切り 3/4残存			002
第305図1	1区	S116	瓦質土器	燈炉か		9.3+α	1.9+α	-	-	銘あり「京三」			001
第305図2	1区	S117	国産磁器	ニニチュア染 付蓋	肥前系	(4.2)	1.2	1.4	-	3/4残存			001
第305図3	1区	S127	国産磁器	染付大皿	肥前系	31.4	5.3	18.0	-	1/4残存 裏面に付着物あり 二次被熱	16c代		001
第305図4	1区	S132	国産陶器	碗	肥前系	(12.0)	5.8+α	-	-	楕形鉢			002
第305図5	1区	S132	土師器	皿	在地	(12.8)	3.1	-	-	皿口 口縁部に一部スチ付 跡			001
第305図6	1区	S142 1層	国産陶器	染付碗	肥前系	(11.2)	4.7+α	-	-	丸碗 口紅 雨降文	1670～1690		001
第305図8	1区	S144	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.0)	6.3	4.9	-	外青磁 外面縁有 内面付 着物(紅か)	16c中頃～後半		001
第305図9	1区	S147	国産陶器	碗	関西系か	(14.0)	5.9+α	-	-	深み有 1/6残存			003
第305図12	1区	S151	国産陶器	小碗	萩か	(6.4)	3.6	3.0	-	体部下半に銘有 1/2残存			001
第305図13	1区	S151	土製品	泥面子		1.7	1.7	0.7	-	完成			002
第304図14	1区	S151	土製品	人形		15.0+α	7.7+α	7.0+α	-	女性 腹部欠損 2/3残存			003
第305図15	1区	S153	遺石器	坏		-	2.4+α	(8.0)	-	底部1/4残存	坪C		001
第305図16	1区	S163	国産磁器	染付小皿	肥前系	(10.4)	2.4	6.0	-	輪花 唐草文 高台内「成 化半製」 3/4残存 楕形不具	1700～1800		002
第305図17	1区	S163	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.4)	6.0	6.3	-	広葉樹 1/3残存	1700～1810		001
第305図18	1区	S163	国産磁器	白磁人形	肥前系か	2.9+α	2.1+α	-	-	頸部欠損 皿			003
第305図19	1区	S167	国産磁器	染付蓋	肥前系	(10.2)	3.0	(4.0)	-	松竹梅文 1/2残存	16c中頃～後半		002
第305図20	1区	S167	国産磁器か	楕形輪碗	肥前系か	(12.0)	5.5+α	-	-	縁有 中国か 二次被熱			001
第305図21	1区	S167	国産陶器	蓋か	不明 備前か	(10.5)	1.5	(13.4)	-	受付部径(14.0) 1/3残存			003

第22表 1・2区 土器・陶磁器類観察表12

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J2復元数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	口径 最大径				
第305図2	1区	S168	瓦産磁器	染付紅襷口	肥前系	(5.8)	2.0	(2.6)	-	竹葉文 紅付着 1/2残存	16c後半		002
第305図3	1区	S168	瓦産磁器	色絵ミニチュア碗	肥前系	(3.0)	1.4	1.7	-	1/2残存 上絵付			004
第305図4	1区	S168	瓦産磁器	染付小碗	中国か	-	0.9+0	2.8	-	底部のみ 人物文			003
第305図5	1区	S168	土製品	土鉢		3.5	3.4	-	1.8/48.6 E	3/4残存			001
第306図1	1区	S169	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(7.7)	5.7	3.8	-	顔文字 1/3残存 鉄線模 線文	16c後半		002
第306図2	1区	S169	瓦産陶器	碗	關西系	(9.2)	5.3	3.8	-	小杉碗 1/2残存	16c後半～		004
第306図3	1区	S169	瓦産陶器	碗	關西系	(9.1)	6.0	2.8	-	丸碗 3/4残存			003
第306図5	1区	S176	瓦産磁器	白磁瓶か	肥前系	-	1.9+0	2.7	-	型押し成形 ミニチュアか			001
第306図6	1区	S187	朝鮮陶器	碗		(11.4)	9.2	(6.1)	-	1/3残存 口縁部歪みあり 裏面に砂目	17c中頃～後半		001
第306図8	1区	S194	土師質土器	燗炉		16.2	12.2+0	-	-	穿孔1ヶ所、切り欠き1ヶ所 残存			001
第306図9	1区	S197	瓦産磁器	白磁ミニチュア碗	肥前系	2.3	1.2	0.9	-	型押し成形 完形			004
第306図10	1区	S197	瓦産磁器	白磁紅草	肥前系	4.6	1.6	1.5	-	型押し成形 完形	16c代		003
第306図11	1区	S197	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(6.1)	4.5	2.6	-	1/3残存	17c中頃		009
第306図12	1区	S197	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(9.8)	5.3	(4.3)	-	雲・菊文 1/4残存	16c前半～中頃		001
第306図13	1区	S197	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(7.8)	6.4	(4.5)	-	外青磁 筒型碗 1/3残存 裏面に砂付着	16c後半		002
第306図14	1区	S197	土製品	人形		4.0+0	4.2	1.9	-	面			006
第306図15	1区	S197	土製品	土鉢		4.4	2.2	-	10.8/18.6 E	外面に赤彩			005
第306図16	1区	S203	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	(21.6)	7.3+0	-	-	梅花 花唐草文	16c後半		001
第306図21	1区	S213	瓦産陶器	燗鉢	肥前系	(32.8)	10.4+0	-	-	1/3残存	16c前半～中頃		001
第306図22	1区	S213	土製品	芥子蓋		2.2	1.9	0.75	-	完形			002
第306図23	1区	S216	瓦産磁器	白磁小碗	肥前系	6.5	2.6	2.6	-	ほぼ完形			001
第306図24	1区	S216	瓦産磁器	染付蓋	肥前系	-	3.9+0	(18.0)	-	底部のみ 外面底部に目跡 あり	16c中頃～後半		002
第307図1	1区	S217	瓦産陶器	阿付	志野	-	6.8+0	-	-		16c後半		001
第307図4	1区	S236	瓦産磁器	色絵薬付鉢	肥前系	(5.2)	2.8	2.7	-	網目文 1/2残存 横成平 底			001
第307図5	1区	S241	瓦産磁器	染付小坪	肥前系	(5.7)	3.6	(2.3)	-	裏面に砂付着 1/2残存	1630～1640		001
第307図6	1区	S241	瓦産陶器	碗	肥前系	-	4.2	5.0	-	鉄線 片障裏台	17c代		003
第307図7	1区	S241	瓦産陶器	燗鉢	肥前系	(29.6)	6.3+0	-	-	横間か			002
第307図8	1区	S243	瓦産磁器	色絵蓋	肥前系	2.6	0.6	0.6	-	合子蓋 1/2残存			002
第307図10	1区	S257	瓦産磁器	白磁蓋	肥前系	-	1.4+0	-	-	分銅型つまみ 横線文字有			002
第307図11	1区	S257	瓦産陶器	不明	備前系	-	0.6+0	-	-	朱泥陶器			001
第307図13	1区	S261	瓦産磁器	色絵小碗	肥前系	(8.0)	3.5	(2.5)	-	詩文 1/2残存	16c代		001
第307図14	1区	S261	土製品	人形		4.5+0	2.5	2.3	-	鉢 1/2残存 底部穿孔			002
第307図15	1区	S267	瓦産陶器	碗	肥前系	-	2.9+0	(5.2)	-	京焼風陶器 刻印「伊瀬」か	17c後半		001
第307図16	1区	S268	瓦産陶器	皿	肥前系	(12.3)	3.6	4.1	-	民権 1/3残存 胎土目	1594～1610		001
第308図1	1区	S269	瓦産磁器	染付皿	肥前系	(20.2)	3.0	13.4	-	梅花・蓮葉文 口縁 2区 S277/12/7枚合(1区×2区) 2/3残存	17c後半～18c中頃		002
第308図3	1区	S271	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(6.8)	4.2	2.7	-	草花文 2/3残存	1650～1680		002

第23表 1・2区 土器・陶磁器類観察表13

図録番号	調査区	遺構番号	種別	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大径	最大 径六分	最大深 度深	片厚・ 最大厚				
第308図4	1区	S271	国産磁器	染付碗	肥前系	10.4	6.0	4.4	-	菊文 圆锥状印刷 ほぼ完成形	17c末~18c前半	001	
第308図5	1区	S271	国産陶器	碗	肥前系か	(10.6)	6.8	(5.3)	-	反輪 1/2残存		003	
第308図6	1区	S273	国産陶器	灯火具か	関西系	4.2	3.0	3.4	-	ほぼ完成形 ミニチュアか		001	
第308図7	1区	S273井戸	国産磁器	色絵小坏	肥前系	(5.2)	3.0	(1.9)	-	海老文 1/3残存		001	
第308図8	1区	S274	国産陶器	ミニチュア仏 花器		-	4.0+0	(3.2)	-	2/3残存		001	
第309図1	2区	S001	国産磁器	染付碗	肥前系	-	1.8+0	(4.0)	-	透部のみ 透繪文字「光吉太郎大夫」	1820~1860	002	
第309図2	2区	S001	国産磁器	小碗	関西系	(8.6)	5.1	(3.2)	-	刷印「朝日」 宇治製白焼	昭和初期	005	
第309図3	2区	S001	国産磁器	染付水注	肥前系	8.4	16.9	7.8	-	唐子 三川内製 二次被熱	幕末~明治	004	
第309図4	2区	S001	国産陶器	ミニチュア楀 鉢	関西系か	(4.6)	2.8	2.8	-			001	
第309図5	2区	S003	国産陶器	ミニチュア書 伊	関西系	4.8	4.1	2.8	-	三足 楀鉢 墨書有		001	
第309図6	2区	S013	国産磁器	染付仏輪器	肥前系	8.2	7.1	4.6	-	楀反型 格子文 二次被熱		001	
第309図10	2区	S021	土師質土器	七輪	不明	18.7	10.0	20.0	-	三ヶ所穿孔あり ヘウ彫りによる文様あり 白色の化粧土を塗布		001	
第309図11	2区	S024	国産磁器	染付鉢	肥前系	23.4	8.3	10.4	-	牡丹文 萬江 椀の目印型高台		001	
第309図14	2区	S031	国産磁器	染付碗か	肥前系	-	-	4.1	-	透部のみ 見込み五弁花メソコ状に加工		001	
第310図1	2区	S039	国産陶器	小碗	関西系	(8.4)	5.1	(4.4)	-	楀鉢		002	
第310図2	2区	S039	国産陶器	鉢	肥前系	21.6	9.0	8.0	-	陶胎染付 唐草文 見込椀ノ目輪刷ぎ	17c後半~18c前半	001	
第310図3	2区	S041	国産磁器	染付小皿	産地不明	(15.0)	3.2	5.6	-	梨形皿		001	
第310図4	2区	S041	国産陶器	碗	肥前系	-	-	5.6	-	透繪風 刷印有「松吉」		002	
第310図7	2区	S052	国産磁器	染付壺	肥前系	(8.6)	3.2	(7.0)	-	亀甲・唐草文		002	
第310図8	2区	S052	国産磁器	染付水漬	肥前系	6.3	2.85	8.5	-	楀反型 型押し成形 方形		003	
第310図9	2区	S052	土製品	人形の台座か		(8.2+0.3)	2.9	4.0	-	楀刻文様		004	
第310図11	2区	S053	国産磁器	染付蓮華	肥前系	7.4+0	3.2+0	-	-		明治	001	
第310図12	2区	S053	国産陶器	向付	美濃	-	3.2+0	-	-	楀鉢	17c前期	002	
第310図13	2区	S053	国産陶器	果徳	産地不明	(2.35)	3.25	2.2	-	透明釉 算盤玉形	19c代		
第310図15	2区	S056	国産磁器	染付皿	肥前系	20.3	3.4	7.7	-	型打ち成形 楀成不良	1780~1860	001	
第310図16	2区	S056	国産磁器	染付小坏	肥前系	6.4	2.8	2.5	-	コバルト「おいた 西海楼」	明治32年~	002	
第311図1	2区	S057	国産陶器	小皿	肥前系	14.2	3.9	5.8	-	現川輪 繪花 二次被熱	1690~1740	001	
第311図2	2区	S072	国産磁器	染付水漬	肥前系	10.7	3.6	6.4	-	ほぼ完成形 変押し成形		003	
第311図3	2区	S072	国産陶器	手端皿	瀬戸	5.5	1.3	2.2	-	紅葉型 楀鉢		001	
第311図4	2区	S072	国産陶器	染付向付	関西系	(7.1)	8.8	(3.6)	-	二次被熱 四方筒向付 楀透繪	17c末~18c代	004	
第311図5	2区	S072	国産陶器	碗	関西系	(11.0)	7.7	5.4	-	透繪	16c後半~17c初期	006	
第311図6	2区	S072	土製品	人形	不明	4.4	3.3	2.2	-	拍犬		002	
第311図7	2区	S072	土製品	人形	不明	2.2+0	2.2	2.3	-	人物 頭部のみ		005	
第311図9	2区	S077	国産磁器	染付皿	肥前系	21.9	4.0	10.2	-	花唐草文 角皿 高台内「龍」	1840~1860	001	
第311図12	2区	S084	国産陶器	土瓶	関西系	(7.2)	10.2	(9.5)	-	楀鉢 残存1/2		001	
第311図13	2区	S087	国産磁器	色絵人形	産地不明	3.7+0	2.9	2.0	-	軍服 透部穿孔あり	近代	001	

第24表 1・2区 土器・陶磁器類観察表 14

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J2復元数値				備考	分類 時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	口径 最大径	片径 最大径			
第311図15	2区	S099	土製品	ミニチュア高	産地不明	(5.5)	(3.4)	(2.5)	-			001
第311図16	2区	S107	国産磁器	染付小碗	瀬戸美濃か	(9.0)	4.8	(3.6)	-	縁文 横線文字有		001
第311図17	2区	S106	国産磁器	染付猪口	肥前系	8.6	5.8	6.8	-	広東型 裏縁文 蛇の目目 形高台 有田か	1780~1810	001
第311図18	2区	S119	国産磁器	染付盃	肥前系	-	2.0	3.4	-	二次被熱 2区S018.053と 接合 2区S1579028の蓋		003
第311図19	2区	S119	国産陶器	蓋	關西系	-	2.0	3.4	-	S119001の蓋 二次被熱		002
第311図20	2区	S119	国産陶器	盃	關西系	5.8	10.3+α	-	-	福岡か 二次被熱 裏反熱	18c代	001
第312図1	2区	S124	土製品	不明	不明	5.1	2.5	0.9	-	透部金書「りち」人形の台 座か		001
第312図3	2区	S139	国産陶器	碗	肥前系	12.2	7.0	4.6	-	天目 鉄胎	17c前半	001
第312図5	2区	S149	国産陶器	蓋	關西系	-	1.7+α	6.6	-			001
第312図6	2区	S154	国産陶器	小皿	瀬戸	(14.4)	1.5+α	-	-	折縁皿		001
第312図7	2区	S156	国産磁器	色絵油壺	肥前系	2.6	6.7+α	-	-	丸文		001
第312図8	2区	S156	国産陶器	碟鉢	肥前系	-	4.5+α	-	-		18c前半	002
第313図1	1区	SE090	国産磁器	染付小碗	肥前系	(6.4)	2.3+α	-	-	1/4残存	18c後半~19c初頭	001
第313図2	1区	SE090	国産磁器	染付碗	肥前系	-	2.6+α	-	-	透部のみ	18c後半	015
第313図3	1区	SE090	中国磁器	白磁碗	中国	-	3.5+α	(6.4)	-	V線 透部のみ	12c代	007
第313図4	1区	SE090	国産陶器	皿	肥前系	(13.4)	2.4+α	-	-	口縁のみ	1700~1730代	002
第313図5	1区	SE090	瓦器	碗		(14.4)	3.6+α	-	-	口縁のみ 桶車型		005
第313図6	1区	SE090	土師器	皿	在 地	(10.2)	2.6+α	-	-	皿C 灯明皿 口縁部にス ス付着 1/4残存		003
第313図7	1区	SE090	土師器	皿	在 地	(9.8)	1.9	(6.2)	-	小皿b		016
第313図8	1区	SE090	土師質土器	壺か		4.1+α	3.5+α 8.9+α	-	-	焼成不良		004
第314図1	1区	SE304	国産磁器	染付盃	肥前系	-	1.3+α	6.7	-	縁文 透部片	1680~1690	008
第314図2	1区	SE304	国産磁器	白磁小碗	肥前系	(6.4)	4.2	2.1	-	1/3残存	17c中頃~末	001
第314図3	1区	SE304	中国磁器	染付碗	景德鎮産	-	2.0+α	(4.4)	-	透部片		007
第314図4	1区	SE304	国産磁器	染付碗	肥前系	-	2.9+α	4.5	-	一重網目文 貫付に砂付着	1640~1650	009
第314図5	1区	SE304	国産磁器	染付碗	肥前系	(8.4)	4.7+α	-	-	外青磁 筒型碗 裏傷有	18c後半	006
第314図6	1区	SE304	国産陶器	水指	肥前系	(11.4)	上4.8+ 0 下 5.9+α	(9.6)	-	口縁部と透部 白化磁土 高台に砂付着 蓋付	17c末頃	010
第314図7	1区	SE304	国産陶器	油瓶し	肥前系	-	6.0+α	-	-	穿孔1ヶ所 注口断片	17c後半~18c前半	011
第314図8	1区	SE304	土師質土器	十瓶		15.5+α	9.9+α	3.4	-	1/3残存 内面にス付着		002
第315図1	1区	SK060	国産磁器	染付盃	肥前系	-	1.4+α	(18.0)	-	透部片	17c末~18c初頭	005
第315図2	1区	SK060	国産陶器	碟鉢	福岡	(26.0)	4.7+α	-	-	摺り目単位/6条	17c代	003
第315図3	1区	SK080	国産陶器	皿	肥前系	(13.2)	3.4	4.7	-	寛政~高台に砂目跡のみ 1/3残存	1610~1640	001
第315図4	1区	SK080	国産陶器	小碗	肥前系	(8.6)	4.5+α	-	-	1/5残存	17c後半~18c前半	002
第315図5	1区	SK080	国産陶器	水指か	福岡	(16.6)	3.3+α	-	-	内外面に自然釉	17c前半	004
第315図6	1区	SK105	土製品	土壺		7.3	6.4	2.2	-	小貫底、紐痕あり		001
第315図7	1区	SK110	国産磁器	色絵碗	肥前系	-	4.2+α	-	-	二次被熱	17c代	003

第25表 1・2区 土器・陶磁器類観察表15

調査番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)		Hは復元数値		備考	分類	時期	H番号
						口径・最大径	最大径	口径・最大径	口径・最大径				
第315図8	1区	SK110	国産磁器	染付壺	肥前系	-	10.9+0	(6.2)	-	初期伊万里 裏付に砂付菊二次被飾 1/4残存 裏飾浮文	1830~1840	001	
第315図9	1区	SK110	土師器	小皿	在地	(7.8)	1.2	5.3	-	小皿b 1/2残存		004	
第315図10	1区	SK110	土製品	土壁		9.7	5.2	2.5	-	小皿痕あり		002	
第316図1	1区	SK075	国産磁器	白磁紅皿	肥前系	(4.6)	1.4	1.4	-	空押し成形 1/2残存	18c後半~19c前半	001	
第316図2	1区	SK075	国産磁器	染付壺	肥前系	10.2	3.2	5.6	-	広葉破垂 菊輪 宛飾 茎み有	1780~1810	003	
第316図3	1区	SK075	国産磁器	染付壺	肥前系	10.7	2.6	5.6	-	広葉破垂 花内・茎虫文 高台部二次被飾 3/4残存	18c前半	002	
第316図4	1区	SK075	国産磁器	染付碗	肥前系	(7.6)	5.3	3.8	-	筒型碗 菊花文 二次被飾 1/2残存	1780~1810年代	007	
第316図5	1区	SK075	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.8)	5.6	(5.8)	-	広葉碗 丸文 1/2残存	1780~1810年代	006	
第316図6	1区	SK075	国産磁器	染付碗	肥前系	(13.4)	7.2	(7.4)	-	広葉碗 牡丹文 1/2残存	1780~1810年代	005	
第316図7	1区	SK075	国産陶器	壺	関西系	(8.4)	2.1	3.2	-	1/2残存 土瓶蓋 落とし蓋	18c前半	008	
第316図8	1区	SK075	国産陶器	碗	関西系	(9.5)	5.0	3.3	-	楕円型 1/3残存 裏入有	18c前半	009	
第316図9	1区	SK075	国産陶器	風炉	関西系	-	4.4+0	-	-	内面突起部分空押し成形		010	
第316図10	1区	SK075	国産陶器	鐵鉢	関西系	(32.0)	12.2	(15.0)	-	注口内面に刷附あり 1/3残存 破	18c前半	012	
第316図11	1区	SK075	国産陶器	鐵鉢	関西系	(37.2)	11.8+0	-	-	1/5残存 破		013	
第316図12	1区	SK075	国産陶器	土瓶	関西系	(8.6)	11.5	7.2	-	注口欠損 3/4残存 脇3方押有	18c	011	
第316図14	1区	SK085	国産磁器	染付鉢	肥前系	7.6	4.3	3.9	-	裏付鉢 縁破文 横成不良 2/3残存	1890~18c初頭	001	
第316図15	1区	SK085	国産陶器	鐵鉢	福岡	(30.4)	12.6	(11.4)	-	1/2残存 上野	18c前半	006	
第316図16	1区	SK085	国産陶器	壺	肥前系	(8.4)	13.3	6.9	-	1/3残存 縁破	17c中頃~末	003	
第316図17	1区	SK085	国産陶器	壺	肥前系	(10.2)	6.8+0	-	-	1/5残存 文様指掻き	17c末~18c前半	004	
第316図18	1区	SK085	国産陶器	灰皿し	京焼	-	7.9+0	5.6	-	梅花文 1/2残存 口縁部打ひたき	18c前半頃	005	
第317図1	1区	SK095	国産磁器	染付碗	肥前系	(9.0)	6.0	(5.4)	-	筒型 梅花文 高台内「年製」1/3残存 有田	1860~1890	002	
第317図2	1区	SK095	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.0)	7.4	(7.0)	-	初期伊万里 天目型 福寿文 有田 二次被飾	1810~1830	001	
第317図3	1区	SK095	国産陶器	皿	肥前系	-	4.3+0	7.0	-	寛文みね/目録割形 縁野内野山	1890年頃	004	
第317図4	1区	SK095	国産陶器	碗	肥前系	(9.4)	6.6	5.1	-	2/3残存 隅毛目	1860~1890	003	
第317図7	1区	SK095 1層	国産磁器	染付皿	肥前系	-	3.6+0	(19.4)	-	山水文 /ハリ跡2ヶ所残存 二次被飾 1/3残存 有田	1860~1890	001	
第317図8	1区	SK095 1層	国産磁器	色絵碗	肥前系	10.1	5.6	4.4	-	二次被飾 2/3残存 唐子遊曲型	1860~1890	002	
第317図9	1区	SK095 2層	土師器	皿	在地	9.8	1.9	5.0	-	灯明皿 小皿b 口縁部欠付 厚縁 窪底成形		001	
第317図10	1区	S302	国産磁器	色絵小碗	肥前系	9.8	5.5	4.0	-	新唐草文 コシニヤク印利 3/4残存 扁扁し	1860~1890	001	
第317図11	1区	S302	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.2)	5.7	(4.4)	-	菊・市松文 1/2残存	1890~1730頃	005	
第317図12	1区	S302	国産陶器	皿	肥前系	(12.6)	3.6	(5.0)	-	縁飾 異込蛇/目録割形 1/2残存 内野山	17c末~18c前半	003	
第317図13	1区	S302	国産陶器	碗	肥前系	11.0	7.1	5.1	-	筒形染付 唐草文 厚縁成形	1890~1730	002	
第317図14	1区	S302	土師器	皿	在地	(9.6)	2.1	(5.2)	-	1/3残存 小皿b		006	
第318図1	1区	SK311	国産磁器	染付平塩皿	肥前系	(10.0)	2.0	(6.1)	-	花唐草文 蛇/目田形高台 1/3残存	18c後半	002	
第318図2	1区	SK311	国産磁器	染付小鉢	肥前系	(8.8)	5.9	(6.4)	-	松竹梅文 蛇/目田形高台 1/2残存	1740~1760	001	
第318図3	1区	SK311	国産磁器	摺縁輪香炉	肥前系	-	5.4+0	-	-	金象 17次調査に同型品 1/4残存 有田	1855~1860	003	
第318図4	1区	SK311	国産陶器	鐵鉢	備前	(18.2)	3.6+0	-	-	口縁部のみ 鐵鉢	17c代	010	

第26表 1・2区 土器・陶磁器類観察表 16

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(容×) J2復元数値				備考	分類 時期	内番号
						口径 最大径	高さ 最大径	底径 最大径	片厚 最大径			
第318図5	1区	SK311	瓦産陶器	熨鉢	関西系	-	8.0+0	-	-	口縁部のみ 写		009
第318図6	1区	SK311	瓦産陶器	熨鉢	肥前系	-	8.0+0	-	-	口縁部のみ	18c代	006
第318図7	1区	SK311	瓦産陶器	仏花器	瀬戸	(5.1)	上 12.1+ 0 下 4.0+0	(7.4)	-	耳付 緑灰釉 1/3残存	17c代か	011
第318図8	1区	SK311	瓦質土器	火鉢		-	10.3+0	-	-	胴部のみ		004
第318図9	1区	SK311	土師質土器	土瓶		9.4+0	10.2+0	3.4	-	内面にス付着		005
第318図12	1区	SK311 下層	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	(13.6)	3.5	8.0	-	二次焼熱 梅樹・鳥文 輪花 高台内「角縁」	18c前半～中頃	003
第318図13	1区	SK311 下層	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	1.9+0	(8.0)	-	柘ノ目凶形高台 漆書草文 熊江家	18c後半	006
第318図14	1区	SK311 下層	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	9.9	5.3	4.0	-	丸文 ほぼ宛形 高台に砂付着	18c前半頃	012
第318図15	1区	SK311 下層	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(9.2)	5.7	3.4	-	窪込み五弁花文 2/3残存 焼成不良 筆致みみ	18c後半	013
第318図16	1区	SK311 下層	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	(15.6)	5.9+0	(9.2)	-	柘ノ目凶形高台 1/5残存 輪花 型打成形	1740～1780	010
第318図17	1区	SK311 下層	瓦産磁器	曹磁灰濁し	肥前系	(5.4)	5.6+0	-	-	外面縁 1/5残存	18c前半～中頃	008
第318図18	1区	SK311 下層	瓦産磁器	色絵灰濁し	肥前系	-	5.7+0	(5.2)	-	縁線成有 備隠しか	18c前半	011
第318図19	1区	SK311 下層	瓦産磁器	曹磁灰濁し	肥前系	(11.0)	8.5	(7.8)	-	1/4残存 見込に泥痕	18c代	002
第318図20	1区	SK311 下層	瓦産陶器か	蓋	産地不明	3.4	2.7	-	-	方形 中面か	17c～18c代	004
第318図21	1区	SK311 下層	瓦産陶器	灰入	備前か	13.6	7.8	13.4	-	底部外面に刷印有 漆ぼ宛形 サヤカ	17c代	001
第318図22	1区	SK311 下層	土師質土器	蓋		-	15.7+0	-	-	口縁部片		007
第319図1	1区	SK316	瓦産磁器	碗	肥前系	10.9	7.0	4.6	-	3/4残存 口縁蓋み有 漆繪成有 意輪流し磨付	1630～1640	001
第319図2	1区	SK316	瓦産磁器	皿	肥前系	(11.2)	2.7+0	-	-	1/4残存 濃緑色 意輪	1630～1640	004
第319図3	1区	SK316	瓦産陶器	熨鉢	備前	(29.2)	7.9+0	-	-	口縁部片 焼成不良	17c前半	002
第319図5	1区	SK316 1層	瓦産磁器	染付碗	肥前系	10.6	7.4	4.7	-	綱目・草文 前期伊万里 磨付に砂付着 1/2残存 蓋み有	1630～1640	002
第319図6	1区	SK316 1層	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(10.8)	7.1	5.0	-	鳥草文 前期伊万里 砂目 焼成有 1/2残存	1630～1640	001
第319図7	1区	SK316 1層	瓦産陶器	碗	肥前系	(10.8)	5.4+0	-	-	天目焼 緑灰色	1610～1640	005
第319図8	1区	SK316 1層	瓦産陶器	徳利	肥前系	-	16.8+0	6.9	-	墨灰釉 朝鮮唐津 2/3残存	1590～1610	004
第319図9	1区	SK316 1層	土製品	土餅		9.2	5.3	3.8	125.8	写		003
第319図10	1区	SK316 2層	土師器	皿	在地	(11.4)	2.1	(3.3)	-	小皿 内面にス付着 1/2残存		001
第319図11	1区	SK316 2層	土製品	土餅		9.3+0	5.0	4.0	127.8	写		002
第320図1	1区	SK324	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	11.2	3.2	6.0	-	口紅 輪花 漆書文 型打成形 3/4残存	18c前半	014
第320図2	1区	SK324	瓦産磁器	白磁小皿	肥前系	(13.6)	3.7	-	-	輪花 内面縁割 型打成形	013	
第320図3	1区	SK324	瓦産磁器	染付皿	肥前系	(10.2)	3.0	-	-	八卦文 2/3残存 型打成形	18c後半	002
第320図4	1区	SK324	瓦産磁器	染付小杯	肥前系	(5.9)	4.6	3.0	-	桐花・開降文 濃緑成か	001	
第320図5	1区	SK324	瓦産磁器	曹白磁小皿	肥前系	(5.0)	3.8+0	-	-	外面縁 1/4残存	015	
第320図6	1区	SK324	瓦産磁器	色絵瓶	肥前系	-	24.4+0	9.6	-	紅葉文 3/4残存 備隠し	1680～18c前期	003
第320図7	1区	SK324	瓦産陶器	皿	肥前系	(13.0)	4.5	4.5	-	青地風陶器 山水文 刷印「木下段」 備隠し	1680～1690	006
第320図8	1区	SK324	瓦産陶器	蓋	肥前系	10.4	2.9	-	-	55204 1010の蓋 漆ぼ宛形 蓋み有 打刷毛目	17c後半～18c前期	011
第320図9	1区	SK324	瓦産陶器	小皿	肥前系	10.0	4.3	3.8	-	青地風陶器 山水文 刷印「流水」	1680～1690	007

第27表 1・2区 土器・陶磁器類観察表17

調査番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分類	時期	H番号
						口径 最大長	最大 径	底径 最大長	高さ 最大長				
第320区10	1区	SK324	国産陶器	碗	肥前系	(10.0)	6.6	4.5	-	鉄箱灰釉染付け分付 1/2残存	18c代	004	
第320区11	1区	SK324	国産陶器	碗	肥前系	-	8.0+0	-	-	陶胎染付 唐草文	18c前半	012	
第320区12	1区	SK324	国産陶器	香炉	関西系	(17.0)	6.1	6.3	-	3足 見込みに雲和唐焼 ほぼ完形 線草文	18c後半～19c前半	006	
第320区13	1区	SK324	国産陶器	鉢	瀬戸系	(27.6)	7.2	(14.0)	-	二彩手 1/4残存	17c後半～18c代	005	
第320区16	1区	SK329	国産磁器	染付小碗	肥前系	(8.0)	4.7	(3.8)	-	唐草文 1/4残存 口縁部 染み有	17c後半～18c中頃	001	
第320区17	1区	SK329	国産陶器	碗	産地不明	(13.6)	6.9	5.4	-	鉄箱 関西系福岡 1/3残存	17c前半頃	002	
第321区1	1区	SK353	国産磁器	染付小皿	肥前系	(13.6)	3.2	(5.0)	-	1/5残存 初期伊万里	1630～1640	002	
第321区2	1区	SK353	国産磁器	染付皿	肥前系	-	2.2+0	4.8	-	梅・鳥文 初期伊万里 高 台上に砂付蓋 2客	1630～1650	015	
第321区3	1区	SK353	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.4)	7.3	4.2	-	1/4残存	1640～1650	001	
第321区4	1区	SK353	国産陶器	小皿	福岡	(11.4)	3.0	4.7	-	透部回転糸切り 上野・高 取か	17c頃	007	
第321区5	1区	SK353	国産陶器	小皿	肥前系	(11.9)	2.7～3.0	4.7	-	見込み・高台上に砂目跡有 ほぼ完形 濃緑色	1610～1650	008	
第321区6	1区	SK353	国産陶器	浅鉢	上野・高取	(27.2)	3.7	(21.2)	-	1/4残存	17c前半	009	
第321区7	1区	SK353	国産陶器	碗	肥前系	11.8	6.8	4.5	-	天目跡 3/4残存 染み有 緑灰釉	1610～1640	006	
第321区8	1区	SK353	国産陶器	碗	肥前系	(12.6)	7.0	5.2	-	2/3残存 高台上に目跡有 内野山 鳥器手	1610～1630	004	
第321区9	1区	SK353	国産陶器	碗	肥前系	(13.2)	7.5	5.2	-	1/2残存 高台上に目跡有 内野山 玉子手 焼成不良	1610～1630	005	
第321区10	1区	SK353	土師器	皿	在地	(13.6)	1.9	-	-	皿C 1/4残存 内面透部に スス付着		013	
第321区11	1区	SK353	土師器	皿	在地	13.8	2.4	-	-	皿C ほぼ完形		010	
第321区12	1区	SK353	土師質土器	焙烙	関西系	(24.4)	5.9+0	-	-			014	
第321区16	1区	SK353+SK316	国産陶器	火入	肥前系	14.2	7.6	7.0	-	二彩手 濃緑釉有 口縁部 に使用痕跡	17c後半～18c前半	003	
第321区17	1区	SK437	国産磁器	白磁小碗	肥前系	9.3	3.1	3.6	-	ほぼ完形 二次被焼		004	
第321区18	1区	SK437	国産陶器	黄磁染付碗	肥前系	-	3.5+0	4.8	-	見込み松葉文 1/4残存	17c中頃～後半	001	
第321区19	1区	SK437	国産陶器	皿	肥前系	-	2.9+0	4.8	-	黄磁黒陶器 刷印「福次」 焼成し	17c後半	002	
第321区20	1区	SK437	国産陶器	鉢	肥前系	(22.8)	8.6	(9.0)	-	二彩手 2/3残存	17c後半	003	
第322区1	1区	SK100	国産陶器	皿か	肥前系	2.3	2.2	1.0	-	メノウ状加工品	17c前半か	002	
第322区2	1区	SK100	国産陶器	碗	肥前系	5.25	5.50	2.20	-	メノウ状加工品 透部のみ	1600～1630	001	
第323区1	1区	5276	国産磁器	3ニテユア白磁碗	肥前系	2.3	1.2	0.9	-	完形		002	
第323区2	1区	5276	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.7)	6.4	(4.5)	-	外青磁 コシヤク印判 1/4残存	18c後半	001	
第323区3	1区	5276	国産陶器	火入	備前	(13.4)	7.2	12.20	-	刷印有「上」 2/3残存		003	
第323区4	1区	5298	中国磁器	染付小碗	景德鎮系	9.8	5.3	4.9	-	高台上「大明萬曆年製」 ほぼ完形	17c前半	001	
第323区5	1区	5299 1層	国産陶器	サヤか	福岡か	-	10.7+0	(16.6)	-			001	
第323区6	1区	5303	国産陶器	碗	関西系	9.3	4.9	3.0	-	環反型 ほぼ完形	18c後半	002	
第323区7	1区	5303	国産陶器	碗	関西系	(10.8)	5.6	(3.8)	-	環反型 口縁部縁筋 1/2 残存	18c後半	001	
第323区10	1区	5303 下層	国産磁器	染付碗	肥前系	-	2.5+0	(4.4)	-	コシヤク印判	18c前半～中頃	001	
第323区11	1区	5303 下層	土師器	皿	在地	8.5	1.5	4.4	-	小皿 灯明皿 口縁部スス 付着		002	
第323区15	1区	5318	国産陶器	染付小皿	肥前系	(13.0)	3.1	(8.4)	-	松竹梅文か ハリ残存 二 次被焼 1/2残存	18c中頃～後半	003	
第323区16	1区	5318	国産陶器	染付膳口	肥前系	(7.8)	4.6+0	-	-	花卉文 1/3残存	17c中頃～後半	002	

第28表 1・2区 土器・陶磁器類観察表 18

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J2値充数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片数 最大径				
第323図7	1区	S318	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(8.6)	4.8	4.0	-	黒縁 1/2残存 焼成不良	17c代		001
第323図18	1区	S322	瓦産磁器	染付合子壺	肥前系	5.8	1.3	-	-	2/3残存 型押し成形	1680~1700		003
第323図19	1区	S322	瓦産磁器	染付小坪	肥前系	7.0	4.7	2.7	-	コンニャク印判 球ぼ完成 焼成不良	1680~1740		002
第323図20	1区	S322	瓦産磁器	色絵小碗	肥前系	9.8	5.6	(3.9)	-	菊文 コンニャク印判 傷損し	1680~1700		004
第323図21	1区	S322	瓦産磁器	染付油壺	肥前系	2.2	3.9+0	-	-	2/3残存			001
第323図22	1区	S352	土師器	皿	在地	11.7	1.8~ 2.0	8.8	-	小皿b 灯明皿 口縁部内 外面にス入付着 3/4残存			004
第323図23	1区	S361	瓦産陶器	小皿	肥前系	12.8	3.2~ 3.4	4.2	-	見込みに胎土目有 3/4残 存 歪み有 反軸	1594~1610		002
第323図24	1区	S361	瓦産陶器	碗	関西系	9.7	8.1~ 8.4	5.0	-	球ぼ完成 歪み有	17c前半		001
第323図25	1区	S361	瓦産陶器	建水か	備前	(14.0)	5.7+0	-	-	口縁のみ残存			003
第323図26	1区	S361	土師質土器	風炉		-	4.8+0	-	-	小片			004
第324図1	1区	S366	瓦産磁器	白磁小皿	肥前系	12.6	3.5	7.0	-	菊花文 二次焼熱による歪 み有	16c前半		001
第324図2	1区	S366	瓦産陶器	碗	肥前系	(10.6)	7.1	(5.1)	-	反軸鉄軸掛け付 球ぼ完 成			002
第324図3	1区	S372	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	(14.0)	4.1	5.0	-	見込み・高台に砂目有 1/3 残存 初段伊万草	1610~1630		002
第324図4	1区	S372	瓦産陶器	碗	肥前系	10.8	5.9	3.6	-	天目部 1/2残存 鉄軸	1594~1610		001
第324図5	1区	S372	土師器	皿	在地	10.0	1.8	5.8	-	小皿b 灯明皿 内外面にス 入付着 球ぼ完成			003
第324図6	1区	S373	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	-	7.7+0	9.2	-	見込み手書台五弁花 高台 内「大明年號」1/3残存	17c末~18c前半		001
第324図8	1区	S374	瓦産磁器	色絵段重壺	肥前系	12.5	3.7	-	-	2区S984と接合 球ぼ完成 菊七宝文 二次焼熱			001
第324図9	1区	S379	瓦産磁器	種鳴輪香炉	肥前系	(4.4)	5.7	(6.4)	-	1/5残存 金彩剥離			001
第324図10	1区	S381	瓦産陶器	小碗	萩	(7.6)	5.2	6.4	-	びょう掛け碗	16c前半~中頃		001
第324図14	1区	S407	瓦産磁器	染付平皿	肥前系	3.9	1.4	1.4	-	ミニチュアか 完成			001
第324図15	1区	S407	瓦産陶器	碗	肥前系	11.9	7.2	5.4	-	京焼風陶器 刷印「清水」 二次焼熱 球ぼ完成	17c後半		002
第324図16	1区	S413	瓦産磁器	染付小坪	肥前系	6.2	4.3	2.4	-	原文 3/4残存	17c中頃		001
第324図17	1区	S413	瓦産磁器	色絵人形	肥前系	2.1	2.4	0.8	-	鳥(顔部のみ)			002
第324図18	1区	S419	瓦産陶器	花生か	肥前系か	-	5.9+0	5.0	-	高台部切り欠き3ヵ所あり			001
第324図20	1区	S421	瓦産磁器	染付平皿	肥前系	-	2.3+0	3.6×4.9	-	変形皿 空縁刷り 焼成不 良	17c後半~18c前半		001
第325図1	1区	S422	瓦産陶器	鉢	肥前系	29.8	9.0	11.4	-	三島平	17c後半~18c前半		001
第325図3	1区	S428	瓦産陶器	碗	肥前系	10.8	7.0	3.7	-	反軸 片澤黒台 球ぼ完成 磁筒か			001
第325図4	1区	S428	瓦産陶器	行平鍋	関西系	142	10.0	6.6	-	焼び割 保部下半ス入多量 付着	16c後半		002
第325図5	1区	S428	土師器	皿	在地	(18.0)	2.8	-	-	皿C 1/3残存			003
第325図6	1区	S431	瓦産磁器	染付樋口	肥前系	7.0	5.0	3.3	-	黒縁 内面に白色付着物有 球ぼ完成	17c後半~18c前半		001
第325図7	1区	S438	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(8.7)	4.9	3.7	-	林梅文 酒福 二次焼熱 1/3残存	1700~1740		007
第325図8	1区	S438	瓦産磁器	染付碗	肥前系	11.0	6.4	4.6	-	非松文 二次焼熱 2/3残 存	17c後半~18c前半		001
第325図9	1区	S438	瓦産陶器	小皿	肥前系	(13.5)	4.1	5.0	-	見込みに砂目 陶毛目 1/2 残存	17c中頃~後半		002
第325図10	1区	S438	瓦産陶器	灯火具	関西系	11.8	2.3	-	-	内外面にス入付着 球ぼ完 成 灯明皿			003
第325図14	1区	S443	瓦産陶器	鉢	肥前系	16.2	8.1	(7.2)	-	球ぼ完成 歪み有 高台鉄 軸			001
第326図1	1区	S8130d	中国磁器	曹磁碗	龍泉窯	(11.0)	4.5+0	-	-	1/5残存 刺繍連弁	16c末		001

第29表 1・2区 土器・陶磁器類観察表19

図番番号	調査区	遺構番号	種別	群種	産地	法量(cm)				備考	分類	時期	H番号
						口径・最大径	最大径	底径・最大深	口径・最大深				
第326図3	1区	S8130g	国産陶器	皿	瀬戸美濃	-	0.9	-	-	折縁皿 口縁部のみ 二次焼結	16c後半	001	
第326図4	1区	SA140a	土師器	碗		(12.0)	3.2	-	-	1/5残存		001	
第326図5	1区	SA145e	国産陶器	皿	瀬戸美濃	(10.8)	2.0+0	-	-	折縁皿 口縁部のみ	16c後半	001	
第326図6	1区	SA145e	国産陶器	向付	肥前系	(14.2)	6.8	(7.4)	-	焼唐津 脚部2ヶ所残存 1/2残存	1590~1610	002	
第326図7	1区	SA145	瓦質土器	鉢		(17.2)	3.3	(14.6)	-	一部スス付着 底部外面粗目付着か 1/4残存		001	
第327図1	2区	SE060	中国磁器	染付小皿	景德鎮窯系	(9.8)	(2.2)	(5.0)	-	B群	15c中頃~16c中頃	001	
第327図2	2区	SE060	国産陶器	碗	肥前系	-	1.4+0	-	-	唐津系 反軸	16c末~17c初頃	004	
第327図3	2区	SE060	朝鮮陶器	碗	朝鮮	-	3.1+0	4.8	-	柳川高台 胎土目痕 透明釉	16c後半	003	
第327図4	2区	SE060	土師器	皿	在地	-	1.7+0	-	-	皿C 黒斑	16c後半	005	
第328図4	2区	SE075 上層	国産磁器	染付碗	肥前系	-	11.8+0	(4.4)	-	底部片	16c後半	001	
第328図5	2区	SE075 井筒	国産磁器	染付小皿	肥前系	(13.0)	3.0	(4.0)	-	半葉文	17c前半~中頃	002	
第329図1	1区	SK120	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	-	3.3+0	(7.4)	-	底部のみ 芙蓉手		004	
第329図2	1区	SK120	国産磁器	碗	肥前系	-	5.0+0	-	-	天目 外面鉄粒 濃緑色有	1630~1640	005	
第329図3	1区	SK120	国産陶器	掻鉢	備前	(31.8)	11.5	(15.4)	-	1/5残存	17c前半	001	
第329図6	1区	SK125	国産磁器	染付皿	肥前系	(14.0)	2.6+0	-	-	初瀬伊万里	1610~1630	001	
第329図7	1区	SK125	国産陶器	皿	肥前系	12.8	3.5	4.2	-	残込砂目痕有 1/2残存	1610~1630	002	
第329図8	1区	SK125	国産陶器	壺	肥前系	(21.4)	5.9+0	-	-	口縁部のみ 内面同心円文	1590~1630	003	
第330図1	1区	SD155北側	国産陶器	掻鉢	備前	-	3.3+0	-	-	交差眉目	16c末 近世1期	003	
第330図2	1区	SD155北側	土師器	皿	在地	(13.0)	2.3	-	-	皿C 口縁部にスス付着 1/5残存		001	
第330図3	1区	SD155北側	土製品	土師		4.8	1.2	0.4	5.32	完形		002	
第330図4	1区	SD155南側	渡邊器	壺か		-	3.7+0	-	-	口縁部のみ		001	
第330図5	1区	SD155中央	瓦質土器	碗		(13.0)	2.5+0	-	-	口縁部のみ		001	
第330図6	1区	SD155中央	土師器	小皿	在地	(9.2)	0.9	(8.2)	-	小皿A 1 1/5残存		002	
第330図8	1区	SD160	中国磁器	青磁碗	同安窯系	-	2.4+0	(6.3)	-	底部のみ残存 打ち欠き		001	
第330図9	1区	SD160	国産陶器	碗	肥前系	-	3.0+0	-	-	口縁部のみ 唐津	16c末~17c初頃	002	
第330図10	1区	SD160	瓦質土器	瓦鉢碗		-	3.0+0	-	-	口縁部のみ		006	
第330図11	1区	SD160	土師器	碗		-	1.6+0	-	-	白色研削土器 口縁部のみ		005	
第330図12	1区	SD160	土師質土器	壺		-	2.5+0	-	-	復元型か 口縁部のみ		004	
第330図13	1区	SD160	土師質土器	壺		-	2.8+0	-	-	全型か 口縁部のみ		003	
第331図1	1区	S458	瓦質土器	掻鉢		-	5.2+0	-	-	口縁部のみ		001	
第331図2	1区	S498	中国磁器	白磁壺	中国	-	2.5+0	-	-	胴部のみ		001	
第332図1	2区	S166	国産磁器	色絵ミニチュア碗	肥前系	(3.4)	2.1	(1.6)	-			001	
第332図10	2区	S181	国産陶器	平皿	志野	(26.0)	3.7	(16.4)	-	鉄軸	16c末~17c初頃	001	
第333図1	1区+3区	1区S192+3区S292	国産磁器	白磁竪立か	肥前系	5.3	9.4	5.2	-	角型		001	
第333図2	1区+3区	1区S261+3区S251	国産磁器	青磁皿	肥前系	(24.4)	2.5	(15.2)	-	高台内蛇の目輪割ぎ	18c前半	001	
第334図1	1区	黒灰色土	国産磁器	染付小皿	瀬戸美濃	(10.4)	1.9	(6.2)	-	雲文	幕末~明治	005	

第30表 1・2区 土器・陶磁器類観察表20

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) X2複元数値				備考	分類 時期	図録号
						口径 最大径	底径 最大径	口径 最大径	口径 最大径			
第334図2	1区	黒灰色土	国産磁器	染付小碗	産地不明	(7.8)	2.5+0	-	-	コバルト 1/5残存	幕末～明治	004
第334図3	1区	黒灰色土	国産磁器	染付小碗	肥前系	(8.4)	7.1	(4.5)	-	高台内「文明成化年製」色 結黒地か 1/4残存		001
第334図4	1区	黒灰色土	国産陶器	皿か	備前系	(10.0)	2.2+0	-	-	未定陶器 口縁のみ		010
第334図5	1区	黒灰色土	国産陶器	碗	肥前系	(10.8)	7.3	(4.2)	-	1/4残存	1650～1690	006
第334図6	1区	黒灰色土	国産陶器	匙か	備前系	-	0.9+0	-	-	未定陶器 小片		002
第334図7	1区	黒灰色土	土師質土器	漆罎	産地不明	(22.8)	20.8	(20.2)	-	外面に刻印 1/3残存		007
第334図8	1区	黒灰色土	土製品	人形		5.0	2.7+0	1.1	-	鳥 1/2残存		006
第335図1	1区	茶褐色土 (北)	国産磁器	染付皿	肥前系	(29.8)	8.2	(15.4)	-	1/4残存 高台内に目跡有	17c後半～	002
第335図2	1区	茶褐色土 (北)	国産磁器	染付碗	肥前系	10.1	5.1	4.3	-	松屋文 3/4残存 初期伊 万里	1630～1640	001
第335図3	1区	茶褐色土 (北)	国産磁器	染付碗	肥前系	10.8	6.7	4.1	-	高台内「文明年製」3/4残 存	18c前半～中頃	003
第335図4	1区	茶褐色土 (北)	国産磁器	染付火入か	肥前系	5.7	6.9	5.4	-	柄文 3/4残存		004
第335図5	1区	茶褐色土 (北)	国産陶器	碗	肥前系	-	5.0+0	(5.0)	-	陶胎染付 山水文か 1/5 残存	17c後半～18c前半	005
第335図7	1区	茶褐色土 (東)	国産陶器	壺	瀬戸	(7.4)	6.6+0	-	-	耳1個残存 1/4残存		001
第335図11	1区	表土	国産磁器	染付皿	肥前系	-	0.6+0	-	-	楕圓文字有 目跡有		002
第335図12	1区	表土	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.5)	7.3	(5.2)	-	砂目跡み 初期伊万里 1/2残存	1610～1630	001
第335図13	1区	表土	国産磁器	色絵段重	肥前系	(7.3)	3.0	(4.0)	-	2区SK005 P005とセットか 二次被熱 内面付着 物か 1/2残存		004
第335図14	1区	表土	須恵質土器	罎	亀山	(30.6)	6.3+0	-	-	口縁のみ		003
第335図15	1区	表土	土製品	踏座道具		4.1	1.4	-	-	五重塔 透都穿孔有 完整		005
第336図1	2区	表土	国産磁器	染付皿	肥前系	-	1.4+0	-	-	二次被熱 楕圓文字「木戸 氏」 目跡4ヶ所あり		001
第336図2	2区	表土	国産陶器	小碗	産地不明	7.6	4.6	3.2	-	高台内「薩摩」二次被熱	近代	006
第336図3	2区	表土	国産陶器	小壺	瀬西系か	3.4	3.2	3.7	-	底部同軸糸切り跡L		005

第31表 1・2区 瓦形観察表1

図番番号	調査区	通称番号	種類	法量(cm), 以瓦元数			胎土	文様	備考	分類 時期	I番号
				長さ	幅	高さ					
第266図1	1区	SK015	軒丸瓦	130*0	18.3	1.8	白色粒子・石英・長石	巴文	1/2残存	TM類	050
第266図2	1区	SK015	軒平瓦	9.3*0	4.9	1.8	白色粒子	横文系	1/3残存	G類か	025
第274図7	2区	SK157	軒平瓦	10.8	19.8	5.2	長石・黒色粒子・鉄分・白色粒子	横文系	二次焼成	G類か	035
第279図10	1区	SK052	軒丸瓦	2.4*0	9.2*0	—	白色粒子・長石	巴文	巴反時計回り 珠文16	1/2残存	004
第279図11	1区	SK052	軒平瓦	12.9*0	3.4	1.3	白色粒子・長石	三葉文	1/2残存	D-2類	005
第279図15	1区	SK052黒色土	櫛ひ瓦か	11.2*0	5.1*0	2.1					004
第279図16	1区	SK052黒色土	櫛瓦	14.7*0	9.3*0	1.4	白色粒子・長石・鉄分				002
第280図8	1区	SK067	軒平瓦	5.1*0	(4.7)	1.7	白色粒子・黒色粒子・長石	横文系	キウコ	G類か	007
第280図9	1区	SK067	蓋戸瓦	19.4	12.5*0	1.5	白色粒子・長石・鉄分・角閃石・角閃石		3/4残存		005
第280図10	1区	SK067	鬼瓦	20.1*0	15.5*0	5.7	白色粒子・黒色粒子・長石		1/4残存		006
第282図3	1区	SK069	軒平瓦	4.9*0	3.8	1.8	白色粒子・黒色粒子・長石		雄蕊状文	E-3類	009
第282図4	1区	SK069	軒椀瓦	13.1*0	4.3	1.8	白色粒子	六葉花卉文	新印有「融和」キウコ	G類	012
第282図5	1区	SK069	椀瓦	8.5*0	5.9*0	1.8	白色粒子・長石		新印有「宝」		011
第282図6	1区	SK069	椀瓦	10.3*0	9.6*0	1.8	白色粒子・黒色粒子・長石		新印有「融O」キウコ		014
第283図8	1区	SK114	軒丸瓦	4.1*0	14.0	2.1	白色粒子・長石	巴文	巴反時計回り 珠文16	TB類	006
第285図10	2区	SK030	丸瓦	9.5	16.5	2.1	白色粒子・黒色粒子・長石	巴文	珠文16 巴時計回り	TG類か	009
第285図11	2区	SK030	平瓦	14.7*0	14.9*0	2.6	黒色粒子・鉄分・角閃石・長石		新印有筋に「三」		010
第286図5	2区	SK030 下層	軒平瓦	22.5	21.0	3.2	白色粒子・石英・長石	三葉朝葉文	法保宛形 二次焼成	B類	014
第286図13	2区	SK035	鬼瓦	20.2*0	14.1*0	5.0	白色粒子・鉄分・長石・角閃石	数珠掛焼成	御堂隆刻「真島助 透作」17c末~18c初		008
第286図14	2区	SK035	鬼瓦	25.3*0	15.3*0	6.0	白色粒子・長石・鉄分	数珠掛焼成	御堂隆刻「伏見住 藤原新田久吉重」新田類に「三」		007
第287図1	2区	SK035	鬼瓦	16.3*0	21.3*0	6.1	白色粒子・長石・鉄分				009
第287図2	2区	SK035	軒丸瓦	7.4*0	17.6	2.2	白色粒子・黒色粒子・長石	巴文	巴文反時計回り		010
第289図4	2区	SK062	鳥雲瓦	11.8*0	14.0	—	角閃石・黒色粒子	巴文	巴文反時計回り 珠文15		018
第291図5	2区	SK122	軒椀瓦	9.5*0	19.0*0	1.9	長石・白色粒子	花卉状文	新印有 キウコ	H類	012
第297図10	1区	SK045 2層	椀瓦	2.6	17.9	1.6	白色粒子・黒色粒子		椀瓦 新印有		001
第298図5	1区	SK055	櫛瓦	15.1*0	3.1	1.1	白色粒子				005
第298図6	1区	SK055	丸瓦	28.5	15.9	2.1	白色粒子・石英				006
第298図12	1区	SK055 2層	小菊瓦	2.3*0	8.4	1.7	黒色粒子・白色粒子・角閃石				005
第299図1	1区	SK060	丸瓦	24.3*0	15.0	1.6	白色粒子・長石		2/3残存		001
第299図2	1区	SK065	軒丸瓦	—	11.7*0	2.4	白色粒子・黒色粒子・長石	巴文	巴反時計回り 珠文/丸と異形を交互に配置		001
第300図6	1区	SK079 2層	軒丸瓦	4.2*0	6.6*0	1.5	白色粒子・長石・角閃石	巴文	巴反時計回り 1/3残存		002
第301図6	1区	SK087 1層	小菊瓦	4.0*0	5.1*0	1.8	黒色粒子	菊花文			003
第302図3	1区	S004	平瓦	18.4*0	17.9*0	1.7	白色粒子・黒色粒子・長石		新印有「町工場」		002
第302図15	1区	S007	椀瓦	5.1*0	5.6*0	1.7	白色粒子・黒色粒子		新印有「神大」		006
第305図7	1区	S142 2層	椀瓦	19.7*0	24.2*0	1.8	白色粒子・鉄分		新印有「OZ」キウコ		001

第32表 1・2区 瓦類観察表2

図録番号	調査区	遺構番号	種類	法面(㎝) 1/2復元数値			胎土	文様	備考	分類	時期	P番号
				最大長	最大幅	最大厚						
第306図7	1区	S192	餅り瓦か	7.3+0	7.3+0	1.7			1区S052黒色土 R004と同一個体か			001
第306図9	1区	S206	平瓦	12.1+0	5.0	1.7	白色粒子・黒色粒子		刷印有「壽」キウコ			002
第306図20	1区	S206	平瓦	8.3+0	11.4+0	1.7	白色粒子・黒色粒子		刷印有「さ」キウコ			001
第309図5	2区	S001	平瓦	11.4+0	15.2+0	1.8	白色粒子・黒色粒子・ 長石		刷印有「豊後市の 市 大平橋支那」 キウコ			003
第309図12	2区	S024	棟瓦	8.2+0	9.7+0	1.8	白色粒子・長石・黒色 粒子		刷印有「神九」			002
第310図5	2区	S041	棟瓦	16.5+0	14.6+0	1.8	白色粒子・黒色粒子		刷印有「組合」			003
第310図10	2区	S052	軒丸瓦	11.0+0	15.2+0	1.8	白色粒子・石英・長石		刷印有「和ノ邊」			001
第313図9	1区	SE090	軒平瓦	4.0+0	4.7	—	角閃石・黒色粒子	三葉文	唐草一對		D類か	006
第316図13	1区	SK075	小菊瓦	4.9+0	1.7+0	1.2			菊花文			004
第317図5	1区	SK095	軒丸瓦	5.4+0	14.0	1.7	白色粒子・角閃石・鉄 分・黒色粒子	巴文		巴反時計回り 珠文 15	TE類	005
第317図6	1区	SK095	葺平瓦	10.7	13.0	1.8	長石・角閃石					006
第319図4	1区	SK316	マンコ状	5.3	5.7	2.0						003
第320図14	1区	SK324	軒丸瓦	9.3+0	10.0+0	1.6	白色粒子・黒色粒子	巴文			TB類か	009
第320図15	1区	SK324	軒平瓦	6.9+0	3.1	1.6				中心部不明		010
第321図13	1区	SK353	軒丸瓦	2.1+0	6.1+0	—	白色粒子・長石	巴文		小片 巴文反時計 回り		011
第321図14	1区	SK353	軒平瓦	7.4+0	3.0	1.6	長石・鉄分・黒色粒子			又又付着 中心部不 明		012
第323図12	1区	S303 下層	軒丸瓦	6.6+0	13.1	1.5		巴文		巴反時計回り 珠文 16	TB類	003
第324図11	1区	S383	軒平瓦	12.8+0	3.7+0	1.5	石英・黒色粒子・長 石・角閃石	三葉胡堂文		1/2残存	C類	002
第325図2	1区	S422	軒平瓦	22.7	3.4	1.5	白色粒子・長石	三葉文		瓦当裏側下子	D-2類	002
第325図11	1区	S438	軒丸瓦	2.0+0	13.2	—	長石・白色粒子	巴文		巴文反時計回り 珠 文16	TB類	005
第325図12	1区	S438	軒丸瓦	8.8+0	15.0	1.9	白色粒子・黒色粒子・ 長石	巴文		巴文反時計回り 珠 文17		004
第325図13	1区	S438	軒平瓦	3.5+0	3.4	1.6	白色粒子・長石・鉄 分・角閃石	三葉文		瓦当裏側下子	D-2類	006
第329図4	1区	S120	軒丸瓦	5.8+0	7.0+0	1.4	長石・白色粒子・鉄分	巴文		巴反時計回り	TC類	002
第329図5	1区	S120	平瓦	32.8	17.5+0	1.8	長石・角閃石・白色粒 子・黒色粒子			1/2残存		003
第330図14	1区	SD160	平瓦	17.0	14.1	1.8	白色粒子・長石・角閃 石					007

第33表 1・2区 木製品観察表1

調査番号	調査区	品目番号	種別	重量(g/cm <sup>3</sup> ) JIS準拠測定値			材質	備考	ID番号
				最大値	最小値	平均値			
第286図6	2区	SK030下層	下駄	20.8	8.4	3.6			016
第287図3	2区	SK035	漆器柄	2.3+α	-	-		内面赤色、外面黒色外面に赤色菱型文	012
第311図11	2区	S676	下駄	15.7+α	8.0	3.3		二次焼酎 一部炭化	002
第313図10	1区	SE090	織	53.7	6.5	1.3		タ方織アリ	009
第313図11	1区	SE090	織	81.8	6.2	1.7		/2織 一部欠損アリ	013
第313図12	1区	SE090	井戸袴	81.0	6.0	1.2	スギ		014
第313図13	1区	SE090	井戸袴	84.8	8.8	1.4	スギ	タ方織	011
第313図14	1区	SE090	井戸袴	84.1	9.4	1.3	スギ	タ方織	012
第314図9	1区	SE304	織	21.2	18.1	20.2		節目穴を埋める粒あり	005
第328図1	2区	SE075	井戸袴	80.4	9.4	1.7	スギ	木釘跡 少方跡?	001
第328図2	2区	SE075	井戸袴	80.1	5.2	2.0	スギ	木釘跡 少方底	002
第328図3	2区	SE075	井戸袴	81.3	10.7	1.8	スギ	木釘跡 少方底	003
第332図2	2区	S166	不明	10.3	1.8	0.15		墨書文字あり	002
第332図3	2区	S166	箸	21.2	0.5	0.5		定形	004
第332図4	2区	S166	箸	23.5	0.7	0.5		定形	004'
第332図5	2区	S166	底板	24.3	12.1	7.0		木釘跡	005
第332図6	2区	S166	下駄	19.5	7.4	2.1			003
第332図7	2区	S179	箸	23.0	0.5	0.5			003
第332図8	2区	S179	虫物 底板	-	-	0.7		直理(12.0)	002
第332図9	2区	S179	下駄	17.5	8.6	4.6			004
第332図11	2区	S181	箸	22.2	0.5	0.6		定形	002

第 34 表 1・2 区 石製品観察表 1

図原番号	調査区	遺構番号	種類	比重(ton/L) 1/2 復元数値			重量(g)	石材	備考	F番号
				最大長	最大幅	最大厚				
第263図15	1区	SK010	不明	3.9+a	5.7+a	3.9	22.64	軽石	横円か? 被熱	015
第266図3	1区	SK015	礎	21.7	8.8	1.8+a	168.76	不明	赤褐色 釘書紙「一階機～」上面に墨付着 1/3残存	030
第266図4	1区	SK015	礎石	7.4+a	4.4+a	2.2	138.70	緑泥片岩		005
第269図15	2区	SK025	礎	10.7+a	5.8	1.1+a	111.00	不明	釘書紙「太田〇廣 太田氏～」緑横円形	006
第274図8	2区	SK157	礎	14.2+a	7.8	2.7	435.07	不明	黄白色 天草か 二次被熱	026
第282図7	1区	SK069	礎	8.5+a	5.8	1.8	135.15	不明	赤褐色 墨残存 1/3残存 裏面釘書か	015
第283図17	1区	SK139	基石	2.2	2.2	0.5	3.78	不明	黒 完形	010
第291図8	2区	SK122	礎	10.7+a	4.7	1.9	134.77	不明		013
第297図19	1区	SK045 外	礎石	4.0	3.4	2.1	48.20	安山岩系		009
第298図7	1区	SK055	石礎	81.4+a	19.9	11.3+a	-	凝灰岩	P12	007
第302図5	1区	S006	基石	7.8	0.8	0.75	11.96	不明		001
第302図14	1区	S007	礎	8.8+a	6.1	2.8	147.89	不明	天草か 墨付着	004
第302図26	1区	S024	礎石	17.5+a	6.3	1.15	201.00	不明		006
第303図15	1区	S044	石臼	-	9.8	-	-	凝灰岩	下臼	002
第304図4	1区	S073	礎石	5.2+a	3.2+a	0.5+a	14.48	不明		001
第304図15	1区	S112	石臼(上臼)	(33.4)	8.0	(32.0)	-	凝灰岩	1/2残存	001
第306図4	1区	S189	礎	10.7+a	4.7	1.3	97.10	結晶片岩	2/3残存	001
第307図3	1区	S233	石臼(上臼)	(38.6)	12.1	(35.0)	-	凝灰岩	1/5残存	001
第311図10	2区	S077	礎か	7.7+a	8.3+a	3.0+a	174.71	不明	木目の彫刻有	002
第312図2	2区	S137	礎石	5.5+a	5.6	1.4	85.36	不明	2面使用	001
第314図10	1区	SE304	基石	理2.2	-	0.5	3.73	不明	黒 完形	004
第327図5	2区	SE060	石臼	19.8+a	31+a	10.6	-	凝灰岩	下臼	002
第335図9	1区	横出時	不明	4.7	4.1	1.5	22.05	不明	錆型か ほぼ完形	002

第 35 表 1・2 区 石塔観察表 1

図原番号	調査区	遺構番号	種類	比重(ton/L) 1/2 復元数値			重量(g)	石材	備考	F番号
				最大長	最大幅	最大厚				
第313図15	1区	SE090	水輪	(24.0)	16.2	-	-	凝灰岩	1/2残存	008
第330図7	1区	SD155 中央	宝篋印塔	20.5+a	17.8	-	-	凝灰岩	錆花	003
第334図9	1区	黒灰色土	丸輪	33.2	18.4	16.0	-	凝灰岩	再加工あり	009
第334図10	1区	黒灰色土	笠	28.3	29.6	15.7	-	凝灰岩		003

第36表 1・2区 鉄製品観察表1

調査番号	調査区	品名番号	種類	長さ(cm)			重量(g)	備考	ID番号
				最大長	最大幅	最大厚			
第261図11	2区	SE020	鎌	19.0	3.4	0.5	-	ほぼ完成	014
第261図12	2区	SE020	小刀	13.2+0	2.7	0.4	-	ほぼ完成	006
第262図5	1区	SK005	釘	8.6	3.1	3.6	12.17	木材付着 炭化している 釘2本か	005
第262図6	1区	SK005	釘	5.9	1.1	0.4	3.79	頭巻釘	007
第262図7	1区	SK005	釘	4.6	2.8	0.5	5.43		008
第266図8	1区	SK015	釘	6.90	1.50	0.55	11.54	さっぱ釘 完成	032
第280図13	1区	SK067	鋸か	6.0	10.0	3.8	166.87		011
第283図18	1区	SK139	鋸状	9.4	5.2	0.6	93.99	フタか? 1/2残存	007
第284図16	1区	SK158	刀子か	25.2	2.9	0.7	112.1	ほぼ完成	003
第289図5	2区	SK082	皿か蓋	9.7	10.3	0.8	-		021
第297図9	1区	SX045 1冊	釘	11.5	5.5	1.2	73.85	木材付着	002
第303図20	1区	S051	芦筆	7.3	3.0	3.2	49.93	筆部分の径3.5 厚さ0.8	002
第305図11	1区	S147	不明	5.6	5.6	0.9	34.19	環状	001
第307図9	1区	S243	不明	7.5	2.7	1.5	22.58	環状 完成	001
第309図15	2区	S031	鉄瓶	(8.6)	6.6	(7.4)	-	亀(亀割あり)	002
第311図8	2区	S074	掛金具	5.8	-	0.4	-		001
第323図8	1区	S303	火箸	19.5	1.8	0.8	44.76	ほぼ完成	003-1
第323図9	1区	S303	火箸	20.3	2.0	1.5	58.62	ほぼ完成	003-2
第324図7	1区	S373	火打金か	4.5	6.4	0.8	39.72		002
第324図19	1区	S419	鋸前か	5.3	8.8	1.8	100.51		002
第335図6	1区	新緑色土 (北東)	鋸か	8.1	2.8	0.4	35.9	完成	001

第37表 1・2区 鋼製品観察表1

図番番号	調査区	遺構番号	種類	法量(cm), ほぼ元数値			重量(g)	備考	H番号
				最大径	最大幅	最大厚			
第263図16	1区	SK010	管	10.2+a	1.5	0.15	5.05		017
第263図17	1区	SK010	煙管	5.0+a	0.9+a	0.1	2.86	覆蓋	011
第263図18	1区	SK010	煙管	5.8	1.1	0.1	5.46	吸口 完形	012
第266図5	1区	SK015	急須か	(10.8)	3.8+a	—	—		029
第279図4	1区	SK025 2層	煙管	4.1+a	1.1	0.1	3.26	吸口 3/4残存	002
第279図12	1区	S052	管	10.50	1.00	0.15	4.53		006
第280図11	1区	SK067	煙管	5.4	4.0	—	9.35	覆蓋 ほぼ完形	009
第280図12	1区	SK067	煙管	5.3	2.0	—	5.4	覆蓋 完形 金彫が一部残る	010
第282図6	1区	SK069	管	5.9+a	1.0	0.2	2.81	1/2残存	016
第282図9	1区	SK069	火箸	23.7	0.6	0.3	17.4		003
第283図19	1区	SK130	煙管	5.5	2.2	—	5.68	覆蓋 完形	008
第295図3	1区	SX040	釣針	3.8	2.2	0.1	1.25	ほぼ完形	003
第295図7	1区	SX040 両面	煙管	1.7	1.7+a	—	2.74	覆蓋 1/4残存	002
第296図2	2区	SX050	煙管 吸口	4.9	—	0.9	—	破断に陥み跡残存 中間部凹みは灰塵し僅か	002
第297図6	1区	SX045 1層	不明	1.7	0.7	0.15	4.15	リング状 完形	001
第302図27	1区	S024	不明	2.4	1.3	0.5	3.24		005
第303図9	1区	S032	煙管	7.4	3.0	—	9.86	覆蓋 完形	002
第304図11	1区	S101	不明	15.1	0.4	—	10.42	工具か ほぼ完形	001
第305図10	1区	S147	取手か	2.8	8.0	0.5	10.31		002
第306図16	1区	S197	煙管	6.0	0.9	—	5.12	吸口 羅字残存 ほぼ完形	007
第306図17	1区	S197	釘	3.15	0.80	0.20	0.76	ほぼ完形	008
第307図2	1区	S232	土瓶の取手	4.6	8.4	4.0	19.97	完形 穿孔2か所あり	001
第308図2	1区	S269	磨り金具	6.2+a	5.0+a	0.7	4.48	機引手か ほぼ完形	001
第309図9	2区	S018	毛掻き	6.5	1.3	0.5	—	完形	001
第310図14	2区	S053	おろし金	(15.8)	7.5	—	—	ほぼ完形	004
第312図4	2区	S148	火箸	—	—	—	—		001
第318図10	1区	SK311	煙管	5.25	1.05	—	7.59	覆蓋 完形	006
第321図15	1区	SK353	不明	5.4	2.9	—	27.06	網型 ほぼ完形 孔2か所あり(対角線上)	016
第323図13	1区	S306	煙管	4.9	1.8	—	8.12	覆蓋 羅字残存 羅字の木質に赤錆か	001
第323図14	1区	S306	煙管	4.3+a	1.05	—	5.39	吸口 羅字残存 羅字の木質に赤錆か	002
第324図12	1区	S383	鋳金具	3.65	2.0	0.3	0.65		003
第324図13	1区	S383	耳かき	19.2	0.5	0.2	7.29	ほぼ完形	001
第326図2	1区	SB130d	蓋	10.2	2.5	—	42.8	つまみ径/2! 完形	002
第328図6	2区	SE075(弁類)	煙管 覆蓋	5.1+a	1.1	0.5	—	ほぼ完形	001
第329図9	1区	SK125 3層	不明	4.35	2.75	1.20	8.24	鋳型(仕切付)	001
第336図4	2区	黄土	灰かき	9.3	6.2	0.2	—		004

第38表 1・2区 銅銭観察表1

図録番号	調査区	遺構番号	銭銘	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	国・王朝名	初録年	備考	図録号
第262図6	1区	SK005	寛永通宝	2.4	0.6	2.31	日本	1636年	古寛永	004
第263図19	1区	SK010	寛永通宝	2.3	0.5	2.40	日本	1636年	古寛永	013
第266図7	1区	SK015	寛永通宝	2.4	0.6	2.35	日本	1636年	古寛永	034
第267図6	1区	SK020	寛永通宝	2.3	0.5	2.26	日本	1636年	古寛永	010
第271図2	2区	SK045	寛永通宝	2.4	0.6	-	日本	1636年	古寛永	010
第283図20	1区	SK139	寛永通宝	2.4	0.6	2.38	日本	1636年	古寛永	009
第293図2	1区	SX211	寛永通宝	2.4	0.5	2.24	日本	1636年	古寛永	001
第304図10	1区	S097	寛永通宝	2.35	0.5	2.24	日本	1636年	古寛永	001
第314図11	1区	SE304	寛永通宝	2.45	0.6	2.67	日本	1636年	古寛永	003
第318図23	1区	SK311 下層	開元通宝	2.3	0.7	2.38	南唐	960年	真書	005
第335図8	1区	茶褐色土南	開元通宝	2.4	0.7	2.3	南唐	960年	真書	002
第335図10	1区	桃出時	寛永通宝	2.4	0.6	3.0	日本	1636年	古寛永	001
第335図16	1区	表土	永樂通宝	2.4	0.6	2.8	明	1408年	真書	007
第336図5	2区	表土	永樂通宝	2.5	0.6	-	明	1408年	真書	007

第 39 表 1・2 区 特殊品観察表 1

図録番号	調査区	遺構番号	種別	種類	寸法(cm)				備考	分類 時期	F番号
					口徑・ 最大長	幅・ 最大幅	高さ・ 最大厚	孔徑・ 深さ(μ)			
第280図14	1区	SK067	骨製品	蓋か	7.2+α	1.4	0.3	3.17	角製か		012
第302図16	1区	S007	ガラス製品	小玉	0.45	0.25	—	0.1	完形		001
第303図7	1区	S031	金属製品	餅	5.6	1.1	0.7	21.69	穿孔あり 細か?		001
第307図12	1区	S258	船製品	重りか	2.75	2.75	1.90	87.02			001
第309図7	2区	S003	ガラス製品	瓶	3.2	11.4	4.2	—	福新CO NEWYORK APPRL 17 1877 調味料瓶		002
第309図13	2区	S024	ガラス製品	瓶	2.2	13.0	4.2	—	「製造元 金剛糖」	近代	002
第310図6	2区	S041	ガラス製品	瓶	1.9	10.0	—	—	「味の素」	明治41年～	004
第311図14	2区	S096	金属製品	記章	3.9	4.7	0.3	—			001
第317図15	1区	SK302	金属製品	鋳金具か	1.8	0.8	0.05	0.21	全		004
第318図11	1区	SK311	金属製品	鉛玉	1.3	1.3	1.3	11.29	鉄砲玉 完形		007
第318図24	1区	SK311 下層	ガラス製品	皿	(9.2)	1.8+α	—	—	1/5残存		006
第335図17	1区	表土	ガラス製品	瓶	1.7	6.7	2.0	—	「桃屋」「豊寿堂製」完形		006
第336図6	2区	表土	ガラス製品	瓶	—	5.0	—	—	「池田製 ヨドホルム」	20c期	002
第336図7	2区	表土	ガラス製品	瓶	1.5	8.9	2.8	—	「東京 永田製 貴女之水」		003

第40表 2区SK157土器・陶磁器類観察表1

調査番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	容量(cm <sup>3</sup> ) 12度角数値			備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大径	高さ/ 最大深	底径/ 最大底径				
第272図1	2区	SK157	瓦産磁器	紅瓦	肥前系	5.1	1	2	-	型押し成形	1820~1860	036
第272図2	2区	SK157	瓦産磁器	紅瓦	肥前系	4.8	1.6	1.7	-	型押し成形	1810~1820	037
第272図3	2区	SK157	瓦産磁器	紅瓦	肥前系	4.85	1.6	2.1	-	型押し成形	1810~1820	038
第272図4	2区	SK157	瓦産磁器	紅瓦	肥前系	4.7	1.6	1.95	-	型押し成形	1810~1820	039
第272図5	2区	SK157	瓦産磁器	染付重	肥前系	(4.6)	2.2	(8.0)	-	PROXの重	1780~1810	006
第272図6	2区	SK157	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(9.2)	4.6	5.2	-	小広葉碗	1780~1810	005
第272図7	2区	SK157	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(11.8)	6.6	6.4	-	広葉碗	1780~1810	004
第272図8	2区	SK157	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	4.2+g	6.3	-	広葉碗	1780~1810	040
第272図9	2区	SK157	瓦産磁器	青磁染付碗	肥前系	(7.2)	6.0	(3.8)	-	扇形碗	1750~1780	041
第272図10	2区	SK157	瓦産磁器	青磁染付碗	肥前系	(6.7)	4.9+g	-	-	扇形碗	1750~1780	042
第272図11	2区	SK157	瓦産磁器	染付蓋付鉢	肥前系	-	3.8+g	(7.8)	-	桜の目印型蓋台	18世紀後半	043
第272図12	2区	SK157	瓦産陶器	土瓶蓋	肥前系	7.3/10.0	3.7	-	-		18世紀後半~19世紀	044
第272図13	2区	SK157	瓦産陶器	土瓶蓋	不明	6.4/8.8	2.0	4.0	-		18世紀後半	045
第272図14	2区	SK157	瓦産陶器	襦鉢	肥前系	(30.2)	32.2+g	-	-		18世紀後半~19世紀	046
第272図15	2区	SK157	瓦産陶器	水注	瀬戸・美濃	(10.2)	8.1+g	-	-		18世紀?	031
第272図16	2区	SK157	瓦産陶器	徳利	備前	-	16.2+g	7.0	-	二次焼跡 布袋徳利	19世紀	021
第272図17	2区	SK157	瓦質土器	燈炉	在地	(20.0)	12.3+g	-	-	燈炉?	19世紀前半~中葉	034
第272図18	2区	SK157	瓦産磁器	紅瓦	肥前系	(4.3)	1.7	(1.8)	-	型押し成形(口径小・器高さ)	18世紀前半	047
第272図19	2区	SK157	瓦産磁器	紅瓦	肥前系	4.1	1.5	1.9	-	型押し成形(口径小)二次焼跡	18世紀前半か?	048
第272図20	2区	SK157	瓦産磁器	紅瓦口	肥前系	6.1	2.2	2.9	-	二次焼跡	1710~1750	049
第272図21	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	4.4	2.4	2.5	-	小型 二次焼跡?	17世紀後半	050
第272図22	2区	SK157	瓦産磁器	染付口	肥前系	7.1	5.0	3.4	-	満漣 二次焼跡	17世紀後半	051
第272図23	2区	SK157	瓦産磁器	染付口	肥前系	7.5	6.0	5.0	-	五弁花 二次焼跡	18世紀前半	052
第272図24	2区	SK157	瓦産磁器	染付口	肥前系	9.0	6.5	4.0	-	焼跡	17世紀後半	002
第272図25	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	7.2	5.2	3.6	-	型打ち成形 焼跡	17世紀中頃~後半	001
第272図26	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	7.3	5.3	3.6	-	型打ち成形 焼跡	17世紀中頃~後半	063
第272図27	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	-	33+g	3.7	-	口径部全欠(6.5/15.7 PROX+PRO52と同じ 二次焼跡)	17世紀中頃~後半	054
第272図28	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	8.3	6.1	5.0	-	型打ち成形 輪花 二次焼跡	17世紀末~18世紀初葉	055
第272図29	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	8.6	6.4	5.0	-	型打ち成形 輪花 二次焼跡	17世紀末~18世紀初葉	003
第272図30	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	8.4	6.2	4.9	-	型打ち成形 輪花 二次焼跡	17世紀末~18世紀初葉	056
第272図31	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	8.8	6.4	5.0	-	型打ち成形 輪花 二次焼跡	17世紀末~18世紀初葉	057
第272図32	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	8.2	6.3	5.0	-	型打ち成形 輪花 二次焼跡	17世紀末~18世紀初葉	058
第272図33	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	8.5	6.1	5.1	-	型打ち成形 輪花 二次焼跡	17世紀末~18世紀初葉	059
第272図34	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	8.6	6.4	5.0	-	型打ち成形 輪花 二次焼跡	17世紀末~18世紀初葉	060
第272図35	2区	SK157	瓦産磁器	白磁口	肥前系	8.0	6.6	5.0	-	型打ち成形 輪花 二次焼跡	17世紀末~18世紀初葉	061
第272図36	2区	SK157	瓦産磁器	染付重	肥前系	9.8	2.8	3.8	-	大形浅皿 五弁花	1730~1740	062

第41表 2区SK157土器・陶磁器類観察表2

図録番号	調査区	遺構番号	種類	形状	質地	注記(orn) 1/2度光物器			備考	分期	時期	図録番号
						口径/底径	高さ/最大径	底径/底径比				
第273図37	2区	SK157	瓦座磁器	染付碗	肥前系	9.3	5.7	3.6	-	二次被熱	17世紀後半～18世紀初頃	063
第273図1	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	9.6	2.0	5.1	-	二次被熱	18世紀前半	064
第273図2	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	9.6	2.1	5.2	-	二次被熱	18世紀前半	065
第273図3	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	9.5	2.2	5.4	-	二次被熱	18世紀前半	066
第273図4	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	(9.6)	2.1	(5.2)	-	二次被熱	18世紀前半	067
第273図5	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	9.2	2.1	5.6	-	見込み五弁花 高台内丹繪	17世紀後半～18世紀前半	027
第273図6	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	(9.8)	2.1	5.5	-	見込み五弁花 洪箱 被熱	17世紀後半～18世紀前半	068
第273図7	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	(10.0)	2.1	5.6	-	見込み五弁花 洪箱 二次被熱	17世紀後半～18世紀前半	069
第273図8	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	(10.0)	2.0	5.2	-	見込み五弁花 洪箱 二次被熱	17世紀後半～18世紀前半	070
第273図9	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	(9.8)	2.1	5.5	-	見込み五弁花 洪箱 二次被熱	17世紀後半～18世紀前半	071
第273図10	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	(10.4)	2.2	5.8	-	洪箱 二次被熱	17世紀後半～18世紀前半	072
第273図11	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	-	1.9+0	5.8	-	洪箱 二次被熱	17世紀後半～18世紀前半	073
第273図12	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	-	-	-	-	変形皿 型押し成形 二次被熱	17世紀後半	012
第273図13	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	-	-	-	-	変形皿 型押し成形 二次被熱	17世紀後半	074
第273図14	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	-	-	-	-	変形皿 型押し成形 二次被熱	17世紀後半	075
第273図15	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	13.2	3.5	8.0	-	コンニャク五弁花 二次被熱	18c前半～中	014
第273図16	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	13.2	3.2	7.8	-	コンニャク五弁花 二次被熱	18c前半～中	076
第273図17	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	13.0	3.5	7.8	-	コンニャク五弁花 二次被熱	18c前半～中	077
第273図18	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	12.8	3.5	7.8	-	コンニャク五弁花 二次被熱	18c前半～中	078
第273図19	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	13.1	3.3	7.9	-	コンニャク五弁花 二次被熱	18c前半～中	079
第273図20	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	13.2	3.3	7.8	-	コンニャク五弁花 二次被熱	18c前半～中	080
第273図21	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	13.4	3.3	7.8	-	コンニャク五弁花 二次被熱	18c前半～中	081
第274図1	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	16.1	2.8	10.4	-	変形皿成形 二次被熱	1600～1670	013
第274図2	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	16.2	2.6	10.2	-	変形皿成形 二次被熱	1600～1670	082
第274図3	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	15.6	2.7	10.2	-	変形皿成形 二次被熱	1600～1670	083
第274図4	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	15.6	2.5	10.2	-	変形皿成形 二次被熱	1600～1670	084
第274図5	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	(15.3)	2.4	10.3	-	変形皿成形 二次被熱	1600～1670	085
第274図6	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	(15.6)	2.7	10.3	-	変形皿成形 二次被熱	1600～1670	086
第274図7	2区	SK157	瓦座磁器	染付皿	肥前系	(15.8)	3.0	(10.6)	-	変形皿成形 二次被熱	1600～1670	087
第274図8	2区	SK157	瓦座磁器	白磁皿	肥前系	(15.0)	3.1	(8.8)	-	変形皿成形 二次被熱	17世紀末～18世紀初頃	088
第274図9	2区	SK157	瓦座磁器	白磁皿	肥前系	15.4	2.7	8.8	-	変形皿成形 二次被熱	17世紀末～18世紀初頃	089
第274図10	2区	SK157	瓦座磁器	白磁皿	肥前系	15.4	2.9	8.8	-	変形皿成形 二次被熱	17世紀末～18世紀初頃	090
第274図11	2区	SK157	瓦座磁器	白磁皿	肥前系	15.2	2.9	8.9	-	梅花 二次被熱	17世紀末～18世紀初頃	11
第274図12	2区	SK157	瓦座磁器	白磁皿	肥前系	(14.5)	4.5	(7.8)	-	変形皿成形 二次被熱	17世紀末～18世紀初頃	091
第274図13	2区	SK157	瓦座磁器	白磁皿	肥前系	16.4	5.8	8.2	-	梅花 口虹 内面繪刻文 二次被熱	17c後半～18c前半	010
第274図14	2区	SK157	瓦座磁器	白磁皿	肥前系	(17.2)	5.3	8.0	-	梅花 口虹 内面繪刻文 二次被熱	17c後半～18c前半	092

第 42 表 2 区 SK157 土器・陶磁器類観察表 3

品目番号	調査区	遺構番号	種別	器種	産地	重量 (g)				備考	分期	時期	H番号
						口縁・底径	高さ	口径・底径	口径・底径				
第274図15	2区	SK157	黒産磁器	白磁皿	肥前系	(17.4)	5.2	(7.8)	-	輪花・口紅 内面雕刻文 二次被熱	17c後半～18c前半		093
第274図16	2区	SK157	黒産磁器	白磁皿	肥前系	(16.0)	6.0	8.2	-	輪花・口紅 内面雕刻文 二次被熱	17c後半～18c前半		094
第274図17	2区	SK157	黒産磁器	白磁皿	肥前系	(16.5)	5.55	8.3	-	輪花・口紅 内面雕刻文 二次被熱	17c後半～18c前半		095
第274図18	2区	SK157	黒産磁器	白磁皿	肥前系	-	25±0	8.0	-	輪花・口紅 内面雕刻文 二次被熱	17c後半～18c前半		096
第275図1	2区	SK157	黒産磁器	染付皿	肥前系	(18.2)	3.0	11.6	-	輪花・高台内/大明年製 二次被熱	18世紀前半		028
第275図2	2区	SK157	黒産磁器	染付大皿	肥前系	31.0	6.2	18.2	-	4分所入り注文 二次被熱 角箱 糸野8第131図-30乙 同形	18c前半		016
第275図3	2区	SK157	黒産磁器	染付台付鉢	肥前系	31.0	9.6	17.4	-	二次被熱	1860～1890年		017
第275図4	2区	SK157	黒産磁器	染付鉢	肥前系	(21.2)	8.4	(9.0)	-	二次被熱	17c後半～18c初葉		097
第275図5	2区	SK157	黒産磁器	染付墨付鉢	肥前系	(14.0)	69±0	-	-	口縁部内彫刻 二次被熱	17c後半～18c初葉		098
第275図6	2区	SK157	黒産磁器	染付香炉	肥前系	4.0	5.5	(3.0)	-	二次被熱			000
第275図7	2区	SK157	黒産磁器	染付瓶又は水注	肥前系	-	58.3±0	6.6	-	二次被熱 輸出用か?	～18世紀前半		007
第275図8	2区	SK157	黒産磁器	青磁人形	肥前系	7.2±0	7.1±0	1.5	-	履き差 被熱浴槽			009
第276図1	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	(14.2)	3.3	7.6	-	二次被熱	16世紀後半～17世紀初葉		099
第276図2	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	(14.2)	3.3	7.6	-	二次被熱	16世紀後半～17世紀初葉		100
第276図3	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	-	1.7±0	7.5	-	二次被熱	16世紀後半～17世紀初葉		101
第276図4	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	-	1.3±0	7.2	-	二次被熱	16世紀後半～17世紀初葉		102
第276図5	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	-	1.7±0	7.2	-	二次被熱	16世紀後半～17世紀初葉		103
第276図6	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	14.8	4.5	7.4	-	高台内露出 二次被熱	16世紀後半～17世紀初葉		104
第276図7	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	(14.1)	5.0	7.0	-	高台内露出 二次被熱	16世紀後半～17世紀初葉		105
第276図8	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	(14.2)	4.7	(8.2)	-	高台内露出 二次被熱	16世紀後半～17世紀初葉		106
第276図9	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	15.8	3.6	6.2	-	二次被熱	1620頃 古染付		015
第276図10	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	15.6	3.3	5.2	-	二次被熱	1620頃 古染付		107
第276図11	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	15.6	3.1	6.5	-	二次被熱	1620頃 古染付		108
第276図12	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	(16.0)	3.3	6.6	-	二次被熱	1620頃 古染付		109
第276図13	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	(15.6)	3.4	6.4	-	二次被熱	1620頃 古染付		110
第276図14	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	(16.0)	3.4	5.4	-	二次被熱	1620頃 古染付		111
第276図15	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	(15.6)	3.1	(5.2)	-	二次被熱	1620頃 古染付		112
第276図16	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	(15.8)	3.3	(6.2)	-	二次被熱	1620頃 古染付		113
第276図17	2区	SK157	中国磁器	染付皿	景德鎮窯	(15.8)	3.1	(5.3)	-	二次被熱	1620頃 古染付		114
第276図18	2区	SK157	中国磁器	染付大皿	景德鎮窯	(35.2)	6.0	(18.0)	-	芙蓉手 二次被熱	16世紀後半～17世紀初葉		029
第277図1	2区	SK157	黒産陶器	陶胎染付碗	肥前系	(10.6)	5.7±0	-	-	二次被熱	17世紀後半～18世紀前半		115
第277図2	2区	SK157	黒産陶器	人形	不明	3.2	2.7	1.1	-	軟質胎無釉 獅子			025
第277図3	2区	SK157	黒産陶器	壺	関西系	(8.4)	2.4	2.4	-	唐様 二次被熱			030
第277図4	2区	SK157	黒産陶器	碗	関西系	(10.8)	4.0±0	-	-	唐・唐末 二次被熱			116
第277図5	2区	SK157	黒産陶器	碗	関西系	-	3.0±0	2.2	-	唐・唐末 二次被熱			117

第43表 2区 SK157 土器・陶磁器類観察表4

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	測定値(mm)				備考	分期	時期	片番号
						口径/底径	器高	口径/底径	口径/底径				
第277図6	2区	SK157	高産陶器	皿	九州系	25.0	4.5	19.0	-	二次焼熟 上野・高取系か? 縁輪 体部下半~高台内底筋	17c後半~18c前半		020
第277図7	2区	SK157	高産陶器	鉢	肥前唐津系	43.6	10.5+0	-	-	二割手 二次焼熟	17c後半~18c前半		018
第277図8	2区	SK157	不明陶器	蓋	不明	6.2	1.4	7.0	-	印刷 二次焼熟(青釉)			118
第277図9	2区	SK157	不明陶器	水注	不明	5.6	6.4+0	-	-	印刷 二次焼熟(青釉)			119
第277図10	2区	SK157	不明陶器	水注?	不明	-	-	7.6	-	SK157 R118の底部か? 二次焼熟			120
第277図11	2区	SK157	高産陶器	蓋	関西系	10.6	0.9	8.0	-	二次焼熟			032
第277図12	2区	SK157	高産陶器	水筒	関西系	-	6.9+0	-	-	SK157 R032の身 二次焼熟			033
第277図13	2区	SK157	高産陶器	風炉	九州系	18.0	15.0+0	12.2	-	二次焼熟 高取系 上野高取系か	18世紀前半		023
第277図14	2区	SK157	高産陶器	瓶	肥前唐津系	29.4	25.7	10.6	-	広口型 二次焼熟	17c後半~18c前半		022
第277図15	2区	SK157	高産陶器	壺<or>燈利	畿前か	-	30.0+0	18.0	-	二次焼熟 刷印「太」			024
第277図16	2区	SK157	高産陶器	壺	不明	-	23.8	11.6	-	二次焼熟			019

第 44 表 2 区 SK157 瓦類觀察表 1

図面番号	調査区	遺構番号	種類	寸法(mm) 22 度瓦類			長さ	天端	備考	片番号
				最大長	最大幅	最大厚				
第279図1	2区	SK157	瓦瓦	8.0	10.0	1.8			凹反押付面付	121
第279図2	2区	SK157	軒平瓦	10.0	19.8	0.2			f~0類	030
第279図3	2区	SK157	軒平瓦	3.2	11.0	0.0			f~0類	122
第279図4	2区	SK157	軒平瓦	12.3	16.2	0.0			f~0類	123
第279図5	2区	SK157	平瓦	12.0	24.0	1.8			裾帯瓦	124

第 45 表 2 区 SK157 石製品觀察表 1

図面番号	調査区	遺構番号	種類	寸法(mm) 112 度瓦類			重量(g)	石材	備考	片番号
				最大長	最大幅	最大厚				
第279図6	2区	SK157	礎	142*0	7.6	2.7	—	砂岩		28

第46表 3・4区 土器・陶磁器類観察表1

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm <sup>3</sup> ) 32位元数値				備考	分類	時期	内番号	
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	内容 容量(L)					
第337図1	3区	SA175a	国産磁器	白磁香炉	肥前系	-	2.8+0	(5.4)	-	胴部1箇所残存 高台粗砂付着	17c代		001	
第337図2	3区	SA179c	国産陶器	灯火具	肥前系	4.2	12.3	5.4	-	鉄軸 径径変形	18c代		001	
第337図4	3区	SA175e	国産磁器	染付小皿	肥前系 (132)	3.5	4.7	-	-	初野伊万里 見込み蛇の目 刺割草 二次被熱	17c前半~中頃		002	
第337図5	3区	SA175e	国産磁器	染付猪口	肥前系	-	5.5+0	-	-	輪花 篋 二次被熱	17c中頃~後半		003	
第337図6	3区	SA175e	国産磁器	染付小碗	肥前系 (7.0)	4.9+0	-	-	-	丸網 花唐草 縁縁或は 二次被熱			004	
第337図7	3区	SA175e	国産陶器	壺	福岡系 (8.4)	6.7+0	-	-	-	上野+高取 鉄軸 1/3残存 二次被熱			001	
第338図1	3区	SE030	国産磁器	白磁紅皿	肥前系 (4.4)	1.3	(1.4)	-	-	型押し成形			003	
第338図2	3区	SE030	国産陶器	染付皿か	肥前系	-	1.3+0	(3.8)	-	-			18c代	002
第338図3	3区	SE030	国産磁器	染付皿	肥前系	-	3.3+0	(7.4)	-	鶴島 寶篋染付 輪窓文	1700~1730		001	
第338図4	3区	SE030	土器	灯明皿		-	1.3+0	-	-	透明釉 又入付着	18c代		004	
第338図7	3区	SE030-SW010	国産陶器	小碗	萩	7.2	4.9	3.0	-	ゴウ面付	19c代		001	
第338図8	3区	SE030-S258+S926	国産磁器	染付鉢	肥前系 (15.0)	6.7+0	-	-	-	有田 外面溜璃釉	18c後半~19c初頭		001	
第338図9	3区	SE040	国産磁器	白磁紅皿	肥前系	4.8	1.5	1.5	-	型押し成形 宛形	18c代		003	
第338図10	3区	SE040	国産磁器	染付手塩皿	肥前系	6.0	1.6	3.5	-	二次被熱 櫻間山水文	18c後半~		002	
第338図11	3区	SE040	国産磁器	染付碗	肥前系	-	4.3+0	(6.2)	-	広葉碗 窓部片	1700~1820		001	
第338図12	3区	SE040	国産陶器	小皿	肥前系 (11.4)	3.3	(4.5)	-	-	反胎 見込み胎土目	1594~1610		005	
第338図13	3区	SE040	国産陶器	小皿	肥前系 (12.0)	3.0	(4.9)	-	-	反胎	1594~1610		004	
第338図14	3区	SE040	国産陶器	火鉢	瀬戸美濃 (28.0)	6.6+0	-	-	-	縁軸 印花文	18c後半~19c中頃		006	
第339図1	3区	SE060	国産磁器	染付小碗	瀬戸美濃か	6.4	3.1	2.5	-	コノハト輪 扇樹文	19c中頃~		002	
第339図2	3区	SE060	国産磁器	染付碗	肥前系	10.3	4.7+0	-	-	横反碗	1820~1860		001	
第339図3	3区	SE060并期内	国産磁器	染付壺	肥前系 (9.0)	2.6	3.6	-	-		19c代		002	
第339図4	3区	SE060并期内	中国磁器	色絵小碗	徳化窯	8.1	4.5	3.4	-	色絵 口类 2/3残存	1780~1860		003	
第339図5	3区	SE060并期内	国産磁器	染付碗	肥前系	8.8	7.1	5.4	-	梅折枝 湯敷弁形 3/5残存 二次被熱	19c代		001	
第339図6	3区	SE060裏込	国産磁器	染付皿	肥前系	-	3.3+0	-	-	口縁部片			002	
第339図7	3区	SE060裏込	国産磁器	染付碗	肥前系 (9.0)	2.1+0	-	-	-	横反碗	1820~1860		001	
第339図8	3区	SE060裏込	土製品	土二子ユア灯籠	関西か	3.4+0	4.1+0	1.9	-	透明釉 縁軸			003	
第339図9	3区	SE060-S016+S198	国産磁器	黄磁花入	関西系	10.4	27.0	12.0	-	三田青磁	19c前半~中頃		001	
第339図10	3区	SE140	国産陶器	染付壺	肥前系	-	1.1+0	-	-	口縁部片	18c中頃~後半		004	
第339図11	3区	SE140	国産陶器	碗	肥前系	-	5.3+0	4.9	-	反胎	1650~1690		002	
第339図12	3区	SE140	国産陶器	火入	関西系	-	5.3+0	(11.2)	-	透明釉 縁軸	18c中頃~後半		001	
第339図13	3区	SE140	瓦器	小皿		8.8	1.9	-	-	内面暗文			003	
第340図1	3区	SE305	国産磁器	白磁紅皿	肥前系	4.5	1.5	1.4	-	型押し成形 宛形 二次被熱	19c代		008	
第340図2	3区	SE305	国産磁器	染付壺	肥前系	3.8	2.6	6.4	-	横反碗蓋 丸文+花唐草 二次被熱	1820~1860		005	
第340図3	3区	SE305	国産磁器	色絵小坪	肥前系か	-	1.9+0	-	-	金彩	19c前半~		011	
第340図4	3区	SE305	国産磁器	色絵小碗	肥前系 (6.4)	2.9	(2.8)	-	-	羽子指文 1/3残存 二次被熱	19c前半~		010	
第340図5	3区	SE305	国産磁器	染付小坪	肥前系 (7.0)	3.5	(3.0)	-	-	縁軸文字有 1/2残存 二次被熱	19c前半~		007	

第47表 3・4区 土器・陶磁器類観察表2

図録番号	調査区	遺構番号	種別	器種	産地	法量(cm)		は復元数値		備考	分期	時期	H番号
						口径・最大径	最大径	口径・最大径	口径・最大径				
第340図6	3区	SE305	国産磁器	染付缸猪口	肥前系	7.6	2.6	2.6	-	1/2残存 二次被熱	19c後半		003
第340図7	3区	SE305	国産磁器	染付小碗	肥前系 (8.4)	5.4+α	(3.6)	-	-	丸碗 箱底文 二次被熱	1780～1810		001
第340図8	3区	SE305	国産磁器	染付碗	肥前系	-	5.1+α	-	-	筒型 口縁部七宝文 初編伊万里 二次被熱	1630～1650		002
第340図9	3区	SE305	国産磁器	白磁鉢	肥前系	4.6	2.0	4.0	-	染付鉢 ほぼ完全 二次被熱			009
第340図10	3区	SE305	国産磁器	染付 火入か	肥前系	-	1.1+α	(9.0)	-	底面のみ 蛇の目凹型高台 底面有 二次被熱	19c代		006
第340図11	3区	SE305	国産磁器	黄磁 器 種不明	肥前系	-	-	-	-	二次被熱			012
第340図12	3区	SE305	国産磁器	染付猪口	肥前系	3.4+α	3.5+α	1.3	-	高台メノウ状に二次加工			004
第340図13	3区	SE305	国産磁器	色絵水盥	肥前系か	2.5+α	2.3	0.4	-	人型 顔面のみ 二次被熱			013
第340図14	3区	SE305	国産磁器	染付水盥	肥前系	11.0	7.3	4.9+α	-	人型 二次被熱 3区593aと 接合	19c代		033
第340図15	3区	SE305	国産陶器	紅皿	瀬戸奥濃	5.8	3.2	3.0	-	1/2残存 二次被熱	19c前半		014
第340図16	3区	SE305	国産陶器	皿	肥前系	-	4.2+α	(12.4)	-	二彩手 見込砂目			017
第340図17	3区	SE305	国産陶器	磁鉢	肥前系	-	4.0+α	-	-		19c前半～中頃		018
第340図18	3区	SE305	国産陶器	磁鉢	福岡	-	4.8+α	-	-	上野・高取	19c後半～19c前半		022
第340図19	3区	SE305	国産陶器	磁鉢	関西系	-	6.5+α	-	-	壊			021
第340図20	3区	SE305	国産陶器	磁鉢	備前 (30.0)	7.3+α	-	-	-				020
第340図21	3区	SE305	国産陶器	磁鉢	福岡	-	4.3+α	-	-	上野・高取			024
第340図22	3区	SE305	国産陶器	磁鉢	福岡 (34.6)	10.7+α	-	-	-	上野・高取 二次被熱	19c中頃か		019
第340図23	3区	SE305	国産陶器	壺	肥前系	-	5.9+α	8.4	-	底面のみ			016
第340図24	3区	SE305	国産陶器	壺	肥前系	-	7.9+α	-	-	鉄胎 白化粧土			015
第340図25	3区	SE305	国産陶器	壺	関西系か	7.0	1.5	-	-	土灰蓋 鉄胎			023
第340図26	3区	SE305	瓦器	碗	関西系	-	4.7+α	-	-	和泉型			025
第340図27	3区	SE305	土師質土器	十籠		6.6+α	5.9+α	3.0+α	-				026
第340図28	3区	SE305	土製品	ミニチュア鏡		5.6	6.9	4.9	-	透明釉			027
第340図29	3区	SE305	土製品	ミニチュア神 通徳利		1.1	0.4	1.3	-	完形			028
第340図30	3区	SE305	絹文土器	浅鉢	-	2.0+α	-	-	-	赤彩 口縁部のみ	絹文後期		030
第341図4		SE305+SK315	国産磁器	染付碗	肥前系	-	5.1+α	5.0	-	外青磁 丸碗	19c後半		001
第341図5	3区	SE357	国産磁器	染付小坪	瀬戸奥濃か (6.3)	2.7	(2.4)	-	-	コバルト	19c後半		003
第341図6	3区	SE357	国産磁器	染付小坪	肥前系 (5.6)	4.6	(3.5)	-	-		19c代		002
第341図7	3区	SE357	国産磁器	染付小碗	瀬戸奥濃 (9.6)	4.6	(3.4)	-	-	環反碗	19c前半～中頃		001
第341図8	3区	SE357	国産磁器	白磁徳利	肥前系	4.2	5.0+α	-	-	二次被熱	17cか		004
第341図9	3区	SE357	国産陶器	水盥	瀬戸奥濃 (31.6)	5.9+α	-	-	-		19c前半～中頃		005
第341図10	3区	SE357	国産陶器	壺	肥前系 (39.6)	15.2+α	-	-	-		17c後半～		007
第341図11	3区	SE357	国産陶器	小皿か	備前系	-	1.0+α	-	-	朱泥陶器 内面施刷			006
第341図12	3区	SE357	土師器	小皿	(9.2)	1.2	(3.0)	-	-	透明釉 底面回転糸切り施し	19c代		008
第341図13	3区	SE357	土師器	皿	在地 (12.4)	2.7	-	-	-	皿C			010
第341図14	3区	SE357	土師器	皿	在地	12.5	2.2	8.0	-	小皿b 灯明臺 煤付唐			009

第48表 3・4区 土器・陶磁器類観察表3

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J2復元数値				備考	分属 時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径			
第342図1	4区	SE008并開内	瓦産磁器	白磁碗	肥前系	10.2	4.1	4.4	-	二次被熱		001
第342図2	4区	SE008并開内	瓦産陶器	皿	肥前系	13.8	4.3	4.8	-	灰緑 砂目と粘土目有	1610~1650	002
第342図3	4区	SE008并開内	瓦産陶器	鎌水	備前	-	4.5+0	(14.2)	-			004
第342図4	4区	SE008并開内	瓦産陶器	燗鉢	産地不明	-	5.4+0	-	-			003
第343図1	3区	SK70	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	12.5	3.8	4.8	-	網目文 見込み蛇の目縁割ぎ 1/2残存 二次被熱	1750~1810	006
第343図2	3区	SK70	瓦産磁器	染付小皿	肥前系 (13.8)	3.9	8.0	-	-	菊花文 渦羅 二次被熱	18c前半~中頃	007
第343図3	3区	SK70	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	3.2+0	(13.5)	-	二次被熱 大明化成年装	17c末~18c前半	009
第343図4	3区	SK70	瓦産磁器	染付蓋	肥前系	9.2	3.2	3.7	-	外青磁 ぼぼ完全 二次被熱	18c後半	014
第343図5	3区	SK70	瓦産磁器	白磁蓋	肥前系	5.9	2.1+0	-	-	白磁蓋 二次被熱	17c後半か	013
第343図6	3区	SK70	瓦産磁器	白磁小碗	肥前系	7.0	2.7	3.2	-	ぼぼ完全 二次被熱	18c代	012
第343図7	3区	SK70	瓦産磁器	染付猪口	肥前系	7.8	6.2	5.5	-	紅葉文 内面付着物 紅か二次被熱	18c中頃~後半	006
第343図8	3区	SK70	瓦産磁器	染付碗	肥前系 (8.2)	4.3+0	-	-	-	筒型碗 竹葉文 二次被熱	18c後半	001
第343図9	3区	SK70	瓦産磁器	染付碗	肥前系 (7.8)	4.8	-	-	-	筒型碗 詩文 二次被熱	18c後半	002
第343図10	3区	SK70	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	9.8	5.2	4.1	-	梅雨文 ぼぼ完全 二次被熱	18c前半~中頃	004
第343図11	3区	SK70	瓦産磁器	染付碗	肥前系 (10.2)	5.1	(3.6)	-	-	丸底 二次被熱	1710~1750	003
第343図12	3区	SK70	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	6.4+0	4.0	-	覆付に砂付着 二次被熱	17c中頃	005
第343図13	3区	SK70	瓦産磁器	染付押通徳利	肥前系 (1.6)	5.8+0	-	-	-	1/3残存 蕨花文	18c後半~	011
第343図14	3区	SK70	瓦産磁器	染付仏郎器	肥前系	6.2	5.3	3.8	-	二次被熱 竹葉文	1780~1860	010
第343図15	3区	SK70	瓦産磁器	青磁香炉	肥前系	7.8	6.2	3.6	-	三足 脚部欠損 底部鉄線塗布 二次被熱	17c後半~18c中頃	015
第343図16	3区	SK70	瓦産磁器	青磁香炉	肥前系	14.4	7.3	6.3	-	三足 ぼぼ完全 二次被熱	18c前半	017
第343図17	3区	SK70	瓦産磁器	青磁香炉	肥前系	15.9	7.4	7.7	-	浮文3箇所 見込蛇の目縁割ぎ ぼぼ完全 二次被熱	18c前半	018
第344図1	3区	SK70	瓦産陶器	皿	肥前系 (19.2)	5.2	7.8	-	-	網毛目 見込み蛇の目縁割ぎ 2/3残存 二次被熱	18c代	022
第344図2	3区	SK70	瓦産陶器	碗	関西系 (9.4)	5.3	(2.8)	-	-	赤・橙系 色絵帯雲丸底 二次被熱 1/2残存	18c後半~	019
第344図3	3区	SK70	瓦産陶器	碗	肥前系 (11.2)	6.9	5.0	-	-	陶胎染付 1/3残存 二次被熱	18c前半	020
第344図4	3区	SK70	瓦産陶器	碗	肥前系	-	2.9+0	(4.8)	-	京焼風 刷印有「金村」	17c後半	018
第344図5	3区	SK70	瓦産陶器	燗鉢	肥前系	-	5.0+0	-	-		17c後半	030
第344図6	3区	SK70	瓦産陶器	燗鉢	肥前系	-	9.5+0	-	-		18c後半	029
第344図7	3区	SK70	瓦産陶器	燗鉢	関西系	34.3	93.1+0	-	-	1/2残存 二次被熱	18c後半~19c前半	028
第344図8	3区	SK70	瓦産陶器	燗鉢	肥前系	35.6	16.7	16.0	-	3/4残存 二次被熱	18c後半	027
第344図9	3区	SK70	瓦産陶器	壺	肥前系 (100)	5.0+0	-	-	-	二部手 二次被熱		023
第344図10	3区	SK70	瓦産陶器	徳利	備前	-	1.2+0	(9.4)	-	漆部のみ 刷印有 二次被熱		025
第344図11	3区	SK70	瓦産陶器	壺	肥前系 (20.6)	10.2+0	-	-	-	二部手 二次被熱 内外面又土付着	18c後半	031
第344図12	3区	SK70	瓦産陶器	火入	肥前系 (10.4)	7.1	5.0	-	-	陶胎染付 見込みに雲和柄 赤黒 2/3残存 二次被熱	1680~1740	021
第344図13	3区	SK70	瓦産陶器	灯火具	肥前系	-	2.3+0	-	-	灯明皿 内面又土付着		026
第344図14	3区	SK70	瓦産陶器	湯差か	肥前系 (5.4)	6.7+0	-	-	-	鉄線 二次被熱		024
第345図1	3区	SK70	土師器	皿	在地 (9.8)	1.7	(5.8)	-	-	小皿b		033

第 49 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 4

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径 最大長	最大 幅	底径 最大深	片厚 最大値				
第345図2	3区	SK070	土師器	皿	在地	10.0	1.7	5.0	-	小皿b 2/4残存			032
第345図3	3区	SK070	土師質土器	灯明皿	在地	(5.8)	2.3	(4.6)	-	小皿b			035
第345図4	3区	SK070	土師質土器	燈燵		(30.7)	4.8+0	-	-	外面スチ付着			034
第345図5	3区	SK070	土師質土器	火鉢か		-	4.4+0	12.6	-	底部のみ 角型			038
第345図6	3区	SK070	土師質土器	燗壺		(7.8)	7.9	(4.6)	-	表面磨滅			037
第345図7	3区	SK070	土師質土器	燈炉	關西系	(19.6)	16.4	(16.8)	-	白土練り込み 深草か	18c前半		039
第345図8	3区	SK070	土製品	土壺		9.3+0	9.1+0	3.4	-	小胸底有			036
第345図9	3区	SK070	土製品	土壺		15.3+0	11.3+0	8.8	-	角底			040
第346図6	3区	SK070+S058	瓦唐磁器	碗	肥前系	-	8.1+0	4.6	-	陶胎染付 唐草文 二次被熱	18c前半		001
第346図7	3区	SK075	瓦唐磁器	染付皿	肥前系	14.1	3.5	8.3	-	有田 麦形皿 型紙磨り 2客有 二次被熱 2客	17c後半～18c前半		006
第346図8	3区	SK075-SK080	瓦唐磁器	染付皿	肥前系	14.2	3.6	8.6	-	有田 麦形皿 型紙磨り 花唐草 二次被熱 2客	1690～1740		002
第346図9	3区	SK075-SK080	瓦唐磁器	染付皿	肥前系	11.9	2.9	7.3	-	麦形皿 木瓜皿 二次被熱 3客	1690～1740		003
第346図10	3区	SK080	瓦唐磁器	染付小皿	肥前系	12.2	2.9	7.5	-	有田 木瓜皿 龍文 型紙磨り 二次被熱 13客	18c代		003
第346図11	3区	SK075	瓦唐磁器	染付皿	肥前系	(15.0)	5.0	7.5	-	梅花 有田 牡丹唐草 二次被熱 2客	18c前半		005
第346図12	3区	SK075-SK080	瓦唐磁器	染付鉢	肥前系	14.0	5.0	7.8	-	有田 梅花 松竹梅文 二次被熱	18c前半～中頃		005
第346図13	3区	SK075	瓦唐磁器	白磁樋口	肥前系	(9.6)	6.3	5.5	-	梅花 有田 二次被熱 2客	18c前半		004
第346図14	3区	SK075-SK080	瓦唐磁器	白磁樋口	肥前系	9.5	6.4	5.2	-	梅花 型打成形 二次被熱 2客	17c末～18c初		006
第346図15	3区	SK075	瓦唐磁器	白磁紅皿	肥前系	4.4	1.5	1.8	-	型押し成形	18c中頃～		010
第346図16	3区	SK075	瓦唐磁器	染付紅樋口	肥前系	(8.2)	2.2	2.6	-	内面紅付着 二次被熱			009
第346図17	3区	SK075	瓦唐磁器	染付樋口	肥前系	(5.0)	3.0+0	-	-	雨降文	18c代		008
第346図18	3区	SK075	瓦唐磁器	染付碗	肥前系	-	4.6+0	4.0	-	雄反碗 梅花文 二次被熱 横線文字有「因本～」	1820～1880		001
第346図19	3区	SK075	瓦唐磁器	染付碗	肥前系	(10.8)	5.0+0	-	-	外青磁 丸碗 二次被熱	18c後半		002
第346図20	3区	SK075	瓦唐磁器	染付碗	肥前系	13.0	3.9+0	-	-	外青磁 朝顔型 二次被熱	18c後半		003
第347図1	3区	SK075	瓦唐磁器	染付鉢	肥前系	(16.2)	8.3	(7.2)	-	梅枝文 渦福 二次被熱	18c前半～中頃		007
第347図2	3区	SK075	瓦唐磁器	染付瓶	肥前系	-	9.0+0	4.9	-	二次被熱	18c前半～中頃		014
第347図3	3区	SK075	瓦唐磁器	染付皿ニテムコ ア高台	肥前系	4.4	2.1	2.3	-	竹葉文 二次被熱	18c後半～19c前半		011
第347図4	3区	SK075	瓦唐磁器	染付仏眼鉢	肥前系	-	3.6+0	3.4	-	二次被熱	18c代		012
第347図5	3区	SK075	瓦唐磁器	染付仏眼鉢	肥前系	7.3	5.3	4.1	-	陶胎文 浮彫形 二次被熱	18c代		013
第347図6	3区	SK075	瓦唐磁器	青磁香炉	肥前系	8.4	4.7	4.4	-	三脚 二次被熱	1680～1780		015
第347図7	3区	SK075	瓦唐磁器	皿	肥前系	20.0	5.7	7.8	-	銅電目 二次被熱 龍込み形の自動刺ぎ	18c前半～中頃		020
第347図8	3区	SK075	瓦唐磁器	皿	肥前系	(19.8)	6.0	(7.6)	-	銅電目 二次被熱 龍込み形の自動刺ぎ	18c前半～中頃		021
第347図9	3区	SK075	瓦唐磁器	碗	關西系	(10.0)	4.9	3.7	-	龍一宿唐草 半碗 二次被熱	18c中頃～後半		019
第347図10	3区	SK075	瓦唐磁器	碗	肥前系	10.4	5.4	4.4	-	雲手 覆川燒	17c後半～18c前半		017
第347図11	3区	SK075	瓦唐磁器	碗	肥前系	10.1	6.6	4.2	-	陶胎染付 二次被熱	18c前半		016
第347図12	3区	SK075	瓦唐磁器	碗	肥前系	-	3.4+0	3.7	-	福岡系か 内面磨底有			018
第347図13	3区	SK075	瓦唐磁器	鉢	肥前系	(24.8)	11.0	10.6	-	銅電目 二次被熱	18c前半～中頃		022

第50表 3・4区 土器・陶磁器類観察表5

図録番号	調査区	図録番号	種類	器種	産地	法量(mm) J2還元数値				備考	分期	時期	内番号	
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径					
第347図14	3区	SK075	瓦産陶器	平鉢	備前	-	5.5	-	-				023	
第347図15	3区	SK075	瓦産陶器	燗鉢	關西系 (29.8)	11.9	(13.4)	-	-	瑣			18c後半	026
第347図16	3区	SK075	瓦産陶器	向付	關西系 (8.5)	8.0	6.2	-	-	二次被熱 色釉				024
第347図17	3区	SK075	瓦産陶器	壺か	肥前系	-	3.9+α	-	-	稀釉 白化粧土				025
第347図18	3区	SK075	瓦産陶器	徳利	備前	-	7.5+α	6.8	-	人形徳利 底部刻印有			18c後半～19c前半	026
第347図19	3区	SK075	瓦産陶器	甕	肥前系	-	6.6+α	-	-	肩部に沈滞3条			17c後半～	030
第347図20	3区	SK075	瓦産陶器	甕	肥前系	-	11.8+α	-	-	花状貼付文			17c後半～	031
第347図21	3区	SK075	瓦産陶器	甕	肥前系	-	11.5+α	-	-	肩部に綽伏突帯2条			17c後半	029
第347図22	3区	SK075	瓦産陶器	火入	備前 (10.6)	6.7	(10.0)	-	-	側面刻印有				027
第348図1	3区	SK075	土師質土器	火鉢		-	11.7	-	-	箱型 スス付帯 二次被熱				032
第348図2	3区	SK075	土師質土器	火清壺		13.7	22.0	16.8	-	二次被熱				033
第348図3	3区	SK075	土師質土器	蓋		(28.4)	2.7	21.0	-	1/2残存 SK075 RD48の蓋か				048
第348図4	3区	SK075	土師質土器	火清壺		(29.0)	27.5	22.1	-	1/2残存				048
第348図5	3区	SK075	土製品	土鏡		4.4	0.9	-	-	止水域用				038
第348図6	3区	SK075	土製品	土壁		6.3+α	8.6+α	4.9	-	小筒底有 スス溜入 二次被熱				040
第348図7	3区	SK075	土製品	土壁		17.4+α	16.0+α	14.0	-	角部分か				041
第349図12	3区	SK010-SK075	瓦産磁器	色絵鉢	肥前系	-	4.0+α	9.2	-	有田 見込に牡丹と梅の鉢縁文 輸出向けか 二次被熱			1700～1730	001
第349図13	3区	SK075-SK080 0+SK075+4区 52.36	瓦産磁器	色絵善伊	肥前系	16.4	9.5	7.2	-	有田 二次被熱 3区 52.32 34.1/59.2と接合			18c中頃～後半	001
第350図1	3区	SK075-SK080	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	10.6	2.5	5.7	-	高台内大明年製 二次被熱			18c後半	004
第350図2	3区	SK075-SK080	瓦産磁器	青磁皿	肥前系	29.0	8.8	11.4	-	漆地発 底部刷目文 三足 二次被熱			1670～1690	007
第350図3	3区	SK075-SK080	瓦産磁器	染付壺	肥前系	11.6	2.8	4.2	-	唐草文 角福 二次被熱			18c前半～中頃	001
第350図4	3区	SK075-SK080	瓦産陶器	灰溜し	關西系	5.7	7.6	5.6	-	二次被熱				006
第350図5	3区	SK075-SK080	瓦産陶器	甕	肥前系	32.0	33.8	14.6	-	二彩手			17c後半	009
第351図1	3区	SK080	瓦産磁器	染付樋口	肥前系	-	6.4+α	(6.0)	-	柳唐草 二次被熱			18c前半～中頃	001
第351図2	3区	SK080	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	-	6.5+α	-	-	梅唐草 二次被熱			18c中頃～後半	004
第351図3	3区	SK080	瓦産磁器	青磁花瓶	肥前系	9.6	22.0	9.0	-	双耳 有田 二次被熱			17c末～18c前半	006
第351図4	3区	SK080	瓦産磁器	青磁瓶	肥前系	-	5.6+α	4.2	-	貼付文			18c後半	005
第351図5	3区	SK080	瓦産磁器	小瓶	肥前系	0.8	3.4+α	3.3	-	型押し成形			18c後半～19c前半	006
第351図6	3区	SK080	瓦産陶器	碗	肥前系	-	4.2+α	4.6	-	筒型 底部のみ				009
第351図7	3区	SK080	瓦産陶器	鉢	肥前系 (30.2)	10.6	(12.4)	-	-	二彩手 二次被熱			17c後半～18c前半	010
第351図8	3区	SK080	瓦産陶器	徳利か	肥前系	-	7.4+α	(8.4)	-	白銅毛目 彫出し高台				011
第351図9	3区	SK080	瓦産陶器	花入か	關西系	-	6.3+α	-	-	竹筒状 側面に貼付帯 二次被熱				012
第351図10	3区	SK080	土師質土器	火鉢か燗伊		-	10.8+α	-	-	肩部貼付帯 底部スタンプ文				014
第351図11	3区	SK080	土師質土器	火清壺		(28.4)	14.0+α	-	-					013
第351図12	3区	SK080	土師質土器	人形か		6.9+α	6.3	1.6	-	豆状				015

第 51 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 6

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大径	底径・ 最大径	高さ・ 最大径	片厚・ 最大径				
第351図13	3区	SK080	土製品	土壁		21.1φ	4.2+φ	8.2	-	二次被熱 赤塗			002
第352図4	3区	SK090+S200 +S177	国産磁器	色絵鉢	肥前系	-	5.5+φ	-	-	透影繪堂文	1690~1740		001
第352図5	3区	SK090	国産磁器	染付小皿	肥前系	11.1	2.2	6.4	-	堂文 二次被熱 宛形 7番	1680~1710		017
第352図6	3区	SK090	国産磁器	染付小皿	肥前系	12.2	2.9	7.1	-	梅花 牡丹唐草文 二次被熱	1730~1750		018
第352図7	3区	SK090	国産磁器	染付小皿	肥前系	13.2	2.6	8.1	-	内裏面唐草文 宛形 二次被熱 3番	1680~1710		016
第352図8	3区	SK090	国産磁器	白磁小皿	肥前系	12.0	3.2	6.4	-	宛形 唐反型 口紅 有田 二次被熱 6番	17c末~18c前半		014
第352図9	3区	SK090	国産磁器	染付皿	肥前系	-	1.0	7.1	-	高台のみ 蛇の目型高台 二次被熱	16c後半~19c前半		021
第352図10	3区	SK090	国産磁器	染付小皿	肥前系	14.0	2.8	9.4	-	有田 流水文 唐反宛形 二次被熱	1680~1680		010
第352図11	3区	SK090	国産磁器	染付小皿	肥前系	15.4	4.8	8.5	-	梅花 唐反宛形 模成不具 二次被熱	18c前半~中頃		019
第352図12	3区	SK090	国産磁器	染付皿	肥前系	(28.2)	5.2	(17.8)	-	梅花 口紅 山水唐文 有田 二次被熱	18c代		020
第353図1	3区	SK090	国産磁器	瑠璃輪蓋	肥前系	4.3	1.7	-	-	上繪付 宛形 二次被熱	1650~1670		031
第353図2	3区	SK090	国産磁器	色絵蓋	肥前系	8.1	1.9	-	-	網目文 二次被熱 宛形	17c後半		032
第353図3	3区	SK090	国産磁器	染付盃	肥前系	9.5	2.8	3.9	-	唐付鉢蓋 有田 二次被熱	18c第3四半期		024
第353図4	3区	SK090	国産磁器	染付小杯	肥前系	(5.7)	2.5	(2.3)	-	羽子板文 二次被熱	18c後半~19c前半		026
第353図5	3区	SK090	国産磁器	白磁小碗	肥前系	8.4	2.3	2.1	-		1650~1680		015
第353図6	3区	SK090	国産磁器	染付紅繪口	肥前系	8.3	2.3	2.8	-	内裏紅付蓋 二次被熱	18c代		025
第353図7	3区	SK090	国産磁器	染付口	肥前系	7.4	5.6	4.4	-	唐堂文 二次被熱 唐反宛形	1690~1730		007
第353図8	3区	SK090	国産磁器	染付口	肥前系	(7.8)	5.8	(5.3)	-	松竹文	18c中頃~後半		006
第353図9	3区	SK090	国産磁器	染付口	肥前系	8.1	6.1	4.1	-		18c前半~中頃		008
第353図10	3区	SK090	国産磁器	白磁口	肥前系	7.0	5.5	4.0	-	二次被熱	17c末~18c前半		013
第353図11	3区	SK090+S200 1	国産磁器	白磁口	肥前系	8.0	5.6+φ	-	-	梅花	17c中頃~後半		001
第353図12	3区	SK090	国産磁器	染付盃	肥前系	9.9	2.5	5.6	-	唐草唐蓋 唐香文 二次被熱	1780~1810		001
第353図13	3区	SK090	国産磁器	白磁盃	肥前系	9.0	2.7	3.5	-	宛形 二次被熱 SK090 P011の蓋	17c末~18c前半		012
第353図14	3区	SK090	国産磁器	白磁碗	肥前系	(10.0)	5.7	4.2	-	二次被熱 1/2残存	17c末~18c前半		011
第353図15	3区	SK090	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.1)	4.9	4.2	-	丸蓋 見込み松竹梅文	18c前半~中頃		002
第353図16	3区	SK090	国産磁器	染付小碗	肥前系	(9.8)	6.0	(4.2)	-	有田 唐文 高台内「唐宮 長壽」二次被熱 4番	18c前半		005
第353図17	3区	SK090	国産磁器	染付小碗	肥前系	9.9	5.4	(4.4)	-	唐反型 二次被熱	17c後半~18c中頃		004
第353図18	3区	SK090	国産磁器	染付碗	肥前系	10.8	5.2	4.4	-	見込み蛇の目繪割付 二次被熱	18c前半~中頃		003
第353図19	3区	SK090	国産磁器	染付鉢	肥前系	7.0	3.4	3.5	-	唐付鉢 蛇の目高台 有田	18c前半~中頃		022
第353図20	3区	SK090	国産磁器	染付鉢	肥前系	10.3	6.8	6.0	-	唐唐草 有田 高台内蛇の 目繪割付	1730~1740		009
第353図21	3区	SK090	国産磁器	染付鉢	肥前系	10.5	7.9	6.8	-	唐付鉢 唐堂文 唐反宛形 二次被熱 有田	18c前半~中頃		023
第353図22	3区	SK090	国産磁器	瑠璃輪蓋	肥前系	8.0	9.7	6.4	-	唐反宛形	17c後半		030
第353図23	3区	SK090	国産磁器	白磁盃	肥前系	8.6	4.7	-	-	SK090 P028の蓋 二次被熱 有田	17c後半		029
第353図24	3区	SK090	国産磁器	白磁盃	肥前系	8.4	15.5	6.2	-	二次被熱 有田	17c後半		028
第353図25	3区	SK090	国産磁器	染付水注	肥前系	(11.0)	10.6	9.2	-	青字・唐草文	18c中頃~後半		027
第353図26	3区	SK090	国産磁器	蟹蓋	肥前系	10.4φ	3.1	10.5φ	-	鉄輪	18c代		042

第52表 3・4区 土器・陶磁器類観察表7

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2値充数値				備考	分類	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径				
第353図27	3区	SK090	瓦産陶器	皿	備前か	(8.4)	1.9	2.7	-	灯明皿か 口縁部数ヶ所内 縁り			043
第353図28	3区	SK090	瓦産陶器	皿	肥前系	17.6	4.7	6.7	-	銅毛目 見込み蛇の目刻 ぎ スス付着 二次被熱	18c前半		036
第353図29	3区	SK090	瓦産陶器	碗	関西系	9.9	5.2	4.1	-	赤・黄系系 半積磁 3/4積 存	18c中頃		034
第353図30	3区	SK090	瓦産陶器	碗	肥前系	(11.1)	7.6	5.8	-	二次被熱	1610~1650		033
第353図31	3区	SK090	瓦産陶器	鉢	肥前系	12.7	9.1	6.5	-	藤付鉢 銅毛目 ほぼ完形 二次被熱	17c後半~18c前半		035
第353図32	3区	SK090	瓦産陶器	鉢	肥前系	(20.3)	8.4	7.6	-	二次被熱 スス付着 見込 み蛇の目刻ぎ	18c代		037
第354図1	3区	SK090	瓦産陶器	鉢	肥前系	(31.8)	19.7	(11.6)	-	1/2積存 白銅毛目 二次 被熱	17c後半		040
第354図2	3区	SK090	瓦産陶器	燗鉢	関西系	28.0	10.0	13.0	-	硝 二次被熱 スス付着	18c前半~中頃		039
第354図3	3区	SK090	瓦産陶器	燗鉢	肥前系	-	15.6	-	-	二次被熱	18c前半~中頃		038
第354図4	3区	SK090	瓦産陶器	鉢	肥前系	(8.2)	5.3	4.1	-	天目皿か			041
第354図5	3区	SK090	瓦産陶器	壺	関西系	-	7.8+g	6.7	-	色絵 二次被熱	18c後半~19c前半		044
第354図6	3区	SK090	瓦産陶器	德利	福岡	4.0	(2.45)	(0.8)	-	上野・高取系 墨灰胎 竹 彫形 二次被熱	18c頃		045
第354図7	3区	SK090-SK20 1	瓦産陶器	手桶	関西系	14.2	12.5	(9.8)	-	色絵文様 二次被熱			002
第354図8	3区	SK090	土師器	皿	在池	9.3	2.0	4.5	-	小皿b スス付着 灯明皿			046
第354図9	3区	SK090	土師器	皿	在池	(10.8)	1.9	(5.4)	-	見込み種別文字「寿」	19c代		047
第354図10	3区	SK090	土師質土器	壺	在池か	-	15.1+g	9.8	-	産部未切 二次被熱			048
第354図11	3区	SK090	土師質土器	壺	在池	-	18.8	-	-	口縁部片			049
第354図12	3区	SK090	土製品	人形		3.6	2.8	0.9	-	横仏 裏面種別文字			053
第355図1	3区	SK090	土壁			16.5+g	13.2+g	6.1	-	小甕底有 スサ底有			054
第355図12	3区	SK010-SK09 0-S177+S894	瓦産磁器	色絵皿	肥前系	(14.4)	5.4	(9.2)	-	二次被熱 3区SS92と接合	18c中頃~後半か		001
第356図1	3区	SK095	瓦産磁器	染付壺	肥前系	10.8	3.5	-	-	唐草文 ほぼ完形 二次被 熱	18c前半~中頃		005
第356図2	3区	SK095	瓦産磁器	染付壺	肥前系	14.5	4.7	-	-	二次被熱 2/3積存	18c中頃		006
第356図3	3区	SK095	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	6.3	3.1	2.7	-	二次被熱	18c前半~中頃		003
第356図4	3区	SK095	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	2.9+g	(2.6)	-	丸網 コシヤク印判	18c前半~中頃		002
第356図5	3区	SK095	瓦産磁器	染付碗	肥前系	11.0	5.2	4.8	-	丸網 梅樹文 見込み蛇の 目刻ぎ 二次被熱	18c前半~中頃		001
第356図6	3区	SK095	瓦産磁器	染付小坪	肥前系	4.1	4.4	-	-	内面付着物 紅か	17c後半~18c前半		004
第356図7	3区	SK095	瓦産磁器	青磁瓶	肥前系	1.9	5.7+g	-	-	胴部敲着痕	17c末~18c初頃		007
第356図8	3区	SK095	瓦産陶器	皿	肥前系	7.0	3.9	-	-	土瓶蓋 鉄輪 完形	18c中頃		008
第356図9	3区	SK095	瓦産陶器	燗鉢	関西系	-	10.1	-	-	硝 二次被熱	18c代		009
第356図10	3区	SK095	土師器	皿	在池	4.7	1.4	3.0	-	小皿b			010
第356図11	3区	SK095	土師器	皿	在池	4.8	1.9	2.4	-	小皿b 灯明皿 スス付着			011
第356図12	3区	SK095	土製品	土壁		6.8+g	9.1+g	3.9	-	小甕底有 スサ底有			013
第357図1	3区	SK160	瓦産磁器	染付仏師器	肥前系	(5.2)	2.8+g	-	-	陶障文 口縁部のみ	18c代		001
第357図2	3区	SK160	瓦産陶器	碗	肥前系	-	2.8+g	(4.1)	-	白化粒土 産部のみ	1690~1740		002
第357図4	3区	SK160-SD40 0	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	(14.4)	3.0+g	-	-	花卉文	17c中頃		001
第357図5	3区	SK250	瓦産磁器	染付碗	肥前系	11.6	6.5	4.9	-	外甕碗 丸網 二次被熱			001

第 53 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 8

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	重量(g)				備考	分類	時期	H番号
						口径・最大径	最大径	高さ	片厚・最大厚				
第357図6	3区	SK230	国産磁器	染付壺	肥前系	14.2	25.5+a	15.8	-	華唐草文 SK250 P002の器 二次被熱	18c代		003
第357図7	3区	SK230	国産磁器	染付鉢	肥前系	(19.2)	6.9	8.2	-	華唐草文 染付鉢 二次被熱	18c代		002
第357図8	3区	SK230	国産陶器	小碗	関西系	(7.2)	3.8	2.2	-	唐・信楽系 口縁部緑釉 二次被熱			005
第357図9	3区	SK230	国産陶器	小碗	関西系	9.4	4.7	3.5	-	唐・信楽系 褐反型 ほぼ完成	18c後半以降		004
第357図10	3区	SK230	国産陶器	水盂	備前	7.9+a	3.5	9.1	-	六角 模刻人物面			007
第357図11	3区	SK230	国産陶器	器種不明	関西系	-	-	0.4+a	-	色絵 二次被熱			006
第357図13	3区	SK250+SK235	国産磁器	染付小碗	肥前系	9.8	5.1	4.0	-	くらわんか碗 二次被熱	18c中頃～後半		001
第357図14	3区	SK270	国産陶器	壺	肥前系	(30.4)	2.6+a	-	-	鉄釉 反胎 肩部浮文	17c後半		001
第358図1	4区	SK010	国産磁器	染付小皿	肥前系	(12.6)	4.0	(5.4)	-	模文	1650～1670		003
第358図2	4区	SK010	国産磁器	染付碗	瀬戸黄瀬	-	2.0+a	-	-	増反碗	1820～1880		001
第358図3	4区	SK010	国産磁器	染付段重	肥前系	(13.2)	5.0	(8.4)	-	模文 横筋直有	18c代		002
第358図4	4区	SK010	土師器	皿	-	-	1.1	-	-	透明釉	18c代		004
第358図5	4区	SK010	瓦質土器	器種不明	4.4	5.1	0.8	-	-	二次加工品 三角形			005
第358図6	4区	SK030	国産磁器	白磁紅皿	肥前系	4.8	1.8	1.3	-	完形 型押し成形	18c後半～		007
第358図7	4区	SK030	国産磁器	染付手塩皿	肥前系	9.4	3.1	5.4	-	型押し 二次被熱 有田3香	18c前半		005
第358図8	4区	SK030	国産磁器	染付小皿	肥前系	12.9	3.7	4.6	-	見込粒の目触り 二次被熱 3香	17c後半		006
第358図9	4区	SK030	国産磁器	白磁壺	肥前系	(8.4)	2.0+a	-	-	SK030 R009の蓋			010
第358図10	4区	SK030	国産磁器	染付小坪	肥前系	6.9	3.4	2.6	-	竹葉文 二次被熱 ほぼ完成	18c代		004
第358図11	4区	SK030	国産磁器	染付碗	肥前系	(8.4)	5.4+a	-	-	外青磁 筒型碗 二次被熱	18c後半		002
第358図12	4区	SK030	国産磁器	染付樋口	肥前系	(10.6)	6.3	(4.7)	-	口紅 梅花 牡丹唐草文 二次被熱 2香	18c前半～中頃		003
第358図13	4区	SK030	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.4)	5.3+a	-	-	外青磁 二次被熱	18c後半		001
第358図14	4区	SK030	国産磁器	白磁壺	肥前系	(7.8)	5.1+a	-	-	二次被熱	18c代		009
第358図15	4区	SK030	国産磁器	染付瓶	肥前系	-	10.5+a	-	-	草文 二次被熱	18c前半～中頃		008
第358図16	4区	SK030	国産陶器	小碗	関西系	(9.4)	5.4	(3.8)	-	小鉢碗 二次被熱	18c前半～		011
第358図17	4区	SK030	国産陶器	碗	関西系か	(9.4)	4.8	3.8	-	半筒碗 緑釉 二次被熱	18c中頃～後半		012
第358図18	4区	SK030	国産陶器	壺	産地不明	(8.2)	5.1+a	-	-	関西系か 鉄釉			013
第358図19	4区	SK030	土製品	土壁		6.7+a	11.3+a	4.5	-	スズ重			014
第358図22	4区	SK030+SK095	国産磁器	青磁蓋台	肥前系	4.8	5.3+a	-	-	二次被熱 高台欠損 文様貼付	17c末～18c前半		001
第358図23	4区	SK030+SK095	土師質土器	焙烙		31.8	9.4+a	-	-	18c前半～中頃			002
第359図1	4区	SK095	国産磁器	染付小碗	肥前系	(9.8)	5.5	(4.4)	-	くらわんか碗 二次被熱	18c前半～中頃		001
第359図2	4区	SK095	国産磁器	青磁香炉	肥前系	-	6.7+a	7.4	-	青磁染付 二次被熱	18c中頃～後半		002
第360図1	3区	SK035	国産磁器	染付手塩皿	肥前系	(10.2)	2.3	(5.8)	-	高台留経書文	18c中頃～後半		004
第360図2	3区	SK035	国産磁器	染付小皿	肥前系	13.8	4.3	6.0	-	竹葉文 梅花	18c中頃		003
第360図3	3区	SK035	国産磁器	染付碗	肥前系	7.6	5.8	(3.6)	-	筒型碗 外面鉄釉 二次被熱	18c後半		002
第360図4	3区	SK035	国産磁器	染付小碗	肥前系	(8.6)	5.7	3.3	-	丸碗 二次被熱	1740～1780		001
第360図5	3区	SK035	中国磁器	染付数蓮華	景德鎮窯系	11.9	(3.4)	4.4	-	唐草文	18c後半		005

第54表 3・4区 土器・陶磁器類観察表9

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm)×J22次元数値				備考	分類	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	丸形 率(%)				
第360図6	3区	SK035	瓦産陶器	甕	肥前系	15.5	6.2+0	-	-				006
第360図7	3区	SK035	土師質土器	焼塩釜		(5.5)	(8.9)	4.6	-	産部完填	18c中頃～後半		007
第360図8	3区	SK035	土製品	駒		2.5	2.5	1.4	-	完形			010
第360図9	3区	SK035	土製品	人形		4.9	3.9	2.0	-	力士 型押し成形			009
第360図10	3区	SK035	土製品	人形		19.1+0	13.9	10.4	-	犬			008
第361図1	3区	SK042	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	1.3+0	5.2	-	産部のみ 高台内嵌款富貴長巻か			021
第361図2	3区	SK042	瓦産磁器	色絵千疋皿	肥前系少	-	1.5+0	-	-	角皿			031
第361図3	3区	SK042	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	9.3	2.9	5.4	-	梅花 山水文	1810～1860		027
第361図4	3区	SK042	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	10.4	3.1	6.2	-	梅花 山水文 焼継文字有「上原」二次焼筋	幕末～明治		028
第361図5	3区	SK042	瓦産磁器	色絵千疋皿	肥前系少	8.3	2.3	3.8	-	角皿 絵			030
第361図6	3区	SK042	瓦産磁器	白磁千疋皿	肥前系少	8.4	2.5	3.9	-	角皿			029
第361図7	3区	SK042	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	8.7+0	2.4	4.6	-	変形皿 松樹文			026
第361図8	3区	SK042	瓦産磁器	白磁小皿	肥前系	13.5	3.7	8.2	-	菊皿 口紅 蛇の目凹型高台 ぼぼ完形	19c前半～中頃		025
第361図9	3区	SK042	瓦産磁器	青磁皿	肥前系	-	3.3+0	-	-	変形皿			024
第361図10	3区	SK042	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	2.6+0	7.6	-	蛇の目高台 二次焼筋	17c後半か		022
第361図11	3区	SK042	瓦産磁器	染付皿	肥前系	18.8	3.0	11.8	-	人物文 焼継文字有「上原」ぼぼ完形	19c前半～中頃		021
第361図12	3区	SK042	瓦産磁器	染付皿	肥前系	25.6	4.8	14.4	-	梅花 樟樹山水文 志田 焼継文字有「上原」尚右衛門様」二次焼筋	19c前半～幕末		020
第362図1	3区	SK042	瓦産磁器	染付皿	肥前系	29.6	5.1	16.8	-	菊散文 志田か 焼継文字有「上原」	江戸後期		019
第362図2	3区	SK042	瓦産磁器	染付小杯	瀬戸美濃	6.1	2.7	2.5	-	コバルト 三つ葉文 二次焼筋	幕末～明治		018
第362図3	3区	SK042	瓦産磁器	染付小杯	瀬戸美濃	6.0	2.7	2.4	-	コバルト 雀	幕末～明治		013
第362図4	3区	SK042	瓦産磁器	染付小杯	肥前系	(5.6)	2.7	2.4	-	山水文 三川内か	幕末～明治		015
第362図5	3区	SK042	瓦産磁器	染付小杯	瀬戸美濃	(6.0)	2.9	2.6	-	コバルト 東郷徳嶋	1860～1870		017
第362図6	3区	SK042	瓦産磁器	染付小杯	瀬戸美濃	6.4	2.8	2.5	-	コバルト 金彩 山水文 二次焼筋	幕末～明治		014
第362図7	3区	SK042	瓦産磁器	染付小杯	瀬戸美濃	6.1	2.9	2.5	-	コバルト 金彩 梅樹文	幕末～明治		016
第362図8	3区	SK042	瓦産磁器	染付小杯	肥前系	6.6	4.3	2.8	-	高台内「清匠」	幕末～明治		012
第362図9	3区	SK042	瓦産磁器	染付小杯	肥前系	6.6	4.0	3.6	-	山水文 ぼぼ完形 長崎・鶴山か	江戸後期		011
第362図10	3区	SK042	瓦産磁器	染付紅轆口	肥前系	7.8	3.2	2.8	-	「大坂新町お昏紅」完形	18c後半～19c前半		032
第362図11	3区	SK042	瓦産磁器	染付皿	肥前系	9.1	2.8	-	-	焼反碗 格子に竹葉文 ぼぼ完形 焼継文字「柳高橋」	1820～1860		008
第362図12	3区	SK042	瓦産磁器	染付皿	肥前系	(3.6)	3.0	(4.2)	-	SK042 R004の蓋	1820～1860		010
第362図13	3区	SK042	瓦産磁器	染付皿	肥前系	(3.2)	3.0	3.6	-	SK042 R005の蓋	1820～1860		009
第362図14	3区	SK042	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	7.2	5.3	3.1	-	漢書碗 精緻・草文	1820～1860		007
第362図15	3区	SK042	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	8.8	4.8	3.5	-	丸碗 龍文 ぼぼ完形			006
第362図16	3区	SK042	瓦産磁器	染付碗	肥前系	10.2	5.7	3.8	-	焼反碗 網目文 焼継文字有「上-」 寛文外に日蓮5部所	1820～1860		002
第362図17	3区	SK042	瓦産磁器	染付碗	肥前系	11.0	6.1	4.3	-	焼反碗 人物文	1820～1860		004
第362図18	3区	SK042	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(10.6)	6.3	3.9	-	焼反碗 鶴文	1820～1860		005

第 55 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 10

調査番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大径	底径・ 最大径	高さ・ 最大径	片厚・ 最大径				
第362図19	3区	SK042	国産磁器	染付碗	肥前系	10.6	6.2	4.0	-	焼反碗 透半文 徳緒文字 有「上原」焼継失敗 二次 被熱	1820~1880	001	
第362図20	3区	SK042	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.6)	6.1	4.2	-	焼反碗 黒風文	1820~1880	003	
第362図21	3区	SK042	国産磁器	色絵鉢	肥前系か	(12.0)	3.6+0	-	-	焼継有 口縁部片	近代	036	
第362図22	3区	SK042	国産磁器	染付鉢	肥前系	11.5	5.5	6.9	-	黒文	18c後半~19c前半	033	
第363図1	3区	SK042	国産磁器	染付鉢	肥前系	(15.2)	7.2	5.6	-	梅花 山水文 焼継有 二 次被熱		034	
第363図2	3区	SK042	国産磁器	染付鉢	肥前系	14.4	4.5+0	-	-	梅花 口縁部玉縁 二次被 熱		035	
第363図3	3区	SK042	国産磁器	染付小瓶	肥前系	1.8	9.3	3.2	-	ほぼ完形	18c代	041	
第363図4	3区	SK042	国産磁器	染付瓶	肥前系	1.6	11.3	3.3	-	ほぼ完形 二次被熱	18c代	042	
第363図5	3区	SK042	国産磁器	色絵瓶	肥前系	-	10.9+0	3.8	-	有田 若松文	18c末~幕末	043	
第363図6	3区	SK042	国産磁器	色絵瓶	肥前系	-	9.4+0	3.7	-	押通徳利 若松 梅枝文 有田	18c末~幕末	044	
第363図7	3区	SK042	国産磁器	染付瓶	肥前系	4.2	28.3	9.2	-	押通徳利	18c後半	045	
第363図8	3区	SK042	国産磁器	染付段重	肥前系	12.8	5.1	7.1	-			037	
第363図9	3区	SK042	国産磁器	色絵仏壇器	肥前系	6.8	5.6	3.7	-	ほぼ完形	18c末~幕末	046	
第363図10	3区	SK042	国産磁器	染付壺	肥前系	(3.4)	2.0	-	-	梅花状 急須蓋か		039	
第363図11	3区	SK042	国産磁器	青磁蓋伊	肥前系	-	3.5+0	3.4	-	漆書有「〜刀」		040	
第363図12	3区	SK042	国産磁器	白磁合子	肥前系	6.2	1.9	3.6	-	身 裏台内欠損		038	
第363図13	3区	SK042	国産磁器	色絵水漬	肥前系	6.0	3.5	1.7	-	型押し成形 方形 隅削で 山文		047	
第363図14	3区	SK042	国産陶器	小皿	肥前唐津系	(10.4)	3.7	4.2	-	胎土目	1594~1610	052	
第363図15	3区	SK042	国産陶器	小碗	在り地か	6.0	5.7	3.5	-	肥前以外の地方窯 イッ チン御付	18c代	051	
第363図16	3区	SK042	国産陶器	小碗	肥前系(福岡 系)	7.4	5.2	(3.4)	-	透影み碗 小代・八代か		050	
第363図17	3区	SK042	国産陶器	小碗	関西系	(8.5)	4.3	(2.8)	-	京・信楽系 焼反型	19c前半~中頃	048	
第363図18	3区	SK042	国産陶器	小碗	関西系	(8.2)	5.1	4.4	-	筒型 2/3残存	19c前半~	049	
第363図19	3区	SK042	国産陶器	鉢	関西系	-	4.3+0	-	-	縁輪		054	
第363図20	3区	SK042	国産陶器	鉢	福岡	(10.0)	6.0	9.0	-	鉄輪に白土で縁輪	江戸後期	055	
第363図21	3区	SK042	国産陶器	鉢	肥前系か	-	8.5+0	-	-	八角か		053	
第363図22	3区	SK042	国産陶器	鉢	産地不明	(30.0)	10.4+0	-	-	関西(信楽)か		070	
第363図23	3区	SK042	国産陶器	楕鉢	肥前系	33.2	14.8	13.0	-	ほぼ完形	18c前半~中頃	065	
第364図1	3区	SK042	国産陶器	楕鉢	肥前系	34.4	14.8	14.1	-		18c前半~中頃	068	
第364図2	3区	SK042	国産陶器	壺	肥前系	(18.2)	19.7	(10.4)	-	福岡系か 動物 内面に付 遺物		069	
第364図3	3区	SK042	国産陶器	壺	備前	-	7.0+0	2.8	-	取取り	18c代	057	
第364図4	3区	SK042	国産陶器	ミニチュア徳 利	産地不明	(1.5)	8.3	(2.4)	-	人形徳利		060	
第364図5	3区	SK042	国産陶器	徳利	産地不明	4.6	25.9	9.5	-	「仲〜」	19c代	066	
第364図6	3区	SK042	国産陶器	壺	肥前系	31.8	29.1+ 0	-	-		17c後半	071	
第364図7	3区	SK042	国産陶器	水甕	瀬戸美濃	-	8.2+0	-	-	縁輪	19c前半~中頃	067	
第364図8	3区	SK042	国産陶器	行平鉢	関西系	-	3.1+0	-	-	取手のみ		061	
第364図9	3区	SK042	国産陶器	行平鉢	肥前系か	18.2	7.3	7.0	-	飛び脚		064	

第56表 3・4区 土器・陶磁器類観察表11

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm) <sup>3</sup> J22埋元数値				備考	分属 時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	内容 容量(L)			
第364図10	3区	SK042	瓦産陶器	蓋	關西系	14.0	3.6	-	-	SK042 F062の蓋 飛び彫 イチシンの付		063
第364図11	3区	SK042	瓦産陶器	行平鍋	關西系	14.6	7.9	6.2	-	飛び彫 蓋書有		062
第364図12	3区	SK042	瓦産陶器	灰人か	關西系か	9.0	5.2	6.2	-			056
第364図13	3区	SK042	瓦産陶器	灯火具	肥前系	5.3	4.3	2.8	-	葉燭	18c後半～19c前半	056
第364図14	3区	SK042	瓦産陶器	器種不明	産地不明	9.6	9.3	0.6	-	ハマカ 糸切り		059
第365図1	3区	SK042	瓦質土器	火鉢		(30.8)	21.0	(8.0)	-	1/3残存		077
第365図2	3区	SK042	瓦質土器	灰炉		-	5.8+a	-	-	方形 刷印有「宮三」		075
第365図3	3区	SK042	瓦質土器	灰炉		21.5	19.9	16.0	-	方形 ほぼ完成形	18c前半～中頃	076
第365図4	3区	SK042	土師器	小皿		7.7	1.2	4.7	-	透明釉 被熱 全面スエ付 器		074
第365図5	3区	SK042	土師質土器	燗瓶		37.5	6.4	-	-	ほぼ完成形		063
第365図6	3区	SK042	軟質胎陶器	磁麻炒り器		13.2+ a	9.4+a	0.6	-	型押し成形 上面雕刻文		073
第365図7	3区	SK042	土師質土器	皿		12.5	12.3	1.2	-	ほぼ完成形 孔7箇所		072
第365図8	3区	SK042	土製品	鳩笛		6.2+a	2.7	4.0	-	器部欠損		066
第365図9	3区	SK042	土製品	人形		4.5+a	2.3	2.3	-	顔 腫人形か		065
第365図10	3区	SK042	土製品	ミニチュア壺		0.8	1.2	1.6	-	蓋の蓋か 透明釉		064
第365図11	3区	SK042	土製品	箱庭道具		8.0	5.8	4.2	-	蓋 箱粒		063
第367図1	3区	SK055	瓦産磁器	白磁紅皿	肥前系	4.8	1.4	1.6	-	型押し成形 完成		019
第367図2	3区	SK055	瓦産磁器	染付手塩皿	肥前系	6.1	1.9	3.2	-	唐草文	18c後半	016
第367図3	3区	SK055	瓦産磁器	染付手塩皿	肥前系	(8.0)	1.8	3.8	-		17c代か	013
第367図4	3区	SK055	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	(12.2)	2.2	(7.8)	-	蛇の目凹型高台	18c後半	009
第367図5	3区	SK055	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	(12.8)	3.5	(5.0)	-	染付砂付蓋 柳文	1650～1670	010
第367図6	3区	SK055	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	(13.4)	3.1	5.2	-	染付砂付蓋 人物文	1640～1650	011
第367図7	3区	SK055	瓦産磁器	染付皿	肥前系	(16.4)	4.2	(5.6)	-	草花文 二次被熱	1640～1650	012
第367図8	3区	SK055	瓦産磁器	黄磁小皿	肥前系	(15.3)	3.4	(8.6)	-		17c後半～18c中頃	018
第367図9	3区	SK055	瓦産磁器	白磁皿	肥前系	-	2.8+a	(10.2)	-	内面雕刻	17c中頃～後半	017
第367図10	3区	SK055	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	4.1	-	-	蛇の目凹型高台 輪花 唐 草文	18c後半～19c中頃	008
第367図11	3区	SK055	瓦産磁器	染付小坪	肥前系	(7.4)	2.7	2.6	-	竹葉文 1/3残存	18c代	015
第367図12	3区	SK055	瓦産磁器	染付小坪	肥前系	(8.0)	4.2	(2.9)	-	唐文 1/2残存	17c中頃	014
第367図13	3区	SK055	瓦産磁器	白磁ミニチュア ア壺	肥前系	2.4	1.3	0.9	-	型押し成形 ほぼ完成形		020
第367図14	3区	SK055	中国磁器	染付小碗	景德鎮産	(8.2)	4.2	(3.4)	-	蛇の目高台 麒麟	18c中頃～後半	006
第367図15	3区	SK055	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(7.8)	6.2	4.0	-	外青磁 筒型碗	18c後半	003
第367図16	3区	SK055	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(9.8)	5.3	3.8	-	丸網 望料形 草花文 二 次被熱	18c後半	004
第367図17	3区	SK055	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	9.4	4.7	3.2	-	ほぼ完成形 平菊文 二次被 熱	18c後半	005
第367図18	3区	SK055	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	4.4+a	6.0	-	広葉碗 丸文	1780～1820	002
第367図19	3区	SK055	瓦産磁器	染付碗	瀬戸美濃	(10.4)	5.8	(4.6)	-	環状被熱 龍唐草文	19c前半～中頃	001
第367図20	3区	SK055	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	(7.4)	4.3	3.6	-	染付鉢 コンニャク印刷 柳 文	18c中頃	021

第57表 3・4区 土器・陶磁器類観察表12

図録番号	調査区	遺構番号	種別	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・最大長	最大幅	底径・最大深	H・H内・最大高				
第367図21	3区	SK055	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	(9.5)	32+α	-	-	青磁染付 唐草文 二次焼結			023
第367図22	3区	SK055	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	(16.2)	6.0+α	-	-	竹葉文	17c代		022
第367図23	3区	SK055	瓦産磁器	染付小瓶	肥前系	1.8	7.3	2.7	-	竹葉文 完形	18c代		026
第367図24	3区	SK055	瓦産磁器	染付瓶	肥前系	-	5.3+α	4.7	-	体部縦方向の模			027
第367図25	3区	SK055	瓦産磁器	染付花生か	肥前系	(4.8)	7.8	(4.2)	-				030
第367図26	3区	SK055	瓦産磁器	染付仏壺器	肥前系	7.8	6.7	4.0	-	梅花文 ほぼ完形			025
第367図27	3区	SK055	瓦産磁器	瑠璃釉 香炉	肥前系	(4.2)	1.8+α	-	-				024
第367図28	3区	SK055	瓦産磁器	染付火入	肥前系	(9.2)	6.5+α	-	-	青字文	17c後半～18c初		028
第367図29	3区	SK055	瓦産磁器	青磁香炉	肥前系	(8.6)	4.9	(6.0)	-	1/3残存			029
第367図30	3区	SK055	瓦産磁器	器種不明	肥前系	(8.0)	6.7+α	-	-	体部融着痕 取手の痕跡か			031
第367図31	3区	SK055	瓦産陶器	小皿	備前系	(10.2)	2.5	3.8	-	朱泥 内面磨り目			054
第367図32	3区	SK055	瓦産陶器	小皿	肥前系	(12.2)	3.5	(3.7)	-	反輪 胎土目 3/4残存	1594～1610		042
第367図33	3区	SK055	瓦産陶器	小皿	肥前系	(13.0)	3.7	4.8	-	銅線輪 見込み蛇の目跡あり 2/3残存	1690～1780		039
第368図1	3区	SK055	瓦産陶器	小皿	肥前系	(13.6)	3.9	(4.4)	-	反輪 胎土目	1594～1610		041
第368図2	3区	SK055	瓦産陶器	皿	肥前系	(20.6)	2.9	6.6	-	平皿 見込み目跡有	17c後半		040
第368図3	3区	SK055	瓦産陶器	皿	肥前系	-	1.8+α	4.8	-	絵唐津 胎土目	1594～1610		043
第368図4	3区	SK055	瓦産陶器	皿か	志野	-	32+α	-	-	口縁断片			055
第368図5	3区	SK055	瓦産陶器	土瓶蓋	関西系	(8.1)	2.1	-	-	漆と土蓋			052
第368図6	3区	SK055	瓦産陶器	埴口	肥前系	(8.8)	4.0+α	-	-	福岡系か 重反輪流し掛け			048
第368図7	3区	SK055	瓦産陶器	碗	関西系	(7.1)	4.9+α	-	-	京・信楽系 筒型碗	18c後半～19c前半		032
第368図8	3区	SK055	瓦産陶器	碗	関西系	9.2	5.6	3.2	-	京・信楽系 丸碗	18c後半～19c前半		034
第368図9	3区	SK055	瓦産陶器	碗	肥前系	9.5	6.0	4.8	-	京焼風陶器 ほぼ完形 体部下半融着	17c末～18c前半		033
第368図10	3区	SK055	瓦産陶器	碗	肥前系	(10.0)	7.0	4.6	-	陶胎染付碗 山水文	1680～1740		035
第368図11	3区	SK055	瓦産陶器	碗	肥前系	(12.0)	6.9+α	-	-	陶胎染付碗 山水文	1650～1690		036
第368図12	3区	SK055	瓦産陶器	碗	肥前系	12.0	7.4	5.4	-	内外面刷毛目	1650～1690		037
第368図13	3区	SK055	瓦産陶器	碗	肥前系	(13.0)	6.3+α	-	-	天目碗 1/3残存	1610～1650		038
第368図14	3区	SK055	瓦産陶器	碗or瓶	瀬戸奥瀬か	-	1.5+α	4.8	-				057
第368図15	3区	SK055	瓦産陶器	瑠璃鉢	肥前系	-	9.0+α	-	-		18c中頃～19c		044
第368図16	3区	SK055	瓦産陶器	瑠璃鉢	関西系	-	5.5+α	-	-	口縁断片			045
第368図17	3区	SK055	瓦産陶器	瑠璃鉢	関西系	(28.4)	5.8+α	-	-	口縁断片			046
第368図18	3区	SK055	瓦産陶器	瑠璃鉢	関西系か	(26.8)	6.9+α	-	-				047
第368図19	3区	SK055	瓦産陶器	壺	肥前系	(24.4)	6.1+α	-	-				049
第368図20	3区	SK055	瓦産陶器	火入	備前	(11.0)	6.7	(11.0)	-		18c代		050
第368図21	3区	SK055	瓦産陶器	土鍋	関西系	(16.0)	7.2	(7.2)	-	鉄輪 器付	18c後半～		053
第368図22	3区	SK055	瓦産陶器	香炉か	肥前系	-	3.7+α	(15.8)	-	細部のみ			056
第368図23	3区	SK055	瓦産陶器	急須	関西系	-	5.4+α	-	-				051

第58表 3・4区 土器・陶磁器類観察表13

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm) <sup>3</sup> /2個充数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	丸形 率(%)				
第368図24	3区	SK055	瓦器	碗		-	4.0+a	-	-	和京型	12c~13c		065
第368図25	3区	SK055	土師器	皿	在地	(10.4)	2.7	-	-	皿C			056
第368図26	3区	SK055	土師器	皿	在地	9.8	2.0	4.7	-	小皿① 煤付着			059
第368図27	3区	SK055	土師器	皿	在地	(9.9)	2.3	4.7	-	小皿② 黒染 煤付着			060
第368図28	3区	SK055	土師質土器	焙烙		(30.5)	6.5+a	-	-	1/4残存	18c前半~中頃		061
第369図1	3区	SK055	土師質土器	焼塩釜		(8.1)	6.8+a	-	-		17c代		063
第369図2	3区	SK055	土師質土器	煤炉		-	13.3+a	22.0	-	1/3残存 脚部ニ穿孔			062
第369図3	3区	SK055	土製品	ミニチュア胎		3.1	3.9	2.0	-	宝胎			064
第369図11	3区	SK055-SK17 の裏込	国産磁器	染付半福皿	瀬戸美濃	8.6	1.8	5.0	-	梅折住 2/3残存	19c代		006
第370図1	3区	SK042	国産磁器	染付碗	肥前系	(12.0)	4.1+a	-	-	外青磁	18c後半		001
第370図2	3区	SK042	国産磁器	染付碗	肥前系	-	3.8+a	(4.8)	-	丸碗 高台内「富貴長春」 底部のみ 二次被熱	18c中頃~後半		002
第370図3	3区	SK042	国産陶器	碗	關西系	(7.3)	5.5	(3.8)	-	筒型 二次被熱	18c中頃~後半		003
第370図5	3区	SK109	国産磁器	染付皿	肥前系	(28.4)	4.7	(17.0)	-	梅花 燒縁僅有 二次被熱	18c後半~19c前半		002
第370図6	3区	SK109	国産磁器	染付皿	肥前系	-	4.7	-	-	燒縁僅有 土粒付僅か 二次被熱			003
第370図7	3区	SK109	国産磁器	染付碗	肥前か	10.0	6.5	4.5	-	網目文 口縁部外反 二次 被熱			001
第370図8	3区	SK109	国産磁器	色絵鉢	肥前系	-	5.2	-	-	四方母文	18c後半		004
第370図9	3区	SK109	国産磁器	器種不明	碗か	4.5+a	4.6+a	2.1	-	飯鉢 変形皿か			005
第370図10	3区	SK109	国産陶器	徳利	産地不明	4.4	25.3	9.8	-				006
第370図12	3区	SK125	国産磁器	染付小碗	肥前系	(9.0)	4.9	(3.6)	-	燒戻煎 梅花文 二次被熱	1620~1860		001
第370図13	3区	SK125	瓦質土器	煤炉		21.2	9.8+a	-	-	刷印「宮三」 土蓋又付着			002
第371図3	3区	SK135	国産磁器	染付小皿	肥前系	(13.4)	3.6	(8.2)	-	梅花 唐草文 1/3残存 二 次被熱	18c前半~中頃		002
第371図4	3区	SK135	国産磁器	染付皿	肥前系	-	6.3+a	(8.8)	-	山水文	17c後半		003
第371図5	3区	SK135	国産磁器	染付皿	肥前系	(11.8)	2.9	-	-	流水文 1/2残存 二次被 熱	18c代		004
第371図6	3区	SK135	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.8)	5.5+a	-	-	丸碗 二次被熱	18c中頃		001
第371図7	3区	SK135	国産陶器	蓋	肥前系	(10.0)	2.8	3.9	-	底部回転糸切り 表面沈跡			006
第371図8	3区	SK135	国産陶器	磁鉢	福岡か	(30.4)	10.2+a	-	-		18c末~19c初か		005
第371図9	3区	SK135	土師質土器	焙烙		-	6.0+a	-	-	口縁のみ	18c前半~中頃		007
第372図1	3区	SK172	国産磁器	染付皿	肥前系	-	1.8+a	(7.0)	-	蛇の目凸型高台 燒縁文字 有「一々」			009
第372図2	3区	SK172	国産磁器	染付皿	肥前系	-	0.8+a	-	-	燒縁文字有「安部」			011
第372図3	3区	SK172	国産磁器	染付皿	肥前系	-	1.8+a	5.6	-	若松文 燒縁文字有「重上 様」 二次被熱			010
第372図4	3区	SK172	国産磁器	染付皿	肥前系	(21.8)	4.9	(2.8)	-	角皿 山水文 燒縁文字有 「仙」	19c前半~中頃		008
第372図5	3区	SK172	国産磁器	染付皿	肥前系	-	1.8+a	(3.9)	-	燒縁文字有 二次被熱			004
第372図6	3区	SK172	国産磁器	染付皿	肥前系	(4.8)	1.3	(4.2)	-	菱台蓋			021
第372図7	3区	SK172	国産磁器	染付皿	肥前系	(5.3)	1.0	5.2	-	菱台蓋 馬鹿円	19c前半		022
第372図8	3区	SK172	国産磁器	色絵小坪	瀬戸美濃か	(5.8)	1.8	2.7	-				007
第372図9	3区	SK172	国産磁器	染付小坪	瀬戸美濃か	5.6	2.6	2.2	-	コバルト 燒縁文字有			006

第59表 3・4区 土器・陶磁器類観察表14

調査番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分類	時期	H番号
						口径・ 最大長	最大 径	底径・ 最大深	片厚・ 最大厚				
第372図10	3区	SK172	瓦産磁器	染付小坏	瀬戸美濃か	6.2	3.0	2.8	-	コバルト 模範文字有「岡本」か		005	
第372図11	3区	SK172	瓦産磁器	色絵小碗	瀬戸美濃	9.2	4.5	3.3	-	焼反映 3/4残存	19c前半～幕末	002	
第372図12	3区	SK172	瓦産磁器	色絵小碗	肥前系 (5.8)	4.3+α	-	-	-	有田 焼反映 英字	江戸後期	003	
第372図13	3区	SK172	瓦産磁器	染付碗	肥前系 (10.0)	6.1	3.0	-	-	焼反映 模範文字有「二フ」	1820～1860	001	
第372図14	3区	SK172	瓦産磁器	染付鉢	肥前系 (13.0)	6.1	(7.0)	-	-	青磁染付 菊花 虎の目凹 拉高台 模範文字有		012	
第372図15	3区	SK172	瓦産磁器	染付急須	肥前系	8.8	6.8	5.8	-	唐文		013	
第372図16	3区	SK172	瓦産磁器	色絵香炉	肥前系か	8.3	4.2	3.9	-	底面墨書有	明治～	025	
第372図17	3区	SK172	瓦産磁器	染付蓋筆	肥前系か	3.4+α	1.9+α	2.0	-			015	
第372図18	3区	SK172	瓦産磁器	染付蓋筆	肥前系か	5.7+α	5.0+α	3.3+α	-	唐草文 中国か		014	
第372図19	3区	SK172	瓦産磁器	色絵水筒	肥前系	8.0	6.2	2.9	-		三川内	19c代	019
第372図20	3区	SK172	瓦産磁器	染付水筒	肥前系	8.8	7.6	3.0	-		竹型	江戸後期	018
第372図21	3区	SK172	瓦産磁器	色絵水筒	不明	9.2+α	5.1	5.2	-		黒型 三川内	19c代	020
第372図22	3区	SK172	瓦産磁器	染付水筒	肥前系	4.5	12.7	7.5	-		鉛型 三川内	19c代	017
第372図23	3区	SK172	瓦産磁器	白磁水筒	肥前系	9.3+α	6.2+α	7.5	-		玄武 三川内か 二次焼熟	016	
第372図24	3区	SK172	瓦産磁器	急須		4.9	2.6+α	-	-	SK172 R030と同製品 黄 緑		024	
第372図25	3区	SK172	瓦産磁器	白磁急須		5.1	2.6+α	-	-	口縁のみ		023	
第373図1	3区	SK172	瓦産陶器	皿	瀬戸美濃	10.2	2.5	6.1	-	口縁部又付着 灯明皿		032	
第373図2	3区	SK172	瓦産陶器	急須蓋	関西系	8.3	0.9	1.3	-	SK172 R030の蓋 墨書有 「～字～」		031	
第373図3	3区	SK172	瓦産陶器	碗	関西系か	6.4	5.5	4.3	-	鉄胎		027	
第373図4	3区	SK172	瓦産陶器	碗	肥前系	6.8	5.1	3.7	-		田舎窯か	026	
第373図5	3区	SK172	瓦産陶器	柿木鉢	瀬戸美濃	-	3.2+α	7.1	-		透胎穿孔	028	
第373図6	3区	SK172	瓦産陶器	急須	関西系	9.3	10.0	8.8	-		外面墨書有	030	
第373図7	3区	SK172	瓦産陶器	急須	関西系	10.3	10.1	9.0	-		外面墨書有「西南局付」	029	
第373図8	3区	SK172	瓦質土器	火鉢		23.9	12.6	16.4	-		角型 内面赤変	033	
第373図9	3区	SK172	瓦質土器	土管		-	40.3+α	(19.2)	-			034	
第373図10	3区	SK172	土質土器	燈炉		-	33.4+α	-	-		銅印有「基右衛門」	035	
第373図11	3区	SK172	土製品	人形		2.7	2.5	1.1	-		人面	040	
第373図12	3区	SK172	土製品	人形		3.2	1.4	1.3	-		透胎穿孔	041	
第373図13	3区	SK172	土製品	人形		3.2	2.5	1.8	-		透胎穿孔	039	
第373図14	3区	SK172	土製品	鶏籠道具		1.8	1.4	0.4	-		種子 透明胎	043	
第373図15	3区	SK172	土製品	鶏籠道具		3.6	2.3	2.2	-		橙緑 緑色、白色胎	042	
第373図16	3区	SK172	土製品	茶面子		2.1	1.3	0.3	-		軍配	044	
第373図17	3区	SK172	土製品	茶面子		1.8	1.8	0.8	-		鎌賞(渡辺角)	045	
第373図18	3区	SK172	土製品	茶面子		1.8	1.8	0.6	-		菊花	046	
第373図19	3区	SK172	土製品	茶面子		1.7	1.7	0.6	-		花	047	
第373図20	3区	SK172	土製品	茶面子		1.7	1.7	0.7	-		不明	048	

第60表 3・4区 土器・陶磁器類観察表15

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm)×J2復元数値				備考	分類 時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径			
第373図1	3区	SK172	土製品	泥面子		1.7	1.8	0.5	-	山車か		049
第373図2	3区	SK172	土製品	泥面子		1.8	1.8	0.7	-	文字		050
第373図3	3区	SK172	土製品	泥面子		1.7	1.5	0.6	-	四角 彩色有(青)		051
第373図4	3区	SK172	土製品	泥面子		2.3	1.1	0.6	-	宝塔		052
第373図5	3区	SK172	土製品	泥面子		1.8	1.3	0.6	-	小判		053
第373図6	3区	SK172	土製品	泥面子		2.2	1.2	0.5	-	野梨		054
第373図7	3区	SK172	土製品	泥面子		1.7	1.7	0.6	-	不明(円形)		055
第373図8	3区	SK172	土製品	泥面子		1.5	1.5	1.0	-	巻貝		056
第373図9	3区	SK172	土製品	泥面子		2.4	1.1	0.7	-	不明		057
第373図10	3区	SK172	土製品	泥面子		1.8	1.5	0.7	-	不明		058
第375図1	3区	SK201	国産磁器	青磁平塩皿	肥前系	5.7	1.3	2.4	-	ほぼ完形 裏付に砂付着		012
第375図2	3区	SK201	国産磁器	染付皿	肥前系	-	3.5+0	(12.4)	-	芭蕉文 蛇の目凹型高台 二次被熱	18c中頃～後半	005
第375図3	3区	SK201	国産磁器	染付皿	肥前系	21.0	2.8	13.8	-	花唐草文 輪花 目跡3箇所 二次被熱	18c後半	006
第375図4	3区	SK201	国産磁器	染付小碗	肥前系	(7.2)	4.6	3.8	-	山水文	19c代	004
第375図5	3区	SK201	国産磁器	猪口	肥前系か	7.1	2.9	2.6	-			015
第375図6	3区	SK201	国産磁器	色絵猪口	肥前系	7.2	5.2	5.3	-	ほぼ完形 花卉文	1750～1780	003
第375図7	3区	SK201	国産磁器	染付猪口	肥前系	7.8	6.2	5.9	-	春山拾得 ほぼ完形	18c後半～19c前半	002
第375図8	3区	SK201	国産磁器	碗	瀬戸美濃か	-	4.4+a	3.6	-	黄緑釉		018
第375図9	3区	SK201	国産磁器	染付碗	肥前系	-	2.5+a	4.5	-	裏付付着物あり	17c中頃	020
第375図10	3区	SK201	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.2)	5.7	4.1	-	ほぼ完形 二次被熱	18c後半～19c前半	001
第375図11	3区	SK201	国産磁器	染付鉢	肥前系	-	3.6+a	9.5	-	樹下人物文 蛇の目凹型高台	18c中頃～後半	007
第375図12	3区	SK201	国産磁器	青磁瓶	肥前系	(7.8)	15.7	5.3	-		18c代	010
第375図13	3区	SK201	国産磁器	染付火入	肥前系	(10.0)	6.8	7.5	-	紅葉文 蛇の目凹型高台	18c中頃～後半	009
第375図14	3区	SK201	国産磁器	色絵仏輪器	肥前系	(5.9)	4.9	4.2	-		18c後半～19c中頃	011
第375図15	3区	SK201	国産磁器	色絵人形	肥前系	2.5	3.2	3.1	-	獅子か 顔部分のみ		013
第375図16	3区	SK201	国産陶器	皿	肥前系	-	2.1+a	(4.7)	-	砂目 灰釉	17c前半	017
第375図17	3区	SK201	国産陶器	碗	肥前系	-	2.3+a	(5.0)	-	外面顔縁釉	17c前半	018
第375図18	3区	SK201	国産陶器	皿	肥前系	-	2.3+a	(4.3)	-	唐唐陶器 山水文 刷印 「金」か	17c後半	019
第375図19	3区	SK201	国産陶器	磁鉢	関西系か	(20.0)	6.1	(11.2)	-			021
第375図20	3区	SK201	国産陶器	染付瓶	肥前系	1.9	11.9	4.6	-	陶胎染付 牡丹文	18c前半	014
第375図21	3区	SK201	国産陶器	灰入	関西系	10.9	8.8	(10.9)	-	口縁部緑色釉 産部産書 「乙丁」		022
第375図22	3区	SK201	国産陶器	器種不明	肥前系	5.8+a	5.9	4.0	-	筒型		023
第376図1	3区	SK201	瓦質土器	磁鉢		(17.8)	6.5+a	(12.5)	-	傾付文		025
第376図2	3区	SK201	瓦質土器	燈炉		-	18.4	-	-	刷印有 兎 長右衛門銘		024
第377図7	3区	SK201+SK206	国産磁器	染付鉢	肥前系	(16.0)	5.1	(9.0)	-	輪花 口紅 内面面陽刻文 ※SK201H006とSK206H006 接合	18c後半～19c初頃	001
第377図8	3区	SK234	国産陶器	磁鉢	瀬戸美濃	22.8	18.5	19.8	-	ほぼ完形 目跡見込み4箇所 産部3箇所	19c前半～中頃	001

第 61 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 16

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口徑・ 最大径	最大 径	底径・ 最大底径	丸径・ 最大丸径				
第378図1	3区	SK285	国産磁器	色絵小皿	肥前系	(11.0)	2.8	(6.4)	-	輪花 松屋文 二次被熱			004
第378図2	3区	SK285	国産磁器	染付蓋	肥前系	-	1.8+0	-	-	網目文 徳継焼有	16c後半～19c前半		002
第378図3	3区	SK285	国産磁器	染付碗	肥前系	-	3.8+0	(4.6)	-	意地のみ 二次被熱	16c前半		001
第378図4	3区	SK285+SK335	国産磁器	染付皿	肥前系	(23.8)	2.6+0	-	-	意地巻 徳継有	17c後半		001
第378図5	3区	SK288	国産磁器	染付碗	肥前系	-	3.4+0	-	-	丸碗 口縁部のみ	16c中頃		001
第378図6	3区	SK288	国産磁器	染付鉢	肥前系	(10.3)	8.7	(6.0)	-	染付鉢 2/3残存	16c代		002
第378図7	3区	SK288	国産陶器	色絵皿	瀬戸美濃	(22.4)	3.2	(18.0)	-	黄塗	16c～19c		004
第378図8	3区	SK288	国産陶器	碗	瀬戸美濃	-	3.9+0	-	-	口縁部片 被熱			003
第378図11	3区	SK285	国産磁器	染付皿	肥前系	-	1.9+0	-	-	口縁部片	17c中頃～後半		003
第378図12	3区	SK285	国産磁器	染付碗	肥前系	-	2.1+0	-	-	口縁部片	17c後半～18c前半		001
第378図13	3区	SK285	国産磁器	染付碗	肥前系	-	1.7+0	(4.6)	-	意地のみ	17c中頃		002
第378図14	3区	SK285	国産陶器	碗	肥前系	(13.8)	4.9+0	-	-	天目碗 反軸	1610～1650		004
第378図15	3区	SK285	国産陶器	蓋	肥前系	(17.0)	4.0+0	-	-	鉄軸 口縁部割付 蓋付 か	17c前半		005
第378図16	3区	SK290	国産磁器	染付小皿	肥前系	-	1.5+0	3.8	-	意地片 蛇の目高台	17c中頃		008
第378図17	3区	SK290	国産磁器	染付皿	肥前系	-	1.5+0	-	-	雷輪文 蛇の目目型高台	16c中頃～後半		006
第378図18	3区	SK290	国産磁器	白磁小皿	肥前系	10.3	2.6	6.2	-	輪花 口紅 1/2残存	17c後半～18c前半		013
第378図19	3区	SK290	国産磁器	染付小皿	肥前系	(14.0)	4.1	(5.2)	-	高台内組付付着	17c中頃		007
第378図20	3区	SK290	国産磁器	染付小皿	肥前系	(14.4)	3.5	(8.4)	-	有田 芙蓉半 1/3残存 二次被熱	1660～1670		005
第378図21	3区	SK290	国産磁器	染付小鉢	肥前系	(9.6)	3.9	2.2	-	隈文 意地粉付着 二次被熱	17c中頃～後半		010
第378図22	3区	SK290	国産磁器	染付小碗	肥前系	6.7	3.9	2.8	-	櫻餅連弁文 有田 輸出向け 色絵高台 二次被熱	16c前半		009
第378図23	3区	SK290	国産磁器	色絵小碗	肥前系	(8.8)	3.9	3.3	-	緋に梅花文 1/2残存 二次被熱	1710～1740		011
第378図24	3区	SK290	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.0)	5.7	(4.0)	-	丸碗 丸文 1/2残存	16c前半～中頃		002
第378図25	3区	SK290	国産磁器	染付碗	肥前系	10.2	5.4	4.8	-	丸碗 菊水文 縁部彫刻 二次被熱	16c前半～中頃		003
第378図26	3区	SK290	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.0)	5.5	(4.4)	-	丸碗 雲文 見込み蛇の目 輪割付	16c前半～中頃		004
第378図27	3区	SK290	国産磁器	染付碗	肥前系	(7.6)	6.3	3.9	-	筒型碗 藤織文 緋輪 二次被熱	18c後半		001
第378図28	3区	SK290	国産磁器	白磁鉢	肥前系	(7.8)	6.5	5.0	-	筒型 蓋付鉢 二次被熱			012
第379図1	3区	SK290	国産陶器	皿	肥前系	9.8	4.4	3.8	-	京焼風陶器 山水文 刻印 有「清水」	17c後半		017
第379図2	3区	SK290	国産陶器	皿	肥前系	-	3.5+0	4.4	-	京焼風陶器 刻印有「新」 山水文 色絵輪飾し	1680～1690		019
第379図3	3区	SK290	国産陶器	蓋	肥前系	10.2	2.9	5.4	-	意地回転糸切り 福間系か			022
第379図4	3区	SK290	国産陶器	碗	肥前系	(10.2)	6.7	(4.6)	-	白銅毛目	17c後半～18c前半		014
第379図5	3区	SK290	国産陶器	碗	肥前系	10.4	7.5	5.1	-	陶胎染付 山水文 2/3残存 二次被熱	17c後半～18c前半		015
第379図6	3区	SK290	国産陶器	碗	肥前系	10.6	7.5	4.8	-	透明釉	17c後半～18c前半		016
第379図7	3区	SK290	国産陶器	碗	関西系	(12.4)	4.7	4.8	-	京焼 内面色絵紅文	16c代		018
第379図8	3区	SK290	国産陶器	鉢か	産地不明	(13.0)	4.5+0	-	-	福間系か			026
第379図9	3区	SK290	国産陶器	片口鉢	肥前系	(16.4)	7.1	6.0	-	銅毛目 見込み蛇の目輪割 付	1690～1750		020
第379図10	3区	SK290	国産陶器	覆鉢	肥前系か	-	8.0+0	-	-	覆目単位/本			021

第62表 3・4区 土器・陶磁器類観察表17

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J2値充数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	丸形 最大径				
第379図11	3区	SK290	瓦甎陶器	燈利	備前	-	3.4+0	(7.5)	-	内面鉄分付着 鉄器水か 刺印有			023
第379図12	3区	SK290	瓦甎陶器	灯火具	肥前系	7.4	4.1	6.0	-	受部口縁打文き 底部印 赤切引	1650~1690		025
第379図13	3区	SK290	瓦甎陶器	火入れか	肥前系	(9.6)	5.5	5.6	-		1650~1690		024
第379図14	3区	SK290	瓦甎陶器	人形か	備前	3.4+0	2.7+0	8.2+0	-				027
第379図15	3区	SK290	土師器	皿	在地	(9.8)	2.3	4.8	-	小皿			028
第379図16	3区	SK290	土師質土器	横置き蓋		8.2	2.2	8.0	-				029
第379図17	3区	SK290	土師質土器	燗瓶		31.5	8.9+0	-	-	外面スス付着	18c前半~中頃		030
第379図18	3区	SK290	土製品	土鈴		2.6+0	2.7+0	-	-	型押し成形			031
第380図4	3区	SK315	瓦甎磁器	染付碗	肥前系	(12.0)	4.6+0	-	-	広東碗 山水文	1780~1810		001
第380図5	3区	SK315	瓦甎陶器	紅皿	瀬戸美濃	5.5	3.1	2.6	-	完形	19c前半		005
第380図6	3区	SK315	瓦甎陶器	碗	関西系	9.0	5.2	3.0	-	丸顔 色絵 管葉文 3/4残 存	18c後半~		004
第380図7	3区	SK315	瓦甎陶器	灯明皿	関西系	(8.4)	2.0	3.1	-	1/2残存			006
第380図8	3区	SK315	瓦甎陶器	碗	肥前系	-	(2.5)	5.4	-	京焼風陶器 刷印有「松小 西」	17c後半		003
第380図9	3区	SK315	土師質土器	燗瓶		(30.8)	8.5+0	-	-	スス付着			008
第380図12	3区	SK315+SD55 0	瓦甎磁器	白磁瓶	肥前系	-	8.5+0	4.6	-	二次被熱	1630~1650		001
第380図13	3区	SX005裏込 +SK315	瓦甎磁器	染付碗	肥前系	11.8	6.0	6.2	-	広東碗 二次被熱	1780~1810		001
第381図1	3区	SK332	瓦甎磁器	染付小皿	肥前系	(13.2)	3.0	5.8	-	内側面彫刻文 高台砂付着 初期伊万里	1630~1640		004
第381図2	3区	SK332	瓦甎磁器	染付小皿	肥前系	(13.0)	2.6+0	-	-	花卉文	1640~1650		003
第381図3	3区	SK332	瓦甎磁器	染付碗	肥前系	-	3.2+0	-	-	梵字文	1780~1820		001
第381図4	3区	SK332	瓦甎磁器	染付碗	肥前系	-	3.5+0	-	-	外青磁	18c後半		002
第381図5	3区	SK332	瓦甎磁器	青磁香炉	肥前系	-	6.7+0	-	-	有田 動物型	17c後半		006
第381図6	3区	SK332	瓦甎磁器	青磁香炉	肥前系	-	7.5+0	9.4	-	有田 香炉蓋 人型 二次 被熱	17c後半		005
第381図7	3区	SK332	瓦甎陶器	碗	肥前系	(12.0)	5.2+0	-	-	天目碗	1610~1650		007
第381図8	3区	SK332	瓦甎陶器	器種不明	関西系	-	4.8+0	4.7	-	瓜型 香炉か 二次被熱	18c~19c		008
第381図9	3区	SK332+SB84	瓦甎磁器	青磁香炉	肥前系	(24.0)	10.5+0	(19.2)	-	蛇の目型高台 脚部成跡 有 竹葉文 二次被熱 3区 5348.115&2接合	1650~1680		001
第381図10	3区	SK368	瓦甎磁器	染付蓋	肥前系	(4.8)	1.1	-	-	合子蓋	18代		002
第381図11	3区	SK368	瓦甎磁器	染付碗	肥前系	10.7	5.5	(4.9)	-	丸顔 花卉文	18c前半~中頃		001
第381図12	3区	SK368	瓦甎陶器	碗	肥前系	(10.7)	5.5	4.5	-	狭川 篋手	1690~1740		003
第381図13	3区	SK368	瓦甎陶器	燗鉢	肥前系か	-	3.2+0	-	-				004
第381図14	3区	SK368	瓦甎陶器	餐盤	肥前系	(34.4)	6.2	2.8	(2.6)	6	網目文		005
第381図15	3区	SK391	瓦甎磁器	染付小皿	肥前系	(13.9)	4.1	(8.2)	-	輪花 2/3残存 二次被熱	18c前半~中頃		002
第381図16	3区	SK391	瓦甎磁器	染付皿	肥前系	-	3.5	7.4	-	真込み 蛇の目輪刺さ 口縁 磨打も欠き	18c中頃~後半		003
第381図17	3区	SK391	瓦甎磁器	染付碗	肥前系	7.6	5.6	3.8	-	箱型 雲持笠・雷輪文 球珠完形	18c後半		001
第381図18	3区	SK431	瓦甎磁器	染付碗	肥前系	(10.6)	6.1	(4.6)	-	横反碗 網目文 二次被熱	1820~1860		001
第381図19	3区	SK431	瓦甎磁器	染付碗	肥前系	-	4.2+0	5.1	-	広東碗 意那のみ	1780~1820		002
第381図20	3区	SK431	瓦甎磁器	染付鉢	肥前系	(13.6)	4.7+0	-	-	外面編織文 内面格子文	18c後半~19c中頃		003

第 63 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 18

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大径	最大 径60°	底径・ 最大径	片厚・ 最大値				
第301図21	3区	SK431	国産磁器	染付鉢	肥前系	-	2.7	-	-		18c代		005
第301図22	3区	SK431	国産磁器	染付鉢	肥前系	-	2.5+α	-	-	裏付鉢	18c代		004
第301図23	3区	SK431	国産陶器	皿	肥前系 (13.6)	3.4	3.9	-	-	胎土目 増巻色釉	1504~1610		006
第301図24	3区	SK431	国産陶器	皿	関西系か (10.4)	4.1	4.4	-	-	裏面に目跡3箇所			007
第301図25	3区	SK431	国産陶器	碗	関西系	-	2.9+α (3.8)	-	-	京・信濃 蓋取り	19c中頃~20c前半		006
第301図26	3区	SK431	土師質土器	桶木鉢	-	3.4+α (14.6)	-	-	-	赤色塗彩			009
第301図27	3区	SK431	土師質土器	燈籠	(28.6)	4.7+α	-	-	-	側面穿孔			005
第302図1	3区	SK447	国産陶器	皿	肥前系	-	2.3+α	-	-	繪唐津	1504~1610		002
第302図2	3区	SK447	国産陶器	碗	肥前系	-	3.5+α	-	-	天目	17c前半		003
第302図3	3区	SK447	国産陶器	碗	肥前系 (10.4)	6.5	3.9	-	-	灰釉	1610~1650		001
第302図4	3区	SK479	国産磁器	染付壺	肥前系	9.4	3.5	4.0	-	外青磁 二次被熱	18c後半		004
第302図5	3区	SK479	国産磁器	染付碗	肥前系 (10.2)	3.3+α	-	-	-	丸碗	18c中頃		001
第302図6	3区	SK479	国産磁器	小碗	肥前系か (9.6)	4.1+α	-	-	-	口紅 外面灰釉			005
第302図7	3区	SK479	国産磁器	染付碗	肥前系	8.8	5.5	3.4	-	丸碗 人物文 1/2残存	1740~1780		003
第302図8	3区	SK479	国産磁器	染付碗	肥前系 (11.2)	6.0	(5.0)	-	-	丸碗 朝顔文 二次被熱	18c中頃~後半		002
第302図9	3区	SK479	国産陶器	皿	関西系か (7.0)	1.2	(4.4)	-	-	胎型 型押し成形			009
第302図10	3区	SK479	国産陶器	蓋鉢	瀬戸美濃	-	3.3+α	-	-	口縁部片	18c前半		007
第302図11	3区	SK479	国産陶器	蓋鉢	肥前系	-	6.8+α	-	-		18c中頃		006
第302図12	3区	SK479	国産陶器	灰入	関西系か (10.8)	8.9	10.4	-	-	球状完形 口縁部付近輪筋付			008
第302図13	3区	SK479	瓦質土器	火鉢	(19.6)	5.0+α	-	-	-	スタンプ有 菊文			010
第303図1	3区	SK487上層	国産磁器	染付小皿	肥前系 (14.0)	2.9	(8.2)	-	-	唐草文 横懸文字有	1690~1710		001
第303図2	3区	SK487中層	国産磁器	染付手塩皿	肥前系 (8.0)	1.3	(2.8)	-	-	梅花 型押し成形			001
第303図3	3区	SK487中層	国産磁器	白磁皿	肥前系	-	1.5	4.2/2.7	-	変形皿			003
第303図4	3区	SK487中層	国産磁器	色絵猪口	肥前系	-	4.5+α (8.2)	-	-	横懸唐文	19c中頃~後半		002
第303図5	3区	SK487中層	国産陶器	蓋	関西系	6.4	1.9	3.0	-	急須蓋			006
第303図6	3区	SK487中層	国産陶器	蓋	関西系	6.6	1.5	-	-	色子蓋 色絵 2/3残存			007
第303図7	3区	SK487中層	国産陶器	碗	関西系 (9.2)	5.1	(3.0)	-	-	環反型 1/3残存	18c後半~		004
第303図8	3区	SK487中層	国産陶器	碗	肥前系	-	3.1+α	4.7	-	横川橋 印花文 裏付砂目4箇所	18c前半		005
第303図9	3区	SK487中層	土師質土器	風炉	-	9.2+α	-	-	-				008
第303図10	3区	SK487下層	国産磁器	染付皿	肥前系 (22.6)	5.8	(12.8)	-	-	横懸文 目跡3箇所	19c代		005
第303図11	3区	SK487下層	国産磁器	染付壺	肥前系 (10.3)	2.9	-	-	-	広葉唐蓋	1780~1810		004
第303図12	3区	SK487下層	国産磁器	染付壺	肥前系 (9.6)	2.4	-	-	-	格子文 SK487下層 H001の壺			003
第303図13	3区	SK487下層	国産磁器	染付小碗	肥前系	9.8	4.8+α	-	-	環反碗 格子文	1820~1860		001
第303図14	3区	SK487下層	国産磁器	染付碗	瀬戸美濃 (9.8)	5.2+α	-	-	-	環型碗	19c中頃~後半		002
第303図15	3区	SK487下層	青磁か	碗	中国か	-	1.7+α	-	-				009
第303図16	3区	SK487下層	国産磁器	青磁瓶か香炉	肥前系	-	4.2+α	4.9	-				006

第64表 3・4区 土器・陶磁器類観察表19

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2還元数値				備考	分期	時期	図録号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	底径 最大径				
第383図7	3区	SK487下層	国産磁器	白磁台子	肥前系	(42)	1.7	(44)	-				007
第383図18	3区	SK487下層	国産磁器	染付仏器器	肥前系	-	2.9+α	3.0	-				008
第383図19	3区	SK487下層	国産陶器	碗	關西系	(9.6)	4.7	(3.2)	-	1/2残存 口縁部縁軸	18c前半~		010
第383図20	3区	SK487下層	国産陶器	片口鉢	肥前系	15.8	6.0	6.7	-	鉄軸			012
第383図21	3区	SK487下層	国産陶器	土瓶	關西系少	10.0	13.5	7.2	-	鉄軸			013
第383図22	3区	SK487下層	瓦質土器	火鉢	-	-	7.6+α	19.8	-	底部のみ			014
第383図23	3区	SK487下層	土師器	小皿		6.1	1.2	3.8	-	透明釉			011
第383図24	3区	SK487下層	土師質土器	横溝壺蓋		(6.4)	1.6	-	-	SK487下層 P015の蓋			016
第383図25	3区	SK487下層	土師質土器	横溝壺		6.0	6.4	3.9	-	ほぼ完整			015
第384図1	3区	SK496	国産磁器	染付小皿	肥前系	(10.2)	2.5	(6.2)	-	横尾文字「治郎右衛門様」 梅花			005
第384図2	3区	SK496	国産磁器	染付小皿	肥前系	(10.3)	2.5	6.1	-	梅花 横尾山文 口紅	1810~1860		006
第384図3	3区	SK496	国産磁器	染付小杯	肥前系	(5.6)	3.4	2.6	-	桜屋文			004
第384図4	3区	SK496	国産磁器	染付小碗	肥前系	9.0	5.5	3.4	-	丸網 丸文	1780~1860		002
第384図5	3区	SK496	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.6)	6.3	4.2	-	外青磁	18c後半		001
第384図6	3区	SK496	国産磁器	染付碗	肥前系	-	5.3+α	(4.6)	-	横反碗 二次被熱	1820~1860		003
第384図7	3区	SK496	国産磁器	色絵碗	肥前系	-	2.6+α	(7.2)	-	梅花	17c後半		008
第384図8	3区	SK496	国産磁器	染付瓶	肥前系	-	5.9+α	(6.4)	-	花入か			010
第384図9	3区	SK496	国産磁器	青磁香炉	肥前系	(6.2)	5.1	3.2	-	三足	18c後半~		009
第384図10	3区	SK496	国産磁器	染付仏器器	肥前系	(6.8)	6.3	4.2	-	横尾文	18c後半		007
第384図11	3区	SK496	国産陶器	皿	瀬戸美濃	-	3.8+α	-	-	馬の目蓋	18c後半~19c前半		020
第384図12	3区	SK496	国産陶器	皿	關西系少	(9.2)	2.7	4.2	-	見込目跡3箇所			019
第384図13	3区	SK496	国産陶器	皿	肥前系	(25.0)	7.0	8.2	-	砂目糖 二彩手	1650~1690		018
第384図14	3区	SK496	国産陶器	皿	肥前系	23.4	6.7	(9.9)	-	三島手	1650~1690		017
第384図15	3区	SK496	国産陶器	皿	肥前系	-	4.8+α	(10.5)	-	白化粗土 砂目糖	1650~1690		016
第385図1	3区	SK496	国産陶器	碗	萩	9.8	5.3	3.6	-	灰軸			013
第385図2	3区	SK496	国産陶器	碗	肥前系	(10.7)	7.4	4.9	-		1690~1780		011
第385図3	3区	SK496	国産陶器	碗	肥前系	(11.3)	7.6	5.0	-	呉手	17c後半~18c前半		012
第385図4	3区	SK496	国産陶器	片口鉢	肥前系	(22.0)	9.6+α	-	-	横縁軸			021
第385図5	3区	SK496	国産陶器	片口鉢	肥前系	(23.2)	10.9	11.4	-	白網毛目	18c前半~中頃		024
第385図6	3区	SK496	国産陶器	磁鉢	肥前系	(30.6)	6.0+α	-	-		17c末		022
第385図7	3区	SK496	国産陶器	磁鉢	關西系	(30.0)	7.0+α	-	-	硝	18c代		023
第385図8	3区	SK496	国産陶器	三文字ノ字摺 料		1.5	1.7+α	-	-				027
第385図9	3区	SK496	国産陶器	甕	肥前系	(20.8)	11.4+α	-	-		18c代		025
第385図10	3区	SK496	国産陶器	灯火具	肥前系	-	7.9+α	5.3	-	鉄軸	19c代		026
第385図11	3区	SK496	瓦質土器	火鉢	-	-	1.9+α	-	-	底部穿P12箇所			028
第385図12	3区	SK496	瓦質土器	不明	-	-	5.4	2.7	-				029

第 65 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 20

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分類	時期	H番号
						口徑・ 最大径	最大 径	底径・ 最大径	片厚・ 最大径				
第385図13	3区	SK496	土師器	皿	在地	11.3	2.0	8.3	-	小皿b			000
第385図14	3区	SK496	土師質土器	焙烙		(16.4)	2.7+α	-	-	1/3残存			001
第385図15	3区	SK496	土師質土器	焙烙か壁		-	2.6	-	-				003
第385図16	3区	SK496	土師質土器	風炉か		-	2.9+α	-	-	口縁のみ 刷印有			002
第385図17	3区	SK496+SD400	国産陶器	鉢	萩	-	8.5+α	(8.2)	-	裏灰釉	18c後半以降		001
第386図1	4区	SK015	国産磁器	白磁皿	肥前系	7.7	2.1	3.9	-	梅花 糸切細工成形	17c後半		006
第386図2	4区	SK015	青磁	蓋		-	2.1	-	-				008
第386図3	4区	SK015	国産磁器	染付蓋	肥前系	(7.6)	2.2	-	-	折枝花文	18c代		007
第386図4	4区	SK015	国産磁器	染付樋口	肥前系	(5.2)	3.5	2.8	-	網干文	18c代		005
第386図5	4区	SK015	国産磁器	染付小杯	肥前系	5.6	3.6	2.4	-	摺文	18c代		004
第386図6	4区	SK015	国産磁器	染付小碗	肥前系	(9.6)	4.8	3.2	-	砂目積 初期伊万里	1810~1830		002
第386図7	4区	SK015	国産磁器	染付碗	肥前系	10.2	5.6	4.3	-	丸網 草花文 コンニヤク印	18c前半~中頃		001
第386図8	4区	SK015	国産磁器	白磁碗	肥前系	(10.0)	5.4	4.2	-	口紅			003
第386図9	4区	SK015	国産陶器	碗	肥前系	(8.2)	5.7	4.2	-	高台か腰懸鉢輪	17c末~18c前半		011
第386図10	4区	SK015	国産陶器	碗	肥前系	(10.0)	6.2+α	-	-	福岡系か 内面灰釉掛付流し			012
第386図11	4区	SK015	国産陶器	碗	肥前系	11.4	7.3	4.7	-	白化粗土 観川焼 ぼぼ完形	1690~1740		010
第386図12	4区	SK015	国産陶器	碗	肥前系	(11.6)	7.4	5.4	-	陶胎染付 唐草文	18c前半		009
第386図13	4区	SK015	国産陶器	福鉢	信楽か	-	3.5+α	-	-		17c後半~18c前半 か		013
第386図14	4区	SK015	土製品	ミニチュア皿		3.1	1.1	2.1	-	内面部分的に残存			014
第386図16	4区	SK033	国産磁器	染付碗	肥前系	-	3.9+α	-	-	陶型碗 鉢分多量付着	18c後半		001
第386図17	4区	SK033	国産磁器	染付小杯	肥前系	5.6	4.0	2.4	-	摺文 内面付着物有 定形	1630~1640		003
第386図18	4区	SK033	国産磁器	染付碗	肥前系	(12.2)	6.3+α	-	-	丸文 腰部下鉢輪	18c前半~中頃		002
第386図19	4区	SK033	国産陶器	碗	肥前系	(11.0)	6.1+α	-	-	灰釉 福岡系か			005
第386図20	4区	SK033	土師器	皿	在地	10.8	1.9	6.5	-	小皿b 黒変			006
第386図21	4区	SK033	土師器	皿	在地	11.5	1.9	6.3	-	小皿b 口縁部多量欠付着 灯明皿 ほぼ完形			009
第386図22	4区	SK033	土師器	皿	在地	11.4	2.0	7.3	-	小皿b ほぼ完形			007
第386図23	4区	SK033	土師器	皿	在地	11.4	1.9	8.2	-	小皿b 内面欠付着 ほぼ完形			008
第386図24	4区	SK033	土師器	皿	在地	16.0	2.4	9.3	-	皿C			010
第386図26	4区	SK033	国産陶器	片口鉢	肥前系	(12.4)	7.1	4.9	-	内外面鉢輪 異径磨痕か 50%以上検出	1650~1690		004
第386図27	4区	SK035	国産磁器	碗	萩	(8.4)	4.7	-	-	牡丹餅付 SE190一段下付と 接合	19c代		001
第387図3	3区	SK050	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.8)	5.1+α	-	-	外青磁 新懸型 二次被熱	18c後半		001
第387図4	3区	SK050	国産磁器	染付碗	肥前系	-	2.6+α	4.4	-	陶型碗 二次被熱	18c後半		002
第387図5	3区	SK050	国産陶器	碗	肥前系	-	3.9+α	(4.0)	-	京焼風陶器 二次被熱	17c後半~18c前半		003
第387図6	3区	SK050	国産陶器	蓋	肥前系か	-	2.1+α	-	-	鉄輪			004
第387図7	3区	SK050	土師質土器	蓋	在地	-	15.9+α	-	-	内面付着物有			005
第387図8	3区	SK065	国産磁器	染付小碗	瀬戸美濃	(9.8)	3.7+α	-	-	襷反碗 二次被熱	1820~1860		002

第66表 3・4区 土器・陶磁器類観察表21

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm) <sup>3</sup> J2復元数値				備考	分属 時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径			
第387図9	3区	SX065	国産磁器	染付碗	肥前系	(100)	5.3	(3.4)	-	丸刷 焼継文字有 1/2残存	1820~1860	001
第387図10	3区	SX065	土師質土器	甕	在地	-	38.5+α	30.5	-	底部+口縁 内面付着物		003
第387図12	3区	SX065裏込	国産磁器	染付小碗	肥前系	(92)	4.0+α	-	-	広東製 二次被熱	1780~1810	001
第387図13	3区	SX130	国産陶器	碗	肥前系	-	5.2+α	-	-	透明釉	18c代	001
第387図14	3区	SX130	土師質土器	甕	在地	-	10.8+α	-	-	口縁のみ		002
第387図15	3区	SX150	土師質土器	甕		-	38.4+α	(26.8)	-	内面付着物有 口縁部+底部		001
第388図1	3区	SX155	土師質土器	甕		-	61.8+α	(21.4)	-	内面漆喰係 付着物有		001
第388図2	3区	SX155裏込	国産陶器	碗	肥前系	-	2.9+α	5.2	-	京焼風陶器 刷印「清水」	17c後半	001
第388図4	3区	SX255	国産磁器	染付小碗	肥前系	(94)	4.7+α	-	-	梅樹文 1/2残存 二次被熱		001
第387図5	3区	SX255	土師質土器	甕	在地	-	16.0+α	-	-	口縁部片		002
第389図1	3区	SX100	国産磁器	染付小碗	肥前系	(98)	2.8+α	-	-	丸刷 口縁部片	18c中頃	001
第389図2	3区	SX100	国産陶器	碗	肥前系	(118)	4.7+α	-	-	透明釉 縁部 内野山窯か	17c末~18c前半	002
第389図3	3区	SX100	国産陶器	磁鉢	肥前系	-	8.5+α	-	-		17c後半	004
第389図4	3区	SX100	国産陶器	壺	肥前系	-	5.1+α	(7.9)	-	内面鉄分付着 鉄燻壺か		003
第389図5	3区	SX100	国産陶器	瓶	肥前系	(32)	8.3+α	-	-		17c後半	005
第389図7	3区	SX105	国産磁器	染付鉢	肥前系	-	3.9+α	-	-	墨付鉢 笠蓋留り コノム	19c後半	001
第389図8	3区	SX110	国産磁器	染付鉢	肥前系	(32.2)	10.8	(9.4)	-	山水か 菊菊伊万草	1610~1630	001
第390図1	3区	SX005	国産磁器	染付紅轆口	肥前系	7.2	3.4	2.4	-	帯草文	1820~1860	003
第390図2	3区	SX005	国産磁器	染付小皿	肥前系	(14.8)	4.4	(9.0)	-	蛇の目型堂高台 梅花 蓮花・よろひ藤文 焼継文字有「国本瓦」	1840~1860	010
第390図3	3区	SX005	国産磁器	染付小杯	肥前系	5.2	2.9	1.5	-	若松文	18c後半	004
第390図4	3区	SX005	国産磁器	染付小碗	肥前系	(92)	4.6	(3.9)	-	横反碗	1820~1860	001
第390図5	3区	SX005	国産磁器	染付碗	瀬戸美濃	(6.9)	5.8	(3.9)	-	筒型碗	19c前半~	002
第390図6	3区	SX005	国産磁器	水注か	瀬戸美濃	2.1+α	-	-	-	注口のみ		005
第390図7	3区	SX005	国産陶器	小皿	福岡系	12.0	4.2	5.4	-	上野・高取 見込み胎土目	18c後半~19c初頭	008
第390図8	3区	SX005	国産陶器	瓶	肥前系	-	10.8+α	(5.5)	-	鉄釉 片耳		007
第390図9	3区	SX005	国産陶器	徳利	備前	-	17.7+α	7.2	-	人形徳利 刷印有	19c中頃	008
第390図10	3区	SX005	土師質土器	横楕	在地か	(21.8)	2.7	(20.6)	-	平唐		009
第390図12	3区	SX005裏込	国産磁器	染付小碗	肥前系	9.4	5.3	3.7	-	横反碗 格子文 二次被熱	1820~1860	001
第390図13	3区	SX005裏込	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.4)	4.8+α	-	-	横反碗 二次被熱	1820~1860	002
第390図14	3区	SX005裏込	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.2)	5.7	(6.0)	-	広東製 見込み目楕	1780~1810	003
第390図15	3区	SX005裏込	国産磁器	染付香炉	肥前系	10.6	7.2	5.8	-	縁部染付木目太鼓文香炉 見込に肥前	18c前半~中頃	004
第390図16	3区	SX005裏込	国産陶器	小碗	肥前系	(5.3)	3.3	(2.4)	-			005
第390図17	3区	SX005裏込	国産陶器	火入	肥前系	(9.8)	5.0+α	-	-			006
第390図18	3区	SX005裏込	土製品	土餅		5.1	2.7	1.1	-	ほぼ完整		007
第390図20	3区	SX005+S301 0-S179	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.4)	6.2	(4.4)	-	横反碗 格子文	1820~1860	001
第390図21	3区	SX010	国産磁器	染付碗	肥前系	10.5	6.0	4.3	-	横反碗 縁部有 花唐草文 花形 二次被熱	1820~1860	001

第 67 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 22

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分類	時期	H番号
						口徑・ 最大長	最大 幅	高さ・ 最大深	片厚・ 最大厚				
第390図22	3区	SX10	国産磁器	染付小瓶	肥前系	(1.6)	7.6	2.9	-	星梅文 ほぼ球形	19c代		003
第390図23	3区	SX10	国産磁器	黄磁瓶	肥前系	(9.2)	3.8+0	-	-	二次被熱	18c後半～19c中頃		004
第390図24	3区	SX10	国産陶器	小碗	関西系	8.4	4.2	2.8	-	横反型 裏入あり	18c前半～19c前半		006
第390図25	3区	SX10	国産陶器	火入	肥前系	8.3	7.0	8.4	-	墨書有 口縁部磨削け			007
第391図1	3区	SX10	国産陶器	急須	関西系	(7.2)	9.5	7.0	-	色絵 底部落書有 二次被熱	19c代		008
第391図2	3区	SX10	国産陶器	燗鉢	肥前系	(17.4)	9.5+0	-	-		18c後半～19c中頃		005
第391図3	3区	SX10	瓦質土器	煤炉か	-	12.0+0	(16.0)	-	-	円筒型			011
第391図4	3区	SX10	土師質土器	焙烙	(35.0)	5.4+0	-	-	-	口縁のみ	19c前半～中頃		010
第391図5	3区	SX10	土師質土器	焙烙	-	5.4+0	-	-	-	口縁のみ 底面スリ付着	18c前半～中頃		009
第391図7	3区	SX10+5059 +5187	国産陶器	水甕	瀬戸黄瀬	(29.2)	20.0	(14.0)	-	内面煤付着 火跡か			001
第391図8	3区	SX10+5062 +5502+SD40 0	国産磁器	染付皿	肥前系	-	2.8+0	8.4	-	有田 點文	1780～19c初期		001
第391図9	3区	SX10+5819	国産磁器	染付鉢	肥前系	(14.6)	8.6	8.3	-	口縁部八角 外側面瓦文 二次被熱	19c代		001
第392図1	3区	SX025	国産磁器	染付小皿	肥前系	(12.2)	2.3	(7.8)	-	蛇の目凹型高台 輪花 梅花文	19c前半～中頃		001
第392図2	3区	SX025	国産磁器	染付壺	肥前系	(9.4)	2.9	-	-	横反碗蓋 象文 二次被熱	1820～1860		002
第392図3	3区	SX025	国産磁器	染付壺	肥前系	(12.4)	2.0+0	-	-	梅鹿唐草文	19c中頃		003
第392図4	3区	SX025	国産磁器	器種不明	肥前系	-	0.7+0	-	-	染付小片 横線文字有			004
第392図5	3区	SX025	土師器	小皿	在池	(6.4)	1.3	-	-	皿心			005
第392図6	3区	SX025	土製品	瓦二ツ字模		2.7+0	2.3	0.5	-				006
第392図10	3区	SX025裏込	国産磁器	白磁紅血	肥前系	(6.2)	2.1	2.0	-	型押し成形 横刺唐草文	1850～		003
第392図11	3区	SX025裏込	国産磁器	染付碗	瀬戸黄瀬か	-	3.5+0	(3.9)	-	横反碗	1820～1860		001
第392図12	3区	SX025裏込	国産磁器	白磁小碗	肥前系	(9.1)	59.0	(4.2)	-	1/3残存			002
第392図13	3区	SX025裏込	土製品	鳩笥		6.6+0	2.5	3.5	-	ほぼ球形			004
第392図14	3区	SX170裏込	国産磁器	白磁紅血	肥前系	4.6	1.4	1.4	-	型押し成形 方形			004
第392図15	3区	SX170裏込	国産磁器	染付紅猪口	肥前系	6.4	2.2	(2.8)	-	竹葉文	19c前半～中頃		003
第392図16	3区	SX170裏込	国産磁器	染付皿	肥前系	20.8	2.8	11.5	-	雷輪文 底面目跡3箇所	18c代		005
第392図17	3区	SX170裏込	国産磁器	染付壺	肥前系	(10.6)	2.5	5.2	-	亀甲文 ほぼ球形 SX170 裏込 H002の蓋	1780～1810		006
第392図18	3区	SX170裏込	国産磁器	染付壺	肥前系	11.1	2.7+0	-	-	蓋付鉢の蓋 ほぼ球形	18c代		009
第392図19	3区	SX170裏込	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.6)	6.2	(6.4)	-	広東草 亀甲文 二次被熱	1780～1810		002
第392図20	3区	SX170裏込	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.2)	5.1+0	-	-	横反碗	1820～1860		001
第392図21	3区	SX170裏込	国産磁器	染付鉢	肥前系	-	6.5+0	-	-	有田 唐草か 二次被熱			007
第392図22	3区	SX170裏込	国産磁器	花入	肥前系	7.8	20.8	(9.2)	-	有田 藤輪木目文	18c後半～19c前半		012
第392図23	3区	SX170裏込	国産磁器	染付灰吹	肥前系	(9.2)	6.8	(4.8)	-	菊文 口縁打ち欠き 1/3残存			010
第392図24	3区	SX170裏込	国産磁器	黄磁香炉か	肥前系	-	4.0+0	(7.2)	-	体部磨 蛇の目凹型高台	18c代		011
第393図1	3区	SX170裏込	国産陶器	皿か鉢	肥前唐津系	-	5.4+0	-	-	灰胎 墨書有			018
第393図2	3区	SX170裏込	国産陶器	蓋	関西系	17.7	4.3	4.5	-	土師蓋	19c前半～		018
第393図3	3区	SX170裏込	国産陶器	碗	肥前唐津系	(11.4)	6.6	4.6	-	灰胎	1850～1890		014

第 68 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 23

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量 (cm) X J2 還元数値				備考	分類 時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径			
第393図4	3区	SX170裏込	瓦産陶器	小碗	関西系	(7.5)	5.8	4.0	-	赤・黄系系 異型 二次被熱	18c前半	013
第393図5	3区	SX170裏込	瓦産陶器	燗鉢	肥前系	-	6.8+a	-	-		18c中頃	017
第393図6	3区	SX170裏込	瓦産陶器	火入	関西系	(8.3)	7.2	8.4	-	白色釉 黄入 口縁割欠け 1/2残存		018
第393図7	3区	SX170裏込	瓦産陶器	器種不明	肥前系	2.7+a	5.8+a	0.6	-	福岡系か 角型装物の胴部	18c前後	021
第394図1	3区	SX206	瓦産磁器	染付手塩皿	肥前系	(8.1)	1.9	(4.2)	-	変形皿		007
第394図2	3区	SX206	瓦産磁器	染付皿	肥前系	(18.8)	2.8	(11.2)	-	1/2残存 人物文	18c後半	009
第394図3	3区	SX206	瓦産磁器	青磁皿	肥前系	-	4.6+a	(9.4)	-	輪花		006
第394図4	3区	SX206	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	3.4+a	(9.8)	-	2/3残存 満福 二次被熱	18c代	004
第394図5	3区	SX206	瓦産磁器	染付猪口	肥前系	-	4.2+a	5.6	-	広葉型 二次被熱	1780~1810	002
第394図6	3区	SX206	瓦産磁器	染付碗	瀬戸美濃	(9.8)	4.5	(4.2)	-	磁反碗 雲芝文	19c前半~中頃	001
第394図7	3区	SX206	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	(8.4)	7.0	(4.6)	-	銅板転写 蕃菊唐	19c後半	008
第394図8	3区	SX206	瓦産陶器	蓋	関西系か	5.8	3.1	4.2	-			010
第394図9	3区	SX206	瓦産陶器	碗	関西系	(9.4)	4.5+a	-	-	磁反型	19c前半~中頃	011
第394図10	3区	SX206器方	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	2.2+a	-	-	磁反碗		002
第394図11	3区	SX206器方	瓦産磁器	色絵碗	肥前系	(10.4)	4.3	(4.0)	-	見込み蛇の目縁割ぎ後縁 付 黄文 二次被熱	18c前半~中頃	001
第394図12	3区	SX206器方	瓦産磁器	青磁灰入	肥前系	(8.4)	6.8	(4.4)	-	1/3残存		003
第395図1	4区	SX007	瓦産磁器	染付盞	肥前系	8.4	2.5	3.2	-	花唐文	1820~1860	002
第395図2	4区	SX007	瓦産陶器	碗	関西系	(8.1)	3.7+a	-	-	横橋 イッチン掛け	19c代	003
第395図3	4区	SX007	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(10.0)	2.5+a	-	-	磁反碗 焼離儀有	1820~1860	001
第396図2	3区	SX300	瓦産磁器	青磁大皿	肥前系	32.7	7.5	18.7	-	輪花 雲電文	1650年代	001
第396図3	3区	SX300	瓦産磁器	染付盞	肥前系	(8.0)	3.5+a	-	-	口縁部潰文	17c中葉	002
第396図4	3区	SX484	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	-	4.5+a	-	-	番付鉢	18c後半~	001
第396図5	3区	SX484	瓦器	小皿		9.3	1.9	-	-	完形		002
第396図6	3区	SX484	土製品	土鉢		3.5+a	0.9	0.8	-			003
第397図1	3区	S001	瓦産陶器	皿	萩か	11.5	1.1	6.9	-	指子文 布目儀 二次被熱 完形		001
第397図3	3区	S006	瓦産磁器	青磁 皿×鉢	肥前系	-	2.6+a	(8.8)	-	蛇の目型出雲台 焼離文字 有	18c後半~	001
第397図4	3区	S006	瓦産陶器	碗	萩	(7.8)	4.1	3.6	-	内面反輪 外面鉄輪		002
第397図5	3区	S006	土製品	ミニチュア壺		3.7	1.5	0.4	-	完形		003
第397図8	3区	S009	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	2.0+a	8.0	-	蛇の目型出雲台 焼離文字 有「上ノ〜」	18c後半~19c前半	001
第397図9	3区	S013	瓦産磁器	白磁皿	肥前系	8.2	2.4	3.7	-	角皿 型押し成形 焼離文字 有「神田上町」		001
第397図10	3区	S013	瓦産磁器	染付 天目台 か	肥前系	(4.0)	5.5	2.2	-	ほぼ完形		002
第397図11	3区	S013	瓦産磁器	色絵 器種不 明		-	3.7	-	-	内面垂書有		003
第397図12	3区	S013	瓦質土器	火鉢		23.2	4.2+a	-	-	銅製耳環付 二次被熱		004
第398図7	3区	S015	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	1.5+a	6.0	-	湯部のみ 山水文 二次被 熱	1630~1640	001
第398図8	3区	S015	瓦産磁器	染付盞	肥前系	(7.0)	2.3	-	-	変形あり	18c後半か	002
第398図9	3区	S016	瓦産磁器	染付徳利	肥前系	1.4	9.0	3.3	-	神酒徳利 若松 竹葉文	18c後半	001

第 69 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 24

図録番号	調査区	遺構番号	種別	群種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大長	最大 幅	底径・ 最大深	片厚・ 最大厚				
第399図10	3区	5016	国産磁器	色絵掛花入	瀬戸美濃	18.7	8.7	0.8	-	高型			002
第399図11	3区	5016	国産陶器	鉢	鳥樺 石見焼か	37.1	14.4	18.5	-	蛇の目輪割ぎ	1903~		007
第399図12	3区	5016	瓦質土器	椀木鉢	産地不明	10.6	7.5	6.6	-	2/3残存			004
第399図13	3区	5016	土師質土器	厨台	関西系	22.6	5.7	15.9	-	スス付着 胎土練り込み 京都深草か			003
第399図1	3区	5018	国産磁器	染付皿	肥前系	10.0	2.4	5.8	-	横書裏 焼継文字「神矢」 か 二次被熱	1780~1860		003
第399図2	3区	5018	国産磁器	染付小坪	肥前系	6.4	4.2	3.0	-	山水文 焼継文字「神矢」	19c前半~中頃		001
第399図3	3区	5018	国産磁器	色絵紅猪口	肥前系	8.5	4.1	2.8	-	赤字で「大塚~吾妻紅」	19c~		002
第399図4	3区	5018	国産磁器	青磁香炉	肥前系	8.1	4.0	3.0	-	内面書「ニス」	19c中頃~後半		004
第399図5	3区	5018	国産磁器	染付ミニチュア急須	瀬戸美濃か	1.5	3.1	4.1	-	コバルト 顔料	明治以降		005
第399図6	3区	5018	国産陶器	変形皿	関西系	19.0	2.1	13.5	-	黒平焼			006
第399図7	3区	5018	中国陶器	急須	中国	4.8	4.3	4.8	-	宜興窯 透彫墨書有 刻印 「貴苑」			007
第399図8	3区	5018	土師質土器	皿蓋		13.5	2.4	-	-	瓦形			009
第399図9	3区	5018	土師質土器	琺瑯伊		(17.8)	8.5	-	-	外面彫刻文字有「麗~」			008
第399図10	3区	5018	土製品	ミニチュア茶 番	京焼	1.2	2.0	1.1	-	緑釉 瓦形			010
第399図11	3区	5018	土製品	鳩蓋		4.4+α	3.2	1.1	-				011
第399図14	3区	5020	国産磁器	合子蓋	肥前系	5.0	1.4	-	-	輪花 菊花文 3/4残存			002
第399図15	3区	5020	国産磁器	染付数蓮華	肥前系	4.3+α	2.5+α	3.8+α	-	江戸後期			003
第399図16	3区	5020	国産陶器	椀木鉢	瀬戸美濃	-	5.0+α	16.5	-	内書「組ユツ」 切高台			004
第399図19	3区	5024	国産磁器	青磁皿	肥前系	(19.4)	3.6	(13.6)	-	長蓋			001
第399図20	3区	5024	国産磁器	染付数蓮華	肥前系	7.0+α	4.8	3.2	-		江戸後期		002
第399図21	3区	5024	土製品	玩具か		2.4	2.6	0.6	-	橙 二次被熱			003
第399図22	3区	5028	国産陶器	器種不明	関西系	-	4.2+α	-	-	花文有 磁障か			001
第400図1	3区	5029	国産陶器	急須	九州産	(8.2)	5.6	3.7	-	透彫糸切り			002
第400図2	3区	5029	国産陶器	香炉か	関西系	-	1.7+α	6.4	-	ミニチュアか 緑釉			003
第400図3	3区	5031	国産陶器	蓋	関西系	6.9	2.4	-	-	土瓶蓋			001
第400図5	3区	5034	国産磁器	瑠璃釉香炉	瀬戸か	9.3	8.0	7.0	-	内面墨書有「ノ」	明治~		001
第400図6	3区	5034	国産陶器	鉢	鳥樺	23.2	11.3	12.7	-	高台刻印有「石見焼~製」			002
第401図1	3区	5037	国産磁器	小碗	瀬戸美濃か	(7.8)	3.1	2.5	-	金彩で彫			001
第401図2	3区	5037	輸入磁器	小碗	オランダか	(8.4)	2.4+α	-	-	銅板転写 西洋人物文	19c後半		002
第401図3	3区	5037	国産陶器	壺	肥前系	45.6	56.8	18.6	-	胴部波状文 ぼぼ瓦形	18c代		003
第401図5	3区	5048	国産陶器	蓋	関西系	1.4	2.5	3.9	-	5048 F001の蓋			002
第401図6	3区	5048	国産陶器	醬油蓋か	関西系	4.0	7.9	5.2	-	緑釉 鉄輪			001
第401図7	3区	5048	土師質土器	焙烙		36.4	7.2	-	-	口縁部注口型			004
第401図8	3区	5048	土師質土器	七輪か		15.6	11.0	16.7	-	スス付着			003
第401図9	3区	5054	中国磁器	青磁碗	同安窯系	-	3.1+α	-	-	口縁部片	12c中頃~13c前半		001
第401図11	3区	5058	国産陶器	皿	産地不明	-	4.5+α	-	-	二次被熱			002

第70表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 25

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2値元数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径				
第401図12	3区	S068	瓦産陶器	小碗	關西系	9.8	5.5	3.2	-	色絵 梅樹文	18c中頃～後半		001
第401図13	3区	S069	瓦産磁器	染付皿	肥前系 (16.4)	4.4	8.4	-	-	柿の目型窓高台 横唐草文	1740～1770		002
第401図14	3区	S059	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	8.2	4.2	(3.2)	-	丸絵 梅樹文	18c中頃		001
第401図15	3区	S061	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	3.1+α	3.4	-	底部のみ 横唐文字有			001
第402図2	3区	S066	瓦産陶器	燗突か		18.8	9.0	0.8	-	縁刻有「クヤマスト～」			001
第402図3	3区	S067	瓦産陶器	燗壺	肥前系	-	5.2+α	5.3	-				001
第402図4	3区	S069	瓦産磁器	染付高台	肥前系	4.8	9.3+α	5.0	-	S018,SK172,S709と接合	江戸後期		002
第402図5	3区	S069	瓦産磁器	皿	關西系	12.5	5.3	5.4	-	八角 見込み目跡 ぼぼ完形	18c後半～19c前半		001
第402図6	3区	S071	土製品	泥函子		1.7	1.3	0.6	-	貝			001
第403図1	3区	S072	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	13.9	3.1	5.7	-	二次被熱 亀甲に華文 初期伊万里	1630～1650		004
第403図2	3区	S072	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	3.9	8.3	-	変形皿 朱製文に梅樹	1810～1850		001
第403図3	3区	S072	瓦産磁器	染付小杯	肥前系	8.4	4.1	3.6	-	山水文 二次被熱 完形	19c代		002
第403図4	3区	S072	瓦産磁器	染付碗	肥前系 (10.1)	6.9	4.9	-	-	初期伊万里 天目碗 福字	1610～1630		003
第403図5	3区	S072	瓦産磁器	染付油壺	肥前系 (2.7)	9.3	(5.6)	-	-	1,2残存	17c後半～18c中頃		005
第403図6	3区	S072	瓦産陶器	皿	瀬戸美濃	24.0	5.0	11.9	-	折花文 ぼぼ完形	18c代		007
第403図7	3区	S072	瓦産陶器	徳利	備前	3.7	11.6	-	-	刷印有	17c代		006
第404図4	3区	S083	瓦産陶器	皿	肥前唐津系	11.7	3.4	4.4	-	谷目 網絡輪 ぼぼ完形	17c前半～中頃		001
第404図6	3区	S085	瓦質土器	火鉢		(26.4)	22.7	20.3	-	既有「長～」外面スタンプ文 渡部穿孔 楠木鉢に転用か			001
第404図7	3区	S085	土師器	皿	在産	10.6	3.7	-	-	底C 二次被熱 ぼぼ完形			002
第405図1	3区	S091	瓦産磁器	染付碗	瀬戸美濃	8.4	4.4	3.1	-	高台内文字有「文」二次被熱	明治～		001
第405図2	3区	S091	瓦産磁器	白磁染洗い	瀬戸美濃	9.8	4.4	10.0	-	渡部金書有「大久保～」二次被熱	明治～		002
第405図3	3区	S091	瓦産陶器	碗	關西系か	6.9	6.5	3.3	-	刷印有「包馬」ぼぼ完形			003
第405図4	3区	S091	瓦産陶器	茶點か	備前系	3.3+α	3.0+α	-	-	朱産陶器 點状			006
第405図5	3区	S091	瓦産陶器	蓋	肥前系か	7.8	2.7	1.7	-	S091 R004の蓋 二次被熱			005
第405図6	3区	S091	瓦産陶器	急須	産地不明	(9.0)	9.8	(8.2)	-	スタンプ文 委書有「女」二次被熱			004
第405図7	3区	S094	土製品	泥函子		1.7	1.2	0.6	-	質壁			001
第405図8	3区	S101	瓦産陶器	蓋	備前	(11.0)	2.9	4.4	-	S101 R001の蓋	17c代か		002
第405図9	3区	S101	瓦産陶器	壺	備前	(14.0)	12.0	-	-		17c代か		001
第405図10	3区	S102	瓦産陶器	碗	萩	(9.4)	5.3	3.5	-	灰胎 網絡輪			001
第405図11	3区	S103	絲輪陶器	碗		-	2.3+α	4.1	-	底部のみ			001
第405図12	3区	S104	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	1.2+α	-	-	横唐文字有「清之介様」			001
第405図16	3区	S116	瓦産磁器	色繪小坪	瀬戸美濃か	-	1.8+α	2.3	-	内面に大分か			001
第405図17	3区	S117	瓦産磁器	蓋		(6.3)	1.8	(6.8)	-	「福澤衛生齋磨石鉢」化学法産 二次被熱	1888～		001
第405図19	3区	S118	土師質土器	七輪か		22.5	17.8	13.8	-	雲文			001
第406図1	3区	S123	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	2.5+α	8.0	-	松竹梅文 有田	18前半		001
第406図2	3区	S124	瓦産陶器	蓋	肥前系	8.4	3.6	4.0	-	ぼぼ完形	17c代		001

第71表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 26

図録番号	調査区	遺構番号	種類	群種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・最大径	最大幅	底径・最大深	片厚・最大厚				
第406図3	3区	S151	瓦産陶器	鉢	肥前系	(19.2)	5.2	(12.0)	-	福岡か	18c代		001
第406図5	3区	S153	瓦産陶器	向付	肥前系	(13.6)	5.3	4.2	-	綾津津 厚付高台	17c前半		001
第406図7	3区	S161	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	10.3	2.4	5.8	-	焼継文字有「〜神堂玉座」			001
第406図8	3区	S161	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	(16.6)	16.6	8.3	-	焼継文字有	18c後半～19c前半		002
第406図9	3区	S161	土製品	三二ユ字環伊		4.6	3.6	3.0	-	漆書有 底彫刻印有「高崎山」			004
第406図10	3区	S161	土製品	人形		5.1	2.0	-	-	恵比寿			003
第406図12	3区	S162	瓦産磁器	色絵小碗	肥前系	(9.7)	4.2	-	-		17c後半～18c前半		
第406図13	3区	S162	土製品	陶磁道具	関西系	2.9	1.9	1.5	-	京焼 冨 完形			002
第406図14	3区	S165	瓦産磁器	染付手塩皿	肥前系	(8.7)	1.7	(5.5)	-	吉祥文 1/2残存	18c前半		003
第406図15	3区	S165	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(8.7)	5.7	(3.1)	-	丸絵 星梅文 1/2残存 二次被熱	1780～1810		001
第406図16	3区	S165	瓦産磁器	染付樋口	肥前系	-	5.1+α	(6.2)	-	杓の目印型高台 連弁 丸文 1/2残存	18c後半		002
第406図17	3区	S165	瓦産陶器	火入	備前	11.4	6.5	11.9	-	完形	18c前半		004
第406図19	3区	S167	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	1.5+α	3.2	-	横瀬唐草文 焼継文字有	18c後半～19c前半		001
第406図20	3区	S169	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	(8.6)	3.4	3.5	-	番付鉢 丸文 焼継文字有	18c後半		001
第406図22	3区	S173	瓦産磁器	染付碗	肥前系	10.1	5.1	4.2	-	完形 花唐草文	18c前半～中頃		001
第406図23	3区	S173	瓦産磁器	染付碗	肥前系か	(9.8)	4.6	(4.0)	-	横反型 二次被熱			002
第406図24	3区	S173	土製品	人形		4.9	5.7	-	-	横 黄緑絵 京焼			003
第406図26	3区	S177	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	(11.6)	6.2	(6.3)	-	窓文 焼継文字有	18c代		001
第406図27	3区	S177	土師質土器	罌	信濃か	-	6.7+α	-	-	白色塗彩			002
第407図1	3区	S179	瓦産磁器	染付小坪	肥前系	(8.4)	4.5	3.4	-	跡文			002
第407図2	3区	S179	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(11.3)	6.5	4.4	-	横反碗 梅子文 焼継文字「下一横作」			001
第407図3	3区	S179	瓦産磁器	黄磁碗	肥前系	(14.4)	7.4+α	-	-	高台欠損			005
第407図4	3区	S179	瓦産磁器	染付書伊	肥前系	(10.6)	7.4	5.6	-	横軸染付栴太鼓文	18c前半～中頃		003
第407図5	3区	S179	瓦産磁器	染付蓋	肥前系	3.5	3.8	0.8	-	合子蓋 完形			004
第407図6	3区	S179	瓦産陶器	皿	瀬戸黄瀬	7.2	1.9	2.8	-	横皿	18c代か		010
第407図7	3区	S179	瓦産陶器	水甕	瀬戸黄瀬	(30.2)	16.4	(17.8)	-		19c中頃		006
第407図8	3区	S179	瓦産陶器	徳利	肥前系か	-	7.8+α	8.9	-				009
第407図9	3区	S179	瓦産陶器	瓶(花入丸)	肥前系	3.9	13.6	4.6	-	頸部～口縁部鉄軸 胴部鉄軸			006
第407図10	3区	S179	瓦産陶器	土鍋	関西系	17.0	7.7	7.0	-	ほぼ完形			007
第407図11	3区	S179	土製品	土鍋		5.6	4.2	1.4	-	ほぼ完形			012
第407図12	3区	S179	土製品	釜面子		1.8	-	0.5	-	ほぼ完形			011
第407図16	3区	S183	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	20+α	(6.6)	-	番付砂付唐 初瀬伊乃重 控蓋	17c前半～中頃		002
第407図17	3区	S183	瓦産磁器	染付皿	肥前系	(28.6)	5.3	18.6	-	梅文 焼継文字「伴西原太夫」	18c代		001
第407図18	3区	S183	中国磁器	色絵碗	景德鎮系	-	3.2+α	-	-	被熱 焼継痕有	18c後半～19c前半		004
第407図19	3区	S183	瓦産磁器	黄磁鉢子	肥前系	-	90.3+α	-	-				003
第408図2	3区	S189	瓦産磁器	染付皿	肥前系	24.7	5.4	14.0	-	獅子と牡丹 高台内「富貴長寿」	18c後半		001

第72表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 27

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2値充数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	容積 最大径				
第408図3	3区	S189	瓦産陶器	小碗	關西系	9.6	4.2	3.6	-	鳩反型 口縁部縁起	18c後半		002
第408図4	3区	S189	瓦産陶器	碗	關西系	12.1	7.6	5.3	-	京焼 刷印「新白」	19c代		003
第408図5	3区	S189	土製品	人形		3.5	1.4	-	-	天神 京焼 縁起			004
第408図6	3区	S191	瓦産磁器	色絵小坪	産地不明	5.6	2.6	2.4	-	大分県産	19c~		001
第408図8	3区	S194	瓦産陶器	徳利	備前	3.7	8.6+a	-	-	角徳利	19c中頃~後半		001
第408図9	3区	S196	瓦産陶器	徳利	肥前系か	(3.2)	17.2	6.0	-	浜須輪 底部墨書有			001
第408図10	3区	S196	瓦質土器	甕		36.5	3.5	27.1	-	2/3残存			003
第408図11	3区	S196	土師質土器	桶木鉢		(16.4)	8.6	5.2	-	貼付文 1/2残存			002
第409図1	3区	S197	瓦産陶器	向付	志野	(17.6)	3.7	8.2	-	鉄絵			001
第409図3	3区	S200	瓦産陶器	小皿	肥前系	(8.6)	2.3	3.2	-	見込み、裏付に砂目痕	1610~1650		001
第409図4	3区	S200	瓦産陶器	楕鉢	瀬戸	-	6.7+a	-	-	口縁部鉄絵			002
第409図5	3区	S202	瓦産陶器	皿	備前	(20.0)	3.2	(12.8)	-	1/2残存	17c代か		001
第409図6	3区	S204	瓦産陶器	鉢か	瀬戸美濃か	18.0	2.9	(7.8)	-				001
第409図7	3区	S205	瓦産磁器	染付ニチュア碗	肥前系	(2.4)	1.3	(1.1)	-	水銀文 1/3残存			001
第409図8	3区	S207	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	(17.9)	10.5	9.5	-	八角か 割に梅樹文	18c後半~19c中頃		001
第409図9	3区	S207	瓦産陶器	香炉	關西系か	8.6	6.8	6.3	-	縁部染付流し、ほぼ完形			002
第409図10	3区	S207	土師質土器	燃伊		6.5+a	6.5+a	-	-	刷印有「基右衛門」			003
第409図12	3区	S209	瓦産磁器	青磁鉢	肥前系	(19.2)	7.5	6.2	-	青磁染付 鳥草文	17c後半か		002
第409図13	3区	S209	土製品	人形		4.7+a	3.8	1.2	-	亀 顔部細部欠損			001
第409図14	3区	S210	土製品	ニチュア甕		3.3	1.8	1.9	-	透明釉 3/4残存			001
第410図1	3区	S213	瓦産磁器	青磁花生	肥前系	(10.8)	4.2+a	-	-	胴部傷	18c後半か		001
第410図3	3区	S214	瓦質土器	燃伊		-	7.4+a	-	-	スタンブ 桜紋			001
第410図4	3区	S217	瓦産磁器	色絵碗	肥前系	8.7	3.9	2.8	-	1/3残存 唐草文 二次焼結	18c前半~中頃		001
第411図1	3区	S218	瓦産磁器	染付皿	肥前系	8.6	3.1	5.2	-	梅花 岩波文 ほぼ完形	18c後半~19c中頃		006
第411図2	3区	S218	瓦産磁器	小碗	肥前系か	7.2	5.6	3.1	-	白色釉			008
第411図3	3区	S218	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	6.8	2.9	2.1	-	紅葉文	18c後半~		005
第411図4	3区	S218	瓦産磁器	染付壺	肥前系	9.9	2.8	-	-	種子 二次焼結	18c後半		004
第411図5	3区	S218	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(6.6)	5.0	3.1	-	蓮散碗 丸文	18c後半~		003
第411図6	3区	S218	瓦産磁器	染付小碗	瀬戸美濃	(9.4)	4.2+a	-	-	瓊反碗 山水文	19c前半~中頃		001
第411図7	3区	S218	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(11.0)	5.2+a	-	-	瓊反碗 唐子	1820~1860		002
第411図8	3区	S218	瓦産磁器	青磁瓶	肥前系	(5.2)	6.6+a	-	-	胴部傷	18c中頃		007
第411図9	3区	S218	瓦産磁器	染付瓶	肥前系	(4.4)	27.5	8.0	-	透色瓦 青磁徳利 裏付付着跡	19c代		025
第411図10	3区	S218	瓦産陶器	甕	瀬戸美濃	(8.9)	1.6+a	-	-	口縁部のみ			009
第411図11	3区	S218	瓦産陶器	行平鉢	關西系	(11.2)	6.3	4.8	-	飛び彫	18c後半~		010
第411図12	3区	S218	土製品	鳩笛		6.5	2.7	3.5	-	完形			012
第411図13	3区	S218	土製品	人形		3.7	6.2	3.9	-	希産 完形			011

第73表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 28

図録番号	調査区	遺構番号	種別	群種	産地	法量(cm)		Hは復元数値		備考	分類	時期	H番号
						口径・最大長	底径・最大幅	口径・最大深	H径・最大深				
第411図14	3区	S216	土製品	泥面子		1.6	1.4	0.7	-	人面			013
第411図15	3区	S216	土製品	泥面子		2.3	0.9	0.7	-	鹿か			014
第411図16	3区	S216	土製品	泥面子		1.2	1.8	0.5	-	草蓋			015
第411図17	3区	S216	土製品	泥面子		1.2	1.8	0.8	-	蟹			016
第411図18	3区	S216	土製品	泥面子		1.3	1.4	0.5	-	花			017
第411図19	3区	S218	土製品	泥面子		1.3	1.7	0.5	-	鹿			018
第411図20	3区	S218	土製品	泥面子		1.8	1.5	0.8	-	葉			019
第411図21	3区	S218	土製品	泥面子		1.8	1.8	0.5	-	不明 円形中央へこみ			020
第411図22	3区	S218	土製品	泥面子		1.4	1.6	0.6	-	不明			021
第411図23	3区	S218	土製品	泥面子		1.9+a	1.3+a	0.6	-	不明			022
第411図24	3区	S218	土製品	泥面子		1.7	1.8	0.7	-	不明			023
第411図25	3区	S218	土製品	泥面子		1.7	1.3	0.5	-	不明			024
第411図26	3区	S219	国産磁器	染付徳利	京焼	2.8	16.4	5.4	-	「新山精製」ぼぼ宛形	19c後半		001
第411図27	3区	S219	国産磁器	色絵蓋	瀬戸美濃か	4.9	2.6	3.2	-	S219 P002の蓋 宛形			003
第411図28	3区	S219	国産磁器	色絵急須	瀬戸美濃か	4.2	6.9	4.5	-	銅版転写	明治中頃		002
第412図1	3区	S220	土製品	泥面子		1.8	1.5	0.4	-	小判 宛形			001
第412図2	3区	S221	国産磁器	染付皿	肥前系	6.9	1.3	6.5	-	鶴文	19c~		001
第412図3	3区	S233	国産陶器	壺	肥前系	-	6.1+a	4.2	-	福岡系か			001
第412図4	3区	S235	国産陶器	鳴屋道具	瀬戸か	3.7	3.6	2.8	-	堂 透明釉 緑色釉			001
第412図5	3区	S240	国産磁器	色絵瓶か	肥前系	-	4.5+a	6.4	-	明日文 底部墨書有			001
第412図6	3区	S240	国産磁器	戸草	産地不明	2.9+a	4.8	0.9	-	墨書有			002
第412図8	3区	S248	国産磁器	色絵碗	産地不明	8.8	4.1	3.4	-	赤絵で網目 真鍮で「大分始精製」	明治中頃~		002
第412図9	3区	S248	国産磁器	染付鉢	瀬戸美濃	15.2	5.7	7.9	-	空経開り 墨書有「女学卒」	明治中頃~		001
第412図10	3区	S248	国産磁器	タイル	産地不明	3.0	1.9	0.7	-	裏面刷印有			003
第412図11	3区	S248	国産磁器	タイル	産地不明	3.6	3.0	0.9	-	裏面刷印有			004
第412図13	3区	S251	国産陶器	皿	志野	(9.4)	1.8	(5.0)	-		16c末		001
第412図14	3区	S252	国産陶器	向付	志野	-	2.2+a	(13.0)	-	絵文字 脚付	16c末		001
第412図15	3区	S254	国産陶器	碗	瀬戸美濃	(9.7)	7.1	3.9	-	天目 鉄軸	17c代		001
第412図16	3区	S256	土師質土器	焼塩壺		-	3.5+a	-	-	刷印有「象~」			001
第412図17	3区	S257	国産陶器	皿	福岡	(22.8)	4.7	(7.2)	-	上野・高取系	17c前半		001
第412図18	3区	S262	青磁	碗	龍泉窯系	(11.7)	6.2	(5.4)	-	蓮弁文 1/4残存	14c末~15c中頃		002
第412図19	3区	S262	国産磁器	鉢	関西系	(12.2)	4.9	(10.8)	-	緑釉	明治以降		001
第412図20	3区	S262	土製品	泥面子		1.9	1.5	0.5	-				004
第412図22	3区	S264	国産磁器	染付皿	肥前系	14.0	3.6	8.0	-	梅花皿 緑唐草・山水文 蛇の目田型高台 鉄軸有	19c中頃~		001
第412図23	3区	S264	中国磁器	色絵小坪	景德鎮窯系	6.1	4.2	2.3	-	「春鹿不祝堂」			002
第413図1	3区	S269	国産陶器	椀木鉢	備前	(12.6)	9.0	7.8	-				001

第74表 3・4区 土器・陶磁器類観察表29

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2還元数値				備考	分類	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径				
第413図4	3区	S274	中国磁器	皿	漳州窯系	-	2.8+a	(14.0)	-	-	-	-	001
第413図5	3区	S275	国産磁器	染付碗	肥前系	-	3.5+a	-	-	丸脚 口縁部片	18c後半～19c前半	-	001
第413図8	3区	S279	国産磁器	白磁皿	肥前系	-	3.2+a	4.6	-	粘土目	17c前半	-	001
第413図9	3区	S282	土製品	ミニチュア碗	(2.8)	1.1	0.8	-	-	口縁部縁跡	-	-	001
第413図10	3区	S289	国産磁器	染付鉢	肥前系	(3.4)	4.9	(4.8)	-	蓋付鉢 1/2残存	19c代	-	001
第413図11	3区	S289	国産陶器	角瓶	備前	(7.3)	10.0+a	7.3	-	-	19c中頃～後半	-	002
第413図12	3区	S291	国産磁器	染付小皿	肥前系	(14.3)	3.1	5.3	-	初瀬伊万里 蝶文 二次被熱か	1620～1640	-	001
第413図13	3区	S291	国産陶器	碗	肥前系	12.0	10.7	5.7	-	白磁毛目 3/4残存	17c中頃～後半	-	002
第414図1	3区	S291	国産陶器	鉢	肥前系	(26.9)	9.0	11.0	-	白磁毛目 莫込砂目	17c後半～18c前半	-	003
第414図4	3区	S296	国産磁器	染付小碗	肥前系	(3.7)	6.1	3.9	-	福友型 福寿字 二次被熱	19c代か	-	001
第414図5	3区	S296	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.8)	6.0+a	-	-	初瀬伊万里 福寿字	1630～1650	-	002
第414図6	3区	S297	国産磁器	碗	産地不明	(8.0)	8.1	(3.8)	-	遺跡み碗 「1958祝成人 大分市教育～」	-	-	001
第414図7	3区	S297	国産磁器	灰皿	産地不明	-	4.8+a	-	-	バヤノス	1960～	-	002
第414図10	3区	S302	国産陶器	碗	関西系	(8.8)	6.2	5.8	-	筒型 腰形縁跡 色絵管文	18c代	-	002
第414図11	3区	S302	土製品	箱庭道具		4.8	3.2	1.9	-	石調 ほぼ方形	-	-	003
第414図12	3区	S307	国産陶器	鉢	肥前系	-	7.9+a	5.7	-	器蓋有	-	-	001
第414図14	3区	S312	国産陶器	瓶	産地不明	-	9.6+a	-	-	頸輪絵山水文取瓶	18c後半～19c	-	001
第414図15	3区	S317	国産陶器	向付	関西系	(4.8)	7.4	(9.0)	-	軟質施釉陶器 絵巻 體	17c前半	-	001
第414図16	3区	S318	国産陶器	急須	関西系か	6.7	7.2	7.3	-	-	-	-	001
第414図18	3区	S323	国産陶器	碗	瀬戸奥濃	(10.7)	5.9+a	-	-	腰折碗	18c中頃～	-	002
第414図19	3区	S323	国産陶器	壺か	肥前系	(9.3)	7.8+a	-	-	鉄施	-	-	001
第415図1	3区	S324	国産陶器	火入	肥前系	(11.9)	7.5	7.2	-	銅毛目	17c後半	-	001
第415図2	3区	S326	国産陶器	小碗	肥前系か	(6.4)	4.5	3.4	-	遺跡み碗	-	-	001
第415図3	3区	S329	土製品	人形		2.3	2.4	2.4	-	顔部のみ	-	-	001
第415図4	3区	S329	土製品	泥面子		1.4	1.4	0.6	-	-	-	-	002
第415図5	3区	S336	国産陶器	皿	肥前系	14.6	3.8	4.2	-	砂目 内野山窯	1650～1690	-	001
第415図8	3区	S336	国産陶器	皿	肥前系	4.2	1.3	-	-	茶入量か 寛形	-	-	002
第415図7	3区	S341	国産磁器	染付香炉	肥前系	6.6	4.5	2.9	-	-	18c代	-	001
第415図8	3区	S341	土師質土器	燗台		8.4	6.4	7.1	-	燗台A3	-	-	002
第415図11	3区	S346	瓦質土器	火鉢		(15.8)	7.2	(14.4)	-	浅型火鉢B	-	-	001
第415図12	3区	S348	国産磁器	瑠璃釉碗	肥前系	(9.6)	6.3	(4.6)	-	輪花	-	-	002
第415図13	3区	S348	土製品	泥面子		1.8	1.4	0.7	-	-	-	-	001
第415図14	3区	S352	国産磁器	色絵水漬か		4.2+a	4.1+a	3.3	-	肥前系	-	-	001
第415図16	3区	S359	国産陶器	皿	関西系	4.5	1.1	-	-	透かし有 京都深草か	-	-	001
第415図17	3区	S383	国産磁器	白磁皿	肥前系	1.2+a	2.9	7.3+a	-	変形皿 口紅	-	-	001
第415図18	3区	S383	瓦質土器	火鉢		(28.2)	10.0+a	-	-	外蓋夕ハケ目	-	-	002

第75表 3・4区 土器・陶磁器類観察表30

図録番号	調査区	遺構番号	種別	群種	産地	法量(cm)		H(単位数)		備考	分類	時期	H番号
						口径/最大長	最大幅	口径/最大深	口径/最大高				
第416図1	3区	S426	瓦産磁器	染付紅皿	肥前系	6.4	3.7	3.2	-	「大塚新町古荘荘」	16c後半		002
第416図2	3区	S426	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(9.2)	3.1	(2.8)	-		1780~1820		003
第416図3	3区	S426	瓦産磁器	染付碗	肥前系	10.0	5.9	(5.7)	-	広葉網 硝子に黒文 二次被熱	1780~1810		001
第416図4	3区	S426	瓦産陶器	紅猪口	瀬戸美濃	(5.1)	3.3	2.8	-		16c前半		004
第416図5	3区	S426	土師器	小皿		(8.2)	0.9	3.2	-	透明釉 底部回転系切り離し	16c代		005
第416図7	3区	S443	土師質土器	輪郭口		8.7	5.9	2.3+a	-	黒変			001
第416図9	3区	S454	瓦産陶器	碗	肥前系	(11.2)	6.5	4.7	-	天目 反軸 皮紐	1610~1650		001
第416図10	3区	S454	瓦産陶器	壺	肥前系	(15.2)	27.2	15.8	-	網線跡 二次被熱	17後半か		002
第416図11	3区	S483	瓦産磁器	染付壺	肥前系	(5.4)	1.0	-	-	合子蓋「蓋辺～」			001
第416図13	3区	S476	瓦産陶器	徳利	瀬戸か	6.3	3.8	-	-	透明釉			001
第416図14	3区	S477	瓦産陶器	灰入	関西系	8.1	7.1	8.2	-	口縁線跡 墨書有			001
第416図15	3区	S477	土師質土器	横壺垂		4.7	8.4	3.8	-				002
第416図16	3区	S477	土製品	人形		2.9	1.3	1.0	-	虚無僧			003
第417図1	3区	S488	瓦産陶器	碗	肥前系	12.4	4.9	4.2	-	黒毛目	17c中頃~後半		001
第417図4	3区	S503	瓦産磁器	染付仏飯器	肥前系	7.7	5.1	3.8	-		16c代		001
第417図5	3区	S503	瓦産陶器	碗	肥前系	(10.0)	6.7	4.5	-	京焼風	17c後半~18c前半		002
第417図6	3区	S506	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	1.1+a	-	-	初瀬伊万里 磨粒線着			001
第418図1	3区	S512	白磁	碗	中国	(15.6)	4.6+a	-	-	V型	12c		001
第418図2	3区	S512	瓦器	小皿		8.8	1.7	3.4	-		12c~13c		011
第418図3	3区	S512	瓦器	碗		-	1.4+a	3.6	-	和泉型か 底跡のみ			010
第418図4	3区	S512	瓦器	碗		-	2.7+a	-	-	和泉型か 口縁のみ	12c~13c		009
第418図5	3区	S512	瓦器	碗		-	3.1+a	(8.8)	-				007
第418図6	3区	S512	黒色土器	碗		-	2.3+a	(8.8)	-	A型	16cft		008
第418図7	3区	S512	土師器	皿		-	1.8+a	-	-	皿C			002
第418図8	3区	S512	土師器	壺		-	1.5+a	-	-		9c代		004
第418図9	3区	S512	土師器	坪		-	0.9	-	-	底部回転系切り離し	13cftか		003
第418図10	3区	S512	土師器	碗		(14.6)	4.3+a	-	-				005
第418図11	3区	S512	土師器	壺		-	3.3+a	-	-	口縁跡のみ 企求型			006
第418図13	3区	S517	瓦産陶器	壺	備前か	7.2	8.2	7.0	-				001
第418図14	3区	S521	瓦産磁器	合子	肥前系	(2.1)	1.0	(1.5)	-	白磁か			001
第418図15	3区	S521	瓦産磁器	丸ニテユテ蓋 合子か	肥前系	3.8	2.2	2.4	-				002
第418図16	3区	S521	瓦産陶器	壺	肥前系	(15.4)	4.3+a	4.7	-	越前津	1594~1810		003
第418図17	3区	S522	土製品	人形		4.0+a	2.3	1.7	-	犬型			001
第419図1	4区	S002	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	22.0	6.4	10.4	-	社務文 有田 慶應亭久遠 製造所	明治44年~大正14年		001
第419図3	4区	S011	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	1.2+a	3.5	-	絵の目黒色 見込に「大明 成化年製」	1640~1650		001
第419図4	4区	S012	瓦産磁器	白磁筆洗ひ	瀬戸美濃	11.0	3.0	10.0	-	二次被熱 底面に印有「セ ト」の番号か	明治~大正		001

第76表 3・4区 土器・陶磁器類観察表31

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J22充填数値				備考	分類	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径				
第419図5	4区	S012	土製品	ままご道具		2.4	1.8	0.3	-	おろし金			002
第419図9	4区	S025	国産陶器	碗	産地不明	(9.6)	5.9+0	-	-	印花文 表か			001
第419図12	4区	S031	国産磁器	染付碗	肥前系	(8.6)	7.5	5.8	-	鉢文 焼継文字有 二次焼筋 S034と接合	1820~1880		001
第419図13	4区	S036	国産磁器	染付盃	肥前系	(8.0)	2.0	3.0	-	焼継文字有	1820~1880		001
第419図15	4区	S047	国産陶器	ミニチュアか	瀬戸美濃	3.0	2.0	0.9	-	箱型 内面輪胎花文 焼継陶器「焼237」	昭和18年~21年		001
第419図16	4区	S049	国産磁器	青磁皿	肥前系	(22.4)	5.2	(13.2)	-	焼反型 3区SK496と接合			001
第419図18	4区	S054	国産磁器	染付盃	肥前系	-	2.0+0	-	-	焼継文字 焼継文字有	1820~1880		001
第420図1	4区	S057	軟質胎陶器	磁麻胎器		23.4	10.0	4.3	-	縁部に「結摩平煎」墨書有「九月~」			001
第420図2	4区	S072	国産陶器	急須	関西系	5.1+0	2.4	-	-	取手のみ 刺印有「結摩」			001
第420図3	4区	S074	中国陶器	散蓮華	宜興系か	8.1	3.5	1.0	-				001
第420図4	4区	S088	国産磁器	染付皿	肥前系	24.0	4.0	9.0	-	山水人物文 溜みあり 初縁伊万里	1830~1850		001
第420図5	4区	S090	国産陶器	土鍋	関西系	(15.8)	5.9+0	-	-	縁部平半墨書			001
第420図6	4区	S097	国産磁器	白磁鉢鉢	肥前系	(4.0)	1.7+0	-	-				001
第420図7	4区	S106	国産磁器	染付盃	肥前系	-	2.1+0	(3.0)	-	焼継文字有「六」	1820~1880		001
第420図8	4区	S147	国産磁器	鉢胎染付盃	肥前系	(16.2)	3.8+0	-	-	窓船山水文裏付鉢の蓋 二次焼筋 3区SK206と接合	1770~1800		002
第420図9	4区	S147	国産磁器	染付猪口	肥前系	9.6	8.8	6.0	-	広東型 寒山拾得	1780年代		001
第420図10	4区	S158	国産磁器	染付碗	関西系	(8.2)	5.0	5.4	-	漳州窯写し			001
第420図11	4区	S158	瓦質土器	燈伊		-	17.0+0	22.6	-	縁部刺印(文字)有			002
第420図12	4区	S175	国産陶器	皿	肥前系	(11.2)	2.9	(4.25)	-	砂目 灰緑色釉	1610~1650		002
第420図13	4区	S175	国産陶器	皿	肥前系	-	6.2	5.4	-	結摩津 草文 墨書底	1594~1610		001
第420図14	4区	S175	国産陶器	磁鉢	肥前系	-	4.9+0	-	-	鉄釉	1620~1650		003
第420図15	4区	S175	国産陶器	器種不明	瀬戸美濃か	(8.7)	5.9+0	-	-				004
第421図1	4区	S193	国産陶器	合子	関西系	4.2	2.3	4.2	-	袋底 銘款「楽」裏合か			001
第421図3	4区	S259	国産磁器	色絵小碗	肥前系	(8.4)	5.8	3.3	-	帯・草花文	18c前半		001
第421図4	4区	S259	中国磁器	瑠璃釉碗	景德鎮東	(10.6)	5.7	(3.6)	-	口紅 焼反型 裏面文 金彩か 3区SK61F001と同柄			002
第421図5	4区	S268	国産陶器	合子	美濃	(3.4)	2.4	3.0	-	縁部 縁輪 鉄釉			001
第422図1	3区	SE355最上層	国産磁器	国産陶器	肥前系	-	3.2+0	-	-	外青磁 筒型碗	18c後半		001
第422図2	3区	SE355最上層	中国磁器	碗	景德鎮東	-	1.9+0	(4.8)	-	G群か	15c後半		002
第422図3	3区	SE355最上層	白磁	碗	中国	(16.4)	4.7+0	-	-	G群か			003
第422図4	3区	SE355最上層	国産陶器	皿	肥前唐津系	-	1.5+0	-	-	口縁削片	17c前半~中頃		004
第422図5	3区	SE355最上層	瓦器	小皿	(8.0)	1.4	-	-	-				006
第422図6	3区	SE355最上層	瓦器	碗	関西系	-	1.8+0	(6.2)	-	和東型			007
第422図7	3区	SE355最上層	瓦質土器	葉型火鉢		-	7.0+0	-	-				005
第422図8	3区	SE355最上層	須恵質土器	鉢		-	3.2+0	-	-	葉槌系			008
第422図9	3区	SE355最上層	白色研歯土器	碗		-	2.2+0	(8.2)	-	底部のみ			010
第422図10	3区	SE355最上層	土師質土器	壺		-	4.9+0	-	-	金倉型か			009

第77表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 32

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)		H(復元数値)		備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大径	高さ・ 最大径	口径・ 最大径	高さ・ 最大径				
第422図1	3区	SE355最上層	土製品	土鉢		4.8+0	1.2	-	0.6/4.75				011
第422図12	3区	SE355最上層	土製品	土鉢		7.9	6.6	-	2.3/296 54				012
第422図13	3区	SE355 1層	白磁	碗	中国	-	2.4+0	6.0	-	IV-4期			001
第422図14	3区	SE355 1層	瓦質土器	椀鉢小		-	4.0+0	-	-	府内系小			002
第422図15	3区	SE355 1層	土師器	小皿		(8.6)	1.4	(6.8)	-	小皿A 磨部回転糸切り履し			003
第422図16	3区	SE355 1層	土師質土器	鍋		-	10.8+0	-	-	鍋A 外面ス又付着			004
第422図17	3区	SE355 2層	白磁	碗	中国	(15.6)	4.9+0	-	-	豆罐			001
第422図18	3区	SE355 2層	瓦器	碗	関西系	-	4.2+0	-	-	和泉型			004
第422図19	3区	SE355 2層	土師器	皿		-	1.6+0	-	-	皿C			002
第422図20	3区	SE355 2層	土師質土器	羽釜		-	4.1+0	-	-	羽釜Aか 外面ス又付着			003
第422図21	3区	SE355 (井筒内)	瓦器	碗	関西系	(14.0)	5.0+0	-	-	和泉型			001
第422図22	3区	SE355 (溝込)	白磁	蓋	中国	-	1.5+0	-	-	口縁部片			001
第422図23	3区	SE355 (溝込)	瓦器	碗		-	1.6+0	(6.2)	-				002
第423図1	3区	SE385	中国磁器	小皿		-	0.8+0	-	-	輪蓋軸			003
第423図2	3区	SE385	面度磁器	色絵碗	肥前系	-	3.6+0	-	-	丸碗 梅花文	17c後半		002
第423図3	3区	SE385	面度磁器	碗	肥前系	(12.6)	5.0+0	-	-	丸碗 外面青磁	18c前半～中頃		001
第423図4	3区	SE385	青磁	碗	筑安系	-	2.2+0	-	-		12c		004
第423図5	3区	SE385	面度陶器	碗	肥前系	(7.2)	2.7+0	-	-	視胎			005
第423図6	3区	SE385	面度陶器	鉢	肥前系	-	6.7+0	-	-	蓋付鉢 白陶毛目	18c代		006
第423図8	3区	SE385	土師器	皿	在地	-	2.6+0	-	-	皿C 裏面・ス又付着			007
第423図9	3区	SE385	土師器	皿	在地	-	4.2	-	-	皿C 裏面			008
第423図10	3区	SE385	土師器	皿	在地	9.8	3.8	-	-	皿C			009
第423図11	3区	SE385	土製品	土鉢		4.9	1.0	1.0	-				011
第423図12	3区	SE385	土製品	不明		2.5	2.6	0.5	-	蓋子状			012
第424図1	3区	SE460	面度磁器	染付小皿	肥前系	(8.2)	2.2	(4.4)	-	型押し成形 染付皿			002
第424図2	3区	SE460	面度磁器	色絵大皿	肥前系	-	7.4+0	(21.4)	-	有田 青手 外面青瓦文・S X025と模合	1640～1650		007
第424図3	3区	SE460	面度磁器	染付小碗	肥前系	8.5	4.2+0	-	-	横反取 宝字文 S401と模合	1820～1860		001
第424図4	3区	SE460	面度磁器	染付碗	肥前系	(10.2)	4.5+0	-	-	口紅 雨降文	17c末～18c前半		002
第424図5	3区	SE460	面度磁器	青磁碗	肥前系	-	2.6+0	5.0	-	透胎のみ	17c後半～18c前半		005
第424図6	3区	SE460	面度磁器	染付鉢	肥前系	(13.2)	6.6+0	-	-	蓋付鉢	18c代		004
第424図7	3区	SE460	面度磁器	青磁鉢	肥前系	(10.2)	6.0+0	-	-	口縁部雷文	17c中頃～後半		006
第424図8	3区	SE460	面度陶器	碗	関西系	(9.0)	4.7	(3.2)	-	横反型 緑釉	18c前半～		008
第424図9	3区	SE460	面度陶器	碗	肥前系	-	3.6+0	4.6	-	陶胎染付	18c前半		010
第424図10	3区	SE460	面度陶器	碗	肥前系	-	6.5+0	5.0	-	透明釉	17c末～18c前半		009
第424図11	3区	SE460	面度陶器	椀鉢	福岡	-	5.2+0	-	-	外面黒灰釉	17c代		013
第424図12	3区	SE460	面度陶器	椀鉢	備前	-	11.5	-	-	近世3期			012

第78表 3・4区 土器・陶磁器類観察表33

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2標尺数値				備考	分類	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	丸形 率(%)				
第424図3	3区	SE460	瓦産陶器	甕	肥前系	(19.8)	6.3+0	-	-	黒灰釉			014
第424図4	3区	SE460	瓦産陶器	火入	備前	(12.2)	6.6	(11.2)	-	口縁部スチ付着			011
第424図5	3区	SE460	瓦産陶器	灯火具か	肥前系か	-	2.5+0	5.0	-				015
第424図6	3区	SE460	瓦質土器	鉢		(19.2)	4.8+0	-	-				016
第424図7	3区	SE460	土師質土器	火消壺		(16.2)	7.3+0	-	-				017
第424図8	3区	SE460	土師質土器	焼塩壺		(8.7)	4.2	6.0	-	鉢型 花塩壺	18c代		018
第424図9	3区	SE460	土製品	人形		5.7	3.4	2.1	-	布塗			019
第425図1	3区	SD400・SE480	瓦産陶器	土瓶	肥前系か	(8.8)	13.3	(8.2)	-	鉄釉			001
第425図2	3区	SE480 (蓋込)	瓦産磁器	染付皿	肥前系	-	1.1+0	(8.0)	-	磁器片	17c後半		001
第425図3	3区	SE480 (蓋込)	瓦産陶器	皿	肥前系	-	2.6+0	(11.6)	-	見込砂目 高台内面書有			004
第425図4	3区	SE480 (蓋込)	瓦産陶器	小碗	肥前系	(8.4)	4.8	3.3	-	鉄釉			002
第425図5	3区	SE480 (蓋込)	瓦産陶器	鉢	肥前系	-	5.4+0	-	-	白刷毛目	17c後半～18c前半		003
第425図6	3区	SK390・SE480蓋込・SE44	瓦産磁器	染付仏壇器	肥前系	(5.1)	2.3+0	-	-	網目文	18c代		001
第426図1	3区	SE465 上層	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	3.9+0	4.7	-	唐草文 染付砂付書 初期伊万里 二次被焼	1630～1650		001
第426図2	3区	SE465 上層	瓦産陶器	皿	肥前系	(12.2)	4.3	3.9	-	灰釉 見込胎土目	1594～1610		002
第426図3	3区	SE465	瓦産磁器	染付皿	肥前系	(13.2)	2.7	(2.2)	-	蛇の目高台 墨押書 初期伊万里	1640年代		002
第426図4	3区	SE465	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	6.3+0	4.7	-	高台砂付書 二次被焼	1630～1650		001
第426図5	3区	SE465	瓦産磁器	染付碗か	肥前系	(13.4)	4.7+0	-	-	口縁部波瀾文			003
第426図6	3区	SE465	瓦産陶器	皿	肥前系	(13.2)	2.9+0	-	-	折縁皿 灰釉	1610～1650		004
第426図7	3区	SE465	瓦産陶器	鉢か	肥前系	(25.0)	4.0+0	-	-		17c前半～中頃		005
第426図8	3区	SE465	土師器	碗	在池	(10.2)	3.8+0	-	-				006
第426図14	3区	SE465 (昇内内)	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(10.6)	7.1	(4.6)	-	丸碗 花唐草文 初期伊万里	1630～1650		002
第426図15	3区	SE465 (昇内内)	瓦産磁器	染付碗	肥前系	9.8	6.4+0	-	-	筒型 松竹梅文 初期伊万里 二次被焼	1610～1640		001
第426図16	3区	SE465 (昇内内)	瓦産陶器	鉢	肥前系	-	6.7+0	-	-	鉄釉	1650～1690		003
第427図1	4区	SE190 昇内内	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	3.4+0	3.6	-	丸碗 外青磁			001
第427図2	4区	SE190 昇内内	瓦産陶器	小碗	萩	(7.0)	4.0+0	-	-	ビラ掛け	19c代		002
第427図4	4区	SE190蓋込	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	(12.0)	3.0	(6.8)	-	輪花			002
第427図5	4区	SE190蓋込	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(8.4)	4.0	(3.2)	-	環状彫 娘籠文字着	1620～1660		001
第427図6	4区	SE190蓋込	瓦産陶器	甕	肥前系	(16.0)	6.2+0	-	-	結輪掛け流し	18c代		003
第427図9	4区	SE190蓋込+SK197・SE210	瓦産陶器	壺×壺	肥前系	-	6.6+0	11.6	-	底部外側目肌			001
第428図1	4区	SE210	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	4.4+0	-	-	筒型碗	18c後半		001
第428図2	4区	SE210	瓦産磁器	黄磁書伊	肥前系	(10.0)	3.1+0	-	-	粘付文			002
第428図4	4区	SE210 6層	瓦産磁器	染付小坪	肥前系	6.6	3.6	2.5	-	コンキヤ印判 葉文	1680～1740		002
第428図5	4区	SE210 6層	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(8.6)	4.9	3.5	-	丸碗	18c前半～中頃		001
第428図6	4区	SE210 6層	瓦産陶器	碗か		9.1+0	7.4+0	2.6	-				003
第428図7	4区	SE210 6層下位	瓦産陶器	皿	肥前系	22.2	4.8	9.2	-	黄緑色釉 三足 体部指押入	17c末～18c中頃か		001

第 79 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 34

図録番号	調査区	遺構番号	種別	群種	産地	法量(cm)			備考	分類	時期	H番号
						口径・最大長	最大幅	法量(最大深)				
第429図1	3区	SK435	国産磁器	染付皿	肥前系	-	2.2+0	(9.2)	-	雷輪文 蛇の目出窓高台	18c中頃～後半	005
第429図2	3区	SK435	国産磁器	染付樋口	肥前系	6.9	6.1	5.2	-	花卉文 ほぼ完形 二次被熱	18c前半～中頃	004
第429図3	3区	SK435	国産磁器	染付碗	肥前系	-	2.3+0	-	-	環反脚 格子文 口縁部片	1820～1860	001
第429図4	3区	SK435	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.0)	6.9	(4.9)	-	岩波文 二次被熱 1/2残存	17c中頃	003
第429図5	3区	SK435	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.4)	5.7	4.2	-	丸網 望料系 花卉文 二次被熱	1820～1860	002
第429図6	3区	SK435	国産磁器	染付瓶	肥前系	-	5.8+0	(4.2)	-	鹿部廻り砂子着	17c中頃	006
第429図7	3区	SK435	国産磁器	染付水漬	肥前系	3.5	5.6+0	3.3	-	常型 S584と接合	18c後半	007
第429図8	3区	SK435	国産磁器	染付樋口	肥前系	4.3	4.8	0.6	-	透網のみ 菓子状 二次被熱	18c後半	008
第429図9	3区	SK435	国産陶器	皿	肥前系	(23.8)	5.0	9.9	-	京焼風陶器 山水文 刻印有「富長次」 二次被熱	1680～1690	011
第429図10	3区	SK435	国産陶器	碗	關西系	9.4	5.6	3.5	-	京・信楽系 小砂網 1/2残存	18c後半～	010
第429図11	3区	SK435	国産陶器	碗	關西系	9.2	5.5	3.1	-	京・信楽系 丸網 3/4残存 二次被熱	18c後半～19c前半	009
第429図12	3区	SK435	国産陶器	露鉢	關西系	(30.2)	8.7+0	-	-			012
第429図13	3区	SK435	国産陶器	灯火具	肥前系	(4.6)	4.1	4.2	-	兼盛		013
第429図19	3区	SD400・SK435	国産磁器	色絵蓋	肥前系	(8.2)	2.1+0	-	-	花卉文 有田	1690～1720	001
第429図20	3区	SK435上層	国産磁器	染付皿	肥前系	(26.6)	4.6	(15.6)	-	梅花 猿轡着有V	18c代	001
第429図21	3区	SK435上層	国産陶器	瓦二ツヤ土器	關西系か	(5.6)	3.3+0	12.6	-	鉄軸		002
第429図22	3区	SK435上層	土師器	皿		5.9	1.3	2.8	-	透明釉	19c代	003
第429図23	3区	SK435上層	土師質土器	皿		(9.5)	2.6	5.8	-	高台付		004
第429図24	3区	SK525	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.0)	4.3+0	-	-	環反脚 雷電文 二次被熱	1820～1860	001
第429図25	3区	SK525	国産陶器	皿	肥前系	(20.5)	2.9+0	-	-	印花文		002
第429図28	3区	SK525様出納	国産磁器	染付蓋	肥前系	-	1.4+0	-	-	佛蘭文字有「陶丸」		001
第430図1	3区	SK335	国産磁器	白磁紅皿	肥前系	4.6	4.1	1.4	-	完形 聖押し成形	19c代	015
第430図2	3区	SK335	国産磁器	染付皿	肥前系	-	1.8+0	(6.0)	-	内外面鉄軸 高台内「大明嘉禄年製」	1690～1720	008
第430図3	3区	SK335	国産磁器	染付皿	肥前系	(13.2)	2.9	(9.0)	-	蛇の目出窓高台	19c前半～中頃	007
第430図4	3区	SK335	国産磁器	染付蓋	肥前系	(6.4)	1.6+0	(7.6)	-	番付鉢の蓋 菊花文		011
第430図5	3区	SK335	国産磁器	染付蓋	肥前系	(13.2)	3.1+0	-	-	番付鉢の蓋 唐草文 二次被熱		010
第430図6	3区	SK335	国産磁器	染付樋口	肥前系	(7.6)	6.3	5.4	-	紅葉文	18c中頃～後半	006
第430図7	3区	SK335	中国磁器	色絵小碗	徳化窯	8.2	4.7	3.5	-	環反脚 口先 鹿文	18c後半	005
第430図8	3区	SK335	国産磁器	染付小碗	肥前系	(6.9)	5.6	(3.6)	-	鼓紋文 湯飲み碗	1820～1860	001
第430図9	3区	SK335	国産磁器	染付碗	肥前系	-	5.1+0	(4.4)	-	環反脚 格子文 佛蘭文字有 二次被熱	1820～1860	002
第430図10	3区	SK335	国産磁器	染付碗	肥前系	(12.2)	6.5	(7.1)	-	広葉葉 八卦文	1780～1810	004
第430図11	3区	SK335	国産磁器	染付碗	肥前系	(12.0)	5.2+0	-	-	環反脚 口縁部片	1820～1860	003
第430図12	3区	SK335	国産磁器	染付鉢	肥前系	(18.8)	5.0+0	-	-	梅花 二次被熱	18c後半～	009
第430図13	3区	SK335	国産磁器	瓶	産地不明	-	18.3+0	5.3	-			014
第430図14	3区	SK335	国産磁器	曹磁瓶	肥前系	-	9.3+0	6.3	-		18c中頃～19c	013
第430図15	3区	SK335	国産磁器	曹磁書炉	肥前系	(12.0)	8.1	(4.8)	-	葛筒底状		012

第80表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 35

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J2復元数値				備考	分類	時期	内輪号
						口径 最大径	器高 最大径	器底 最大径	片厚 最大径				
第43016	3区	SK335	国産陶器	皿	關西系	(12.4)	2.6	(4.4)	-	灯明皿 スス付着			019
第43017	3区	SK335	国産陶器	小碗	關西系	(8.8)	3.8	(2.7)	-	鉄胎	18c後半~19c前半		018
第43018	3区	SK335	国産陶器	小碗	關西系	(8.6)	4.9	(2.9)	-		18c後半~		016
第43019	3区	SK335	国産陶器	小碗	關西系	(9.0)	5.0	(3.2)	-	槌反型	18c後半~		017
第43020	3区	SK335	国産陶器	燗鉢	肥前系	27.3	11.1	12.4	-	2/3残存			025
第43021	3区	SK335	国産陶器	燗鉢	肥前系	(34.8)	14.8	14.8	-				024
第43022	3区	SK335	国産陶器	灰入	關西系	(10.6)	6.2+a	-	-	真入 口縁部釉剥落			020
第43023	3区	SK335	国産陶器	ミニチュア土 瓶	産地不明	(8.0)	2.4+a	(2.8)	-	鉄胎			021
第43024	3区	SK335	国産陶器	器種不明 火 入か	關西系少	-	5.8+a	(9.4)	-	外面傷			023
第43025	3区	SK335	国産陶器	器種不明 取 手か	關西系少	-	1.6+a	-	-				022
第43101	3区	SK335	土師器	皿		(8.6)	1.2	(3.8)	-	透明釉 底面回転糸切り跡 し	19c代		027
第43102	3区	SK335	土師器	ミニチュア鉢		2.8	1.6	2.7	-	完形			028
第43103	3区	SK335	土師買土器	埴輪壺		(5.8)	8.0+a	-	-				026
第43104	3区	SK335	土師器	器種不明		3.5	3.4	0.7	-	円盤型 穿孔			029
第43105	3区	SK335	瓦質土器	火鉢		(40.2)	12.4	(27.8)	-	1/3残存			030
第43106	3区	SK335	瓦質土器	燈炉		(23.0)	30.8	22.3	-		19c前半		040
第43201	3区	SK894SK335 (1層)	国産磁器	染付小碗	肥前系	7.2	3.8	2.8	-		18c後半		003
第43202	3区	SK894SK335 (1層)	国産磁器	染付小碗	肥前系	9.8	5.3	3.8	-	青字文 ほぼ完形	18c後半		001
第43203	3区	SK894SK335 (1層)	国産磁器	染付碗	肥前系	-	1.9+a	-	-	外青磁 蓋子状に2次加工	18c後半		004
第43204	3区	SK894SK335 (1層)	国産磁器	染付碗	肥前系	-	2.6+a	(6.6)	-	広東磁 虎磨のみ	1780~1810		002
第43205	3区	SK894SK335 (1層)	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.6)	4.1+a	-	-	槌反碗 波千鳥	1820~1860		005
第43206	3区	SK894SK335 (1層)	国産磁器	白磁燗鉢か	肥前系	(5.8)	2.4	(4.2)	-		19c前半		006
第43207	3区	SK894SK335 (1層)	国産陶器	碗	關西系	(7.0)	5.2	(3.4)	-	槌型	18c後半~		007
第43208	3区	SK894SK335 (1層)	国産陶器	灰入	備前	(16.0)	6.9	(15.2)	-				008
第43209	3区	SK894SK335 (1層)	土製品	鳥居道具		2.1+a	4.9	1.4	-	鳥居			009
第43212	3区	SK926SK335 (2-3層)	国産磁器	染付平皿	肥前系	6.0	1.7	3.5	-	方形皿 完形 S894と接合			002
第43213	3区	SK926SK335 (2-3層)	国産磁器	色絵壺	肥前系	(7.2)	1.0+a	(1.8)	-	鉄胎 水注壺 S828P001の 蓋か	18c後半~19c前半		005
第43214	3区	SK926SK335 (2-3層)	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.4)	4.9+a	-	-	槌反碗	1820~1860		001
第43215	3区	SK926SK335 (2-3層)	国産磁器	染付段重	肥前系	(8.2)	2.7	(6.2)	-				003
第43216	3区	SK926SK335 (2-3層)	国産磁器	白磁燗壺	肥前系	(12.8)	3.0	(4.5)	-	蓋部欠損			004
第43217	3区	SK926SK335 (2-3層)	国産陶器	小碗	萩	(9.4)	5.1	(4.0)	-	灰釉	18c後半~		006
第43218	3区	SK926SK335 (2-3層)	土師器	皿	在地	(8.8)	1.5	(5.0)	-	小皿b スス付着 灯明皿			007
第43219	3区	SK926SK335 (2-3層)	土製品	ミニチュア土 瓶		4.7	2.0	-	-	完形			009
第43220	3区	SK926SK335 (2-3層)	土製品	ミニチュア明 蓋		2.8	2.4	1.9	-	完形			008
第43223	3区	SK819	国産磁器	染付皿	肥前系	(8.8)	2.0	(4.6)	-	輪花 型押し成形			001
第43224	3区	SK819	国産陶器	碗	關西系	(9.4)	5.3+a	-	-	SK335, SK894と接合	18c後半~		002

第81表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 36

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・最大長	最大幅	底径・最大深	口径・最大深				
第433図1	3区	SK340	国産磁器	白磁紅血	肥前系	4.8	4.5	1.4	-	空押し成形	18c前半～中頃	026	
第433図2	3区	SK340	中国磁器	染付皿	漳州窯	-	20+0	-	-	口縁のみ		009	
第433図3	3区	SK340	国産磁器	黄磁皿	肥前系	-	23+0	9.4	-	蛇の目型足高台	18c前半	010	
第433図4	3区	SK340	国産磁器	黄磁皿	肥前系	(26.8)	42+0	-	-	梅花		011	
第433図5	3区	SK340	中国磁器	色絵小碗		(5.1)	2.6+0	-	-	金彩唐草文		013	
第433図6	3区	SK340	国産磁器	染付小杯	瀬戸美濃	(5.7)	2.9	2.7	-	コバルト 山水文	明治前半	015	
第433図7	3区	SK340	中国磁器	色絵小杯	景德鎮窯系	(7.2)	3.9	2.9	-	口紅 磁反型 乾隆年製	18c後半	016	
第433図8	3区	SK340	国産磁器	白磁小杯	肥前系	4.8	3.3	2.8	-		18c前半	014	
第433図9	3区	SK340	国産磁器	染付小杯	肥前系	-	20+0	(4.0)	-	六角		012	
第433図10	3区	SK340	国産磁器	染付紅猪口	肥前系	(8.0)	2.0	(3.1)	-	竹葉文	18c前半～中頃	025	
第433図11	3区	SK340	国産磁器	黄磁猪口	肥前系	(7.8)	6.5	(4.4)	-	1/3残存		017	
第433図12	3区	SK340	国産磁器	染付盃	肥前系	(8.8)	2.8	-	-	3/4残存 山水文		021	
第433図13	3区	SK340	国産磁器	染付盃	肥前系	(9.8)	2.8	-	-	外黄磁	18c後半	022	
第433図14	3区	SK340	国産磁器	色絵小碗	肥前系	(8.3)	3.1+0	-	-	模範文 二次被熱		007	
第433図15	3区	SK340	国産磁器	色絵小碗	肥前系	(8.0)	3.9	3.1	-	波千鳥文 二次被熱	1710～1740	006	
第433図16	3区	SK340	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.5)	3.6+0	-	-	模反型 花唐草	1820～1880	003	
第433図17	3区	SK340	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.8)	5.5+0	-	-	外黄磁 見込み蛇の目縁割 ぎ 高台文箱	18c中頃	005	
第433図18	3区	SK340	国産磁器	染付碗	肥前系	11.8	6.7	4.1	-	柳籠型 梅花文 二次被熱	18c後半	002	
第433図19	3区	SK340	国産磁器	染付碗	肥前系	(12.4)	5.7	(5.5)	-	外黄磁 模反型 見込み染 付 二次被熱	18c後半	006	
第433図20	3区	SK340	国産磁器	染付碗	肥前系	11.7	6.0	4.5	-	口紅 蒸文 二次被熱		004	
第433図21	3区	SK340	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.2)	4.1+0	-	-	天目型 口縁渦文	1640～1650	001	
第433図22	3区	SK340	国産磁器	染付鉢	肥前系	(14.6)	5.4	(8.2)	-	梅花 松竹梅文	18c後半	018	
第433図23	3区	SK340	国産磁器	白磁鉢	肥前系	(15.6)	6.3+0	-	-	口紅 外面沈線		020	
第433図24	3区	SK340	国産磁器	染付鉢	肥前系	(12.6)	5.6+0	-	-	垂付鉢 唐草文	18c後半～19c前半	019	
第433図25	3区	SK340	国産磁器	色絵合子	肥前系	6.2	1.7+0	-	-			024	
第433図26	3区	SK340	国産磁器	黄磁香炉	肥前系	(10.8)	6.7	6.0	-	蛇の目高台 見込泥壇	18c前半～中頃	023	
第433図27	3区	SK340	国産磁器	煙管	肥前系	3.7	1.6+0	-	-	兩首		027	
第433図28	3区	SK340	国産磁器	染付煙管	肥前系	5.5	1.2	-	-	破口		028	
第433図29	3区	SK340	国産陶器	皿	肥前系	(20.6)	3.8	(13.8)	-			036	
第433図30	3区	SK340	国産陶器	皿	肥前系	-	9.5+0	13.8	-	白濁毛目 鉄輪形付流し	1690～1740	035	
第434図1	3区	SK340	国産陶器	碗	関西系	9.4	5.0	3.3	-	模反型 結輪	18c後半～19c前半	031	
第434図2	3区	SK340	国産陶器	碗	関西系	(10.0)	4.6	-	-	模反型 透明釉 蒸文		034	
第434図3	3区	SK340	国産陶器	碗	関西系	(9.4)	5.6	3.1	-	京・信楽系 丸碗 色繪唐 文	18c後半～19c前半	029	
第434図4	3区	SK340	国産陶器	碗	関西系	(9.8)	6.2	(4.0)	-	京・信楽系 小杉碗	18c中頃～後半	030	
第434図5	3区	SK340	国産陶器	碗	瀬戸美濃	-	4.4+0	(4.6)	-	鉄輪		033	
第434図6	3区	SK340	国産陶器	碗	肥前系	(11.3)	7.9	4.8	-	透明釉	17c末～18c前半	032	

第 82 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 37

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量 (cm) / 2 次元数値				備考	分期 時期	内番号
						口径 最大径	高さ 最大径	底径 最大径	片厚 最大径			
第 434 図 7	3 区	SK340	瓦唐陶器	鉢	肥前系	(134)	9.3	8.9	-	裏付鉢か 白刷毛目	17c 後半~	036
第 434 図 8	3 区	SK340	瓦唐陶器	鉢	肥前系	(196)	7.9	(8.0)	-	白刷毛目	1690~1740	037
第 434 図 9	3 区	SK340	瓦唐陶器	燗鉢	肥前系	(140)	4.7+a	-	-			048
第 434 図 10	3 区	SK340	瓦唐陶器	燗鉢	關西系	31.4	11.6	15.0	-	瑛		049
第 434 図 11	3 区	SK340	瓦唐陶器	燗鉢	肥前系	(31.4)	12.7	15.2	-			050
第 434 図 12	3 区	SK340	瓦唐陶器	盥	關西系	(72)	1.7	-	-	鉄絵 1/2 残存		039
第 434 図 13	3 区	SK340	瓦唐陶器	仏花瓶	瀬戸美濃	-	6.3+a	-	-	胴部浮文	18c 後半~19c 前半	044
第 434 図 14	3 区	SK340	瓦唐陶器	瓶	産地不明 (瀬戸か)	-	5.1+a	5.0	-	黒色釉		043
第 434 図 15	3 区	SK340	瓦唐陶器	三子土瓶	關西系	2.6	3.4	3.2	-	緑釉		047
第 434 図 16	3 区	SK340	瓦唐陶器	土瓶小	關西系	(52)	10.1	(6.0)	-			046
第 434 図 17	3 区	SK340	瓦唐陶器	香炉	關西系	(82)	5.5	8.0	-	色釉		040
第 434 図 18	3 区	SK340	瓦唐陶器	火入	備前	(115)	8.3	(13.2)	-			041
第 434 図 19	3 区	SK340	瓦唐陶器	火入小	肥前系	-	3.9+a	(6.0)	-	胎胎染付 高台無釉	18c 前半	042
第 434 図 20	3 区	SK340	瓦唐陶器	灯火具	肥前系	-	16.7+a	-	-	透徳利	18c 代	045
第 434 図 21	3 区	SK340	瓦質土器	火湯壺	-	12.9+a	19.2	-	-			057
第 434 図 22	3 区	SK340	瓦質土器	燗炉	-	6.6+a	-	-	-	胴印有「寿」		056
第 434 図 23	3 区	SK340	土器	皿		6.5	1.3	-	-	透明釉 底面回転糸切リ磨し	18c 代	051
第 434 図 24	3 区	SK340	土師質土器	燗壺蓋		7.9	1.6	-	-	緑瑛完形		052
第 434 図 25	3 区	SK340	土師質土器	火湯壺蓋		(20.6)	3.6	-	-			054
第 434 図 26	3 区	SK340	土師質土器	燗壺		(31.8)	6.7+a	-	-	久付着 1/3 残存		053
第 435 図 1	3 区	SK340	土師質土器	器種不明(丹 蓋か)		-	5.3+a	-	-	内面久付着		055
第 435 図 2	3 区	SK340	土製品	土罎		4.8	1.0	0.8	0.3/2.0			059
第 435 図 3	3 区	SK340	土製品	土罎		6.4	2.3	2.0	0.8/3.6/5			058
第 435 図 4	3 区	SK340	土製品	人形		3.6	2.9	2.0	-	人面		061
第 435 図 5	3 区	SK340	土製品	人形		4.4+a	2.8	1.2	-	亀 瑛瑛完形		060
第 436 図 1	3 区	SK345	瓦唐磁器	小坏	瀬戸美濃か	(5.6)	2.4+a	-	-	口縁部片 コバルト 口紅		001
第 436 図 2	3 区	SK345	瓦唐磁器	染付小瓶	肥前系	7.2	5.0	3.3	-	口紅「大明成化年製」	17c 後半~18c 中頃	003
第 436 図 3	3 区	SK345	瓦唐磁器	染付碗	肥前系	-	3.8+a	-	-	瑛反碗 雪輪文	1620~1660	002
第 436 図 4	3 区	SK345	瓦唐磁器	染付花生小	肥前系	-	3.6+a	-	-	角型 内面施釉		005
第 436 図 5	3 区	SK345	瓦唐磁器	染付縁蓋立	肥前系	-	10.8+a	5.4	-	竹葉文	19c 代	004
第 436 図 6	3 区	SK345	瓦唐陶器	鉢	備前	(20.4)	10.3+a	-	-		16c 後半か	006
第 436 図 7	3 区	SK345	土器	皿		(8.0)	1.4	(5.0)	-	透明釉 裏込穿孔有		007
第 436 図 8	3 区	SK345	土製品	人形		3.1+a	2.0	1.1	-			010
第 437 図 3	3 区	SK350	瓦唐磁器	染付缸猪口	肥前系	6.6	2.6	3.1	-	竹葉文 瑛瑛完形	18c 後半~	002
第 437 図 4	3 区	SK350	瓦唐磁器	色絵糖	肥前系	-	4.2+a	-	-	熊文	18c 前半~中頃	001
第 437 図 5	3 区	SK350	土製品	人形		5.5+a	2.7	2.4	-	鹿野穿孔		003

第 83 表 3·4 区 土器・陶磁器期表 38

国庫番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)			備考	分期	時期	H番号
						口徑・ 最大長	最大 口径	口径・ 最大長				
第437回6	3区	SK365 1層	国産磁器	染付紅蓮口	肥前系	7.0	3.4	2.9	-	竹葉文 ほぼ完形		001
第437回7	3区	SK365 1層	国産磁器	白磁糸巻	産地不明	1.5	1.8	-	0.4	1/2残存		002
第437回8	3区	SK365 1層	土師器	皿		(7.4)	1.3	(3.8)	-	透明釉	19c代	003
第437回9	3区	SK365 2層	国産磁器	白磁紅皿	肥前系	4.6	1.5	1.8	-	空押し成形 完形	16c後半～	002
第437回10	3区	SK365 2層	国産磁器	染付碗	肥前系	11.5	5.5	4.3	-	外青磁 ほぼ完形	16c後半	001
第437回11	3区	SK365 2層	国産陶器	火入	肥前系 (102)	5.0+α	-	-	-	陶胎染付 山水文	16c前半	003
第437回12	3区	SK365 2層	国産陶器	壺	肥前系 (242)	7.3+α	-	-	-	鉄釉・黒灰釉		005
第437回13	3区	SK365 2層	国産陶器	行平鉢	肥前系か	16.3	11.0+α	6.8	-	緑灰釉		006
第437回14	3区	SK365 2層	国産陶器	灯火具	肥前系	-	12.3+α	6.2	-	鉄釉	16c後半～19c中頃	004
第437回16	3区	SK365	国産磁器	白磁小皿	肥前系	5.8	1.6	3.3	-	紅皿か 完形		001
第437回17	3区	SK365	国産磁器	染付小瓶	肥前系 (1.9)	7.1	2.7	-	-	聖橋文 ほぼ完形 二次被釉	16c後半～19c中頃	002
第437回18	3区	SK365	国産陶器	小皿	備前 (7.4)	0.7	(5.6)	-	-	黒割		005
第437回19	3区	SK365	国産陶器	壺	肥前系 (42)	1.0	1.8	-	-			003
第437回20	3区	SK365	国産陶器	灯火具	肥前系	3.8	5.6	4.4	-	兼盛 ほぼ完形	19c代	004
第437回21	3区	SK365	土製品	人形		8.0+α	5.9+α	3.9+α	-	五月人形		006
第438回1	3区	SK375	国産磁器	染付小碗	肥前系 (8.6)	4.4	3.0	-	-	丸碗 梅花文	1710～1750	001
第438回2	3区	SK375	国産磁器	染付小碗	肥前系 (9.0)	3.1+α	-	-	-	丸碗		003
第438回3	3区	SK375	国産磁器	染付碗	肥前系 (10.0)	5.4	4.4	-	-	丸碗 丸文	16c前半～中頃	002
第438回4	3区	SK375	国産磁器	染付鉢	肥前系	14.0	8.0	5.8	-	梅樹文	16c前半～中頃	004
第438回5	3区	SK375	国産磁器	青磁鉢	肥前系	-	3.8+α	-	-	雲文 S637と接合		006
第438回6	3区	SK375	国産磁器	色絵合子	肥前系 (5.2)	1.6+α	-	-	-	梅花文		005
第438回7	3区	SK375	土師器	皿	在池	8.7	3.1	5.0	-	小皿b ほぼ完形		007
第438回8	3区	SK375	土製品	土鉢		5.4	1.4	1.2	-			008
第439回2	3区	SK390	国産磁器	白磁皿	肥前系	-	1.5	2.6	-	空押し成形 変形皿		004
第439回3	3区	SK390	国産磁器	染付皿	肥前系	-	2.2+α	-	-	花卉文	17c中頃	002
第439回4	3区	SK390	国産磁器	染付皿	肥前系 (14.6)	1.9+α	-	-	-	折縁 口縁透弧文 粉刷伊万里	1620～1640	003
第439回5	3区	SK390	中国磁器	染付大皿	景德鎮系 (31.0)	5.3	(16.4)	-	-	莨苢手 S641と接合 二次被釉	16c末～17c前半	006
第439回6	3区	SK390	国産磁器	染付小坪	肥前系 (7.4)	5.1	3.2	-	-		1680～1740	005
第439回7	3区	SK390	国産磁器	染付小碗	肥前系 (9.2)	5.7+α	-	-	-	丸碗 矢羽根文	1780～1810	001
第439回8	3区	SK390	国産磁器	染付碗	肥前系	11.4	7.1	4.4	-	外蓋鉄釉	1640～1650	008
第439回9	3区	SK390	国産陶器	皿	肥前系	-	2.2+α	5.0	-	絵唐津	1594～1610	010
第439回10	3区	SK390	国産陶器	皿	肥前系	13.0	2.5	4.7	-	白濁毛目 見込砂目	17c後半～18c前半	011
第439回11	3区	SK390	国産磁器	染付皿	肥前系	27.1	6.7	12.0	-	見込花卉文 内側面白字七五文 二次被釉	17c中頃～後半	007
第439回12	3区	SK390	国産陶器	碗	肥前系	11.7	8.2	5.2	-	玉子半	17c後半～18c前半	009
第439回13	3区	SK390	国産陶器	鉢	肥前系 (33.2)	10.8+α	-	-	-	銀毛目	17c後半～18c前半	014
第439回14	3区	SK390	国産陶器	磁鉢	肥前系	-	4.2+α	-	-		17c末～18c中頃	012

第84表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 39

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J2値充数値				備考	分類	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	口径 最大径	丸形 高さ(cm)				
第439図15	3区	SK390	国産陶器	灯火具	肥前系	(140)	2.8+α	-	-	内外面スス付着			013
第440図1	3区	SK390	瓦質土器	火消壺		(148)	17.3+α	-	-				015
第440図2	3区	SK390	瓦質土器	風炉		13.4	24.8	18.4	-				016
第440図3	3区	SK390	土師器	皿	在地	10.5	2.5	5.4	-	小皿b 灯明皿 口縁部スス付着			019
第440図4	3区	SK390	土師器	皿	在地	9.4	1.5	6.5	-	小皿b 白色			020
第440図5	3区	SK390	土師器	皿	在地	8.7	1.5	6.3	-	小皿b 灯明皿			022
第440図6	3区	SK390	土師器	小皿	在地	8.3	1.1	3.9	-	皿c			023
第440図7	3区	SK390	土師器	皿	在地	(10.2)	2.0	(6.0)	-	皿c 白色			021
第440図8	3区	SK390	土師質土器	燈塔	關西系か	-	4.6+α	-	-	外面スス付着			017
第440図9	3区	SK390	土師質土器	燈塔		(22.8)	4.6+α	-	-	スス付着			018
第440図11	3区	SK475	国産磁器	染付平福皿	肥前系	8.4	2.9	2.4	-	花卉文			010
第440図12	3区	SK475	国産磁器	染付小皿	肥前系	11.4	3.4	4.1	-	高台内「富貴長寿」SD400.S020.S801.S807と接合	18c前半～中頃		007
第440図13	3区	SK475	国産磁器	染付小皿	肥前系	(14.0)	2.6	(8.6)	-	高台内敷着物有	17c中頃～後半		008
第440図14	3区	SK475	国産磁器	染付大皿	肥前系	(36.8)	3.9+α	-	-	口縁のみ 陶胎	18c前半		009
第440図15	3区	SK475	国産磁器	白磁小杯	肥前系	7.1	5.0	3.3	-		1670～1740		016
第440図16	3区	SK475	国産磁器	白磁猪口	肥前系	(3.8)	2.6	(2.2)	-		18c代か		018
第440図17	3区	SK475	国産磁器	白磁猪口	肥前系	(7.0)	5.0	(3.8)	-	二次被熱	17c中頃～後半		017
第440図18	3区	SK475	国産磁器	染付猪口	肥前系	(10.8)	5.7	3.8	-	梅花 高台内福字			005
第440図19	3区	SK475	国産磁器	白磁小碗	肥前系	7.2	3.8	7.2	-				015
第440図20	3区	SK475	国産磁器	染付小碗	肥前系	(8.0)	3.7	(3.6)	-	南障文	1670～1690		006
第440図21	3区	SK475	国産磁器	白磁碗	肥前系	9.8	5.5	4.0	-	S788と接合 二次被熱	17c代か		014
第440図22	3区	SK475	国産磁器	染付碗	肥前系	(8.0)	5.7+α	-	-	顔型 鳥文 助刺伊万草	1620～1650		004
第440図23	3区	SK475	国産磁器	染付小碗	肥前系	9.0	5.6	4.9	-	コンニャク印判 丸文	18c前半～中頃		003
第440図24	3区	SK475	国産磁器	染付小碗	肥前系	9.8	5.5	4.1	-	丸碗 丸文 S788と接合	18c前半～中頃		001
第440図25	3区	SK475	国産磁器	染付碗	肥前系	10.8	6.0	4.1	-	丸碗 竹筒文	18c前半～中頃		002
第440図26	3区	SK475	国産磁器	染付鉢	肥前系	-	6.5+α	8.1	-	蓑付鉢 コンニャク印判	18c前半～中頃		011
第440図27	3区	SK475	国産磁器	染付仏指器	肥前系	8.4	5.3	4.1	-				012
第440図28	3区	SK475	国産磁器	青磁香炉	肥前系	11.0	8.6	(9.4)	-	高台蛇の目輪割ぎ			013
第440図29	3区	SK475	国産磁器	色絵合子	肥前系	(4.8)	1.9	(1.4)	-				019
第441図1	3区	SK475	国産陶器	碗	肥前系	(10.2)	4.6+α	-	-	白釉毛目	17c後半～18c中頃		022
第441図2	3区	SK475	国産陶器	碗	瀬戸美濃	10.6	6.6	5.4	-	横線碗	17c後半～18c前半		020
第441図3	3区	SK475	国産陶器	碗	肥前系	11.2	7.7	5.4	-	陶胎染付 山水文	1680～1740		021
第441図4	3区	SK475	国産陶器	碗	肥前系	-	2.1+α	4.0	-	京焼風陶器 刻印有	17c末		023
第441図5	3区	SK475	国産陶器	鉢鉢	關西系	9.2	6.2	5.0	-	赤褐色釉 S89と接合			024
第441図6	3区	SK475	国産陶器	鉢	關西系か	-	3.0+α	-	-	特胎			026
第441図7	3区	SK475	国産陶器	片口鉢	肥前系	21.2	10.5	9.7	-	白釉毛目	18c前半		029

第 85 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 40

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)		H 復元数値		備考	分期	時期	H番号
						口径・最大長	最大幅	最大深	最大高さ				
第441図8	3区	SK475	面度陶器	蓋	肥前系	8.9	16.1	7.3	-	ほぼ完成			028
第441図9	3区	SK475	面度陶器	甕か	肥前系	-	4.9+α	(18.6)	-	底部貝殻痕か			027
第441図10	3区	SK475	土師器	小皿	在地	7.3	1.4	3.7	-	小皿b 完成			032
第441図11	3区	SK475	土師器	皿	在地	9.4	1.8	4.9	-	小皿b 又ス付着 灯明皿			031
第441図12	3区	SK475	土師器	皿	在地	9.6	1.9	5.1	-	小皿b 又ス付着 灯明皿			030
第441図13	3区	SK475	土師質土器	皿	在地	(17.6)	4.1	(10.8)	-	天坪か			033
第441図14	3区	SK475	土師質土器	楕形		-	4.8	-	-				034
第441図15	3区	SK475	土製品	土鈴		4.4	1.5	-	0.4/0.1				039
第441図16	3区	SK475	土製品	土鈴		1.5	1.6	0.2	-	完成			040
第441図22	3区	SK475-SK78 7	面度磁器	染付鉢	肥前系	(18.0)	6.5	(8.5)	-	青磁染付 有田	1690~1740		001
第441図23	3区	SK475-SK78 7	面度磁器	茶入	瀬戸か				-	銅書茶入 鉄輪 渡部回転 北切			002
第441図24	3区	SK475-SK78 7+S889	面度磁器	小碗	関西系か	(9.0)	5.6	5.4	-	茶色釉			001
第441図25	3区	SD400-SK47 5	面度磁器	染付皿	肥前系	-	3.7+α	5.8	-	芙蓉手 二次被熱	18c前半~中頃		001
第441図26	3区	SD400-SK47 5	面度磁器	染付小碗	肥前系	9.6	4.9	3.3	-	二重網目文	1700~1750		002
第442図1	3区	SK505 1-2 層	面度磁器	染付皿	肥前系	(10.4)	2.5	-	-	広葉碗蓋 水仙文	1780~1820		002
第442図2	3区	SK505 1-2 層	面度磁器	染付小坪	肥前系	6.3	2.6	2.5	-		18c代		003
第442図3	3区	SK505 1-2 層	面度磁器	染付碗	肥前系	(11.9)	6.7	5.0	-	松竹梅文 宣明年装 二次 被熱 包能素地か	17c後半~18c前半		001
第442図4	3区	SK505 1-2 層	面度磁器	染付香炉	肥前系	(12.5)	4.6+α	-	-				004
第442図5	3区	SK505 1-2 層	面度磁器	磁輪軸蓋	肥前系	(4.4)	2.1+α	-	-				005
第442図6	3区	SK505 1-2 層	面度陶器	紅皿	瀬戸美濃	5.6	3.1	2.9	-	完成	19c前半		006
第442図7	3区	SK505 1-2 層	面度陶器	蓋	肥前系	(10.4)	6.3+α	-	-	S684と接合			007
第442図8	3区	SK505 3-4- 5層	面度陶器	陶器道具か	信濃か	14.8	10.9	3.9	-	覆椀 S018と接合			001
第442図9	3区	SK505	面度磁器	黄磁皿	三田	7.3+α	2.0	3.1+α	-	型打成形 典型			008
第442図10	3区	SK505	面度磁器	染付小皿	肥前系	(11.8)	2.3	(7.6)	-	蛇の目型出高台	18c後半~		004
第442図11	3区	SK505	面度磁器	染付小皿	肥前系か	13.1	2.9	6.6	-	口狭 水仙文	17c中頃か		005
第442図12	3区	SK505	面度磁器	染付小皿	肥前系	14.6	2.8	9.0	-	水仙文 二次被熱	17c中頃~後半		006
第442図13	3区	SK505	中国磁器	皿	景德鎮窯	-	12+α	(9.6)	-	見込寿字文	16c代		007
第442図14	3区	SK505	面度磁器	白磁小坪	肥前系	(8.2)	6.1	(3.8)	-		18c前半~中頃		009
第442図15	3区	SK505	面度磁器	染付小碗	肥前系	8.5	5.6	3.6	-	丸碗 七宝・四方囀文	1780~1820		002
第442図16	3区	SK505	面度磁器	染付碗	肥前系	(9.4)	5.5+α	-	-	筒型 松文 初瀬伊万里 二次被熱	17c前半~中頃		003
第442図17	3区	SK505	面度磁器	染付碗	肥前系	11.8	6.6	6.5	-	広葉碗 箱車文	1780~1810		001
第442図18	3区	SK505	面度陶器	蓋	肥前系か	7.5	4.9	-	-	鉄輪			018
第442図19	3区	SK505	面度陶器	碗	関西系	(8.8)	4.9+α	-	-	筒型	18c後半~		010
第442図20	3区	SK505	面度陶器	碗	肥前系	9.1	6.7	4.7	-	福岡系 清水焼 体部半 びら餅付 S732と接合	19c前半~幕末		012
第442図21	3区	SK505	面度陶器	碗	肥前系	-	5.8+α	4.2	-	鉄輪	1650~1690		013
第442図22	3区	SK505	面度陶器	碗	肥前系	(11.2)	7.2	5.4	-		1650~1690		011

第86表 3・4区 土器・陶磁器類観察表41

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2復元数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	高さ 最大径	底径 最大径	片厚 最大径				
第443図1	3区	SK505	瓦唐陶器	皿	肥前系	(134)	4.9	6.5	-	京焼風 山水文 刷印有	17c末		014
第443図2	3区	SK505	瓦唐陶器	鉢	肥前系小	(122)	5.0+α	-	-	口縁部輪刻			015
第443図3	3区	SK505	瓦唐陶器	燗鉢	肥前系	25.2	16.6	16.2	-		18c後半~		022
第443図4	3区	SK505	瓦唐陶器	壺	肥前系	-	7.5+α	(5.8)	-	鉄胎			017
第443図5	3区	SK505	瓦唐陶器	壺	産地不明	(102)	3.5+α	-	-	鉄胎			016
第443図6	3区	SK505	瓦唐陶器	土瓶	肥前系	6.4	10.2	(7.4)	-	鉄胎 注口穴横			021
第443図7	3区	SK505	瓦唐陶器	行火か	産地不明	-	7.8+α	(13.4)	-	胴部に開口部			020
第443図8	3区	SK505	瓦唐陶器	餐皿	肥前系	15.4+ α/6.9	3.7	12.6+ α/6.7	-	器文			019
第443図9	3区	SK505	土師器	皿	在地	(9.8)	1.3	-	-	皿C スス付着 灯明皿			024
第443図10	3区	SK505	土師器	皿	在地	(10.4)	2.6	-	-	皿C スス付着 灯明皿			025
第443図11	3区	SK505	土師質土器	鉢		(18.0)	3.9	(14.5)	-				023
第443図12	3区	SK505	土製品	人形		4.6+α	2.5	1.3+α	-	胎			027
第443図13	3区	SK505	土製品	人形		7.6+α	6.8	3.9+α	-	天神 底部穿孔			028
第443図21	3区	SK505+S894	瓦唐磁器	染付碗	不明	(12.6)	5.2+α	-	-	瓜渦絵 東南アジアか			001
第444図1	3区	SK543	瓦唐磁器	染付小皿	肥前系	13.2	3.6	4.9	-	網目文 夏込蛇の目輪刻ぎ 二次被胎	1750~1810		009
第444図2	3区	SK543	瓦唐磁器	染付小皿	肥前系	14.2	4.7	8.1	-	蛇の目凹型高台 SK340と接合 二次被胎	1760~1860		008
第444図3	3区	SK543	瓦唐磁器	白磁皿	肥前系	-	3.8+α	(7.6)	-	縹刻文 輪文 二次被胎	18c後半~19c前半		010
第444図4	3区	SK543	瓦唐磁器	青磁小皿	肥前系	(13.6)	4.3	(7.6)	-	口紅 二次被胎			011
第444図5	3区	SK543	瓦唐磁器	青磁皿	肥前系	(18.6)	4.3	5.1	-	青磁染付 夏込蛇の目輪刻ぎ 後鉄胎 高台砂付着 S618と接合 二次被胎	17c		012
第444図6	3区	SK543	瓦唐磁器	染付小碗	肥前系	(6.4)	2.9	(3.0)	-	雨降文			013
第444図7	3区	SK543	瓦唐磁器	染付猪口	肥前系	7.8	5.9	(5.6)	-	竹文 蛇の目凹型高台	18c後半~19c前半		004
第444図8	3区	SK543	瓦唐磁器	白磁猪口	肥前系	(7.2)	6.3	(5.4)	-				006
第444図9	3区	SK543	瓦唐磁器	白磁ニチュア碗	肥前系	2.4	1.1	0.8	-	外面傾斜			015
第444図10	3区	SK543	瓦唐磁器	染付小碗	肥前系	(9.0)	5.4	(4.2)	-	横反碗 輪文	1820~1860		001
第444図11	3区	SK543	瓦唐磁器	色絵小碗	瀬戸美濃	(9.4)	5.7	3.7	-	横反碗 花卉文 徳継文字 有	1820~1860		002
第444図12	3区	SK543	瓦唐磁器	染付小碗	肥前系	(9.0)	5.7	5.9	-	広葉型 二次被胎	1780~1810		003
第444図13	3区	SK543	瓦唐磁器	白磁碗	肥前系	(10.4)	5.1	4.7	-	横反型 夏込み蛇の目輪刻ぎ			005
第444図14	3区	SK543	瓦唐磁器	染付鉢	肥前系	(22.0)	7.5	(11.0)	-	蛇の目凹型高台 二次被胎	18c後半~幕末		007
第444図15	3区	SK543	瓦唐磁器	染付水筒	肥前系	8.5+α	3.8+α	4.1+α	-	舟型 二次被胎			014
第444図16	3区	SK543	瓦唐陶器	小碗	肥前系	(6.2)	3.8	2.5	-	丸碗 色絵花卉文	18c中頃~後半		019
第444図17	3区	SK543	瓦唐陶器	小碗	肥前系	6.1	5.4	2.8	-	丸碗 色絵管葉文	18c中頃~後半		018
第444図18	3区	SK543	瓦唐陶器	碗	肥前系	-	5.4+α	(5.0)	-	灰胎	17c前半~中頃		020
第444図19	3区	SK543	瓦唐陶器	碗	肥前系	-	3.3+α	4.3	-	灰胎 二次被胎	18c後半~		017
第444図20	3区	SK543	瓦唐陶器	鉢	肥前系	(12.6)	10.2	(6.9)	-	番付鉢 白磁毛目 SK340 と接合 二次被胎	17c後半~18c中頃		022
第444図21	3区	SK543	瓦唐陶器	鉢	肥前系	(14.0)	4.9+α	-	-	二次被胎			021
第444図22	3区	SK543	瓦唐陶器	菓子鉢	肥前系	-	6.8+α	(10.6)	-	京焼風陶器 高台内刻印有	17c末		023

第 87 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 42

調査番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大径	最大 径	底径・ 最大径	片厚・ 最大径				
第445図1	3区	SK543	国産陶器	磁鉢	肥前系	(32.5)	14.7	(15.4)	-	二次被熱	18c後半	027	
第445図2	3区	SK543	国産陶器	磁鉢	関西系	(35.2)	14.6	(16.4)	-			028	
第445図3	3区	SK543	国産陶器	壺	産地不明 (瀬戸系)	(10.8)	3.8+α	-	-			025	
第445図4	3区	SK543	国産陶器	壺・小瓶	瀬戸美濃	-	5.6+α	7.0	-	底部穿孔 硝子鉢に転用 二次被熱		016	
第445図5	3区	SK543	国産陶器	壺	肥前系か	(23.2)	17.4+α	-	-	鉄粉掛付流し 二次被熱		026	
第445図6	3区	SK543	国産陶器	火入	備前	(11.7)	7.3	(12.8)	-	刷印有	18c代	024	
第445図7	3区	SK543	土師質土器	埴輪壺蓋		7.8	1.6	-	-			024	
第445図8	3区	SK543	土師質土器	埴輪壺		(8.6)	7.5	(5.8)	-	刷印有「泉涌伊能」		023	
第445図9	3区	SK543	土師質土器	火消壺		(19.5)	9.9+α	-	-			021	
第445図10	3区	SK543	土師質土器	焙烙		(40.8)	6.7+α	-	-			022	
第445図11	3区	SK543	土師質土器	火鉢		11.8+α	9.2	14.4+α	-	箱型		020	
第445図12	3区	SK543	土師質土器	熨斗		-	13.6+α	19.2	-	円形		029	
第445図13	3区	SK543	土製品	土鉢		4.7	2.2	-	0.5			027	
第447図1	3区	SK563	国産磁器	染付手塩皿	肥前系	5.5	1.0	3.2	-	山水文		009	
第447図2	3区	SK563	国産磁器	黄磁手塩皿	肥前系	(7.4)	1.7	3.8	-	型押し成形 三田黄磁	江戸後期	010	
第447図3	3区	SK563	国産磁器	染付手塩皿	肥前系	(10.0)	2.3	(5.8)	-	菱形皿 唐草文	18c前半～中頃	008	
第447図4	3区	SK563	国産磁器	染付壺	肥前系	11.8	3.6	6.6	-	広葉碗蓋	1780～1810	003	
第447図5	3区	SK563	国産磁器	染付壺	肥前系	8.7	2.8	3.7	-	又欠付着 灯明皿に転用		004	
第447図6	3区	SK563	国産磁器	染付小碗	瀬戸美濃	8.6	4.2	3.6	-	袖反碗 山水文	1820～1860	001	
第447図7	3区	SK563	国産磁器	染付小碗	肥前系	(8.8)	5.2	3.8	-	袖反碗	1820～1860	002	
第447図8	3区	SK563	国産磁器	染付鉢	肥前系	(10.2)	9.6	(10.0)	-	丸文		006	
第447図9	3区	SK563	国産磁器	染付鉢	肥前系	-	7.5+α	7.6	-	吉祥文字	18c後半～	005	
第447図10	3区	SK563	国産磁器	黄磁鉢	肥前系	15.0	9.9	9.6	-	梅花 黄磁染付 5029と接合		007	
第447図11	3区	SK563	国産磁器	染付小瓶	肥前系か	1.0	7.4	2.9	-	5302と接合	19c前半	012	
第447図12	3区	SK563	国産磁器	染付小瓶	肥前系	-	6.5+α	2.9	-	聖梅文	18c後半～19c代	013	
第447図13	3区	SK563	国産磁器	黄磁煮炉	肥前系	(7.0)	5.8	2.7	-	三足	17c後半	011	
第447図14	3区	SK563	国産陶器	小皿	関西系か	(9.0)	1.7	(3.6)	-	灯明皿か		015	
第447図15	3区	SK563	国産陶器	小碗	関西系	(7.0)	5.8	3.5	-	口縁部縁飾	18c後半～	014	
第447図16	3区	SK563	国産陶器	土瓶	関西系	(8.2)	3.1+α	-	-	鉄鉢 口縁部方形		017	
第447図17	3区	SK563	国産陶器	行平鍋	関西系	9.8	5.7	4.2	-			016	
第447図18	3区	SK563	国産陶器	急須か	産地不明	(7.6)	8.7	7.5	-	縁飾 注口部欠損 5679と接合		018	
第447図19	3区	SK563	土師器	皿		9.9	1.6	3.6	-	透明釉	19c代	019	
第447図20	3区	SK563	土製品	人形		2.8+α	3.8+α	-	-	鳥 鳩笛か		020	
第447図21	3区	SK563	土製品	人形		5.0+α	3.3+α	0.7+α	-	犬か		021	
第447図22	3区	SK563	土製品	不明		4.6	1.4	0.4	-	ヒニチュアか		022	
第449図1	3区	SK747	国産磁器	染付手塩皿	瀬戸美濃	8.5	2.4	3.7	-	型打皿 二次被熱	幕末～明治	009	

第88表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 43

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2値充数値				備考	分類 時期	図録号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	丸形 率(%)			
第448図2	3区	SK747	国産磁器	白磁手塩皿	瀬戸美濃	8.1	2.4	4.0	-	型打皿	幕末～明治	010
第448図3	3区	SK747	国産磁器	染付小皿	肥前系	15.0	4.1	8.7	-	梅花 樟閣山水文 蛇の目 凹型高台 二次被熱 2巻	1810～1880	011
第448図4	3区	SK747	国産磁器	染付小皿	肥前系	15.0	4.1	8.1	-	梅花 口縁 樟閣山水文 蛇の目凹型高台 二次被熱 2巻	1810～1880	012
第448図5	3区	SK747	国産磁器	染付皿	肥前系	20.9/18.2	2.8	10.8	-	方形皿 二次被熱	18c代	013
第448図6	3区	SK747	国産磁器	染付皿	肥前系	9.0	2.1	3.7	-	S747 F001の蓋 二次被熱	幕末～明治	002
第448図7	3区	SK747	中国磁器	染付小坪	景德鎮窯	7.8	7.3	4.1	-	人形付 十分秤		007
第448図8	3区	SK747	国産磁器	染付小碗	肥前系	8.4	4.1	(3.4)	-	口縁 獅子か 二次被熱	幕末～明治	006
第448図9	3区	SK747	国産磁器	染付碗	肥前系	10.7	6.1	4.8	-	種反型	幕末～明治	001
第448図10	3区	SK747	国産磁器	染付小碗	瀬戸美濃	8.8	4.5	3.1	-	口縁 種反型 二次被熱	1820～1880	004
第448図11	3区	SK747	国産磁器	染付碗	肥前系	7.4	6.0	4.5	-	透影み焼 佛懸文字有「～ 摩氏」	1820～1880	006
第448図12	3区	SK747	国産磁器	染付碗	瀬戸美濃か	7.2	7.0	4.5	-	透影み焼 市松文	幕末～明治	005
第448図13	3区	SK747	国産磁器	染付碗	肥前系	10.7	5.3	3.9	-	丸網 菊散し文 佛懸文字 有「神や～玉」	1820～1880	003
第448図14	3区	SK747	国産磁器	染付段蓋	肥前系	12.6	4.2	11.5	-	佛懸文字有「か～」	1820～	014
第448図15	3区	SK747	国産陶器	蓋	産地不明	6.0	1.8	-	-	急須蓋か		017
第448図16	3区	SK747	国産陶器	蓋	肥前系	4.8+g	1.0	-	-	急須蓋 福刺文		016
第448図17	3区	SK747	国産陶器	蓋	関西系か	5.9	15.5+g	6.6	-	中国か		015
第448図1	3区	SK747+SK32 2	国産磁器	染付皿	肥前系	24.7	5.1	13.8	-	八角 佛懸焼有 S161と接 合	1810～1850	001
第450図1	3区	SK759	国産磁器	皿	肥前系	18.0+g	1.9+g	8.0	-	染付か	17c中頃か	003
第450図2	3区	SK759	中国磁器	色絵小坪	景德鎮窯系	-	2.7+g	-	-			002
第450図3	3区	SK759	国産磁器	染付鉢	肥前系	(9.0)	5.0+g	-	-	梅花		001
第450図4	3区	SK759	国産陶器	碗	肥前系	(10.8)	4.0+g	-	-	陶胎染付 山水文	18c前半	004
第450図5	3区	SK759	国産陶器	碗	肥前系	-	4.5+g	6.1	-	瓜形 手	17c前半～中頃	005
第450図6	3区	SK759	国産陶器	碗	瀬戸美濃	(11.8)	7.2+g	-	-	天目掛 鉄軸	17c前半	006
第450図7	3区	SK759	国産陶器	鉢	肥前系	(10.8)	3.4+g	-	-			007
第450図8	3区	SK759	国産陶器	壺	肥前系	-	3.3+g	(4.0)	-	底部未切		008
第450図9	3区	SK759	土師器	皿	在地	10.1	1.8	6.9	-	小皿、白色		010
第450図10	3区	SK759	土師器	皿	在地	(11.8)	3.6	(7.0)	-	皿C		009
第450図11	3区	SK759	土師質土器	佛壇壺		(6.2)	9.4	(5.6)	-	底部充填		011
第451図1	3区	SK787 1層	青花	皿	津州窯系	-	3.3+g	(13.0)	-	牡丹文 S106と接合 二次 被熱		003
第451図2	3区	SK787 1層	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.0)	5.3	4.2	-	丸網 唐草と梅菊文	17c後半～18c前半	001
第451図3	3区	SK787 1層	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.2)	6.0	4.4	-	丸網 梅樹文	17c後半～18c前半	002
第451図4	3区	SK787 1層	国産磁器	白磁香炉	肥前系	(9.8)	6.5	4.4	-	二重高台 胴部縁有		004
第451図5	3区	SK787 1層	国産陶器	小碗	肥前系	(9.8)	5.3	3.6	-	現川焼 雲手	1690～1740	006
第451図6	3区	SK787 1層	国産陶器	碗	肥前系	-	4.6+g	4.8	-	陶胎染付 山水文	1680～1740	005
第451図7	3区	SK787 1層	国産陶器	鉢鉢	関西系か	(10.1)	6.1	4.8	-	赤褐色軸		007
第451図8	3区	SK787 1層	瓦質土器	羽蓋		-	10.8+g	-	-	久次付蓋		008

第 89 表 3・4 区 土器・陶磁器類観察表 44

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)		H 復元数値		備考	分期	時期	H番号
						口径・最大長	底径・最大幅	底径・最大長	片厚・最大厚				
第451図9	3区	SK787 1層	土師器	皿	在地	7.0	3.2	3.6	-	小皿b 灯明皿 中央穿孔有			010
第451図10	3区	SK787 1層	土師器	皿	在地	(9.8)	2.0	5.0	-	小皿b 灯明皿 内面塗着有			009
第451図13	3区	SD400(SK787 7(1)層)	土師質土器	燈燵		(32.2)	6.4+α	-	-				18c前半～中頃
第451図14	3区	SK787 2層	国産磁器	染付皿	肥前系	-	1.9	-	-	変形皿 型紙燵			17c後半
第451図15	3区	SK787 2層	国産磁器	白磁小杯	肥前系	(8.0)	3.9	2.9	-				17c代か
第451図16	3区	SK787 2層	国産磁器	染付小杯	肥前系	(7.0)	4.8	3.4	-				17c後半～18c中頃
第451図17	3区	SK787 2層	国産磁器	白磁樋口	肥前系	8.8	5.4	3.9	-				18c中頃か
第451図18	3区	SK787 2層	国産磁器	染付小碗	肥前系	(9.8)	5.8	4.1	-	丸碗 裏と梅根文 高台内面塗着有			1690～1710
第451図19	3区	SK787 2層	国産磁器	染付鉢	肥前系	(20.4)	9.7	(7.8)	-	内面水取文 5637/41と接合			17c代か
第451図20	3区	SK787 2層	国産磁器	青磁壺	肥前系	(7.4)	2.7+α	-	-				008
第451図21	3区	SK787 2層	国産磁器	染付瓶	肥前系	-	9.6+α	4.6	-	梅樹文			17c中頃か
第451図22	3区	SK787 2層	国産磁器	染付仏指器	肥前系	(8.1)	6.2	4.2	-				18c代
第451図23	3区	SK787 2層	国産磁器	青磁着伊小	肥前系	(11.4)	8.7+α	-	-	内面鉄絵飯盛り			007
第451図24	3区	SK787 2層	国産磁器	白磁水漬小	肥前系	4.2+α	2.4+α	-	-				011
第451図25	3区	SK787 2層	国産磁器	色絵水漬	肥前系	10.5+α	3.7	6.0	-	梅樹陽刻文			012
第452図1	3区	SK787 2層	国産陶器	碗	肥前系	(8.5)	5.7	5.2	-	京焼風陶器 割印「木下弥」			17c末
第452図2	3区	SK787 2層	国産陶器	碗	肥前系	-	5.7+α	(5.5)	-	白化磁土 二次被熱			17c末～18c中頃
第452図3	3区	SK787 2層	国産陶器	鉢	肥前系	(33.4)	24.3	13.2	-	白磁毛目 5638と接合 二次被熱			18c代
第452図4	3区	SK787 2層	国産陶器	磁鉢	肥前系	(21.2)	4.5+α	-	-				17c後半
第452図5	3区	SK787 2層	国産陶器	磁鉢	肥前系	-	6.5+α	-	-				18c前半～中頃
第452図6	3区	SK787 2層	国産陶器	甕	肥前系	-	27.3+α	(14.6)	-	外周陽刻文 5027.5K375と接合 二次被熱			017
第452図7	3区	SK787 2層	土師器	皿	在地	(9.8)	2.0	-	-	皿C			022
第452図8	3区	SK787 2層	土師器	皿	在地	(10.2)	1.7	-	-	皿C スズ付着 灯明皿 白色			019
第452図9	3区	SK787 2層	土師器	皿	在地	(9.4)	1.9	4.9	-	小皿b 灯明皿 中央穿孔 内面塗着有			021
第452図10	3区	SK787 2層	土師器	皿	在地	7.8	1.6	3.8	-	小皿b 2枚並着			020
第452図11	3区	SK787 2層	土師質土器	燈燵		(33.0)	9.2+α	-	-				18c後半
第453図1	3区	SK787	国産磁器	染付手箱皿	肥前系	4.8	1.7	1.6	-	見込み文字有			007
第453図2	3区	SK787	国産磁器	染付手箱皿	肥前系	(8.2)	2.3	(2.6)	-	草文			006
第453図3	3区	SK787	国産磁器	染付小皿	肥前系	13.7	2.1	7.9	-	紅葉文 5801と接合			17c後半～18c前半
第453図4	3区	SK787	国産磁器	染付蓋	肥前系	12.5	4.6	-	-	染付鉢蓋			18c代
第453図5	3区	SK787	国産磁器	染付小碗	肥前系	(9.6)	3.4	2.3	-	柳文			004
第453図6	3区	SK787	国産磁器	染付樋口	肥前系	5.8	3.4+α	-	-	梅枝文			1710～1740
第453図7	3区	SK787	国産磁器	染付樋口	肥前系	(9.8)	6.2	(4.8)	-	草草文			17c後半～18c前半
第453図8	3区	SK787	国産磁器	染付碗	肥前系	10.3	6.0	4.4	-	丸碗 水仙文			18c前半～中頃
第453図9	3区	SK787	国産磁器	染付碗	肥前系	10.8	7.1	5.0	-	天目 高台砂付着			17c中頃
第453図10	3区	SK787	国産磁器	染付鉢	肥前系	-	9.9+α	9.6	-				17c後半～18c前半

第90表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 45

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm)×J2値(%)				備考	分類	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径				
第453図1	3区	SK787	瓦産磁器	黄磁小壺	肥前系	(2.6)	3.0	-	-				014
第453図2	3区	SK787	瓦産磁器	白磁小合子	肥前系	5.2	2.1	3.6	-	型押し成形 身	17c中頃～後半		011
第453図3	3区	SK787	瓦産磁器	染付火入	肥前系	6.8	0.5	5.4	-	菊花文	17c後半		010
第453図4	3区	SK787	瓦産磁器	染付仏輪器	肥前系	5.0	6.0	3.6	-	梅花文	18c代		009
第453図5	3区	SK787	瓦産陶器	盥	肥前系	-	2.6+α	10.0	-	銅毛目	17c末～18c中頃		018
第453図6	3区	SK787	瓦産陶器	碗	肥前系	(11.0)	7.5	5.1	-	武器手	17c後半～18c前半		015
第453図7	3区	SK787	瓦産陶器	鉢	肥前系	(10.2)	6.0	(5.4)	-	口縁部内湾			016
第453図8	3区	SK787	瓦産陶器	覆鉢	備前	-	6.0+α	-	-	近世期			019
第453図9	3区	SK787	土師器	皿	在 地	10.0	1.8	-	-	底C 口縁部ス入付帯 灯明皿 白色			020
第453図23	3区	SD400-SK787	瓦産磁器	染付平瓠皿	肥前系	8.5	2.5	5.6	-	有田 変形皿 型製器	18c前半		001
第454図1	3区	SK822	瓦産磁器	染付小壺	肥前系	13.3	3.1	7.1	-	梅花 蛇の目凹型高台 書物文 浮世宛形 横線文字「神楽長右衛門」	19c代		003
第454図2	3区	SK822	瓦産磁器	染付碗	産地不明	-	2.9+α	2.9	-	コバルト 高台内「大ノカット」	明治～		001
第454図3	3区	SK822	瓦産磁器	染付碗	肥前系	7.2	6.5	4.4	-	透かし碗 横線文字有「神楽氏」	1820～1860		002
第454図4	3区	SK822	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	8.9	5.4	4.8	-	書付鉢 唐草文 蛇の目高台 578&止接合			004
第454図5	3区	SK822	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	11.1	7.4	6.6	-	横線文字有「神楽～」			005
第454図6	3区	SK822	瓦産陶器	碗	肥前系	(12.9)	7.0	5.3	-	鉄絵 刷印有「清水」か	17c末		006
第454図7	3区	SK822	土師質土器	横楕壺		5.8	6.4	5.3	-	刷印「泉州産生」	18c代		007
第454図8	3区	SK822	土製品	人形		2.3	2.3	0.8	-	面			008
第454図9	3区	SK897	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(10.8)	7.7	(5.4)	-	松葉文	1630～1650		001
第454図10	3区	SK897	土師器	皿	在 地	(13.0)	2.7	-	-	底C ス入付帯 灯明皿			002
第455図1	4区	SK132	瓦産磁器	染付小坪	肥前系	-	2.9+α	2.4	-	横 漢字か	1630～1640		001
第455図2	4区	SK132	瓦産陶器	皿	瀬戸美濃	(4.0)	1.9	(4.6)	-	蒜苗底	17c前半		002
第455図3	4区	SK132	瓦産陶器	碗	肥前系	12.2	8.0	5.5	-	武器手	1650～1690		003
第455図4	4区	SK140	瓦産磁器	染付平瓠皿	肥前系	10.0	2.5	6.1	-	舟人物文 二次被熱	18c後半～19c前半		009
第455図5	4区	SK140	瓦産磁器	白磁皿	肥前系	14.2	3.6	8.5	-	菊文 蛇の目凹型高台 二次被熱	19c前半		010
第455図6	4区	SK140	瓦産磁器	染付盥	肥前系	(8.7)	3.1	(3.4)	-	SK140R02の蓋	1820～1860		003
第455図7	4区	SK140	瓦産磁器	色絵小坪	肥前系か	(3.9)	2.8	(2.5)	-		19c代		005
第455図8	4区	SK140	瓦産磁器	染付碗	瀬戸美濃	10.2	5.8	4.3	-	横反碗 花卉文 二次被熱	1820～1860		001
第455図9	4区	SK140	瓦産磁器	染付碗	肥前系	10.2	6.6	5.8	-	広葉碗 雷・柳文 二次被熱	1780～1820		004
第455図10	4区	SK140	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(10.3)	6.1	4.1	-	横反碗 花唐草文 二次被熱	1820～1860		002
第455図11	4区	SK140	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	12.0	7.3	6.5	-	梅花 胡唐草文 二次被熱	18c中頃～後半		006
第455図12	4区	SK140	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	16.3	8.3	6.0	-	捺押・鳥文 横線底有 二次被熱	1780～1820		007
第455図13	4区	SK140	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	(22.2)	8.4	(11.6)	-	黄磁染付 蛇の目凹型高台 二次被熱	18c後半～19c前半		008
第455図14	4区	SK140	瓦産磁器	染付瓶	肥前系	-	8.7+α	5.1	-	透書 草文 二次被熱	18c代		011
第455図15	4区	SK140	瓦産陶器	鉢	備前	(21.8)	13.2	(16.0)	-	二次被熱			012
第455図16	4区	SK140	瓦産陶器	盥	瀬戸美濃か	(19.6)	13.5+α	-	-	鉄線流し掛け 二次被熱	19c前半～中頃		013

第91表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 46

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)		Hは復元数値		備考	分類	時期	H番号
						口径・ 最大径	高さ・ 最大径	口径・ 最大径	Hは 最大径				
第459図17	4区	SK140	面度陶器	壺	肥前系	(29.6)	15.0+a	-	-	外面沈線 二次被熱	18c代		014
第459図18	4区	SK140	土師瓦土器	燈檠		(39.0)	5.6+a	-	-	体部凸部にシボリあり			015
第457図1	4区	SK150	面度磁器	染付小皿	肥前系	(4.0)	4.4	8.2	-	牡丹唐草文 2客	1690~1740		002
第457図2	4区	SK150	面度磁器	白磁小皿	肥前系	(13.4)	4.2+a	-	-	梅花 横刻 口紅 3客			003
第457図3	4区	SK150	面度磁器	染付小杯	肥前系	(8.3)	4.0	2.8	-	横線	1680~1740		001
第457図4	4区	SK150	面度陶器	灯火具	肥前系か	(11.6)	2.3	(3.8)	-				005
第457図5	4区	SK150	面度陶器	碗	肥前系	(10.3)	7.3	4.5	-	陶胎染付 唐草文	16c前半		004
第457図6	4区	SK170	面度磁器	染付小碗	肥前系	(8.8)	3.7	(2.2)	-		16後半~		002
第457図7	4区	SK170	面度磁器	染付碗	瀬戸美濃	-	3.5+a	-	-	横反碗	1820~1860		001
第457図8	4区	SK170	面度陶器	茶漉し	関西系	-	4.3+a	(4.2)	-				003
第457図10	4区	SK170-G173	瓦貝土器	燈伊		27.0	20.0	15.2	-	円筒型 ほぼ完形			001
第457図11	4区	SK197	面度磁器	染付皿	肥前系	(22.2)	3.5	(12.6)	-	梅花 横線成有 二次被熱 5055と接合	16前半~中頃		003
第457図12	4区	SK197	面度磁器	白磁小杯	瀬戸美濃	5.2	2.8	2.8	-	口紅			001
第457図13	4区	SK197	面度磁器	染付小碗	肥前系	(9.6)	5.5	(3.6)	-	横反碗 二次被熱	1820~1860		002
第457図14	4区	SK197	面度磁器	染付瓶	肥前系	-	11.5+a	6.1	-	蓋か 高台部肥厚 梅福か	18c代		004
第457図15	4区	SK197	面度陶器	碗	肥前系	10.9	7.2	4.7	-	天目 内面数輪・外面面灰 輪 福岡か			005
第459図1	4区	SK185	面度陶器	碗	関西系	-	3.9+a	4.1	-	筒型	16c後半~		001
第459図2	4区	SK185	面度陶器	鉢	関西系か	20.1	9.4	8.1	-	梅花 外面輪割落 二次被熱 か			002
第459図1	3区	SD295	面度陶器	向付	瀬戸か	7.6+a	4.9	7.1+a	-				001
第459図2	3区	SD395+SD49 5	面度陶器	皿	肥前系	(16.0)	2.6+a	-	-	縁輪	17c中頃~後半		001
第459図3	3区	SD400	面度磁器	染付紅皿か	肥前系	(4.4)	1.7	1.8	-	内面付着物			019
第459図4	3区	SD400	面度磁器	染付小皿	肥前系	(8.8)	2.5	(2.9)	-	1/3残存			017
第459図5	3区	SD400	面度磁器	染付小皿	肥前系	(13.6)	3.3	14.8	-	見込み蛇の目輪割ぎ	17c中頃~後半		010
第459図6	3区	SD400	面度磁器	染付小皿	肥前系	9.3+a	2.7+a	5.5+a	-	変形皿	17c後半~18c前半		011
第459図7	3区	SD400	面度磁器	染付皿	肥前系	(22.8)	2.8	(13.8)	-	1/2残存 牡丹唐草文 二 次被熱	1810~1860		012
第459図8	3区	SD400	面度磁器	青磁皿	肥前系	(23.0)	4.7	(12.9)	-	印花唐草文 高台内蛇の目 輪割ぎ	1650~1680		013
第459図9	3区	SD400	面度磁器	染付小杯	肥前系	(4.6)	2.7	1.8	-	若葉文			018
第459図10	3区	SD400	面度磁器	染付小碗	肥前系	(8.8)	4.6	(4.0)	-	外面環縁輪			009
第459図11	3区	SD400	面度磁器	白磁壺	肥前系	(9.8)	2.0	(3.9)	-	SD400 R006の壺	18c前半		007
第459図12	3区	SD400	面度磁器	染付壺	肥前系	11.5	3.4	6.4	-	広葉碗の蓋 牡丹唐草文	1780~1810		003
第459図13	3区	SD400	面度磁器	染付小碗	肥前系	(9.0)	5.0	3.2	-	横反型 松浪文			004
第459図14	3区	SD400	面度磁器	染付碗	肥前系	10.1	5.4	4.2	-	丸碗 山水楼閣文	18c前半~中頃		016
第459図15	3区	SD400	面度磁器	染付碗	肥前系	-	40+a	5.1	-	初期伊万里 鹿部のみ	1610~1620		005
第459図16	3区	SD400	面度磁器	白磁小碗	肥前系	(9.6)	6.1	4.4	-		17c後半		008
第459図17	3区	SD400	面度磁器	白磁碗	肥前系	11.5	5.3	4.0	-	口紅 襷礼用か	18c前半~中頃		006
第459図18	3区	SD400	面度磁器	染付碗	肥前系	10.9	8.5	6.1	-	広葉碗 花卉文	1780~1810		002

第92表 3・4区 土器・陶磁器類観察表47

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2値充数値				備考	分類 時期	内番号
						口径 最大径	高さ 最大径	底径 最大径	丸形 率(%)			
第459図19	3区	SD400	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(11.0)	6.6	4.2	-	端反研 山水か	1820~1860	001
第459図20	3区	SD400	瓦産磁器	染付鉢	肥前系	(14.2)	4.9	9.0	-	青磁染付 蛇の目凹型高台	18c中頃~後半	014
第459図21	3区	SD400	瓦産磁器	色絵鉢	肥前系	(18.0)	3.9+α	-	-	蓋付鉢		015
第459図22	3区	SD400	瓦産磁器	染付瓶	肥前系	(3.0)	7.2+α	-	-		18c代	024
第459図23	3区	SD400	瓦産磁器	染付壺	肥前系	4.8	1.1	-	-	合子蓋 印刷砂絵彩文 文形	17c後半~18c前半	020
第459図24	3区	SD400	瓦産磁器	染付合子	肥前系	(4.4)	1.8	2.6	-	SD400 R200の身		021
第459図25	3区	SD400	瓦産磁器	染付仏輪器	肥前系	-	4.9+α	4.5	-	皿部欠損		022
第459図26	3区	SD400	瓦産磁器	色絵仏輪器	肥前系	-	4.6+α	4.8	-	皿部欠損 梅花文		023
第459図27	3区	SD400	瓦産陶器	皿	瀬戸美濃	(11.8)	1.5+α	-	-	折縁皿	17c前半	030
第459図28	3区	SD400	瓦産陶器	皿	肥前系	(14.0)	4.0	4.3	-	反輪 見込粒の目輪刺彫 見込砂目跡	17c中頃~後半	029
第459図29	3区	SD400	瓦産陶器	蓋	關西系小	(8.3)	2.5	4.0	-	鉄胎		032
第460図1	3区	SD400	瓦産陶器	碗	萩	(9.0)	4.3	3.5	-	反胎	18c後半以降	025
第460図2	3区	SD400	瓦産陶器	小碗	關西系	(9.0)	5.4	(3.8)	-	萩・信楽系 小杉碗	18c後半以降	027
第460図3	3区	SD400	瓦産陶器	小碗	關西系	(9.4)	5.4	(3.5)	-	萩・信楽系 線反型	18c後半以降	028
第460図4	3区	SD400	瓦産陶器	碗	肥前系	(11.8)	7.6	(5.4)	-	白化磁土	17c末~18c中頃	026
第460図5	3区	SD400	瓦産陶器	火入	肥前系	10.1	7.6	5.2	-	胎染付 山水文	18c前半	031
第460図6	3区	SD400	瓦産陶器	鉢	肥前系	(22.8)	8.7+α	(10.4)	-	白胎毛目	17c末~18c中頃	036
第460図7	3区	SD400	瓦産陶器	瓶	備前	(7.7)	6.1+α	-	-	口縁部のみ	17c中頃か	034
第460図8	3区	SD400	瓦産陶器	徳利	備前か	-	9.7+α	4.0	-			033
第460図9	3区	SD400	瓦産陶器	壺	肥前系	(22.0)	19.8+α	-	-	二把手	17c後半~18c前半	037
第460図10	3区	SD400	瓦質土器	燈塔		(20.5)	4.0	(15.4)	-			038
第460図11	3区	SD400	瓦質土器	風炉		(12.0)	4.0+α	-	-			039
第460図12	3区	SD400	土師器	皿	在地	(8.2)	1.3	(3.2)	-	透明釉 スス付着 灯明皿	19c代	040
第460図13	3区	SD400	土師器	皿	在地	9.8	1.8	6.1	-	小皿 スス付着 灯明皿		042
第460図14	3区	SD400	土師器	皿	在地	(9.6)	2.0+α	-	-	小皿 内面垂書有		041
第460図15	3区	SD400	土師質土器	燗塩釜		-	9.0+α	(4.0)	-			044
第460図16	3区	SD400	土師質土器	壺		-	5.7+α	-	-	口縁のみ 穿孔有		043
第460図17	3区	SD400	縄文土器	深鉢		-	6.6+α	-	-	後開		049
第460図18	3区	SD400	土製品	人形		3.6+α	2.7+α	1.9+α	-	顔部欠損		045
第460図25	3区	SD410	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(8.6)	5.7	(4.2)	-	端反研 唐人物文 縁線文字「光景」SS5aと縁合	1820~1860	001
第460図26	3区	SD410	瓦産陶器	灯火具	肥前系か	9.0	2.4	4.6	-	内外面スス付着		002
第460図27	3区	SD410	瓦産陶器	不明		3.3	3.1	1.3	-	蓋子状		003
第461図1	3区	SD415	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(7.0)	5.3	(4.2)	-	簡型碗	18c後半	001
第461図2	3区	SD415	瓦産磁器	白磁糖	肥前系	-	5.5+α	(4.5)	-		18c後半	002
第461図3	3区	SD415	瓦産磁器	染付段重	肥前系	(14.8)	4.8	(12.8)	-	雲龍文		003
第461図4	3区	SD415	瓦産陶器	碗	關西系	(7.4)	5.0	(4.0)	-	萩・信楽系 簡型 1/2握手	18c後半~	005

第93表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 48

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径/最大径	最大径	底径/最大径	高さ/最大径				
第461図5	3区	SD415	面産陶器	碗	関西系	-	42+α	(3.5)	-	灰-信楽系 小砂碗 1/3残存	18c後半～		004
第461図6	3区	SD415	面産陶器	碗	肥前系	(9.8)	7.4	4.5	-	灰胎	18c代		006
第461図7	3区	SD415	面産陶器	葉	肥前系	(15.4)	4.9+α	-	-	緑釉 福岡か			007
第461図8	3区	SD415	瓦質土器	羽蓋		-	42+α	-	-				008
第461図9	3区	SD415	土師器	皿	在地	(11.0)	2.2	(3.6)	-	小皿b 灯明皿 スス付番			009
第461図12	3区	SD420	面産磁器	黄磁碗	肥前系	(10.4)	4.3+α	-	-	天目目	17c中頃か		001
第461図14	3区	SD420	面産陶器	碗	肥前系	(11.6)	5.4+α	-	-	灰灰釉 福岡か			002
第461図15	3区	SD420	面産陶器	皿	肥前系	(32.2)	7.0+α	-	-	絵唐津 SS94と接合	17c代か		003
第461図16	3区	SD420	土師器	皿	在地	(11.2)	4.2	(7.0)	-	皿C			004
第461図17	3区	SD430	面産陶器	磁鉢	肥前系	-	5.2+α	-	-		18c前半～中頃		002
第461図18	3区	SD430	面産陶器	壺	肥前系	-	41+α	(6.5)	-	黒色釉 徳利か			001
第462図1	3区	SD495	面産磁器	染付皿	肥前系	-	3.0	-	-	焼成不良か	17c中頃～後半		003
第462図2	3区	SD495	面産磁器	白磁小坏	肥前系	-	2.2+α	3.1	-	外面黒	1630～1640		001
第462図3	3区	SD495	面産磁器	白磁小坏	肥前系	-	2.9+α	2.7	-	底部砂付番	1610～1630		002
第462図4	3区	SD495	面産磁器	白磁樋口	肥前系	(7.2)	2.7+α	-	-	型打ち成形	17c中頃～後半		004
第462図5	3区	SD495	面産磁器	黄磁碗	肥前系	-	3.7+α	4.1	-		17c中頃～後半		005
第462図6	3区	SD495	面産陶器	皿	肥前系	(13.2)	3.1	4.5	-	茶褐色釉 胎土目	1594～1610		009
第462図7	3区	SD495	面産陶器	皿	肥前系	12.8	4.2	5.0	-	灰褐色釉 砂目	1610～1650		010
第462図8	3区	SD495	面産陶器	碗	肥前系	-	4.6+α	-	-	白化胚土	1650～1690		008
第462図9	3区	SD495	面産陶器	碗	肥前系	(10.6)	6.9	(8.3)	-	灰反胎	1594～1610		007
第462図10	3区	SD495	面産陶器	碗	肥前系	(11.2)	6.9	5.0	-	灰反胎	17c前半～中頃		006
第462図11	3区	SD495	面産陶器	磁鉢	関西系か	-	7.0+α	-	-				011
第462図12	3区	SD495	面産陶器	德利	備前	-	34+α	-	-		17c代		012
第462図13	3区	SD495	面産陶器	皿か	肥前系	-	1.4	3.9	-	高台のみ 蓋子状			013
第462図14	3区	SD495	瓦質土器	壺		11.8	17.0+α	-	-				020
第462図15	3区	SD495	土師器	皿	在地	(10.2)	3.4	-	-	皿C			015
第462図16	3区	SD495	土師器	皿	在地	10.0	2.1	5.5	-	小皿b 黒変			017
第462図17	3区	SD495	土師器	皿	在地	11.8	2.1	7.2	-	小皿b			016
第462図18	3区	SD495	土師器	皿	在地	14.2	2.5	-	-	皿C スス付番 灯明皿			019
第462図19	3区	SD495	土師器	皿	在地	(14.2)	2.2	-	-	皿C スス付番 灯明皿 蓋付か			018
第462図20	3区	SD495	土師瓦土器	鉢か		-	41+α	-	-				014
第462図23	3区	SD500	面産陶器	碗	肥前系	(12.8)	6.5+α	-	-	黄釉輪	1690～1780		001
第462図24	3区	SD500	面産陶器	磁鉢	備前	(26.4)	10.6+α	-	-	近世2期			002
第463図1	3区	SD545 1層	面産磁器	染付碗	肥前系	-	42+α	-	-	相互破 口縁部	1620～1660		001
第463図2	3区	SD545 1層	面産陶器	鉢	瀬戸美濃	(27.6)	3.9+α	-	-	水瓶か	18c後半～		002
第463図3	3区	SD545 2-3層	面産磁器	染付壺	肥前系	9.7	2.9	4.2	-	相互破面 焼成不良	1620～1660		001

第94表 3・4区 土器・陶磁器類観察表49

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) JI2値充数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	丸形 率(%)				
第463図4	3区	SD545 2-3層	瓦産陶器	小碗	關西系	9.3	5.1	3.1	-	端反型 口縁磨輪 被熱	18c後半~		002
第463図5	3区	SD545 2-3層	瓦産陶器	小碗	關西系	8.9	5.1	3.2	-	端反型 被熱	18c後半~		003
第463図6	3区	SD545 4-5層	瓦産磁器	染付小皿	肥前系 (13.4)	3.2	(4.8)	-	-	牡丹の白舞台 見込縁 内側 茶花丹文	1640年代		004
第463図7	3区	SD545 4-5層	瓦産磁器	染付猪口	肥前系	7.2	5.7	4.2	-	椅子地	18c代		001
第463図8	3区	SD545 4-5層	瓦産磁器	染付小碗	肥前系 (8.2)	4.3+a	-	-	-	丸網 変型文	19c前半か		001
第463図9	3区	SD545 4-5層	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	8.8	5.6	3.5	-	丸網 扉文	18c後半		002
第463図10	3区	SD545 4-5層	瓦産陶器	皿	肥前系	-	5.2+a	10.4	-	結唐津 見込雲竹模様	17c中頃		005
第463図11	3区	SD545 4-5層	土師質土器	壇唐壺		(8.4)	8.5+a	4.6	-				006
第463図12	3区	SK330+SD545(4層)	土師器	皿		(10.0)	1.4	(5.2)	-	透明釉 口縁部又s付着	19c代		001
第463図13	3区	SK305+SD545	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	13.6	3.7	8.2	-	梅花 唐草文 二次被熱	1660~1670		001
第463図14	3区	SD545	中国磁器	皿	漳州窯系	-	1.3+a	(3.9)	-	蒜苗唐草群			007
第463図15	3区	SD545	青磁	皿	中国か	-	4.0+a	10.8	-	高台細砂付着	17c前半~中頃か		006
第463図16	3区	SD545	瓦産磁器	染付碗	肥前系 (9.4)	7.7	(6.2)	-	-	簡型 山水文 初瀬伊万里	1630~1650		001
第463図17	3区	SD545	瓦産磁器	色絵碗	肥前系	-	4.2+a	(4.8)	-	見込編織L	18c中頃		002
第463図18	3区	SD545	瓦産磁器	白磁碗	肥前系	-	5.4+a	(4.8)	-	腰部鉄輪圈縁	時期不明		005
第463図19	3区	SD545	瓦産磁器	白磁小碗	肥前系 (9.0)	4.9+a	-	-	-	梅花 SK435と接合 二次被熱	17c後半		004
第463図20	3区	SK305+SD545	瓦産磁器	色絵鉢	肥前系 (8.2)	2.7+a	-	-	-	番付鉢 梅枝文	17c後半~18c前半		002
第463図21	3区	SD545	瓦産磁器	染付鉢	肥前系 (19.6)	7.6	9.6	-	-	梅花 見込に梅と流水文 SK305と接合 二次被熱	17c後半~18c中頃		003
第464図1	3区	SD545	土師器	小皿	在池	(5.6)	0.9	(3.0)	-	透明釉	19c代		008
第464図2	3区	SD545	土師質土器	土甕		12.0+a	9.8+a	3.0	-				009
第464図4	3区	SK305+SD545+51191	瓦産陶器	火入	肥前系	10.4	6.8	5.2	-	白化斑土 内面又s付着	17c後半~18c中頃		001
第464図5	3区	S561+S589+SD545	瓦産磁器	色絵碗	肥前系 (10.4)	6.0	(3.2)	-	-	花卉文 二次被熱	18c前半~中頃		001
第464図6	3区	SD550	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	4.8+a	(6.8)	-	高台砂目痕	17c中頃		001
第464図7	3区	SD550	瓦産陶器	皿	肥前系	-	2.6+a	4.3	-	砂目跡み	1610~1650		004
第464図8	3区	SD550	瓦産陶器	皿	肥前系	-	3.0+a	5.6	-	砂目跡み	1650~1690		003
第464図9	3区	SD550	瓦産陶器	碗	肥前系 (14.4)	5.9+a	-	-	-	反輪跡付流し	1650~1690		002
第464図10	3区	SD550	瓦産陶器	磁鉢	備前	-	4.4+a	-	-	近世製	17c中頃~後半か		005
第464図11	3区	SD550	土師器	皿	在池	(12.0)	3.7	(5.4)	-	小皿b			007
第464図12	3区	SD550	土師器	皿	在池	(12.0)	3.5	(7.4)	-	皿C			008
第464図13	3区	SD550	瓦産陶器	人形	産地不明	3.7+a	2.3	1.6	-	腰部欠損 黄褐釉			006
第464図16	3区	SD42	瓦産磁器	青磁小皿	肥前系 (14.6)	3.5	(7.4)	-	-				004
第464図17	3区	SD42	瓦産磁器	白磁壺	肥前系 (8.4)	4.1	-	-	-	壺の蓋	18c代		005
第464図18	3区	SD42	瓦産磁器	染付小坪	瀬戸奥道	(6.8)	4.5	(3.0)	-	銅板転写	明治~		001
第464図19	3区	SD42	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	2.4+a	4.2	-	外青磁 簡型碗	18c後半~		002
第464図20	3区	SD42	瓦産磁器	染付水筒	肥前系	9.3	3.5+a	3.4+a	-	陽刻			003
第464図21	3区	SD42	瓦産磁器	色絵水筒	肥前系	8.5	5.6	3.9	-	鉄輪 竹型文			006

第95表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 50

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大長	最大 径大径	底径・ 最大深	片厚・ 最大厚				
第464図22	3区	SD842	面度陶器	小碗	関西系	(9.6)	4.2+	-	-	環状型 口縁縁起	16c後半～	008	
第464図23	3区	SD842	面度陶器	碗	瀬戸美濃	(10.3)	4.2+	-	-	天目	17c中頃	009	
第464図24	3区	SD842	面度陶器	碗	肥前系	(11.4)	7.8	(5.2)	-	陶胎染付 唐草文	16c前半	007	
第464図25	3区	SD842	土製品	ミニチュア瓶		1.1	4.8	2.5	-	完整		010	
第465図1	3区	SX325	面度磁器	染付碗	肥前系	(7.9)	3.7+	-	-	竹青磁胎型碗	16c後半	001	
第465図2	3区	SX325	面度陶器	碟鉢	備前系	-	1.2+	(2.8)	-	赤泥陶器		002	
第465図3	3区	SX325	土師質土器	葉	在地	-	11.9+	-	-	口縁部のみ		003	
第465図4	3区	SX330	面度磁器	染付碗	肥前系	10.8	4.3+	-	-	広葉碗 緑色文	1780～1810	001	
第465図5	3区	SX330	面度陶器	碗	関西系	-	1.7+	3.9	-	京・信楽系 小砂碗	16c後半～	002	
第465図6	3区	SX330	土師質土器	葉	在地	-	9.4+	(19.8)	-	底部のみ		003	
第465図7	3区	SX360	面度陶器	不明	関西系	-	3.3+	(8.6)	-			001	
第465図8	3区	SX360	土師質土器	葉		-	6.4+	-	-	口縁部片		002	
第465図9	3区	SX360	土師質土器	葉		-	10.4+	(25.4)	-	SX300 R002の底部		003	
第465図10	3区	SX370	土師質土器	葉		-	12.4+	(24.6)	-	底部のみ		001	
第465図11	3区	SX490	面度陶器	碗	関西系	-	4.0+	-	-	類型	16c後半～	001	
第466図1	4区	SX100	面度陶器	葉	肥前系	-	37.8+	19.8	-		17c後半	001	
第466図2	4区	SX180	面度磁器	染付壺	肥前系	(9.9)	2.5	(5.5)	-	広葉碗蓋 七宝貫文	1780～1810	001	
第467図1	3区	SX440	面度陶器	碗	肥前系	11.3	7.1	4.6	-	灰緑色釉	17c中頃か	001	
第467図2	3区	SX440	面度陶器	壺	肥前系	-	3.1+	-	-			002	
第467図3	3区	SX440	土師質土器	土瓶か		6.8+α	5.2+	4.8	-	取手のみ 穿孔有 スス付着		003	
第467図4	3区	SX440	面度陶器	不明		4.7	4.1	1.0	-	瓶子状		004	
第467図6	3区	SX440 2種	面度磁器	小皿	肥前系	(11.5)	4.0	(4.0)	-	砂目	1810～1850	001	
第467図7	3区	SX440 3種	面度磁器	染付小碗	肥前系	(9.0)	5.3+	-	-	半葉文	17c中頃か	001	
第467図8	3区	SX445	面度磁器	染付小皿	肥前系	(12.0)	3.4+	-	-		17c中頃～後半	001	
第467図9	3区	SX455	面度磁器	染付碗	肥前系	-	4.1+α	4.6	-	底部のみ 高台砂付着	17c前半～中頃	001	
第467図10	3区	SX455	陶器	皿		-	2.2+	4.3	-	砂目 朝鮮か		002	
第467図11	3区	SX470	面度陶器	皿	肥前系	(11.4)	2.0+	-	-	灰釉	17c前半～中頃	002	
第467図12	3区	SX470	面度陶器	向付か	肥前系	-	3.6+	-	-	横波津	1594～1610	001	
第467図13	3区	SX470	土師器	皿	在地	12.2	3.2	2.4	-	スス付着 皿C 灯明皿		003	
第467図14	3区	S320/SX540 最上型)	面度陶器	碗	肥前系	(11.2)	7.6	(5.0)	-	透明釉	1810～1850	001	
第467図15	3区	S320/SX540 最上型)	面度陶器	壺	瀬戸美濃か	(12.5)	4.6+	-	-			002	
第467図16	3区	S320/SX540 最上型)	面度陶器	葉	関西系	-	4.5+	(10.0)	-			003	
第468図1	4区	SX198	面度磁器	染付小坪	瀬戸美濃	5.4	2.5	2.4	-	コバルト釉 金彩	19c中頃～後半	001	
第468図2	4区	SX198	中国磁器	染付小坪	豊徳精窯	(9.0)	3.0	3.0	-	高台内「玉砂」		002	
第468図3	4区	SX198	土師器	耳皿		-	1.4	-	-	1/2残存 耳皿c		003	
第468図4	4区	SX198	土師器	皿		11.6	1.8	6.9	-	小皿b スス付着 灯明皿		004	

第96表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 51

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm×) J2値充数値				備考	分類	時期	図録号
						口径 最大径	高さ 最大径	底径 最大径	片厚 最大径				
第468図5	4区	SX198	土師器	皿		13.7	2.1	6.3	-	皿C スス付書 灯明皿		005	
第468図6	4区	SX198下層	土師器	皿		11.1	2.1	6.9	-	小皿b P-1		001	
第469図1	4区	SX110	国産磁器	染付皿	肥前系 (150)	3.5+0	-	-	-	牡丹文	16c代	001	
第469図2	4区	SX110	国産陶器	鉢	肥前系 (260)	10.5	(12.2)	-	-	白刷毛目	16c前半～中頃	002	
第470図1	3区	S425	国産磁器	染付皿	肥前系	-	1.3+0	(5.2)	-	高台付書物	17c中頃か	001	
第470図2	3区	S425	国産陶器	碗	肥前系 (116)	4.5+0	-	-	-	稀輪	17c代	002	
第470図3	3区	S425	土師器	皿	在地	9.8	2.2	4.9	-	小皿b スス付書		003	
第470図4	3区	S425	土師質土器	皿	在地	-	14.4+0	-	-	口縁のみ		004	
第470図5	3区	S526	国産陶器	灯火具	瀬戸美濃	1.8	5.7	3.7	-	ぼぼ完形	1750～1800	001	
第470図6	3区	S526	国産磁器	色絵向付か	關西系	5.6+0	4.6	-	-	京焼か「永楽」系	近代	001	
第470図7	3区	S526	土製品	蓋子か		2.0	2.0	0.5	-	簡文		002	
第470図13	3区	S552	土製品	箱蓋道具		4.2+0	3.3+0	1.2	-	鳥居		001	
第470図15	3区	S556	国産磁器	色絵碗	肥前系	-	2.8+0	-	-	コンニャク印判 見込み蛇の目輪刺ぎ 備前シ	17c末～18c初頭	001	
第470図16	3区	S557	国産陶器	皿	關西系	12.2	4.4	3.7	-	鉄輪 見込み蛇の目輪刺ぎ		001	
第470図17	3区	S558	国産磁器	白磁缸皿	肥前系 (54)	1.8	1.5	-	-	型押し成形 蓋書有「十二」 蓋縁内出土紅土12粒		001	
第470図18	3区	S558	国産陶器	瓶	瀬戸美濃	-	7.4+0	(6.8)	-	仏花瓶	16c後半～18c代	002	
第470図19	3区	S558	国産陶器	火入	産地不明 肥前系か	10.9	10.5	10.9	-			003	
第471図1	3区	S561	中国磁器	色絵小坏	景德鎮窯	(6.8)	3.7	(2.6)	-	瑠璃彩 金彩 乾隆年製 4 区S259H001と同柄	16c後半～	001	
第471図2	3区	S561	国産磁器	染付鉢	肥前系 (242)	6.3	(15.2)	-	-	山水文 二次被熱		002	
第471図3	3区	S561	国産陶器	鉢鉢	關西系か	4.8	2.6	3.7	-	完形		003	
第471図6	3区	S562	国産磁器	色絵蓋	肥前系 (102)	3.5	-	-	-	段書蓋 横線文字有		002	
第471図7	3区	S562	国産磁器	染付猪口か	肥前系 (72)	5.4	(4.1)	-	-		16c前後か	001	
第471図10	3区	S578	国産磁器	染付小碗	肥前系	-	3.8+0	3.0	-	横線文字有	16c後半	001	
第471図11	3区	S578	国産磁器	染付徳利	肥前系	-	9.7+0	(4.6)	-	横線草	1700～1800	002	
第471図12	3区	S578	国産陶器	片口鉢	關西系	12.5	7.1	5.7	-	鉄輪 ぼぼ完形		003	
第471図13	3区	S578	土製品	泥蓋子		1.8	1.6	0.7	-	手觸		005	
第471図14	3区	S578	土製品	泥蓋子		1.8	1.5	0.5	-	文様不明		006	
第471図16	3区	S581	土製品	泥蓋子		1.9	1.3	0.5	-	人面		001	
第471図18	3区	S594	青白磁	蓋	景德鎮窯 (50)	1.4+0	-	-	-	台子蓋 二次被熱	16c代	001	
第471図19	3区	S604	国産陶器	皿	肥前系	-	7.7+0	13.8	-	二部手	1650～1680	001	
第472図1	3区	S609	中国磁器か	染付小碗		6.4	4.5	3.0	-	「清灰」紙 横線文字有		001	
第472図2	3区	S616	国産磁器	色絵ミニチュ ア皿	肥前系	2.8	1.0	1.3	-			001	
第472図3	3区	S628	国産陶器	皿	肥前系	-	3.8+0	(13.2)	-	高橋風陶器 山水文 割印 「中嶋三」か 二次被熱	17c末	001	
第472図4	3区	S631	土師器	皿	在地 (80)	1.4	4.5	-	-	小皿b 蓋書有		001	
第472図5	3区	S632	瓦質土器	火鉢		43.3	21.7	13.6	-	陶型		001	
第472図6	3区	S633	国産磁器	白磁皿	肥前系か (15.3)	3.1	5.5	-	-	費付目録5箇所	1610～1620	001	

第97表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 52

図録番号	調査区	遺構番号	種別	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大径	最大 径6分	底径・ 最大深	片厚・ 最大厚				
第472図7	3区	5637	国産陶器	蓋	肥前系	2.3	2.3	4.4	-	茶入蓋 完形			001
第472図8	3区	5639	国産陶器	染付小瓶	肥前系	7.2	5.0	3.2	-	高台内底不明瞭	17c後半		001
第472図9	3区	5639	土師質土器	燈燵		(27.2)	6.9+0	(25.0)	-	鉄線耳環付			002
第472図10	3区	5641	青花	皿	豊後鎮西	-	1.9+0	-	-	F群 口縁部のみ			001
第472図11	3区	5643	国産陶器	小皿	關西系	6.9×4.6	1.3	2.0	-	変形皿			001
第473図1	3区	5648	国産磁器	染付小瓶	肥前系	(9.2)	5.3	3.5	-	瀬津系 地方窯か			001
第473図2	3区	5648	国産磁器	青磁鉢	肥前系	-	5.5+0	(8.2)	-	有田 色絵山水文 5172と 接合	16c前半頃		002
第473図3	3区	5677	国産磁器	染付碗	肥前系	-	5.2+0	(4.2)	-	鉄線文字有「〜様」 二次被 胎	16c後半		001
第473図6	3区	5681	国産陶器	徳利	關西系	-	19.0+0	-	-	円筒型 二次被胎			001
第473図7	3区	5683	国産磁器	染付皿	肥前系	-	3.4+0	(7.1)	-	控の目印型高台 鉄線文字 「神屋」	16c後半～		001
第473図8	3区	5683	国産磁器	染付皿	肥前系	(15.4)	3.7	(8.6)	-	桜花 唐子縁刺唐草文 二 次被胎	16c後半		002
第473図9	3区	5683	土師質土器	燈伊		16.4	17.5	14.2	-	5017と接合 ほぼ完形			003
第473図10	3区	5683	土製品	人形		3.8+0	4.1	2.2	-	騎馬			004
第474図1	3区	5684	国産陶器	皿	關西系	(14.6)	3.1	(10.6)	-	赤褐色釉 家焼か			001
第474図2	3区	5684	土製品	人形		4.9+0	3.4	1.7	-	力士			002
第474図3	3区	5686	国産磁器	青磁水注	肥前系	(8.2)	9.0+0	(9.6)	-	染付砂付蓋			001
第474図4	3区	5688	国産磁器	白磁水注か	肥前系	5.0+0	2.6+0	3.0+0	-				001
第474図5	3区	5688	国産磁器	芦草	産地不明	4.8	4.8	1.1	-	完形			002
第474図7	3区	5692	土製品	人形		7.5+0	4.9	2.8	-	大夫 彩色有			001
第474図8	3区	5694	土製品	人形		2.7	3.6	2.1	-	兎 完形 二個体出土			001
第474図9	3区	5696	国産磁器	色絵碗	肥前系	(9.4)	5.9+0	-	-	窓繪	1650～1670		001
第474図10	3区	5696	土製品	土鈴		4.1	(2.5)	0.2	-				002
第474図18	3区	5746	国産陶器	小皿	瀬戸美濃	(7.2)	1.6	3.3	-	銀土 1/3残存	17c中頃		001
第474図19	3区	5757	国産陶器	急須	關西系	-	40+0	-	-				001
第475図2	3区	5771	土製品	泥電子		1.7	0.5	-	-	完形 真永通宝			001
第475図3	3区	5774	国産磁器	色絵香壺	肥前系	6.7+0	1.8	1.9	-	花文貼付 三川内か	江戸後期		001
第475図4	3区	5783	ベトナム産陶器	碗	ベトナム	-	32+0	(8.6)	-	鉄線印文文様	17c中頃～後半		001
第475図5	3区	5786	国産磁器	色絵合子蓋	肥前系	(7.4)	1.8+0	-	-	縁刻文			001
第475図6	3区	5786	国産陶器	鉢	肥前系	(11.6)	6.6	4.2	-	染付鉢 1/2残存			002
第475図8	3区	5788	国産磁器	染付鉢	肥前系	15.6	7.0	6.7	-	染付鉢 紅葉と梅折枝文 ほぼ完形 5688と接合	18c代		001
第475図10	3区	5788	国産陶器	灯火具	關西系	10.8	3.4	4.4	-	完形			001
第475図11	3区	5798	瓦質土器	燈伊		21.0	21.6	23.0	-	刷印有「久之助〜」			002
第475図12	3区	5801	国産磁器	色絵香伊	肥前系	7.1	4.6	2.8	-	完形 小香伊 有田	江戸後期		002
第475図13	3区	5801	国産磁器	青磁香伊	肥前系	9.4	5.1	8.8	-	青磁染付 二次被胎	18c代		005
第475図14	3区	5801	国産磁器	染付不明品	肥前系	33+0	13.5	0.8	-	台台か			001
第475図15	3区	5801	国産磁器	色絵燗甗	肥前系	4.0	1.0	0.3	-	燗甗か			003

第98表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 53

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm)×J2還元数値				備考	分類	時期	図録号
						口径 最大径	器高 最大径	器底 最大径	片厚 最大径				
第475図16	3区	S801	瓦産磁器	色絵人形	肥前系	2.7	1.7	1.7	-	頭部のみ 灯心押えか			004
第475図17	3区	S801	瓦産陶器	碗	関西系 (98)	7.3	5.6	-	-	1/3残存	17c前半か		007
第475図18	3区	S801	瓦産陶器	灰薄し	肥前系	4.9	10.8	5.3	-	胎染染付 唐草文	17c末～18c初頃		006
第475図19	3区	S801	瓦産陶器	人形	関西系	5.6	2.5	1.7	-	透明釉 魚			006
第476図1	3区	S804	瓦産磁器	色絵蓋	肥前系	6.0	1.5	-	-	亀甲文 合子蓋 有田	17c後半		001
第476図2	3区	S813	瓦産陶器	縁水	福岡か	-	0.2	-	-				001
第476図4	3区	S814	瓦産陶器	鉢	肥前系	36.2	13.2	12.3	-	白釉毛目 二次被熱	1680～1780		001
第476図5	3区	S821	瓦産磁器	白磁鉢	肥前系	15.3	7.5	5.5	-	外面沈線 口紅	1670～1730		001
第476図7	3区	S828	瓦産磁器	染付水注	肥前系 (80)	8.4+α	5.6	-	-	鉄輪染付 志船山水文 S861と接合	1770～1810		001
第476図9	3区	S834	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	13.3	3.6	4.4	-	見込挖の目線刺ぎ 草文 2番	1680～1740		002
第476図10	3区	S834	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	7.4	4.6	3.7	-	外面薄環状 2/3残存	17c後半～18c前半		001
第476図11	3区	S834	ベトナム産陶器	碗	ベトナム	14.0	4.8	8.4	-	鉄輪印文 陶	17c中頃～後半		003
第476図12	3区	S834	瓦産磁器	色絵瓶	肥前系 (38)	14.9	5.0	-	-	網目文	17c中頃～後半		004
第476図13	3区	S834	瓦産陶器	皿	関西系か	7.2	2.2	3.6	-	輪花 S872と接合			006
第476図14	3区	S834	瓦産陶器	碗	肥前系	12.6	8.3	5.4	-	胎染染付 山水文 二次被熱	18c前半		005
第477図1	3区	S837	瓦産磁器	瓶か		-	2.6+α	-	-				003
第477図2	3区	S837	瓦産磁器	色絵人形	肥前系	4.2+α	3.2+α	2.6+α	-	磁			001
第477図3	3区	S837	瓦産陶器	碗	関西系	-	7.6+α	(5.2)	-	軟質胎陶器	16c末		002
第477図6	3区	S841	瓦産磁器	青磁小皿	関西系	-	1.9	-	-	変形皿 三田青磁			001
第477図8	3区	S848	瓦産陶器	小碗	在地か	8.2	5.3	3.3	-	イチチン掛け	19c代		001
第477図9	3区	S848	瓦産陶器	不明取手	関西系	5.4+α	2.7	1.1	-	刻印有			003
第477図10	3区	S848	瓦産陶器	人形か	備前	5.6+α	3.1+α	1.8+α	-	細工物			002
第477図12	3区	S851	瓦産陶器	餐盤	瀬戸美濃	11.3+α/4.0	4.1	11.8	-	梅花文			002
第477図13	3区	S851	土製品	人形		5.2	4.7	1.9	-	力士			001
第478図2	3区	S854	瓦産陶器	不明		6.5+α	6.2+α	2.1	-	貼付取手か			001
第478図4	3区	S861	瓦産陶器	碗	瀬戸美濃	(12.0)	7.5	5.1	-	黒色釉 華貴茶碗	18c代		001
第478図5	3区	S868	瓦産陶器	蓋	瀬戸美濃か	10.8	3.1	5.7	-	香蓋 鹿野赤切			001
第478図7	3区	S877	瓦産陶器	蓋	肥前系	13.0	3.1	5.5	-	鹿野赤切			001
第478図8	3区	S878	瓦産陶器	鉢	関西系	13.0	10.2	8.3	-	鹿野穿孔 楠木鉢に転用	19c代か		001
第478図10	3区	S882	土師質土器	横塩釜		(6.0)	10.1	5.4	-	刻印有「天下一境～」			001
第478図12	3区	S892	土製品	人形		13.2	5.5	3.8	-	頭部なし 鹿野に穿孔			001
第478図14	3区	S903	瓦産磁器	染付小皿	肥前系 (12.8)	2.6	5.4	-	-	見込異形文字	17c前半～中頃		001
第478図15	3区	S909	瓦産磁器	色絵鉢	肥前系	9.4	4.9	4.6	-	蓋付鉢 S826, S837と接合	18c代		001
第479図1	3区	S922	瓦産磁器	染付書印	肥前系	-	3.8+α	(5.2)	-	青磁染付	18c代		001
第479図2	3区	S922	土製品	人形		11.8	5.1+α	2.0+α	-	魚			002
第479図4	3区	S923	土製品	土師質土器		(5.8)	3.0	2.9	-				001

第99表 3・4区 土器・陶磁器類観察表

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分類	時期	H番号
						口径・ 最大径	最大 高さ	口径・ 最大径	口径・ 最大径				
第479図5	3区	S924	瓦産磁器	染付壺	肥前系	-	2.0+0	(2.0)	-	焼継文字有	18c代		001
第479図6	3区	S931	瓦産陶器	鉢	肥前系か	(25.2)	12.7+0	-	-	取手付			001
第479図8	3区	S956	瓦産磁器	染付数盞卓	肥前系	8.0+0	2.8+0	-	-		18c代		001
第479図10	3区	S957	瓦産磁器	染付小碗	肥前系か	(9.4)	5.3	(3.4)	-	丸網 黒屋文 焼継文字有 中国か	18c後半		001
第479図11	3区	S958	瓦産陶器	向付	關西系	-	5.0	12.5	-	軟質地陶器 鉄絵 567 と接合	18c末		001
第480図2	4区	S113	瓦産磁器	染付小皿	肥前系	(11.2)	2.5	(8.6)	-	梅花 若松文 焼継文字有	1810~1860		001
第480図7	4区	S159	瓦産磁器	青磁大皿	肥前系	(37.4)	8.2	19.3	-	高台内蛇の目輪割ぎ 折縁 見込篆文・篆文 二次被熱	1850~1880		001
第480図8	4区	S165	朝鮮産陶器	皿		-	2.1+0	6.4	-	胎土目5箇所	17c初頃		001
第480図9	4区	S183	瓦産陶器	箱蓋道具か		3.0	2.8	2.5	-				001
第480図10	4区	S192	瓦産磁器	染付小碗	關西系	(7.1)	3.4+0	-	-	魚文 澤州家写し			001
第481図1	3区	SA40-c	弥生土器か	壺		(14.0)	17.8+0	-	-	胴部に夕字方向沈線 胎入 品か			001
第482図1	3区	SE655	白磁	皿		(14.0)	2.0+0	-	-				003
第482図2	3区	SE655	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	3.5+0	-	-		17c後半~中頃か		001
第482図3	3区	SE655	青花	碗	豊後徳富	-	2.1+0	(4.4)	-	E群 二次被熱	18c中頃~後半		002
第483図1	3区	SK570	瓦産磁器	染付皿	肥前系	13.2	3.3	4.4	-	華文 見込み蛇の目輪割ぎ	1680~1740		004
第483図2	3区	SK570	瓦産磁器	白磁壺	肥前系	8.2	2.5	-	-	二次被熱			005
第483図3	3区	SK570	瓦産磁器	染付樋口	肥前系	(5.4)	3.7	3.1	-		18c代		003
第483図4	3区	SK570	瓦産磁器	色絵小碗	肥前系	8.5	5.9	5.0	-	上絵付剥落	17c後半		002
第483図5	3区	SK570	瓦産磁器	染付碗	肥前系	10.0	5.9	4.0	-	丸網 華華文 球球宛形 二次被熱	17c後半~18c前半		001
第483図6	3区	SK570	瓦産陶器	碗	肥前系	(11.2)	7.1	(4.6)	-	白胎毛徒鉄絵山水文	1690~1750		007
第483図7	3区	SK570	瓦産陶器	碗	肥前系	(11.0)	7.8	5.4	-	陶胎染付 口縁唐草文 胴 部山水文 二次被熱	18c前半		006
第483図8	3区	SK570	瓦産陶器	碗	肥前系	10.8	7.8	4.8	-	透明釉 兵器手	17c後半~18c前半		006
第483図9	3区	SK570	瓦産陶器	楕鉢	瀬戸美濃	-	2.7+0	-	-	口縁鉄絵			010
第483図10	3区	SK570	瓦産陶器	楕鉢	備前	-	3.8+0	-	-	近世3期	17c後半~18c中頃		009
第483図11	3区	SK570	瓦産陶器	瓶	備前	-	4.6+0	3.0	-	底無回転糸切り 胴部取付 付	17c末~18c前半		011
第483図12	3区	SK570	土師器	皿	在地	(10.0)	2.5	5.0	-	小皿b			012
第484図3	3区	SK575	瓦産磁器	染付小碗	肥前系	(8.8)	4.0	(3.8)	-	丸網	1710~1750		002
第484図4	3区	SK575	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	4.1+0	4.0	-	梅樹文か	18c中頃~後半		001
第484図5	3区	SK575	瓦産陶器	碗	肥前系	-	3.1+0	4.1	-	京焼風陶器	18c前半		003
第485図1	3区	SK992	瓦産磁器	染付碗	肥前系	10.7	6.0	4.2	-		18c中頃~後半		001
第485図2	3区	SK992	瓦産磁器	染付仏壇器	肥前系	(5.4)	5.5	3.5	-		18c代		002
第485図3	3区	SK992	瓦産陶器	碗	肥前系	(10.2)	4.7+0	-	-	陶胎染付	18c前半		003
第485図4	3区	SK992	土製品	人形		14.6	8.7	-	-	人物			005
第485図6	3区	SK1006	中国磁器	皿	澤州窯系	-	5.1+0	-	-				004
第485図7	3区	SK1006	瓦産磁器	染付碗	肥前系	(10.2)	5.7+0	-	-	初期伊万里 葵文	1630~1650		002
第485図8	3区	SK1006	瓦産磁器	染付碗	肥前系	-	4.5+0	5.1	-	高台砂付唐 初期伊万里	17c前半		003

第100表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 55

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2復元数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	丸み 最大径				
第485図9	3区	SK1006	国産磁器	染付碗	肥前系	(102)	6.7	5.2	-	初期伊万里 唐文	1610~1630		001
第485図10	3区	SK1006	国産陶器	皿	肥前系	(12.4)	3.2	4.3	-	砂目 反胎	1610~1650		005
第485図11	3区	SK1006	国産陶器	皿	肥前系	-	3.1+g	(9.0)	-	越前津	1594~1610		006
第485図12	3区	SK1006	国産陶器	磁鉢	肥前系	-	2.9+g	-	-		1630~1650		007
第485図13	3区	SK1006	国産陶器	水指	瀬戸美濃か	(11.4)	5.3+g	-	-		17c代		008
第485図14	3区	SK1006	土師器	皿	在地	(12.8)	2.8	(8.0)	-	皿C			009
第486図1	3区	SK1009	国産磁器	染付皿	肥前系	12.3	4.8	6.0	-	梅花 芙蓉手	17c後半~18c前半		003
第486図2	3区	SK1009	国産磁器	染付皿	肥前系	-	2.9+g	10.2	-	蛇の目凹型臺台	1740~1780		002
第486図3	3区	SK1009	国産磁器	色絵小碗	肥前系	9.9	5.5	4.0	-	丸刷 コシニヤク印判 備後し	17c後半		001
第486図4	3区	SK1009	国産陶器	碗	關西系	9.8	5.1	4.4	-	梅枝文	18c前半~中頃		004
第486図5	3区	SK1009	国産陶器	磁鉢	關西系	(28.2)	17.5	(11.4)	-	硯	18c前半~中頃		005
第486図6	3区	SK1009	土製品	人形		10.0+g	8.7+g	5.5+g	-	馬 寶形に穿孔 3区SK172と接合			008
第486図9	3区	SK1009 1層	国産磁器	染付蓋	肥前系	9.4	3.2	3.5	-	栴檀文 SK1009 2層 R002の蓋か	1670~1690		001
第486図10	3区	SK1009 1層	土師質土器	埴輪壺		(5.8)	6.9+g	-	-	鈿印有「泉州麻生」か			002
第486図11	3区	SK1009 1層	土製品	人形		5.9	7.3	1.1	-	籠			003
第486図12	3区	SK1009 2層	国産磁器	染付皿	肥前系	(14.0)	3.9	4.7	-	見込み蛇の目胎刺差	1680~1740		003
第486図13	3区	SK1009 2層	国産磁器	色絵小杯	肥前系	(5.6)	3.6	(2.2)	-		18c前半~中頃		004
第486図14	3区	SK1009 2層	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.4)	4.9+g	-	-	栴檀文	1670~1690		002
第486図15	3区	SK1009 2層	国産磁器	染付碗	肥前系	(11.4)	5.9	4.8	-	見込平書き五弁花	17c後半		001
第486図16	3区	SK1009 2層	国産磁器	染付鉢	肥前系	(12.6)	9.7	7.6	-	番付鉢	18c代		005
第486図17	3区	SK1009 2層	国産陶器	碗	肥前系	11.2	6.7	5.0	-	陶胎染付 唐草文	18c前半		006
第486図18	3区	SK1009 2層	国産陶器	火入	肥前系	10.7	7.8	5.9	-	陶胎染付 山水文	18c前半		007
第486図19	3区	SK1009 2層	国産陶器	磁鉢	關西系	(34.2)	13.9	13.4	-	底部穿孔有 榊木鉢に転用			010
第486図20	3区	SK1009 2層	国産陶器	香印か	關西系か	-	2.5+g	-	-	透かし有			008
第486図21	3区	SK1009 2層	国産陶器	花入か	關西系	-	3.1+g	1.6	-	ミニチュアか			009
第487図1	3区	SK1009 2層	瓦質土器	風炉		24.0	21.4	19.0	-	鈿印有「助右門」か 3区SK01と接合			015
第487図2	3区	SK1009 2層	土師器	皿	在地	7.9	1.3	5.8	-	小皿h スス付着 灯明皿			011
第487図3	3区	SK1009 2層	土師器	皿	在地	10.0	2.3	5.4	-	小皿h 黒変 灯明皿			012
第487図4	3区	SK1009 2層	土師質土器	埴輪		(35.0)	9.1+g	-	-	スス付着	18c前半~中頃		014
第487図5	3区	SK1009 2層	土製品	土鈴		4.8	3.4	3.8	-				013
第488図1	4区	SK220	国産磁器	染付小碗	肥前系	9.6	5.8	4.2	-	梅花文 二次被胎 釜みあけ	18c前半~中頃		001
第488図2	4区	SK220	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.0)	6.4	4.5	-	梅花 白虹 牡丹唐草文 二次被胎	18c前半~中頃		002
第488図3	4区	SK220	国産陶器	碗	肥前系	(10.2)	6.7	4.4	-	外面白網毛目	1690~1740		003
第488図4	4区	SK220	国産陶器	磁鉢	肥前系	(32.4)	13.2+g	(11.6)	-	高台欠損	18c前半~中頃		007
第489図1	4区	SK225	国産磁器	染付皿	肥前系	25.0	4.8	14.0	-	梅花 花唐草文 楕圓文字有	1810~1840		006
第489図2	4区	SK225	国産磁器	染付蓋	肥前系	8.5	2.0+g	-	-	SK225 R002の蓋			003

第101表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 56

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)				備考	分期	時期	H番号
						口径・ 最大径	最大 径6分	底径・ 最大底	片厚・ 最大厚				
第489図3	4区	SK225	国産磁器	染付壺	肥前系	12.4	2.6	-	-	取手文様			015
第489図4	4区	SK225	国産磁器	染付小坏	瀬戸美濃	(4.2)	2.4	2.2	-	コバルト藍			001
第489図5	4区	SK225	国産磁器	染付小坏	肥前系	(5.2)	2.3	2.5	-	高台内「大明成化年製」			005
第489図6	4区	SK225	国産磁器	染付小碗	肥前系	6.1	5.2	2.6	-	花卉・蝶文 藍本か			004
第489図7	4区	SK225	国産磁器	青磁小坏	肥前系	6.5	5.0	3.1	-	外面青磁 口紅			006
第489図8	4区	SK225	国産磁器	染付碗	肥前系	10.2	5.7	4.1	-	瑠璃反網 楕圓・扁楕文 ほぼ完成形	1820~1880		002
第489図9	4区	SK225	国産磁器	瑠璃釉瓶	肥前系	1.8	7.1+a	-	-				007
第489図10	4区	SK225	国産陶器	皿	關西系	(12.2)	4.4	5.2	-	八角皿 縁飾 奥込目跡4 線押有			009
第489図11	4区	SK225	国産陶器	皿か鉢	關西系か	-	2.8+a	6.9	-	高台内墨書有「Bランク急須 に同墨書」			010
第489図12	4区	SK225	国産陶器	淺鉢	肥前系	32.6	14.9	16.9	-	タタキ成形 全面鉄釉	18c前半		011
第489図13	4区	SK225	瓦質土器	火鉢		34.8	11.8	23.8	-				012
第489図14	4区	SK225	土師質土器	日皿		(7.6)	1.2	(3.0)	-	皿状			013
第491図1	4区	SK235	国産磁器	染付碗	肥前系	-	2.8+a	(3.0)	-	福壽字 捺線文字有	18c代		001
第491図2	4区	SK235 2階	国産磁器	染付碗	肥前系	10.4	6.1	3.7	-	瑠璃反網 磁文文 墨みあぶり	1820~1880		001
第491図3	4区	SK235 3階	国産陶器	楕木鉢	瀬戸美濃	-	5.9+a	(13.6)	-	外面縁飾・捺刺文 見込砂目	18c後半~18c中頃		001
第492図1	3区	SK580	国産陶器	皿	肥前系	(10.8)	3.0	3.9	-	楕形色釉 砂目	1810~1850		001
第492図2	3区	SK580	国産陶器	皿	肥前系	11.0	2.9	3.9	-	絵唐津 胎土目 ほぼ完成形	1594~1610		002
第492図3	3区	SK1127	土師器	小皿	在地	(8.0)	1.2	(5.8)	-	底面回転糸切り跡L 小皿	15c代		001
第492図4	3区	SK1127	白色研澄土器	碗		-	2.1+a	(6.4)	-		11c~12c		002
第492図5	3区	SK1127	土師器	甕		(40.6)	15.7+a	-	-				003
第492図6	3区	SK1127	土師器	碗		(30.0)	15.3+a	-	-	鍋A			004
第493図1	3区	SD595	国産陶器	皿	肥前系	(30.4)	8.4+a	-	-	印花文 三鳥手	1650~1690		003
第493図2	3区	SD595	国産陶器	碗	瀬戸美濃	(11.0)	5.3+a	-	-	鉄釉 天目	17c前半~中頃		002
第493図3	3区	SD595	国産陶器	碗	肥前系	(12.6)	7.3	4.8	-	楕形色釉	1650~1690		001
第493図4	3区	SD595	土師器	皿	在地	10.5	1.8	7.4	-	小皿B スス付着 灯明皿			004
第493図6	3区	SD615	瓦質土器	淺鉢	防長系	-	4.2+a	-	-	16c代			001
第493図7	3区	SD615	瓦質土器	火鉢		-	4.2+a	(21.0)	-	深鉢形			002
第493図8	3区	SD620	白磁	碗	中国	-	1.8+a	-	-	見込蛇の目輪刺ぎ			002
第493図9	3区	SD620	青磁	碗	同安窯系	(12.4)	2.1+a	-	-	I-1-C			001
第493図10	3区	SD620	黒色土器	碗		-	2.8+a	-	-				003
第493図11	3区	SD620	土師器	坏	在地	-	0.9+a	(6.0)	-	坪B 底面回転糸切り跡L			004
第493図12	3区	SD625	白磁	碗	中国	-	2.3+a	(7.2)	-	IV類			003
第493図13	3区	SD625	国産磁器	染付瓶か	肥前系	-	1.5+a	-	-	口縁部のみ	17c代か		002
第493図14	3区	SD625	国産磁器	染付仏飯器	肥前系	-	2.6	-	-	雨降文 墨入か	18c代		001
第493図15	3区	SD625	土師器	皿	在地	(9.0)	2.6+a	-	-	スス付着 皿C			004
第494図1	3区	SD630	国産磁器	染付小皿	肥前系	(15.0)	3.3	(5.6)	-	風蓮	17c中頃		002

第102表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 57

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2復元数値				備考	分期	時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径				
第494図2	3区	SD630	国産磁器	染付小碗	肥前系	8.1	3.9	2.5	-	原文	17c中頃		001
第494図3	3区	SD630	中国磁器	白磁壺	中国	(8.8)	4.6+α	-	-		1680~1780		003
第494図4	3区	SD630	国産陶器	碗	肥前系	(12.0)	7.9	5.4	-	緑青色釉	1650~1690		004
第494図5	3区	SD630	国産陶器	碟鉢	備前	(31.8)	11.7+α	-	-	近世末期			005
第494図6	3区	SD630	土師器	皿	在地	(10.8)	2.6	(4.8)	-	皿C			006
第494図7	3区	SD630	土師器	皿	在地	(10.4)	1.8	(6.0)	-	皿B			007
第494図10	3区	SD635	国産磁器	染付小碗	肥前系	(8.8)	4.3+α	-	-	丸眼	17c後半~18c前半		001
第494図11	3区	SD635	国産陶器	皿	肥前系	(11.5)	3.0	4.9	-	砂目	1650~1690		002
第495図2	4区	SD227	国産陶器	皿	肥前系	-	2.2+α	-	-	口縁部片 内面白釉毛目	17c後半~18c中頃		001
第496図1	3区	SF335焼出坪	中国磁器	皿	景德鎮東	-	1.8+α	(9.2)	-	E群			001
第496図2	3区	SF335 トレン 子	白磁	皿か	産地不明	(15.0)	2.3+α	-	-				001
第496図3	3区	SF335 トレン 子	瓦質土器	双耳釜		-	6.0+α	-	-	スス付着			002
第496図4	3区	SF335南朝ベ ルト5~9層	白磁	皿		-	1.8+α	-	-	体部片 E-4類			001
第496図5	3区	SF335南朝ベ ルト5~9層	青磁	碗	同安窯系	-	2.3+α	-	-	I-1bか			002
第496図6	3区	SF335南朝ベ ルト5~9層	緑釉陶器	皿		-	1.3+α	-	-	口縁部片			003
第496図7	3区	SF335南朝ベ ルト5~9層	瓦器	碗		-	0.8+α	(4.1)	-				004
第496図8	3区	SF335南朝ベ ルト5~9層	漢唐瓦土器	鉢	東播系	(16.8)	2.7+α	-	-		11~14c		005
第496図10	3区	SF335南朝ベ ルト8層	国産陶器	碗	肥前系	(8.8)	3.7	(3.8)	-	反胎 胎土目	1584~1610		001
第496図11	3区	SF335南朝ベ ルト8層	土師器	皿	在地	(10.2)	3.6	(6.0)	-	皿C			002
第496図12	3区	SF335南朝ベ ルト9層 +S256+S903	国産磁器	色絵瓶	肥前系	-	6.5+α	5.5	-	撰砂 高台内砂付着 3区 S018.SK201.S301.S859と接 合	1630~1650		001
第496図13	3区	SF335南朝ベ ルト10層	土師瓦土器	火鉢		-	5.6+α	(33.0)	-	内面黒斑 深鉢型			001
第496図14	3区	SF335南朝ベ ルト11~12層	土師器	皿	在地	(13.4)	2.4	-	-	皿C			001
第496図15	3区	SF335北朝ベ ルト11~12層	国産陶器	筆立	関西系	-	5.6+α	(3.6)	-	竹筒状			002
第496図16	3区	SF335北朝ベ ルト11~12層	中国磁器	皿	津州窯系か	-	2.0+α	-	-	口縁部片			001
第496図17	3区	SF335北朝ベ ルト17~18層	国産陶器	碟鉢	備前	-	2.3+α	-	-				001
第496図18	3区	SF335北朝ベ ルト19~20層	白磁	碗		(14.0)	2.6+α	-	-	口縁部片 厚唇			001
第496図19	3区	SF335北朝ベ ルト19~20層	土師瓦土器	鍋		(36.4)	3.2+α	-	-	鍋A			002
第497図1	3区	SD600	国産陶器	皿	瀬戸美濃	(14.6)	2.8	(8.4)	-	見込蛇の目輪割ぎ	17c中頃~後半		001
第497図4	3区	SD645	国産磁器	染付碗	肥前系	-	2.3+α	(4.2)	-	底部のみ	17c前半		001
第497図5	3区	SD645	青花	碗	津州窯系	(12.0)	6.0	(4.6)	-	C群 凸葉葉文	15c後半		002
第497図6	3区	SD645	国産陶器	碗	瀬戸美濃	-	2.2+α	4.3	-	底部のみ 天目			003
第497図7	3区	SD645	国産陶器	甕	備前か	-	6.6+α	-	-				004
第497図8	3区	SD645	土師器	皿		(12.2)	2.6+α	-	-	皿C			005
第497図9	3区	SD650	青花	皿	景德鎮窯	-	1.7+α	-	-	口縁部片 B群か	15c後半~16c後半		001
第497図10	3区	SD650	青花	碗	津州窯系	-	2.0+α	(4.6)	-	底部のみ			002
第497図12	3区	SD650 上層	青花	碗	景德鎮窯	11.8	6.2	(4.4)	-	E群	16c中頃~		001

第103表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 58

図録番号	調査区	遺構番号	種類	器種	産地	法量(cm)		口徑(mm)		備考	分類	時期	H番号
						口徑 最大径	高さ 最大径	口徑 最大径	口徑 最大径				
第497図13	3区	SD650 上層	貴花	碗	津州窯系か	(15.8)	4.6+0	-	-				002
第497図14	3区	SD650 上層	国産陶器	皿	肥前系	-	1.4+0	-	-				16c末～17c初頃
第497図15	3区	SD650 上層	国産陶器	椀鉢	備前	-	6.6+0	-	-				近世早期
第497図16	3区	SD650 上層	国産陶器	椀鉢	備前	-	5.0+0	-	-				中世末期
第497図17	3区	SD650 上層	瓦質土器	灰耳釜		12.4	15.9+0	-	-				16c代
第497図18	3区	SD650 上層	土師器	皿	在地	(15.6)	2.4+0	-	-				皿C
第497図19	3区	SD650 上層	土師質土器	フイゴ羽口		7.1+0	4.0+0	5.0+0	-				外面被熱でガラス質化
第497図20	3区	SD650 下層	貴花	碗	唐徳窯系	-	1.1+0	-	-				E群
第497図21	3区	SD650 下層	瀬原質土器	片口鉢		(30.2)	3.3+0	-	-				14c代
第498図1	3区	SX565	国産磁器	染付小碗	肥前系	(7.0)	3.4	3.2	-				窓文
第498図2	3区	SX565	国産磁器	染付小碗	肥前系	7.9	4.9	3.0	-				丸碗 格子地に丸文 変形二次被熱
第498図3	3区	SX565	国産磁器	染付碗	肥前系	(7.8)	4.2+0	-	-				筒型碗
第498図4	3区	SX565	国産磁器	染付碗	肥前系	11.0	6.0	4.5	-				丸碗 望料形 樹木文
第498図5	3区	SX565	国産磁器	染付仏飯器	肥前系	(7.0)	6.1	4.2	-				麻葉文
第498図6	3区	SX565	国産陶器	小碗	関西系	8.4	5.6	3.4	-				楕円型
第498図7	3区	SX565	国産陶器	碗	関西系	(10.8)	6.7	(4.8)	-				色絵 渡千鳥
第498図11	3区	SX565 2層	国産磁器	瑠璃釉皿か	肥前系	-	3.4+0	-	-				体部釉粒 肩部瑠璃釉
第498図12	3区	SX565 2層	国産陶器	碗	関西系	-	1.9+0	4.8	-				筒型
第498図13	3区	SX565 2層	国産陶器	碗	肥前系	-	3.4+0	-	-				陶胎染付 唐草文
第498図14	3区	SX565 3層	国産磁器	染付碗	肥前系	(10.0)	4.5+0	-	-				梅花文
第498図15	3区	SX565 裏込	国産陶器	碗	肥前系	(10.6)	5.4+0	-	-				陶胎染付
第499図1	3区	SX590	国産磁器	白磁小坪	肥前系	(5.4)	2.1+0	-	-				口紅 白土技法
第499図2	3区	SX590	国産磁器	染付碗	肥前系	10.2	5.6	4.2	-				丸碗 窓文
第499図3	3区	SX590	国産磁器	染付仏飯器	肥前系	(8.3)	0.3	4.0	-				山水か
第499図4	3区	SX590	国産陶器	碗	肥前系	(11.2)	4.8+0	-	-				陶胎染付 山水文
第499図5	3区	SX590	国産陶器	椀鉢	産地不明	(30.2)	7.2+0	-	-				楕円か
第499図6	3区	SX590	国産陶器	水差	肥前系	(8.0)	3.5+0	-	-				仄輪 楕円か
第499図7	3区	SX590	土師質土器	焙烙		-	5.4+0	-	-				外面スリ付着
第499図9	3区	SX590 裏込	国産磁器	染付樋口	肥前系	-	1.8+0	3.3	-				透部のみ 松竹梅文
第500図1	3区	S1187	土師器	皿	在地	(10.6)	2.7	-	-				皿C 厚手
第500図2	3区	S1187	土師器	皿	在地	11.4	2.4	-	-				皿C 厚手
第500図3	3区	S1187	国産陶器	皿	肥前系	10.6	3.4	5.5	-				津津津 唐人古場窯系
第500図4	3区	S1187	国産陶器	碗	肥前系	(11.6)	-	-	-				津津津 鉄輪
第500図5	3区	S1187	国産陶器	向付	肥前系	(14.6)	4.8	(5.4)	-				経唐津
第500図6	3区	3区 SK498-S1118 7+4区S026	国産陶器	碗	瀬戸奥津	(11.2)	7.8	(5.6)	-				瀬戸系 高台露胎 茶付茶 付身付 変型型(長次郎仁) 通
第500図7	3区	S1187	国産陶器	火入	肥前系	(11.2)	-	-	-				津津津

第104表 3・4区 土器・陶磁器類観察表 59

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(mm) J2値充数値				備考	分類 時期	内番号
						口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	片厚 最大径			
第501図1	3区	S971	国産陶器	皿	肥前系	14.0	3.5	4.8	-	胎土目 鉄粒	1594~1610	001
第501図2	3区	S973	土師瓦土器	炊埴釜蓋		8.4	1.1	-	-	花壇壺蓋「赤んぼん七度 本やき志本」		001
第501図3	3区	S997	土師器	坏	在地 (15.6)	3.6	5.8	-	-	坏a	9c代	001
第501図4	3区	S997	土師器	製埴土器		-	4.6+a	-	-			002
第501図5	3区	S1144	国産陶器	香炉か	肥前系か	-	4.9+a	(8.6)	-		17c後半か	001
第501図6	3区	S1173	土師器	壺		(14.2)	12.5	-	-	小型丸底壺	古墳時代	001
第501図7	3区	S1191	国産陶器	小瓶	肥前系	-	5.0+a	4.1	-	瓦胎 口部縁欠損	1594~1610	001
第501図8	3区	S1192	国産磁器	色絵水筒	肥前系	7.4+a	5.9+a	3.1	-	福刺		001
第501図9	3区	S1222	国産陶器	罌	常滑	-	2.9+a	-	-		13c代	001
第502図1	4区	S215	国産磁器	染付鉢	肥前系 (15.2)	9.3	(6.8)	-	-	口縁渦文 横線文字有	18c後半~19c前半	001
第502図2	4区	S215	国産磁器	染付段重	肥前系 (12.2)	4.3+a	-	-	-	梅花文 焼成不良		002
第502図3	4区	S219	国産磁器	珐瑯鉢ニ チュア製	肥前系	2.8	2.0	1.4	-	外面珐瑯貼 宛形		001
第502図4	4区	S229	国産陶器	鉢	瀬戸美濃 (16.6)	7.8	(10.9)	-	-	透明胎 口縁部指押丸		001
第503図1	3区	S056+S059	国産磁器	染付碗	肥前系	10.9	5.8	4.2	-	強反碗 違弁文 二次被熱	1820~1860	001
第503図2	3区	S165+S516	国産磁器	染付鉢	肥前系 (12.0)	5.8+a	-	-	-	有田 口縁部西方禪文 二 次被熱	18c中頃	001
第503図3	3区	S482+S819	国産陶器	覆鉢	肥前系 (19.6)	7.3	7.2	-	-	口口成形 鉄胎	17c中頃	001
第503図4	3区	S488+S503+ S648	国産磁器	染付火入	肥前系	10.0	7.5	8.3	-	内面堆積物有 蛇の目凹 黒台	18c中頃	001
第503図5	3区	S488+S506	国産陶器	茶入	瀬戸か (3.4)	10.0	(4.4)	-	-	青黒茶入 底部回転糸切	17c代か	001
第503図6	3区	S536+S556+ S616	国産磁器	染付鉢	肥前系 (14.2)	9.9	6.2	-	-	横線底有 外面波線 口鉄		001
第503図7	3区	S556+S562	国産陶器	罌	肥前系 (11.6)	14.1	8.3	-	-	鉄胎 口口成形		001
第503図8	3区	S503+S506	国産陶器	鉢	肥前系 (34.0)	9.6+a	-	-	-	白化胚土 二彩手	17c後半~18c中頃	001
第503図9	3区	S558+S562	国産磁器	色絵小坏	肥前系 (5.8)	2.9	1.8	-	-	外側面に海老文		002
第503図10	3区	S558+S562	国産磁器	白磁壺	肥前系 (6.8)	3.9	-	-	-	壺の蓋 壺胎部に泥付着	17c後半	001
第503図11	3区	S752+S753	国産陶器	鉢(香炉か)	關西系 (21.4)	9.2+a	-	-	-	細部欠損 志野か		001
第503図12	3区	S786+S869	国産磁器	白磁小坏	肥前系	4.4	2.4	1.9	-	梅花 ミチュアか 上唐室		002
第503図13	3区	S786+S869	国産磁器	染付小瓶	肥前系	8.5	4.7	3.5	-	丸頸 唐草文 二次被熱	1700~1750	001
第503図14	3区	S823+S837	国産磁器	染付壺	肥前系 (25.6)	5.3	14.6	-	-	菊花文 目録4箇所 二 次被熱	18c代	001
第504図1	3区	横出時	国産磁器	染付煙管	肥前系	5.8	1.4	-	-	煙管		001
第504図2	3区	横出時	国産陶器	向付	磁部	12.5	10.9	5.0	-	漆浮完形 鉄胎 縁部指 分け	17c前半	002
第504図15	3区	2面横出時	国産磁器	色絵 灯台神 瓦	肥前系	4.0+a	3.0	-	-	唐入 頸部欠損 黒砂	17c前半~中頃	001

第105表 3・4区 瓦類観察表1

図面番号	調査区	通称番号	種類	法量(cm), 以復元数値			粘土	文様	備考	分類 時期	I番号	
				口径・ 最大長	径差・ 最大短	厚さ・ 最大厚						
第338図5	3区	SE00	平瓦	15.4	7.8+0	1.9	白色粒子		刷印有「軍」キウコ		005	
第338図15	3区	SE040	平瓦	4.8+0	7.2+0	1.6	白色粒子・長石		刷印有		007	
第338図16	3区	SE040	埴	6.3+0	7.0+0	3.2	白色粒子・長石・鉄分				008	
第342図5	4区	SE006并筒内	軒平瓦	14.0+0	22.0	1.7	長石・白色粒子・黒色 粒子	横文	横文系		005	
第342図6	4区	SE006并筒内	軒平瓦	25.1	21.2	1.5	長石・白色粒子・黒色 粒子・少鉄			D類か	006	
第342図8	4区	SE008裏込	軒平瓦	4.9+0	12.4+0	1.5	白色粒子・黒色粒子・ 長石		五重唐草文		001	
第345図10	3区	SK070	埴か	13.4+0	1.4+0	2.0	白色粒子・長石・黒色 粒子		穿孔有		044	
第345図11	3区	SK070	鬼瓦	15.0+0	9.4+0	3.6	鉄分・長石・角閃石				043	
第345図12	3区	SK070	軒丸瓦	19.6+0	8.4+0	1.8	白色粒子・長石	巴文	巴反時計回り コビ キヨ	TC類か	041	
第345図13	3区	SK070	軒平瓦	5.2+0	3.4+0	1.4	白色粒子・長石・角閃 石		楕圓状文		E-0類	042
第349図1	3区	SK075	軒丸瓦	1.8+0	9.8	1.8	白色粒子・長石	巴文	巴反時計回り		TB類か	037
第349図2	3区	SK075	軒平瓦	5.7+0	4.3	1.8	白色粒子・長石		楕圓状文		E-4類	034
第349図3	3区	SK075	軒平瓦	6.0+0	3.3	1.5	白色粒子・鉄分		三重文		D-1類	035
第349図4	3区	SK075	丸瓦	12.9+0	13.3	2.0	白色粒子・黒色粒子・ 長石		刷印有「助之丞」		036	
第349図5	3区	SK075	平瓦	18.3+0	15.1+0	1.3	長石		刷印有		038	
第351図14	3区	SK080	軒丸瓦	2.2+0	13.3+0	-	白色粒子・長石	巴文	巴反時計回り		TK類か	018
第352図1	3区	SK080	軒丸瓦	7.0+0	13.0	1.5	白色粒子・鉄分	巴文	巴反時計回り 横文 15		016	
第352図2	3区	SK080	軒丸瓦	1.22	14.1	1.7	白色粒子・黒色粒子・ 長石	巴文	巴反時計回り 横文 16背面穿孔有 未 開通		TE類	017
第355図2	3区	SK090	軒丸瓦	2.73	12.6	1.6	長石・白色粒子	巴文	瓦跡1/3残存 コビ キヨ		050	
第355図3	3区	SK090	軒平瓦	10.6+0	4.6	1.8	白色粒子・長石		五重唐草文		A類	051
第355図4	3区	SK090	瓦玉	4.6	4.2	1.8					052	
第356図13	3区	SK095	軒丸瓦	1.8+0	12.9	1.8	白色粒子・黒色粒子・ 長石	巴文	巴反時計回り 横文 13		012	
第359図3	4区	SK095	軒丸瓦	16.6+0	14.6	1.8	白色粒子・黒色粒子・ 長石	巴文	刷印有「助之丞」 巴時計回り コビキ ヨ		003	
第365図12	3区	SK042	軒平瓦	9.0+0	4.9+0	1.8	白色粒子・黒色粒子	横状文	刷印有 瓦当裏側 イナ子		062	
第365図13	3区	SK042	横瓦	9.1+0	7.2+0	1.7	白色粒子・黒色粒子・ 長石		刷印有「因」		079	
第366図1	3区	SK042	横瓦	35.5+0	2.9+0	1.8	白色粒子・黒色粒子・ 長石		刷印有「因」		078	
第366図2	3区	SK042	横瓦	24.6	3.4+0	1.9	白色粒子・鉄分		刷印有「能保」キウ コ		080	
第366図3	3区	SK042	横瓦	27.6	4.6+0	1.9	白色粒子・長石		刷印有「大」		081	
第369図4	3区	SK055	軒平瓦	91.7+0	3.1	1.4	長石・角閃石白色粒 子	三重唐草文	瓦当裏側イナ子		B類	086
第369図5	3区	SK055	丸瓦	18.6	11.7	1.3	白色粒子		コビキヨ		067	
第370図11	3区	SK109	埴瓦か	27.4+0	38.6+0	2.3	白色粒子・鉄分		刷印有 キウコ		007	
第371図1	3区	SK125	軒平瓦	7.4+0	4.8	1.8	白色粒子	花卉状文	キウコ		H類	003
第371図10	3区	SK135	横瓦	23.0+0	2.2+0	2.2	白色粒子・長石・角閃 石		鉄釘残存		011	
第371図11	3区	SK135	軒丸瓦	4.0+0	3.1+0	-	白色粒子・長石・角閃 石	巴文	巴時計回り		TM類か	009
第371図12	3区	SK135	軒丸瓦	2.9+0	13.4	2.1	白色粒子・長石	巴文	横文16 巴反時計 回り		TB類	008

第106表 3・4区 瓦類観察表2

図録番号	調査区	遺構番号	種類	法面(mm) 1/2程度取付			胎土	文様	備考	分類	時期	P番号
				白色・黒色・赤色	白色・黒色・赤色	白色・黒色・赤色						
第371図1	3区	SK135	軒平瓦	72+0	54+0	20	白色粒子・黒色粒子・鉄分・長石・角閃石	五葉桐葉文	瓦当裏強いナシ	A類		010
第374図1	3区	SK172	鹿瓦	25.8	49.2	75	白色粒子・長石	丸に五引				063
第376図3	3区	SK201	葺か	8.5	5.1	42						027
第376図4	3区	SK201	瓦玉	5.7	5.7	20						026
第378図9	3区	SK268	軒平瓦	82+0	(4.4)	1.7	白色粒子	雄鷹伏文	横成不良	E-4類		005
第378図10	3区	SK268	軒平瓦	77+0	4.9	1.9	白色粒子・黒色粒子・長石	雄鷹伏文	瓦当上縁丸み	E-2類		006
第380図1	3区	SK290	軒丸瓦	59+0	12.7	1.8	白色粒子	巴文	巴反轉針回り 雄文12か 文様面に穿孔有			033
第380図2	3区	SK290	軒平瓦	3.4	83+0	-	白色粒子・鉄分・長石・角閃石		中心部1層欠損 瓦当上辺面取付			032
第380図10	3区	SK315	瓦玉	5.9	6.0	1.7			打ち欠き後継り調整			007
第380図25	4区	SK033	軒丸瓦	2.8+0	13.0	1.8	白色粒子・長石	巴文	巴反轉針回り 雄文12			011
第380図28	4区	SK035	軒丸瓦	92+0	15.0+0	1.7	白色粒子・長石・黒色粒子	巴文	巴反轉針回り			009
第380図29	4区	SK035	軒平瓦	81+0	9.5+0	1.6	白色粒子・黒色粒子		刷印「龍書」	0類か		007
第380図30	4区	SK035	軒平瓦	121+0	8.2+0	1.6	白色粒子・黒色粒子	非龍文	瓦当裏キウコ			008
第380図31	4区	SK035	軒平瓦	85+0	19.5+0	1.8	白色粒子・黒色粒子・長石			0類か		006
第380図32	4区	SK035	棧瓦	101+0	6.6+0	1.6	白色粒子・黒色粒子・長石		刷印有			004
第380図33	4区	SK035	棧瓦	16.6+0	10.6+0	1.5	白色粒子・黒色粒子・長石		刷印有「細仙」か			005
第380図34	4区	SK035	平瓦	130+0	6.3+0	2.1	白色粒子		刷印有「神」			002
第380図35	4区	SK035	平瓦	120+0	16.5+0	1.4	黒色粒子		刷印有「青」か			003
第381図16	3区	SX150	平瓦	45+0	82+0	1.7			刷印有「神」 二次加工			002
第388図6	3区	SX255	軒平瓦	69+0	5.1	1.8	白色粒子	花卉伏文	キウコ	H類		003
第389図6	3区	SX100	軒丸瓦	23+0	14.1	-	白色粒子・鉄分	巴文	巴反轉針回り 雄文15	TE類		006
第390図19	3区	SX005裏込	軒平瓦	172+0	(4.2)	1.8		六葉花卉伏文		G類		008
第393図8	3区	SX170裏込	丸瓦	6.8+0	8.1+0	2.0	白色粒子・長石		刷印有「胎右門」			019
第393図9	3区	SX170裏込	平瓦	67+0	8.3+0	1.8	白色粒子・長石・黒色粒子		刷印有「平」			020
第396図1	3区	SX120	軒平瓦	28.5	4.7	2.1	白色粒子・長石	雄鷹伏文	P-3	E-1類		001
第397図2	3区	S001	鹿瓦	27.8	48.3	7.2	白色粒子・黒色粒子	釘抜文	注ほ宛形			002
第397図6	3区	S006	棧瓦	16.5	9.1	1.5	白色粒子・黒色粒子		刷印有山に「フ」			001
第398図1	3区	S013	鑄型	11.3	4.7	1.5			平瓦転用 成子鑄型			005
第399図12	3区	S018	不明	52+0	3.6+0	1.7			西洋瓦か 陽刻有「J」			012
第400図4	3区	S033	瓦玉	8.1	1.5	-			中央穿孔有			001
第400図7	3区	S034	鹿瓦	22.1	25.2	7.8	白色粒子・長石	釘抜文	下面連続残存			003
第400図8	3区	S034	隅瓦	32.5	35.5	5.0	白色粒子・長石	六葉花卉伏文	キウコ	G-2類		004
第404図1	3区	S073	丸瓦	10.3+0	11.5+0	1.7	白色粒子・鉄分		刷印有			001
第405図13	3区	S112	軒丸瓦	-	12.5	2.2	角閃石・長石	巴文	巴轉針周り			001
第405図14	3区	S112	棧瓦	24.0+0	19.8	1.7	白色粒子		刷印有「市」キウコ			002
第406図6	3区	S157	平瓦か	15.2+0	132+0	1.9	白色粒子・長石		刷印有「細瓦踏平右門踏～」			001

第107表 3・4区 瓦類観察表3

国産番号	調査区	通称番号	種類	法量[cm], 以復元数値			胎土	文様	備考	分類 時期	I号数
				口径・ 最大長	深さ・ 最大幅	底径・ 最大長					
第406図18	3区	S165	瓦玉	2.7	3.3	1.5					005
第406図25	3区	S173	鯖型	9.8	4.8	2.9			次子鯖型 転用		004
第406図28	3区	S177	平瓦か	6.6	4.2	1.3			二次加工		003
第412図24	3区	S266	軒平瓦	23.3+a	2.9+a	2.0	白色粒子・黒色粒子・ 長石	雄鷹状文	刷印有「助右門」	E-1類	001
第413図2	3区	S269	埴	14.5+a	8.0	3.5	白色粒子・長石・鉄分・ 角閃石				002
第413図6	3区	S275	鬼瓦	7.1+a	4.6+a	2.0	白色粒子・鉄分・長石・ 角閃石		透かし有		002
第414図2	3区	S291	丸瓦	17.2+a	9.1+a	2.0	白色粒子・長石・角閃石		刷印有「助ノ丞」		004
第415図20	3区	S424	鯖型	7.0	2.9	1.9			次子鯖型 2面使用		001
第416図17	3区	S477	平瓦	8.75+a	5.4+a	1.6			二次加工 沈線		004
第417図2	3区	S488	鮎瓦	10.3+a	9.6+a	1.6					002
第421図2	4区	S205	棟瓦か	49.8	70.1	2.2			裏面に線刻		001
第423図7	3区	SE385	不明	6.4+a	7.0+a	2.2			硬か		010
第427図7	4区	SE190薬込	軒平瓦	16.7+a	14.8+a	1.7	白色粒子・黒色粒子・ 長石	花卉状文		H類	004
第429図14	3区	SK435	軒丸瓦	2.3+a	7.8+a	-	白色粒子・長石	巴文	巴罫計回り		014
第431図7	3区	SK335	鯖型か	6.0+a	5.5+a	1.9					039
第431図8	3区	SK335	鮎瓦	10.8+a	15.4+a	3.0	白色粒子・黒色粒子・ 長石		顔部分		037
第431図9	3区	SK335	鮎瓦	9.4+a	9.4+a	3.7	白色粒子・長石		体部		038
第431図10	3区	SK335	軒平瓦	9.0+a	2.7	1.5	白色粒子・長石	三葉朝葉文	ヨコナデ	B類	031
第431図11	3区	SK335	軒平瓦	4.7+a	3.0	1.2	白色粒子・長石・角閃石	三葉朝葉文	ヨコナデ 木目模様 る	C類	032
第431図12	3区	SK335	軒平瓦	6.4+a	3.7	1.6	白色粒子・長石・角閃石・ 黒色粒子	雄鷹状文	瓦当裏工具ナデ	E-3類	033
第431図13	3区	SK335	軒平瓦	9.5+a	4.9	1.7	白色粒子	花卉状文	キラコ	H類	034
第431図14	3区	SK335	棟瓦	34.3+a	2.6+a	2.0	白色粒子・黒色粒子		刷印有「権〜」		036
第431図15	3区	SK335	棟瓦	25.3	23.3+a	1.8	白色粒子・長石・角閃石		刷印有 判別不明		035
第432図10	3区	SK994/SK335 (1層)	軒丸瓦	2.3+a	17.1	-	白色粒子・長石	巴文	巴文反罫計回り 罫文 15 キラコ		011
第432図21	3区	SK926/SK335 (2・3層)	小籠瓦	9.7	3.5+a	1.4	白色粒子・長石	菊花文			010
第432図22	3区	SK926/SK335 (2・3層)	鯖型	11.1	4.9	1.5			次子鯖型 平瓦の2 次加工品		011
第435図6	3区	SK340	鮎瓦	32.8+a	17.6+a	8.0+a	白色粒子・鉄分・長石・ 角閃石		顔部		068
第435図7	3区	SK340	鮎瓦	11.7+a	13.3+a	20.9+a	白色粒子・鉄分・長石・ 角閃石		尾部		071
第435図8	3区	SK340	軒丸瓦	7.8+a	7.9+a	1.9	白色粒子・鉄分・長石	巴文	巴文罫計回り コビ キヨ		066
第435図9	3区	SK340	軒丸瓦	11.5+a	7.9+a	1.9	白色粒子・長石	巴文	巴文反罫計回り コビ キヨ		067
第435図10	3区	SK340	軒平瓦	8.0+a	2.9+a	1.6	白色粒子・長石・角閃石	三葉朝葉文		B類	063
第435図11	3区	SK340	軒平瓦	3.8+a	3.4	1.4	白色粒子・長石・角閃石	雄鷹状文		E-8類	065
第435図12	3区	SK340	軒平瓦	10.4+a	3.1+a	1.5	白色粒子・長石	三葉文	瓦当裏儀ノナデ	D類	064
第435図13	3区	SK340	平瓦	6.9+a	10.2+a	1.9	白色粒子・長石		刷印有「助之丞」		062
第435図14	3区	SK340	瓦玉	5.0	5.2	1.7					069
第436図9	3区	SK345	棟瓦か	68.7+a	15.5+a	14.7					011

第108表 3・4区 瓦類観察表4

図番番号	調査区	遺構番号	種類	法面(mm)			胎土	文様	備考	分類	時期	図番号
				口径・長さ	高さ・厚さ	底径・底長さ						
第436図10	3区	SK345	横瓦	8.3+0	4.8+0	1.6	白色粒子・鉄分		刷印有「和」か			008
第436図11	3区	SK345	横瓦	25.2	15.5+0	1.4	白色粒子・長石		刷印有「船塚」			009
第441図17	3区	SK475	軒丸瓦	2.8+0	11.4+0	-	白色粒子・黒色粒子・長石・角閃石	巴文	巴反時計回り			035
第441図18	3区	SK475	軒平瓦	8.0+0	3.1+0	1.4	白色粒子・黒色粒子・鉄分・長石	三葉桐葉文	瓦当裏強いナ子	C-2類		037
第441図19	3区	SK475	軒平瓦	6.9+0	3.5	1.45	白色粒子・黒色粒子・鉄分	雄鷹伏文	瓦当裏工具ナ子	E-6類		038
第441図20	3区	SK475	軒平瓦	9.2+0	3.4+0	1.5	白色粒子	三葉文	瓦当裏強いナ子 瓦当上辺取付	D類か 中心磨り下 に珠文		038
第443図14	3区	SK505	軒平瓦	8.8+0	4.8	1.8	白色粒子・黒色粒子	花卉伏文	瓦当裏強いナ子	H類		028
第445図14	3区	SK543	鯉瓦か	6.9+0	4.2+0	3.8+0						036
第445図15	3区	SK543	小菊瓦	8.2	8.1	1.3	白色粒子・長石					035
第450図12	3区	SK759	亀瓦	7.4+0	14.6+0	4.9	白色粒子・黒色粒子・長石・角閃石					018
第450図13	3区	SK759	軒丸瓦	10.8+0	14.0	1.8	白色粒子・長石・角閃石	巴文	巴反時計回り 珠文16	TB類		017
第450図14	3区	SK759	軒丸瓦	13.8+0	17.8	2.4	白色粒子・長石・鉄分・角閃石	巴文	巴反時計回り 珠文10か			016
第450図15	3区	SK759	軒平瓦	13.0+0	12.0+0	1.5	白色粒子・黒色粒子・長石・角閃石	三葉桐葉文			B類	013
第450図16	3区	SK759	軒平瓦	16.0+0	14.6+0	1.7	白色粒子・長石・鉄分	三葉文	内面木目歯 瓦当裏強いナ子	D-2類		014
第450図17	3区	SK759	軒平瓦	12.8+0	17.1+0	2.2	白色粒子・長石	横文	瓦当上辺取付 磨入か			015
第450図18	3区	SK759	軒平瓦	12.7+0	23.0+0	2.1	白色粒子・黒色粒子・長石・角閃石	五葉桐葉文			A類	012
第453図20	3区	SK787	軒平瓦	9.4	8.4	3.6		三葉文			D-1類	021
第454図11	3区	SK897	軒平瓦	10.0+0	3.5	1.5	白色粒子・長石	三葉桐葉文	瓦当裏強いナ子	C-2類		003
第456図2	4区	SK140	軒丸瓦	7.0+0	14.7	1.6	白色粒子・黒色粒子・角閃石	巴文	巴時計回り 珠文16			017
第456図3	4区	SK140	横瓦	14.8+0	8.1+0	1.9	白色粒子・黒色粒子		刷印有			016
第456図4	4区	SK140	隅瓦	39.8	37.5	4.4	白色粒子	六葉花卉伏文	キコ	G-2類		019
第457図16	4区	SK197	横瓦	9.1+0	10.5+0	1.8	白色粒子・黒色粒子		刷印有「命」			006
第457図17	4区	SK197	横瓦	10.8+0	15.3+0	2.0	白色粒子・黒色粒子・長石・角閃石		刷印有			007
第460図19	3区	SD400	塼	19.8	11.7+0	3.5	白色粒子・黒色粒子・長石		1/2残存			046
第461図10	3区	SD415	瓦蓋	6.5	4.8	1.8			蓋子状			010
第462図21	3区	SD495	軒丸瓦	8.8+0	13.0	1.5	白色粒子・長石・鉄分	巴文	巴反時計回り 珠文13			021
第462図25	3区	SD600	軒平瓦	4.9+0	7.7+0	1.5	白色粒子・長石	三葉文	瓦当上辺取付	D-1類		003
第464図14	3区	SD650	軒丸瓦	10.9+0	13.2+0	1.5	長石・鉄分・角閃石	巴文	巴反時計回り 珠文15			009
第467図5	3区	SX440	瓦蓋	2.0	2.0	1.5			蓋子状			005
第470図10	3区	S529	鯉瓦	12.0+0	11.4+0	6.6+0	白色粒子・長石・角閃石					002
第470図11	3区	S529	鯉瓦	14.8+0	16.1+0	6.6+0	白色粒子・長石・角閃石		右目部分			001
第470図20	3区	S558	軒丸瓦	6.5+0	11.8	1.7	白色粒子・黒色粒子・長石	巴文	巴反時計回り 珠文12 文様面に磨入			004
第471図15	3区	S578	平瓦	17.5+0	11.2+0	1.8	白色粒子・長石		刷印有「助ノ邊」			004
第474図6	3区	S685	横瓦	9.7+0	8.2+0	1.6	白色粒子		刷印有 丸に「十」			003
第478図9	3区	S879	鯉瓦か	6.1	5.8+0	4.2+0						001

第109表 3・4区 瓦器類観察表5

図録番号	調査区	通稱番号	種類	法量[cm], JIS規定数値			胎土	文様	備考	分類 時期	I番号
				口径・ 最大長	底径・ 最大幅	高さ・ 最大厚					
第480図1	4区	S111	平瓦	10.5+a	7.0+a	1.9	角閃石・白色粒子		外面格子目 内面 布目	9c~10c	001
第480図4	4区	S135	軒平瓦	15.0+a	19.8+a	1.7	白色粒子・長石	六葉花卉状文	刻印有「蛇~」	G-2類	003
第480図5	4区	S135	平瓦	9.9+a	6.9+a	1.8	白色粒子・黒色粒子		内面刻印「細瓦跡 ~」		001
第480図6	4区	S135	横瓦	20.6+a	16.6+a	1.8	白色粒子・黒色粒子		刻印有「神」上面 キラコ		002
第485図5	3区	S992	軒平瓦	10.6+a	15.3+a	2.1	白色粒子・長石	楳葉状文	瓦当裏強いナデ	E-2類	004
第486図7	3区	SK1009	鬼瓦	9.6+a	6.3+a	3.6+a	白色粒子・長石		縁部分		006
第488図5	4区	SK220	軒丸瓦	13.3+a	-	1.65		巴文	巴反時計回り		004
第488図6	4区	SK220	軒平瓦	6.7+a	10.7+a	1.8	白色粒子・黒色粒子・ 長石・角閃石		中心部に三葉か		006
第488図7	4区	SK220	軒平瓦	15.4+a	19.2+a	1.8	白色粒子・黒色粒子・ 長石・少礫	楳葉状文	軒面キラコ	E-2類	005
第493図5	3区	SD695	軒丸瓦	6.3+a	18.3	2.5	白色粒子・長石・角閃 石	巴文	縁文I) 巴反時計 回り		005
第494図8	3区	S630	瓦玉	8.2	8.0	1.8			蓋子状		008
第495図1	4区	SD226	軒丸瓦	13.0+a	12.5+a	1.5		巴文	巴反時計回り		001
第499図8	3区	SX990	軒平瓦	9.1+a	8.5+a	1.5	白色粒子・長石・角閃 石	三葉朝葉文		C類	008
第504図3	3区	検出時	横瓦	18.8	10.5	2.1	白色粒子・長石・角閃 石		横面に刻印有「年三 類」		005

第110表 3・4区 木製品観察表1

国産番号	調査区	遺構番号	種別	法量(cm) <sup>1</sup> は復元数値			材質	備考	国産号
				口径・ 最大長	板厚・ 最大幅	透径・ 最大隙			
第338図6	3区	SE030	井戸枠	552+0	11.0	2.1	スギ		006
第339図14	3区	SE140	井戸枠	230+0	6.3	1.3	スギ		005
第341図18	3区	SE515	井戸枠	26.0	5.7	1.3	スギ		001
第342図7	4区	SE008井筒内	蓋	7.2	1.2	5.8		表面黒漆 ほぼ完形	007
第346図1	3区	SK070	不明円型	21+0	2.6	2.6			049
第355図5	3区	SK090	建材	333+0	0.4+0	5.0+0		丸柱 全蓋被熱	061
第356図14	3区	SK095	建材	164+0	9.8	6.5+0	ヒノキ	丸柱 被熱	015
第369図6	3区	SK055	漆器	193+0	2.8+0	0.4		黒漆 紐	070
第374図2	3区	SK172	盤	15.8	7.4	6.7		足のみ	064
第374図3	3区	SK172	下駄	21.3	8.4	2.9		丸型 覆印下駄	065
第374図4	3区	SK172	不明	166+0	6.0	1.8		墨書有 下駄か 釘4箇所残存	066
第376図5	3区	SK201	漆器碗	-	6.1+0	6.6		黒漆	030
第376図6	3区	SK201	折敷	24.1	23.0	0.8		隅切 中央金具有	040
第376図7	3区	SK201	木刀	32.2	3.0+0	1.4	スギ		042
第376図8	3区	SK201	下駄	1033+0	10.3	4.3		丸型 印下駄	035
第376図9	3区	SK201	下駄	24.2	10.1	3.7	クワ	丸型 蓮座下駄	037
第376図10	3区	SK201	敷居	9.4	8.0	6.0		切断破有	036
第376図11	3区	SK201	建材	8.1	8.9	6.1		正方形	029
第376図12	3区	SK201	建材	5.4	6.0+0	4.7+0		車止め状	032
第376図13	3区	SK201	建材	7.4	5.3+0	1.3		楕円形	031
第377図1	3区	SK201	建材	13.2	3.5	2.4		楕状	034
第377図2	3区	SK201	建材	28.5	2.0	1.0		楕子か	041
第377図3	3区	SK201	建材	27.0	11.8	2.4	マツ	組み合わせ材か	039
第377図4	3区	SK201	建材	23.1	6.9	4.9+0	マツ	一部炭化 丸柱	038
第377図5	3区	SK201	不明木材	10.9	10.9	3.8		車輪状	033
第408図12	3区	S196	漆器	5.4	14.6+0	0.7		外蓋黒漆 内蓋赤漆 縁紐	004
第408図13	3区	S196	漆器	32+0	2.4+0	0.3		赤漆	005
第423図13	3区	SE385	井戸枠	25.5+0	7.5	0.7	スギ		016
第426図9	3区	SE465	夕方	18.9+0	2.2	0.6		竹製	009
第426図10	3区	SE465	杭	23.0+0	4.0	3.5		丸杭	008
第426図11	3区	SE465	井戸枠	64.5	9.3	2.3	スギ	ほぼ完形 側面接合部材残存	010
第426図12	3区	SE465	井戸枠	87.8	8.5	2.0	スギ	ほぼ完形 鉋研接合部材残存	011
第426図17	3区	SE465 井筒内	紐	-	3.3+0	-		黒漆片 紐有	007
第426図18	3区	SE465 井筒内	人形	6.6	3.0	2.65		顔部のみ 被熱	006
第426図19	3区	SE465 井筒内	不明	9.85+0	1.35	1.0		棒状	008
第426図20	3区	SE465 井筒内	板材	16.9	4.6+0	0.7			005

第111表 3・4区 木製品観察表2

図番番号	調査区	品検番号	種別	寸法(cm) H2 覆元軸線			材質	備考	H番号
				口径/ 最大径	最大 径大径	直径/ 最大径			
第426図21	3区	SE465 昇降 内	隠材か	21.3+a	1.5	1.2		棒状	004
第426図3	4区	SE210	井戸枠	50.7+a	8.4	1.7	スギ	タガ、接合部材残存	003
第426図8	4区	SE210 6階 下位	隠先	23.5	8.4	3.2		スス付着 被熱の痕跡有	003
第426図9	4区	SE210 6階 下位	隠材	15.5+a	7.8+a	8.7+a		柱材 ホノノ穴箇所	002
第426図1	3区	S390 4階	隠材	8.3+a	5.5	4.4			001
第443図15	3区	SK305	輪	-	3.3+a	6.2		濃緑樹 高台	033
第443図16	3区	SK305	輪	(11.0)	6.2	(8.0)		濃緑樹 ほぼ完形	034
第477図5	3区	S638	輪	-	0.9+a	3.2		濃緑樹 高台部有	001
第477図7	3区	S641	剛毛	5.5	11.1	0.7		被熱 ほぼ完形	002
第482図4	3区	S655	井戸枠	22.8+a	7.3+a	1.5	スギ		004

第112表 3・4区 石製品観察表1

図録番号	調査区	遺構番号	種類	質量(cm <sup>3</sup> )			容積(g)	石材	備考	図録号
				最大長	最大幅	最大厚				
第337図3	3区	S4179b	礫	11.6	5.6	1.5	183.17	頁岩系		002
第341図1	3区	SE305	砥石	7.1	3.7	3.1	121.60	不明		029
第341図15	3区	SE357	火打石	4.0	2.1	2.3	18.10	棕色チャート		011
第341図16	3区	SE357	茶臼	(19.8)	10.6	(27.2)	-	凝灰岩		013
第349図4	3区	SK075	礫	12.5+α	6.0	1.7	150.38	不明	墨付着 底部欠損	042
第352図3	3区	SK080	基石	2.3	2.2	0.3	2.88	不明	黒	019
第355図6	3区	SK090	温石	6.3	6.3	1.5	99.75	不明	刻印有「無」か	055
第356図15	3区	SK095	砥石	12.1	10.1	4.5	521.75	砂岩	二面使用	014
第356図16	3区	SK095	手水鉢か	(29.6)	17.3	(22.2)	-	凝灰岩		016
第357図3	3区	SK160	火打石	4.3	3.5	2.3	20.58	チャート		003
第366図4	3区	SK042	砥石	8.2+α	7.8	2.7	233.80	不明	天草か	067
第369図7	3区	SK055	礫石	4.5	0.6	0.55	2.96	不明		007
第369図8	3区	SK055	石板	13.5+α	30.9	0.3	178.87	不明	刻有「神籠」「大分」	068
第369図9	3区	SK055	石柱	15.5+α	7.2	7.4	-	凝灰岩		071
第374図5	3区	SK172	石板	5.8+α	4.7+α	0.5	18.41	不明	刻有「大進町 和田」	036
第374図6	3区	SK172	石板	8.1+α	6.4+α	0.3	30.48	不明	落書き有	037
第374図7	3区	SK172	礫	3.6+α	5.6	1.7	50.65	不明	赤間関か 底面二次加工	036
第382図14	3区	SK479	石臼	(39.0)	-	11.2	-	凝灰岩	一部赤染 被熱か	012
第386図15	4区	S015	鑄型	3.0	5.9+α	1.7	54.84	不明	沈子鑄型	015
第390図11	1区	SX005	茶臼	(20.0)	9.7	(29.0)	-	凝灰岩		011
第392図7	3区	SX025	礫	16.6	6.1	2.6+α	508.15	不明		007
第407図13	3区	S179	鑄型	5.0	3.9	2.75	32.52	不明	円形 鋳か	013
第413図3	3区	S269	石臼	-	10.5	7.1	-	凝灰岩	下臼	003
第413図7	3区	S276	石臼	12.1+α	9.9+α	-	-	凝灰岩	上臼	001
第415図9	3区	S341	砥石	6.5+α	5.5+α	0.6	31.55	不明	穿孔有	003
第415図10	3区	S341	砥石	15.3	5.3	1.7	186.56	不明	階刻銘有	004
第416図8	3区	S452	石臼	(37.4)	12.0	(36.0)	-	凝灰岩		001
第417図7	3区	S506	温石	5.7	5.6	2.5	65.44	不明	円形 被熱有	002
第417図8	3区	S509	石鉢	-	4.5+α	-	112.28	燐石		001
第417図9	3区	S509	手水鉢か	21.9+α	14.2+α	13.3+α	-	凝灰岩		002
第419図6	4区	S021	礫	14.2+α	6.2	1.7	179.66	不明	釘書銘有	001
第419図14	4区	S041	石板	9.5+α	6.6+α	0.4	44.38	不明	両面に釘書銘有	001
第419図17	4区	S051	印籠	1.5	2.2	-	3.13	不明	ロウ石の2次加工「三溝」か	001
第423図14	3区	SE385	石臼	(34.4)	-	11.0	-	凝灰岩	上臼	013
第424図20	3区	SE460	砥石	10.3+α	11.5	2.9	382.37	不明		020
第427図3	4区	SE190 井筒 遺構	石臼	(30.8)	10.5	(26.5)	-	凝灰岩	下臼 1/2残存	003

第113表 3・4区 石製品観察表2

調査番号	調査区	品名番号	種類	法量(cm <sup>3</sup> ) / 22層元数			重量(g)	石材	備考	戸番号
				最大長	最大幅	最大厚				
第427図6	4区	SE190露込	平水鉢か	21.8+a	20.3+a	16.8	-	凝灰岩	方形	005
第429図15	3区	SK435	砥石	8.5+a	4.8	0.9+a	90.00	不明		016
第429図16	3区	SK435	砥石	9.9+a	9.0+a	5.3+a	458.00	不明		015
第429図26	3区	SK525	硯	2.4+a	3.5	0.8	10.86	不明	赤色顔料付着	003
第432図11	3区	SK894SK335 (1層)	砥石か	4.5+a	3.6+a	1.7	47.93	不明	穿孔有	010
第440図10	3区	SK390	不明	4.2	4.8	2.6	9.42	不明	軽石 ミニチュア三宝か	024
第441図21	3区	SK475	不明	9.8	11.2	5.1	214.09	不明	円形 凹彫黒塗	041
第443図17	3区	SK505	硯	4.2+a	2.8+a	1.9+a	39.49	不明	赤陶石	029
第443図18	3区	SK505	砥石	8.0+a	5.2+a	2.4	138.20	不明	天草産か	030
第443図19	3区	SK505	不明	16.2	9.2	5.4	184.10	不明	軽石	031
第447図23	3区	SK563	砥石	6.3+a	7.0	3.9	234.48	不明		023
第453図21	3区	SK787	砥石	7.0	3.9	0.9	35.55	不明		022
第456図5	4区	SK140	硯	8.7+a	7.4	2.2	220.06	不明	天草産か 池彫欠損	018
第461図11	3区	SD415	硯	6.2+a	6.3	1.5+a	96.42	不明	砥石に転用	011
第461図12	3区	SD415	砥石	9.9+a	7.0	8.5+a	354.80	砂岩		012
第462図22	3区	SD495	火打石	6.4	3.9	2.0	51.78	石英		022
第464図3	3区	SD545	硯	10.3+a	6.1	1.3+a	149.50	不明		010
第475図20	3区	S801	不明	6.5	6.5	3.4	81.70	不明	円形 三角形の凹み	009
第478図11	3区	S889	不明	13.1	12.6	7.0	-	不明	楕円か 円形 凹彫黒塗	001
第479図9	3区	S956	文鏡か	5.6+a	1.55	1.35	30.29	不明	楕円文	002
第489図15	4区	SK225	硯	14.9+a	7.2	2.3	453.31	不明	天草産か	014
第496図9	3区	SF535南無ベ ルト5～9階	石鏡	-	1.8+a	-	23.98	滑石		006
第497図11	3区	SD650	石臼	19.2+a	-	8.6	-	凝灰岩	上臼	003
第498図6	3区	SX565	石臼	35.2+a	-	7.8+a	-	凝灰岩	側面欠損	009

第114表 3・4区 石塔観察表1

調査番号	調査区	品名番号	種類	法量(cm <sup>3</sup> ) / 22層元数			重量(g)	石材	備考	戸番号
				最大長	最大幅	最大厚				
第371図2	3区	SK125	石塔	14.2	19.4+a	13.8+a	-	凝灰岩	台座	004
第374図8	3区	SK172	石塔	21.5+a	23.3+a	12.2+a	-	凝灰岩	宝篋印壇か(露窟か)	067
第388図2	3区	S013	石塔	15.3	13.7	-	-	安山岩	宝珠	006
第464図15	3区	SD550	石塔か	22.8+a	13.7+a	8.4+a	-	凝灰岩	宝篋印壇か	010

第115表 3・4区 鉄製品観察表1

図録番号	調査区	遺物番号	種類	法量(cm) 又は元寸数値			重量(g)	備考	H番号
				最大径	最大幅	最大厚			
第338図17	3区	SE040	錠	17.9	8.1	0.9	109.3		009
第341図2	3区	SE305	小網	7.9+a	3.6+a	0.8	39.2		031
第341図3	3区	SE305	鏝	15.3+a	9.0+a	0.5	74.37		032
第357図12	3区	SK250	鉄滓	8.0	12.2	4.0	373.0		006
第358図20	4区	SK030	鉄	13.0	2.8	0.7	20.34	櫛形鉄	015
第366図5	3区	SK042	不明	11.0+a	8.7+a	1.8+a	56.34	スコップ状	090
第366図6	3区	SK042	煎手か	13.3	5.8	6.8	100.3		089
第393図10	3区	SK170裏込	蓋	(14.8)	2.4		212.85	1/2残存	024
第398図3	3区	S013	釣針	4.4	2.3	0.2	0.82		007
第411図29	3区	S219	吊り金具	13.75	16.5	0.95	107.2		004
第412図7	3区	S242	刀子	9.2+a	1.6	-	19.3	鏝部欠損	001
第414図13	3区	S308	刀子	13.85	3.3	1.0	76.19		001
第416図12	3区	S471	重子	5.5	3.9	3.7	295.32	棟形 福前文字	001
第418図12	3区	S512	刀	34.0	3.8	1.5	339.3	木製鞘付	012
第419図10	4区	S025	鍔先	3.8+a	5.3+a	0.4	26.55	磨蝕か	002
第424図21	3区	S480	櫛	6.10	1.50	0.35	8.14		021
第431図16	3区	SK335	毛掻き	(8.85)	1.45	375×0.2	11.03		041
第431図17	3区	SK335	釣針か	4.35	2.35	0.90	8.27		042
第432図25	3区	SK819	灯火具か	5.15	5.60+a	1.65	13.15		003
第435図15	3区	SK340	釣針か	4.10	2.90	1.00	9.83		070
第437図1	3区	SK345	櫛	6.4	2.3	1.15	36.66		012
第437図2	3区	SK345	円匙か	21.6+a	12.8+a	2.8	302.06		013
第438図9	3区	SK375	灯火具	13.5+a	10.1+a	2.1+a	181.03	土師器裏付	009
第448図1	3区	SK543	刀子	97.20+a	5.55+a	1.15+a	1195.53	包丁	038
第448図2	3区	SK543	鏝	33.40+a	6.85	2.40	88.91		039
第447図24	3区	SK563	不明	32.20+a	5.60+a	0.30	70.11	刀子か	024
第448図18	3区	SK747	不明	14.3+a	1.9+a	-	86.74	櫛状	018
第480図20	3区	SD400	不明形状	31.45+a	1.75+a	0.55	7.29		050
第480図21	3区	SD400	鉄滓	6.70	4.95	3.40	164.55		051
第470図8	3区	S528	釘	15.3+a	0.5	-	29.94		003
第470図21	3区	S558	引手	7.7	0.8	-	14.5		005
第470図22	3区	S558	吊金具か	14.2+a	1.0	0.5	34.02		006
第471図8	3区	S562	錠	10.3	2.3	1.5	87.19		003
第473図5	3区	S679	鉄滓	11.8	10.8	5.0	488.32	櫛状	001
第474図15	3区	S733	吊金具	15.8	7.6	0.3	27.36	櫛形か	001
第475図21	3区	S801	吊金具	10.5+a	5.4+a	0.4	30.36		011

第116表 3・4区 鉄製品観察表2

品番番号	調査区	品番番号	種類	重量(g/cm <sup>3</sup> ) <sup>1/2</sup> 還元数値			重量 (g)	備考	品番号
				還元前	還元後	還元後			
第476図15	3区	S834	灯火具か	8.1	2.0	1.6	214		007
第477図4	3区	S837	刀子	22.7	5.5	1.1	15669	包丁	004
第477図11	3区	S848	不明鉄塊	22.3	17.8	3.7	1910	釘多数含む	004
第477図14	3区	S851	刀子	7.5+α	1.5	0.4	685		002
第478図3	3区	S859	不明	9.3	8.4	0.8+α	210.71	容器か	001
第478図8	3区	S869	鉄塊	10.0	4.2	1.1	4388		001
第478図13	3区	S892	刀子か	8.4	1.6	-	10.74		002
第484図1	3区	SK570	刀子	5.1+α	42	10.8	187.21	包丁	013
第484図2	3区	SK570	吊金具	12.9	15.8	1.2	123.92		014
第490図1	4区	SK225	灯火具	11.9	7.1	0.3	114.28	皿状	016
第497図2	3区	SD800	留金具か	7.7	4.8	10.3	72.51		002

第117表 3・4区 銅製品観察表1

図録番号	調査状況	遺構番号	種類	法量(cm <sup>3</sup> )は復元数値			質量(g)	備考	H番号
				最大径	最大幅	最大厚			
第341図17	3区	SE357	切羽	32	1.7	0.1	0.98		012
第346図2	3区	SK070	蓋か	3.0	0.7	-	7.61	内面付着物あり 完形	048
第346図3	3区	SK070	煙管	5.0	1.8	-	10.30	磨面 完形	047
第349図7	3区	SK075	線皿	3.0	1.8	0.5	2.98	切羽が装着された状態 裏面に印刷 魚々打か	046
第349図8	3区	SK075	不明	2.0	1.3	0.5	1.10	断か	047
第355図6	3区	SK090	線管	2.4	2.3	0.8	2.40	釘残存	058
第355図9	3区	SK090	銅金具	1.2	-	0.15	0.69	ボタン状	059
第360図11	3区	S035	煙管	3.9	1.9	-	5.88	磨面	011
第366図7	3区	SK042	火箸	21.1	0.8	0.8	20.50		091
第368図8	3区	SK042	不明	33.85	0.70	0.15	13.24	金具か	092
第369図10	3区	SK055	皿皿	(7.6)	(7.6)	0.1	17.05		069
第371図14	3区	SK135	煙管	6.6	1.0	-	6.55	吸口 線字残存	012
第374図9	3区	SK172	簪	7.8+α	2.6	0.2	9.29	金象嵌か	060
第374図10	3区	SK172	柄	5.8+α	3.1	1.3	9.00	木質残存	061
第374図11	3区	SK172	銅金具	2.5+α	1.5	0.6	4.67	断か鉛か	062
第377図6	3区	SK201	蓋	11.2	11.1	0.35	100.70	円盤状 中央穿孔有	028
第380図3	3区	SK290	断か	12.5+α	4.1+α	5.4	110.48	穿孔1箇所	034
第380図11	3区	SK315	切羽	4.1	2.4	0.1	2.70		009
第382図15	3区	SK479	煙管	4.5	1.6	1.1	9.31	線字残存 磨面 完形	011
第387図1	3区	SX045	耳かき	9.0+α	0.8	0.8	3.00	簪か	002
第387図11	3区	SX065	取手	7.0	3.0	0.35	4.63		004
第388図2	3区	SX155	簪	9.0+α	0.4	0.15	2.52		002
第392図8	3区	SX025	銅金具	3.2+α	0.45	0.1	0.48		008
第392図9	3区	SX025	簪	11.4	3.3	0.3	5.71		009
第393図11	3区	SX170蓋品	引手	7.3	7.4	1.0	20.88	金彩残存	023
第398図4	3区	S013	煙管	4.2	1.3	-	7.67	磨面 完形 線字残存	009
第398図5	3区	S013	煙管	6.7	1.1	-	9.55	吸口 完形 線字残存 S013 F009とセットか	010
第398図6	3区	S013	鏡か	6.5	4.6	0.2	24.99	板状 縁刻有 縁紋	008
第398図14	3区	S016	不明	4.0	1.2	0.15	6.85	釣金状 蓋か	008
第399図13	3区	S018	煙管	5.3	1.2	-	0.71	吸口 完形 線字残存 真鍮か	013
第399図18	3区	S023	鏡	2.55	3.2	1.1	22.11	刀痕具 二重縁 完形	001
第401図4	3区	S037	耳かき	6.8	0.4	0.1	1.48	完形	004
第401図10	3区	S057	銅金具	8.5+α	8.5	0.1	0.21	ピン状 真鍮か	001
第402図7	3区	S071	蓋	4.0	1.7	0.65	30.98	完形	002
第403図8	3区	S072	灰かきか	17.1	7.8	1.5	57.44		008
第405図15	3区	S112	銅金具	0.5	1.5	0.1	1.00	樽状×2	003

第118表 3・4区 銅製品観察表2

調査番号	調査区	品目番号	種類	法量(cons) J2次元数値			重量(g)	備考	F番号
				最大長	最大幅	最大厚			
第406図4	3区	S151	匙	2.8	2.4	0.7	5.36	真鍮製	002
第406図11	3区	S161	朱肉入れ	1.8	1.05	1.0	7.05	朱肉付帯 完形	005
第407図14	3区	S179	煙管	3.9	1.2	-	7.91	煙管 扁平残存 完形	014
第407図15	3区	S179	煙管	4.5	1.1	-	6.57	吸口 扁平残存 完形	015
第408図7	3区	S192	盥	6.9+α	1.5	0.5	5.73		001
第409図11	3区	S207	盥	19.0	0.85	-	11.15	完形	004
第410図2	3区	S213	不明	22.1	26.2	0.4	111.10	網状 星罫りか	002
第410図5	3区	S217	記事	2.5	1.0	0.15	0.94	日英国旗 完形 1902~	002
第414図17	3区	S318	不明	5.8+α	3.7	1.1	16.99	箱状	002
第415図15	3区	S353	煙管	5.7	1.7	0.2	13.34	煙管	001
第415図19	3区	S423	引手	7.9	7.1	0.8	14.42	彫刻遺草文	001
第416図6	3区	S426	鋳金具	3.55	1.9	0.8	1.85		006
第429図18	3区	SK435	毛抜き	5.70	1.45	0.5	5.54		018
第429図27	3区	SS25	匙	3.85+α	0.80	0.30	0.98		004
第431図18	3区	SK335	煙管	4.20	1.05	1.70	4.28	煙管	043
第432図26	3区	SK819	盥	12.0	0.9	1.05	5.16	完形	005
第432図27	3区	SK819	盥	19.85	1.05	0.20	11.83	完形 彫削り	004
第437図15	3区	SK365 2冊	不明遺状	4.85	-	0.3	8.38	火鉢の互遣か	007
第451図11	3区	SK787 1冊	盥	9.15	1.05	0.15	2.53		011
第451図12	3区	SK787 1冊	灯火具か	5.70	4.30	3.90	8.96		012
第453図22	3区	SK787	不明	17.25	10.30	3.15	113.66	スコップ状	023
第460図22	3区	SD400	鎌番	1.55	4.50	0.90	7.22		052
第460図28	3区	S410	不明	1.90	1.20	-	5.31	ボタン状	004
第470図9	3区	SS28	不明	2.4+α	2.6+α	2.0	11.95	筒状	004
第470図12	3区	SS46	不明	5.7	-	0.4	8.87	棒状	001
第470図23	3区	SS58	灯火具か	6.6	3.9	0.2	6.66		007
第471図4	3区	SS61	盥	18.2	1.2	0.1	7.34	ほぼ完形	005
第471図5	3区	SS61	不明	5.2	0.5	0.1	2.51	バネ状	004
第471図17	3区	SS92	鋳金具	2.5	1.9	0.1	3.85		001
第473図4	3区	S677	盥	2.8+α	2.3	0.1	3.74	柄り部分のみ	002
第474図11	3区	S696	尻かき	29.8+α	7.0+α	0.3	54.43	蓋部欠損	003
第474図12	3区	S714	鏡	6.4	6.4	0.3	45.54		002
第474図13	3区	S714	吊金具	11.5+α	7.2+α	0.5	28.90		001
第474図16	3区	S733	が空口	7.6	2.5	0.8	8.08	金具部分	002
第475図9	3区	S788	鋳金具	12.2	7.8	0.5	14.90	穿孔7箇所 表面彫刻文	002
第475図23	3区	S801	不明	10.6	2.3	0.1	19.96	引手か	012

第119表 3・4区 銅製品観察表3

図録番号	調査区	遺構番号	種類	法量(cm <sup>3</sup> )は復元数値			質量(g)	備考	H番号
				最大長	最大幅	最大厚			
第476図6	3区	S823	蓋	7.4	2.2	0.1	42.12		001
第476図6	3区	S828	鋳金具	1.5	1.1	-	2.55		002
第478図1	3区	S853	不明	2.7	2.5	-	16.62	合せ口	001
第478図16	3区	S919	煙管	6.6	1.0	0.1	9.32	吸口 表面緑メッキ、文様有り 被熱により黒変	001
第479図3	3区	S922	盤	16.7+α	1.8	0.2	9.27		003
第479図7	3区	S949	火箸	15.9	0.4	-	8.02	ほぼ完形	001
第479図12	3区	S962	不明	5.9	-	0.5	12.65	網状	001
第480図3	4区	S113	昇	5.8	1.7	0.1	2.66	両面に刺文	002
第480図11	4区	S199	目録き	3.7	1.4	0.5	4.82	草花文	001
第483図13	3区	SK370	昇か	8.2+α	0.6	0.2	5.38		019
第483図14	3区	SK370	火箸	24.4	-	0.3	14.96		017
第483図15	3区	SK370	灰かき	24.2+α	4.1+α	0.2	35.47		018
第483図16	3区	SK370	不明輪型	10.5	2.5	9.0	30.91		016
第483図17	3区	SK370	煙管	10.8	7.7	0.1	52.19		015
第486図6	3区	S1009	切羽	4.1	2.5	0.1	3.01		007
第494図9	3区	S630	不明容器小	20.1+α	1.4	0.1	29.67		009
第497図3	3区	SD600	釘	2.0	0.6	-	0.75		003
第498図9	3区	SX565	小柄	9.8	1.4	0.2	20.35	側面一部欠損	010
第504図4	3区	機出跡	目録き	3.9	1.7	0.2	5.67	龍文	003
第504図5	3区	機出跡	記章	2.3	-	0.1	5.18	萬葉集人子供博覧会 昭和初期	004

第120表 3・4区 銅錢・銭観察表1

図録番号	調査区	遺構番号	銭名	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	国・王朝名	初铸年	備考	図録号
第348図4	3区	SK070	寛永通宝	2.4	0.55	3.62	日本	1626年	古寛永	045
第348図5	3区	SK070	寛永通宝	2.3	0.6	2.33	日本	1668年	新寛永	046
第349図9	3区	SK075	寛永通宝	2.4	0.6	4.21	日本	1626年	古寛永	043
第349図10	3区	SK075	寛永通宝	2.55	0.6	3.44	日本	1668年	文寛永	045
第349図11	3区	SK075	寛永通宝	2.35	0.6	2.61	日本	1668年	新寛永	044
第355図10	3区	SK090	寛永通宝	2.5	0.6	3.57	日本	1626年	古寛永	056
第355図11	3区	SK090	寛永通宝	2.53	0.65	2.40	日本	1668年	文寛永	057
第387図2	3区	SX045	竜一銭	2.8	-	6.69	日本	1873年	竜一銭	001
第393図12	3区	SK170番込	寛永通宝	2.3	0.7	1.68	日本	1626年	古寛永	022
第395図4	4区	SX007	竜五銭	1.5	-	11.8	日本	1873年	龍貨	004
第399図17	3区	SO20	祥符元宝	2.4	0.6	2.77	北宋	1009年	真書	005
第404図3	3区	SO73	半銭	2.20	-	3.44	日本	1873年	半銭 明治一七年	003
第414図3	3区	S291	政和通宝	2.45	0.65	3.39	北宋	1111年	分輪	005
第423図16	3区	SE385	洪武通宝	2.20	0.6	1.44	明	1369年	真書	015
第426図13	3区	S465	皇宋通宝	2.30	0.7	1.97	北宋	1038年	真書	007
第464図26	3区	SD842	永樂通宝	2.45	0.6	3.38	明	1408年	真書	011
第474図17	3区	S741	不明	2.2×α	0.6	0.83			不明(宋銭か)	001
第475図1	3区	S786	寛永通宝	2.5	0.55	3.42	日本	1668年	文寛永	001
第478図2	3区	S804	大觀通宝	2.4	0.65	1.99	北宋	1107年	真書	002
第504図6	3区	GSグリッド様 出時	元豊通宝	2.4	0.5	3.34	北宋	1078年	篆書	001
第504図7	3区	GSグリッド様 出時	元祐通宝	2.5	0.7	4.59	北宋	1086年	篆書	002
第504図8	3区	GSグリッド様 出時	天禧通宝	2.6	0.6	3.49	北宋	1017年	真書	003
第504図9	3区	GSグリッド様 出時	政治通宝	2.5	0.65	4.21	北宋	1111年	篆書	004
第504図10	3区	GSグリッド様 出時	皇宋通宝	2.4	0.6	3.47	北宋	1038年	真書	005
第504図11	3区	GSグリッド様 出時	開元通宝	2.4	0.65	3.13	南唐	960年	真書	006
第504図12	3区	GSグリッド様 出時	嘉泰通宝	2.5	0.6	3.31	南宋	1201年	背二	007
第504図13	3区	GSグリッド様 出時	治平通宝	2.5	0.65	3.51	北宋	1064年	真書	008
第504図14	3区	GSグリッド様 出時	治平通宝	2.4	0.6	3.35	北宋	1014年	篆書	009

第121表 3・4区 特殊品観察表1

調査番号	調査区	品番番号	種別	群種	法量(mm) は復元数値				備考	分類	時期	内番号
					口径 最大長	底径 最大長	底径 最大長	口径 最大長				
第355図7	3区	SK090	鉛製品	インゴットか	2.4	-	0.5	9.53	円型			060
第358図21	4区	SK030	鉛製品	次子未製品	1.6+a	3.4+a 1.0	-	9.64	ノコ			016
第366図9	3区	SK042	骨製品	不明	3.7	1.5	0.35	3.45				068
第370図4	3区	S082	鉛製品	不明	3.85	1.05	0.30	7.61	棒状			004
第374図12	3区	SK172	骨製品	棒	2.4+a	7.8	0.5	6.22				059
第391図6	3区	SX010	ガラス製品	器	8.45	0.75	0.3	-	無色ガラス			012
第396図7	3区	SX484	その他	漆喰	16.1	18.4+a	4.4	700	角2面			004
第397図7	3区	S008	セルロイドか	棒	4.1	6.0	0.15	3.31	縞割「ウエギキ」			002
第398図15	3区	S016	ガラス製品	瓶	1.2	4.95	1.9	11.93	「ニチヤ産業」 「暮喜堂」 定形			005
第399図16	3区	S016	ガラス製品	瓶	1.5	5.3	2.0	12.26	「富松武勲上池清」 自業 定形			006
第400図9	3区	S034	ガラス製品	瓶	2.5	9.7	4.9	263.88	縞割有「壺の元」 「西口商金製」			005
第402図1	3区	S062	鉛製品	次子	7.6+a	1.35	0.75	22.71	孔あり			001
第404図2	3区	S073	鉛製品	不明	1.8	-	0.6	12.41				002
第404図5	3区	S083	骨製品	爪線柱か	4.3+a	0.3	0.15	0.23				002
第405図18	3区	SI17	骨製品	蓋か	12.0+a	2.45	0.7	24.22	縞部欠損			002
第406図21	3区	SI69	骨製品	不明	7.9+a	0.5	-	2.33	耳かきか			002
第408図1	3区	SI86	ガラス製品	瓶	5.9	3.15	-	5.42	ニッキ水 定形			001
第409図2	3区	SI97	ガラス製品	瓶	(1.3)	4.6	3.0	14.68	インク瓶「HOSOMI」			002
第412図12	3区	S248	ガラス製品	瓶	2.3	4.7	3.8	62.15	壺の元 定形	明治~大正		005
第412図21	3区	S262	ガラス製品	器	9.5+a	0.8+a	0.7	4.98				003
第414図8	3区	S297	ガラス製品	瓶	4.4	4.2	4.8	66.51	「フエキ」瓶	1955年前後		003
第414図9	3区	S297	ガラス製品	瓶	2.4	5.3	5.0	55.11	プラチナムインク	1950年前後		004
第417図3	3区	S494	ガラス製品	瓶	4.1	14.9	4.8	250.68	「大分牧畜株式会社」 「市乳」			001
第419図2	4区	S002	ガラス製品	瓶	1.8	12.2+a	-	67.25	無色「津久井眼科医院」	近代		002
第419図6	4区	S012	ガラス製品	瓶	-	5.4+a	2.5	14.76	コバルト色 自業「本橋山田安蔵」 「ロート目薬」	明治~大正		003
第419図7	4区	S012	その他	棒	8.8	3.2	0.4	2.57	セルロイドか 記帳「フシメヤチガナカ?」			004
第419図11	4区	S029	骨製品	蓋	11.6	2.2	0.4	11.36	穿孔有			001
第419図19	4区	S055	鉛製品	不明	3.2	2.4	-	46.3	巻貝状			001
第423図15	3区	S385	鉛製品	不明類型	8.65	4.50	4.65	116.02				014
第429図17	3区	SK435	鉛製品	次子	5.95	1.30	0.80	20.05	未製品			017
第443図20	3区	SK505	骨製品	不明	1.7	3.0	-	1.8	角製か 環状			032
第457図9	4区	SK170	ガラス製品	葺	2.9+a	0.3	0.3	0.47	淡青色			004
第460図23	3区	SD400	ガラス製品	不明	-	1.6+a	(2.2)	2.81	瓶か			048
第460図24	3区	SD400	ガラス製品	蓋か	4.5+a	1.0	0.8	3.35				047
第470図14	3区	S552	ガラス製品	瓶	11.8+a	5.6+a	2.8+a	51.59	香水瓶			002
第471図9	3区	SS71	ガラス製品	小玉	0.3	0.3	0.1	0.01				001

第122表 3・4区 特殊品観察表2

図録番号	調査区	遺構番号	種別	器種	法量(cm <sup>3</sup> ) / 2.5倍元数値				備考	分類	時期	F番号
					口径/最大長	底径/最大幅	全径/最大深	口径/深さ $\mu$				
第473図1	3区	S683	ガラス製品	小玉	0.65	0.85	0.30	0.63	定形			005
第474図14	3区	S723	鉛製品	沈子	6.2	1.1 $\phi$	0.8	21.44	未製品			001
第475図7	3区	S786	ガラス製品	小坪	(5.5)	2.8	(2.1)	9.74	1/3残存			003
第475図22	3区	S801	鉛製品	鉄砲玉	1.4	1.2	-	15.74				010
第498図10	3区	SX565	ガラス製品	増鏡レンズ	4.2	4.2	0.2	7.5				008

第 123 表 志野他追加観察表 1

図録番号	調査区	図録番号	種別	器種	産地	法量(cm) 3位値取数値				備考	分類	時期	内輪号
						口径 最大径	縁高 最大径	底径 最大径	片厚 最大径				
第505図1	3区	SK22	面産陶器	向付	美濃	(15.2)	4.7	11.0	-	志野焼 底部・外面・口縁2ヶ所あり 全面的に長石釉	16c来～17c初頭	009	
第505図2	3区	S761	面産陶器	向付	美濃	-	2.2+0	-	-	志野焼 長石釉	16c来～17c初頭	001	
第505図3	3区	S774	面産陶器	向付	美濃	-	3.0+0	-	-	志野焼 長石釉 外面に浮文あり	16c来～17c初頭	002	
第505図4	3区	S112	面産陶器	向付	美濃	-	3.1+0	-	-	志野焼	16c来～17c初頭	004	
第505図5	3区	様出時	面産陶器	向付	美濃	-	2.8+0	-	-	志野焼	16c来～17c初頭	006	
第505図6	3区	SD545	面産陶器	向付	美濃	-	2.0+0	-	-	志野焼 底面脚部貼付付	16c来～17c初頭	012	
第505図7	3区	S529	面産陶器	向付	美濃	-	0.7+0	-	-	志野焼	16c来～17c初頭	003	
第505図8	3区	S1201	面産陶器	向付	美濃	-	4.9+0	-	-	志野焼 長石釉	16c来～17c初頭	001	
第505図9	3区	SS45	面産陶器	向付	美濃	-	2.8+0	-	-	志野焼 長石釉	16c来～17c初頭	011	
第505図10	2区	S081	面産陶器	向付	美濃	-	4.5+0	-	-	志野焼 長石釉	16c来～17c初頭	002	
第505図11	2区	S081	面産陶器	向付	美濃	-	1.2+0	-	-	志野焼 長石釉	16c来～17c初頭	001	
第505図12	3区	SK055	面産陶器	向付	美濃	-	3.0+0	-	-	志野焼 長石釉 底部外面ケズリ調整	16c来～17c初頭	072	
第505図13	3区	S739	面産陶器	向付	美濃	-	1.6+0	-	-	志野焼 底面一部粒化し	16c来～17c初頭	001	
第505図14	3区	S247	面産陶器	向付	美濃	-	3.3+0	-	-	志野焼	16c来～17c初頭	001	
第505図15	2区	表土	面産陶器	向付	美濃	-	1.5+0	-	-	志野焼 長石釉	16c来～17c初頭	008	
第505図16	3区	S822	面産陶器	向付	關西系	-	2.4+0	-	-	軟質施釉陶器	16c来～17c初頭	009	
第505図17	3区	S1008	面産陶器	向付	美濃	-	0.8+0	-	-	志野焼	16c来～17c初頭	001	
第505図18	3区	S495+S183	面産陶器	碗	美濃	(12.2)	6.1+0	-	-	志野焼 高台無釉 内面・外面係部 長石釉	16c来～17c初頭	001	
第505図19	4区	S175	面産陶器	碗	美濃	-	4.0+0	(5.6)	-	志野焼 高台無釉 内面・外面係部 長石釉	16c来～17c初頭	005	
第505図20	4区	S029	面産陶器	碗	美濃	-	2.5+0	-	-	志野焼 長石釉	16c来～17c初頭	002	
第505図21	3区	S485	面産陶器	碗	美濃	-	3.0+0	-	-	志野焼 長石釉	16c来～17c初頭	023	
第505図22	3区	SS20+SD545	面産陶器	向付	美濃	(11.0)	2.0	6.6	-	志野焼 底面に目録残存	16c来～17c初頭	001	

写真図版 31



第 261 图 5



第 261 图 9



第 263 图 11



第 264 图 8



第 264 图 14



第 264 图 15



第 267 图 5



第 268 图 7



第 268 图 8



第 270 图 5



第 272 图 34



第 274 图 1



第 275 图 2



第 275 图 3



第 275 图 6



第 276 图 9



第 277 图 14



第 281 图 6

写真图版 32



第 281 图 8



第 285 图 8



第 286 图 12



第 286 图 14



第 289 图 6



第 291 图 1



第 302 图 20



第 305 图 8



第 309 图 1



第 310 图 2



第 311 图 2



第 311 图 5



第 311 图 9



第 319 图 1



第 319 图 5



第 320 图 6



第 321 图 7



第 324 图 8

写真图版 33



第 325 图 1



第 326 图 6



第 333 图 1



第 336 图 1



第 338 图 3



第 338 图 7



第 339 图 9



第 343 图 7



第 343 图 17



第 346 图 7



第 346 图 9



第 349 图 13



第 350 图 5



第 351 图 3



第 352 图 5



第 352 图 8



第 352 图 10



第 353 图 21



第 353 图 22



第 353 图 23 · 24



第 353 图 25



第 353 图 31



第 354 图 7



第 355 图 6



第 357 图 10



第 358 图 22



第 360 图 5



第 360 图 10



第 361 图 7



第 361 图 12



第 362 图 1



第 362 图 19



第 362 图 22



第 363 图 6



第 363 图 7



第 364 图 5

写真図版 35



第 364 図 9



第 364 図 13



第 365 図 11



第 367 図 26



第 368 図 9



第 368 図 12



第 370 図 7



第 372 図 16



第 372 図 20



第 372 図 22



第 372 図 23



第 373 図 7



第 373 図 11 ~ 30



第 375 図 3



第 375 図 6



第 375 図 11



第 375 図 12



第 377 図 8



第 381 图 17



第 382 图 3



第 383 图 21



第 386 图 11



第 390 图 15



第 391 图 9



第 392 图 22



第 396 图 2



第 397 图 2



第 399 图 3



第 401 图 7



第 401 图 8



第 401 图 12



第 402 图 1



第 403 图 1



第 403 图 2



第 403 图 6



第 404 图 4

写真図版 37



第 405 図 8



第 406 図 5



第 406 図 17



第 406 図 25



第 407 図 7



第 407 図 9



第 407 図 10



第 407 図 17



第 409 図 1



第 412 図 22



第 412 図 23



第 413 図 12



第 416 図 14



第 420 図 1



第 420 図 4



第 420 図 9



第 420 図 10



第 421 図 1



第 421 图 4



第 424 图 18



第 426 图 15



第 429 图 4



第 429 图 7



第 433 图 18



第 435 图 6



第 436 图 5



第 438 图 4



第 439 图 8



第 439 图 11



第 439 图 12



第 441 图 2



第 441 图 5



第 441 图 8



第 442 图 8



第 442 图 17



第 442 图 20

写真図版 39



第 447 図 10



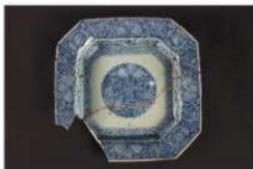
第 448 図 5



第 448 図 6・9



第 448 図 7



第 449 図 1



第 451 図 25



第 452 図 3



第 452 図 6



第 455 図 15



第 457 図 1



第 457 図 10



第 457 図 15



第 458 図 2



第 459 図 17



第 460 図 26



第 472 図 5



第 473 図 8



第 475 図 3



第 475 図 8



第 476 図 1



第 476 図 5



第 476 図 7



第 476 図 10



第 476 図 11



第 476 図 12



第 476 図 14



第 477 図 3



第 477 図 12



第 478 図 4



第 478 図 10



第 478 図 12



第 483 図 1



第 486 図 3



第 486 図 4



第 486 図 18



第 487 図 1

写真图版 41



第 489 图 1



第 492 图 2



第 494 图 4



第 499 图 2



第 501 图 1



第 501 图 7



第 503 图 5



第 504 图 2



第 504 图 15



第 514 图 (2 区 SE075 出土犬骨格)

## 引用・参考文献

- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1993 名古屋城三の丸遺跡(Ⅳ) 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第44集
- 愛知県立陶磁資料館 2011 阿蘭陀焼 憧れのプリントウェア—海を渡ったヨーロッパ陶磁
- 財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター 2006 『江戸時代のやきもの—生産と流通—』記念講演会・シンポジウム資料集
- 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004 平安京左京北辺四坊 京都市埋蔵文化財研究所調査報告書第22冊
- 山口県教育委員会 1990 萩焼古窯—発掘調査報告書—山口県埋蔵文化財調査報告書第131集
- 佐賀県立九州陶磁文化館 1992 福岡の陶磁展
- 有田町史編纂委員会 1988 有田町史古窯編
- 長崎市埋蔵文化財発掘調査協議会 2001 五富町遺跡
- 長崎県埋蔵文化財センター 2014 出島和蘭商館跡 一般国道499号線電線共同溝整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 長崎県埋蔵文化財センター 2015 出島 一般国道499号線電線共同溝整備工事に伴う緊急調査報告書
- 大分県教育委員会 1993 府内城三ノ丸遺跡—大分県共同庁舎(仮称)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
- 大分県教育委員会 1994 府内城三ノ丸遺跡Ⅱ—大分県共同庁舎前広場モニュメント建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
- 大分県教育委員会 1996 府内城三ノ丸北口跡—大分中央警察署本部別館庁舎新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
- 大分県立埋蔵文化財センター 2019 府内城三ノ丸遺跡Ⅳ—大分県別館受変電棟増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
- 大分縣大分市役所 1915 『大分市史』
- 大分市史編纂委員会 1988 『大分市史』下
- 大分市歴史資料館 1995 「豊後府内城(4) 府内城絵図について」『豊後府内城 第14回特別展「城のあ  
る風景」図録』
- 大分市立大分幼稚園 創立百周年記念事業実行委員会 1992 『百年のあゆみ』
- 大分市立荷揚町小学校 2017 『蓮の花』—大分市立荷揚町小学校 閉校記念誌—
- 大分市教育委員会 2020 『荷揚町小学校の建築』—大分モダニズムのあけぼの—
- 大分市教育委員会 1984 大分市の文化財第21集 府内城 築城と変遷
- 大分市教育委員会 2000 府内城・城下町跡—第13次発掘調査概報—
- 大分市教育委員会 2003 府内城・城下町跡 第12次調査報告書—旧米屋町における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—
- 大分市教育委員会 2003 府内城・城下町跡 第14次調査報告書
- 大分市教育委員会 2004 府内城・城下町跡 第15次調査報告書
- 大分市教育委員会 2008 府内城・城下町跡5 第16次調査—大分市保健所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
- 大分市教育委員会 2009 府内城・城下町跡6 第17次調査—市営荷揚町駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
- 大分市教育委員会 2009 府内城・城下町跡7 第18次調査—ホテル建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
- 大分市教育委員会 2012 府内城・城下町跡8 第19次調査—大分市立荷揚町小学校屋内運動場改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
- 大分市教育委員会 2013 府内城・城下町跡9 第22次調査—大分都市計画道路末広東大道路に係る埋蔵文化財発掘調査報告書2—
- 大分市教育委員会 2013 府内城・城下町跡10 第21次調査—大分都市計画道路末広東大道路に係る埋蔵文化財発掘調査報告書1—
- 大分市教育委員会 2005 鶴崎町遺跡群(堀川)—(仮称)鶴崎総合市民行政センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
- 大分市教育委員会 2015 勢家遺跡1 勢家遺跡第3次調査—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
- 江戸在地系土器研究会 1991 江戸在地系土器の研究Ⅰ
- 江戸遺跡研究会 1992 江戸の食文化
- 江戸遺跡研究会 2001 図説 江戸考古学研究事典
- 江戸遺跡研究会 2011 江戸時代の名産品と商標

- 関西近世考古学研究会 2001 近世の実年代資料 第13回研究大会資料「近世考古学と関連諸分野」
- 関西近世考古学研究会 2008 関西近世考古学研究 16 土人形が見た近世社会
- 古伊万里刊行会 1998 初期伊万里—小皿編—肥前陶器シリーズⅡ
- 九州近世陶磁学会 2000 九州陶磁の編年—九州近世陶磁学会 10 周年記念—
- 近世陶磁研究会 2020 江戸時代における年代の判る羅災資料—中国陶磁と肥前陶磁の共存資料を中心に—
- 小俣 惣 1917 大分県人名辞書
- 加藤貞弘 1979 戦火で消えた大分市中心部復元絵図
- 齊藤良輔 / 石井壮男 1981 郷土玩具の旅
- 森本伊知郎 1990 「焼窯ぎに関する一考察」『江戸の陶磁器 江戸遺跡研究会第三回大会資料編』 江戸遺跡研究会
- 佐藤晃洋 1993 「近世における府内城下町と府内家臣団—本調査地域を中心として—」『府内城三ノ丸遺跡』大分県教育委員会
- 吉田 寛 1993 「府内城三ノ丸遺跡出土の瓦の分類と編年」『府内城三ノ丸遺跡』大分県教育委員会
- 吉田 寛 1996 「瓦についての考察」『府内城三ノ丸北口跡』大分県教育委員会
- 大橋康二 1994 古伊万里の文様
- 永井久美男 1994 中世の出土銭—出土銭の調査と分類—
- 板井準也 2006 ガラス瓶の考古学
- 山崎信二 2008 近世瓦の研究
- 案 篤人 2013 樂歴代

## 報告書抄録

ふりがな	ふのいでよひのちかちか						
書名	府内城・城下町跡11						
副書名	第29次調査報告書 尚徳町小学校跡地活用事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1分冊(遺構本文編) 第2分冊(遺物図版・総括編)						
シリーズ名	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第163巻						
編著者名	松浦賢治・池邊千太郎・塩地潤一・河野史郎(大分市教育委員会文化財課) 奥村義典・宮吉正明(株式会社本崎工業)						
編集機関	大分市教育委員会						
所在地	〒870-8504 大分市尚徳町2番31号 TEL.(097) 534-6111 FAX.(097) 536-9435						
発行年月日	西暦2021年3月19日						
ふりがな	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ふのいでよひのちかちか	おほひのちかちか	市町村 遺跡番号					
府内城・城下町跡	おほひのちかちか 大分市尚徳町3番41・49号	44001 201041	33° 14' 26"	131° 36' 29"	20170831～20190829	5497.7㎡	尚徳町小学校跡地利 活用事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
府内城・城下町跡第29次調査	都市	近世	屋立住建物跡・竈状遺構・井戸跡・火災処理土坑・廃棄土坑・溝状遺構・道跡状遺構	輸入陶磁器・国産陶磁器、土師管土器・瓦葺土器・瓦・網紋・陶製品・金属製品・石製品・ガラス製品・木製品	調査歴をひきめ、希少な陶磁器の出土や、屋敷地割の復元、居住者の比定が可能となった。

要約	近世期の礎などの基礎と思われる石列や、井戸、廃棄土坑などが見つかっただけで、火災処理土坑からは組物となる多くの陶磁器類が出土した。また屋敷地割と考えられる溝が見つかり、地割が復元出来たほか、19世紀代の廃棄土坑から出土した人物名の焼練文字より、居住者が比定できた。そのほか、大名贈答品の鍋島焼をはじめ、メトナム産陶器、桃山陶器など希少な陶磁器も出土した。
----	---

大分市埋蔵文化財発掘調査報告書 第163集

府内城・城下町跡 11

第29次調査

—荷揚町小学校跡地利活用事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

第2分冊(遺物図版・総括編)

2021年3月19日

発行 大分市教育委員会

大分市荷揚町2-31



付図3 府内城・城下町跡第29次調査第3調査面全体遺構図(1/250)



